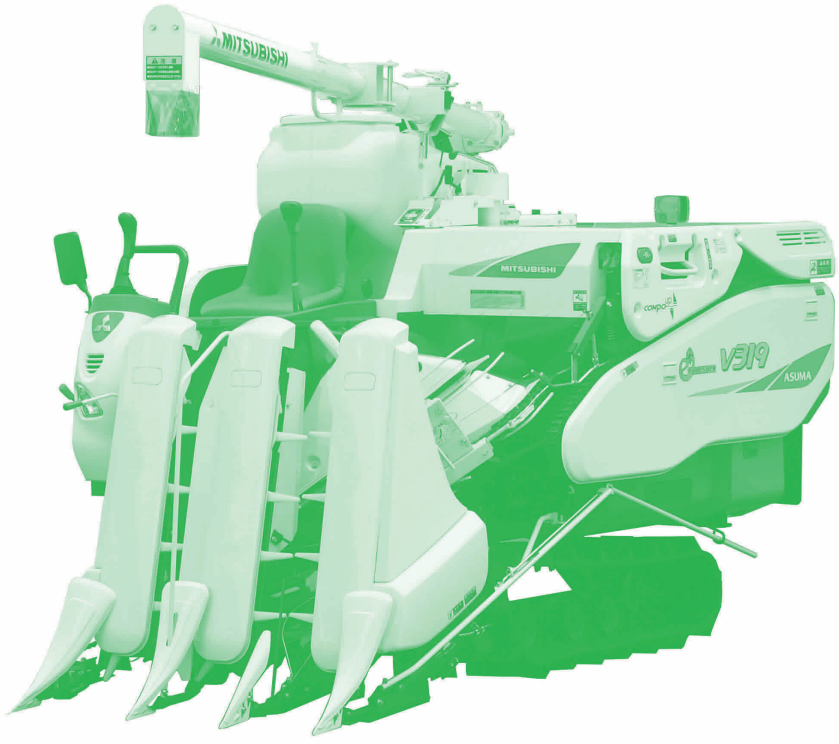
コンバイン

取扱説明書

V217・319



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはコンバインをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は５，６ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。
（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために** からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用まえに 使用前に知っておかなければならないことは？

機械の概要「**仕様（装備）**」などについて説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた コンバインを動かすには？

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかたなどを説明しています。

作業のしかた 収穫作業を行うには？

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

自動装置について 自動装置を使用して作業するには？

各自動装置の取扱いについて説明しています。

手入れのしかた 機械を長もちさせるには？

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

長期格納のしかた 機械を３ケ月以上格納するときは？

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったら？

作業中のトラブルや不調，異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

付　　表 諸元・関連部品は？

機械に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために ……(安-1)～(安-24)
(安全作業説明編)

ご使用まえに ……1
1．保証とサービスについて…… 1
2．機械の使用目的について…… 1
3．仕様（装備）について…… 2
4．用語について…… 3
5．小型特殊自動車について…… 4
1．小型特殊自動車の届出…… 4
2．公道走行するために…… 4

各部のはたらき ……5
1．各部の名称…… 5
1．グレンタンク仕様…… 5
2．ホッパ仕様…… 6
2．運転装置の取扱い…… 7
1．スイッチ・計器関係…… 7
2．ペダル・レバー関係……14

運転のしかた ……24
1．運転まえの点検……24
2．エンジンの始動と停止……26
1．エンジン始動のしかた……26
2．エンジン停止のしかた……27
3．走行・停車のしかた……28
1．走行のしかた……28
2．停車のしかた……29
4．自動車への積込み・積降ろし……30
1．自動車・アユミについて……31
2．機械の積込み要領……32
5．ほ場への出入り……32
1．ほ場への出入りのしかた……32

作業のしかた ……33
1．作業まえの準備……33
1．作物の条件について……33
2．ほ場の条件について……33
3．ほ場の準備……34
4．機械の準備……34
2．刈取作業のしかた……37
1．刈取操作の手順……37
2．刈取部スライドの使い方［217型］ ……40
3．刈高さの合わせかた（刈取ジャストフロート）…41
4．ほ場の刈取手順……41
5．籾袋の交換のしかた［ホッパ仕様］ ……45
6．籾の排出操作方法……46
7．グレンタンク補助樋口の取扱い……49
8．リフトシャットの取扱い……49
9．トルクリミッタの取扱い……50
10．手こぎ作業……51
11．緊急エンジン停止スイッチの取扱い……52
12．エンジン自動停止の取扱い……52
13．夜間作業……53
14．警報装置について……54
15．刈取作業終了後の取扱い……55
3．ワラ処理部の取扱い……55
1．カッタ作業……55
2．排ワラ作業……56
3．中割り作業……57

自動装置について ……58
1．こぎ深さ自動制御……58
1．運転装置……58
2．こぎ深さ自動センサの調整……59
3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……59
2．方向自動制御［ディーラオプション］ ……60
1．運転装置……60
2．作業のしかた……60
3．方向自動制御の使えない条件……61
3．排出オーガ自動制御……62
1．運転装置……62
4．送じん量自動調節……63

手入れのしかた ……64
1．定期点検整備……64
「定期点検整備表」……65
2．給油・注油・給水のしかた……66
「給油・注油・給水表」……66

1．燃料の補給……67
2．エンジンカバーの開閉のしかた……67
3．エンジンオイルの点検・交換……68
4．エンジンオイルフィルタの交換……69
5．ラジエータ冷却水の点検・交換……69
6．トランスミッションケースのオイル点検…71
7．搬送ギヤケースのオイル点検……71
8．スターホイルギヤケースのオイル点検［217型］…72
9．集中注油タンク……72
10．ローラ，アイドラのグリスアップ……73
11．供給根元（こぎ深さ搬送）チェン・
脱こくフィードチェンの注油……73
12．排ワラチェンの注油……73
13．集中注油の使いかた……74
3．各部の点検と掃除のしかた……75
1．ラジエータ吸気部の掃除……75
2．エアクリーナの掃除……75
3．燃料フィルタの掃除……76
4．燃料のエア抜きのしかた……77
5．ヒューズの交換……78
6．電気配線の点検と掃除……81
7．バッテリの点検と充電……81
8．グレンタンクの脱着のしかた……88
9．ホッパの脱着のしかた……89
10．ベルトカバーの脱着のしかた［ホッパ仕様］…90
11．脱こく内部の掃除……91
12．グレンタンク部の掃除……96
13．引起しケースカバーの外しかた……97
14．スターホイル（左）の脱着のしかた……98
15．カッタオープンのしかた……98
4．各部の点検と部品交換のしかた…… 100
1．カッタ刃組品の取外しと分解…… 100
2．刈刃の交換のしかた…… 107
3．ワラ切カマの交換…… 109
4．こぎ歯の点検と交換…… 110
5．ホース類の点検…… 110
5．各部の点検と調整のしかた…… 111
「各部の取外し」
1．運転席左下カバーの取外しかた…… 111
「レバーの点検，調整」
2．駐車ブレーキレバー…… 111
3．脱こく・刈取クラッチレバー…… 112
4．籾排出レバー［グレンタンク仕様］……113
「ベルトの点検・調整」
5．走行駆動ベルト…… 114
6．エンジンファンベルト…… 114
7．２番ラセン駆動ベルト…… 115
8．こぎ胴駆動ベルト…… 115
9．選別ベルト…… 116
10．排ワラ入力ベルト…… 116
11．カッタベルト…… 117
12．かき込みベルト（刈取部）…… 117
13．穂先排ワラベルト…… 118
14．脱こくカウンタベルト…… 118
15．搬送入力ベルト…… 119
「チェンの点検・調整」
16．供給穂先チェン（穂先搬送）チェン［2条型］… 119
17．脱こくフィードチェン…… 120
18．排ワラチェン…… 120
19．引起しチェン［3条型］…… 121
20．根元（株元搬送）チェン（左）［3条型］… 121
21．根元（株元搬送）チェン（右）［3条型］… 122
22．供給根元（こぎ深さ搬送）チェン［3条型］… 122
23．供給穂先（穂先搬送）チェン［3条型］… 123
「クローラの点検・調整」
24．クローラ…… 123
「かき込みスターホイルの調整」
25．かき込みスターホイル［3条型］…… 124
長期格納のしかた ……125
1．機械の掃除と洗浄…… 125
2．錆止めと注油…… 125
3．エンジンの手入れ…… 125
4．点検・整備…… 126
5．格納…… 127
6．再使用にあたって…… 127
不調時の処置 ……128
1．エンジン部…… 128

２．走行・運転操作部…… 130
３．電気・自動制御部…… 130
４．刈取部…… 131
５．脱こく部…… 132
６．ワラ処理部…… 135
７．グレンタンク部…… 135
付　　表 ……136
１．主要諸元…… 136
２．ベルト一覧表…… 137
３．主な消耗部品…… 138
１．タイン関係…… 138
２．ヒューズ，ランプ…… 139
３．刈刃・カマ関係…… 140
４．カッタ関係…… 141
４．アタッチメント（別売り）…… 141
５．潤滑油について…… 142
１．エンジンオイル…… 142
２．油圧作動油…… 142
３．ギヤオイル…… 142
６．コンバイン関連商品…… 143

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ
1．安全作業のしかた……（安-1）
⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）
⚠安全作業のポイント……（安-2）
⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）
⚠点検，整備および掃除をするときは……（安-5）
⚠エンジンを始動するときは……（安-9）
⚠路上走行をするときは……（安-10）
⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-12）
⚠ほ場で作業をするときは……（安-14）
⚠１日の作業が終わったら……（安-17）
⚠長期格納するときは……（安-18）
2．表示ラベルについて……（安-19）

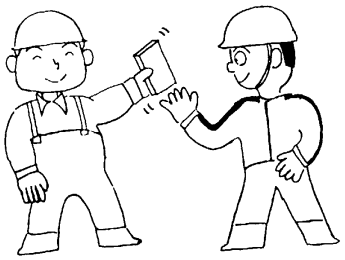
安全作業のために

1．安全作業のしかた

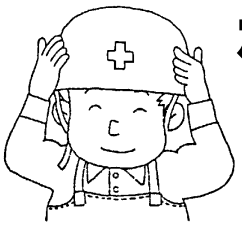
・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ●運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

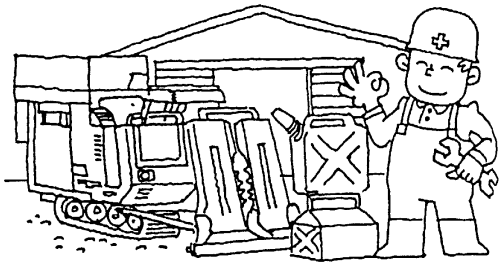
⚠安全作業のポイント

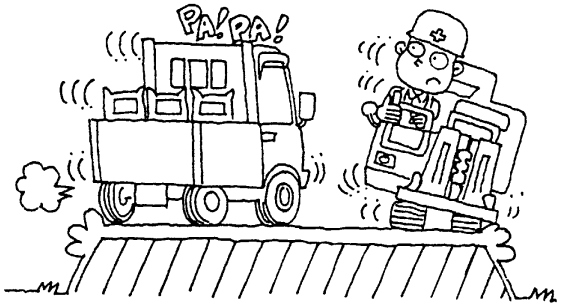


●取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検　準備点検

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える。
●エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
●バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
●集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない。
●給油，冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う。
●燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない。
●方向指示器などの保安部品およびランプ，メータの作動を確認する。
●刈取部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く。
●機械は改造しない。
●機械の制御系に影響を与える可能性があるので，業務用無線やアマチュア無線などの無線機器を設置しない。





エンジン始動

●始動前にすべてのカバーを取付ける。
●駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《中立》または《切》にする。
●屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする。
●機械の周囲から人を遠ざける。
●エンジンの始動はシートに座って行う。
●始動のときは周囲の人に「合図」をする。

走行・運転

●刈取部先端部にバンパを取付ける。
●補助籾受台，ナローガイド，排出オーガを収納する。
●機械に子供など，人や物をのせない。
●走行する前にグレンタンク内の籾をすべて排出する。
●発進時は，周囲をたしかめる。
●走行時の旋回は，低速で行う。
●後進時は，後方を確認する。
●急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
●わき見運転や手放し運転をしない。
●脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にする。
●運転中は子供など，人を機械に近づけない。

道路（公道）走行

●ナンバープレートの交付を受ける。
●運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
●取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
●前後左右を確認し，低速車線を走る。
●夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
●走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

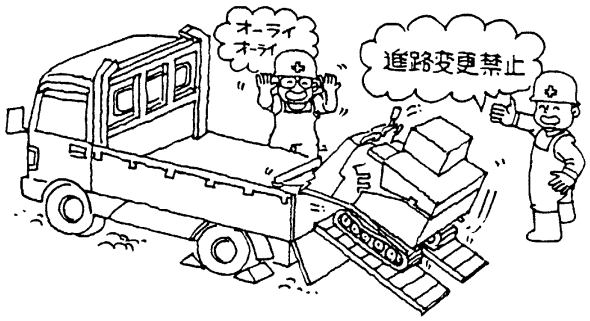
●速度を落として走行する。
●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。
●急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
●下り坂では，速度を下げて走行する。
●急傾斜地は，走行しない。
●坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

●平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●傾斜地では駐車しない。
（やむを得ず駐車するときは車止めをする）
●機械を離れるときはキースイッチよりキーを抜取る。
●副変速レバーを《標準》に入れる。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミはじゅうぶんな強度，長さ（荷台高さの４倍以上），幅（クローラが外れない幅）すべり止め，フック付きを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない。
- アユミの上ではジャストディレクタを操作しない。



ほ場作業　ほ場の出入り

- ホッパ，グレンタンク内の籾を排出して行う。
- 副変速は，《標準》であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用する。
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う。

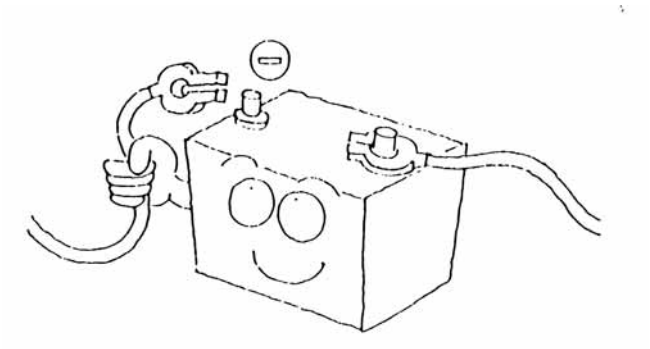


ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には周囲を確認する
- 刈取り作業は，機械の周囲に子供など，人を近づけない。
- 旋回時は，周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガの排出口やホッパのシャッタ内に手を入れない。
- 排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全をよく確認してから行う。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜぎわでの旋回時は周囲を確認する。
- ノッタの結束ひもを交換するときはエンジンを停止する。（ノッタ仕様）
- ノッタのそばに手や身体を近づけない。

手こぎ作業

- 走行を停止して行う。
- 手袋は使用しない。
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない。
- カッタの切ワラがたまったら，手こぎを中断して移動する。
- ワラくずの近くに機械を停止しない。



作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まりなどの異常時には，エンジンを停止して行う。
- こぎ胴部を開いたらストッパをかける。
- カッタをオープンしたときはストッパをかける。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

終業・格納　１日の作業が終わったら

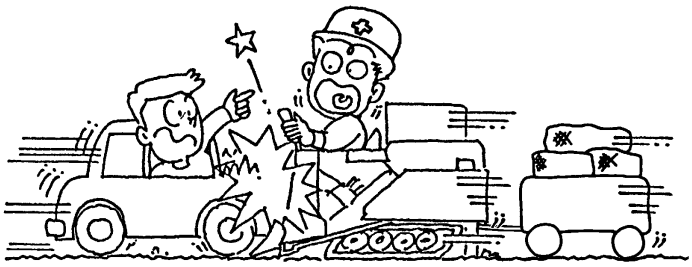
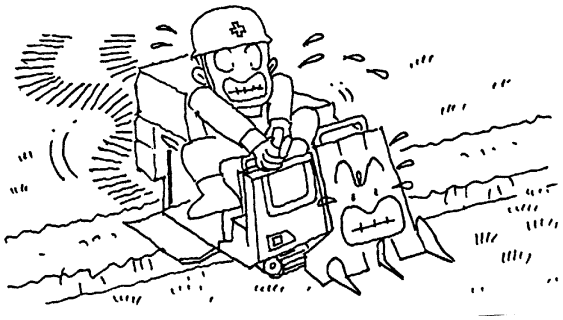
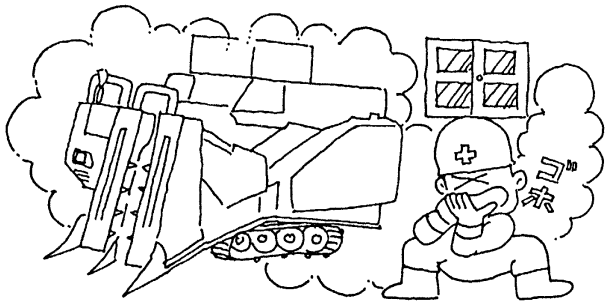
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて車止めをする。
- キースイッチよりキーを抜取る。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータなどは冷えるまで直接触れない。
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける。

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする。
- 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満量にしておく。
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに車止めをする。

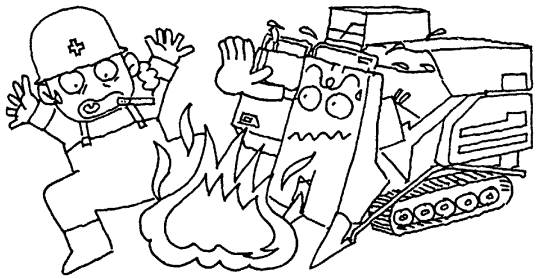
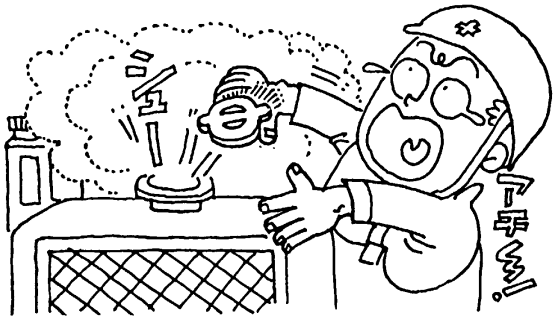
⚠作業前の一般的な注意事項

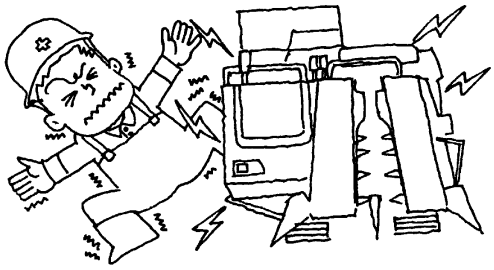
必ず守ってください	⟶	守らないとこんな事故が！

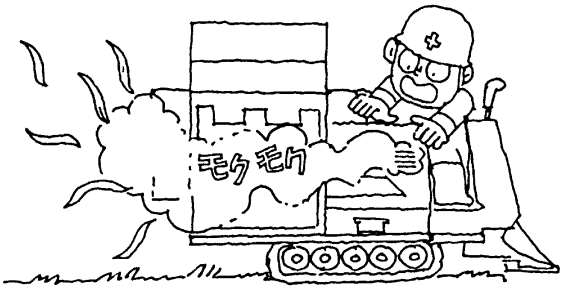
⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	人身事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆1年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 

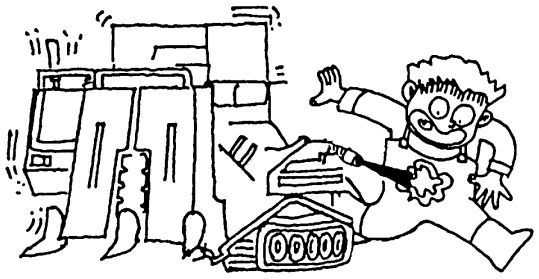
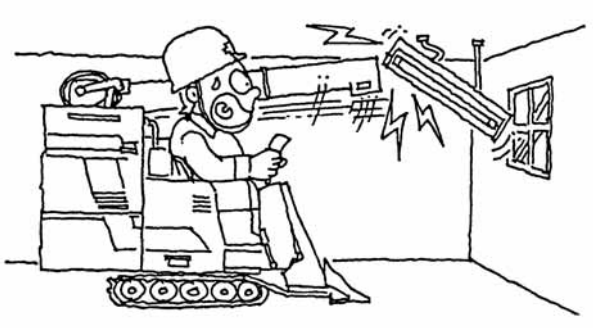
⚠点検・整備および掃除をするときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ◆燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。 ◆エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。 ●燃料ホースの破損や燃料もれがないか，点検してください。 ●燃料ホースは２年ごとに交換する。	燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。 
⚠注意 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し各部の回転が止まってから行なってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。 

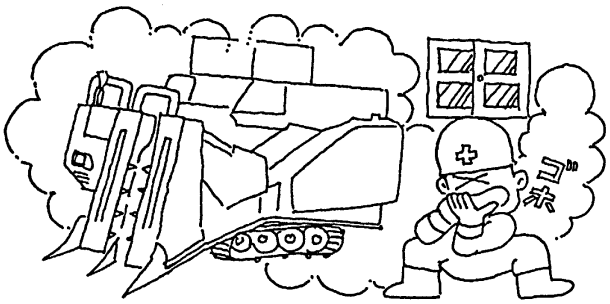
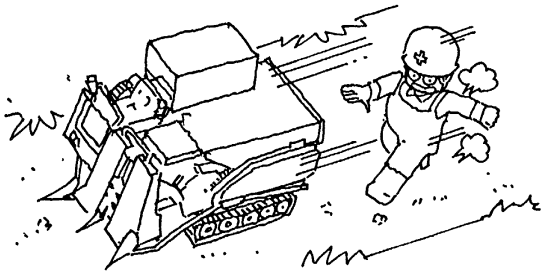
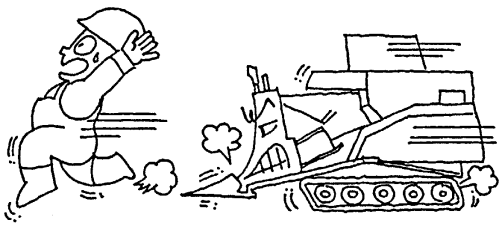
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して死亡するおそれがあります。
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の診断を受けてください 。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，死亡するおそれがあります。
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください 。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用してください。 ●⊕，⊖を逆に接続しないでください。	ショートして，火傷や火災の原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●クランプや固定金具のゆるみがないか点検してください。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。 ●ベルトカバー内のワラクズを取除いてください。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーのき具合や，片ぎきなどがないか点検し，異常であれば「お買いあげ先」で整備を受けてください。	正常な走行ができず事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ●もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 
⚠注意 ◆グレンタンク仕様の排出オーガの作動確認は周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では電線などに引っ掛けないでください。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引っ掛けて損害事故を起こすことがあります。 

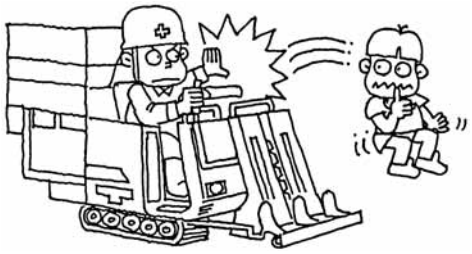
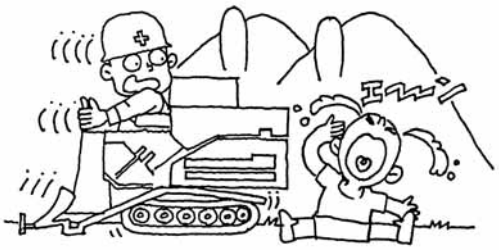
⚠エンジンを始動するときは……

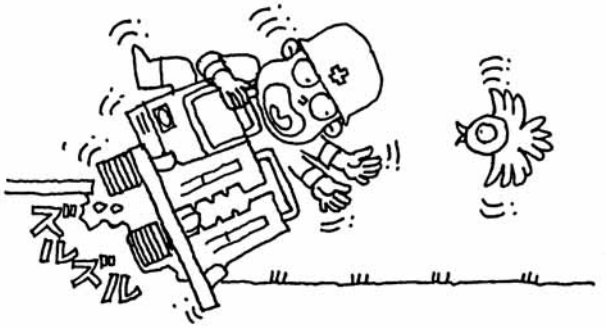
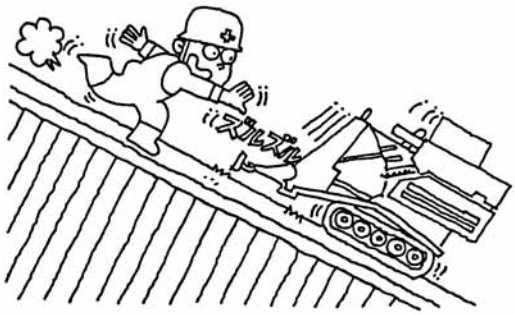
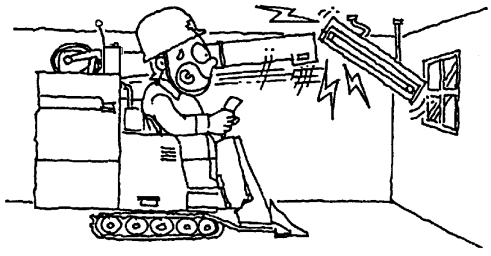
必 ず 守 っ て く だ さ い	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆主変速を《中立》にしてください。 ◆脱こく・刈取クラッチを《切》にしてください。 ●主変速が《中立》になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆始動は，運転席のシートに座って行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速レバーを《中立》，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にして行なってください。	急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。 

⚠路上走行をするときは……

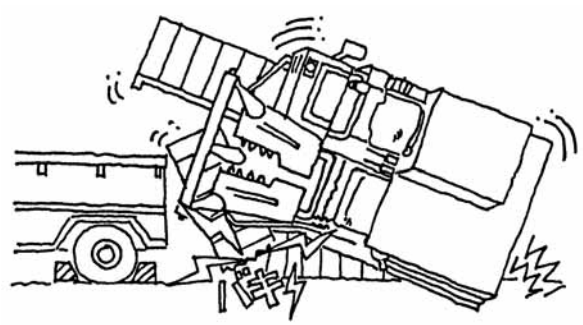
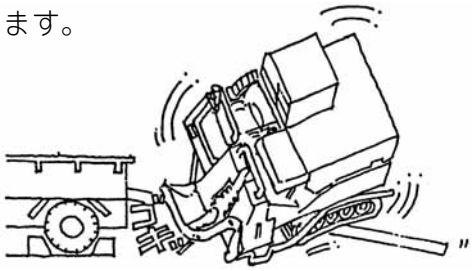
必 ず 守 っ て く だ さ い	⟶	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消してください。	思わぬ傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆子供など，人や物を機械に乗せないでください。 ●荷物は，別の自動車（運搬車）などで運んでください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしないでください。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆走行時は，サイドステップ，ナローガイド，排出オーガを収納してください。 ◆路上走行するときは，刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆脱こく・刈取クラッチレバーが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しないでください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は，取外してください。 ●刈取部先端を20㎝程度上げてください。 ◆グレンタンク内の籾をすべて排出してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ◆対向車を避けるとき，端に寄りすぎないでください。 ◆軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しないでください。 ◆雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行してください。 ◆凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行してください。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道の途中で走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，副変速を《標準》に入れ変えてから，登り降りしてください。 ●坂道での斜め走行や旋回はしないでください。 ●急傾斜地を走行しないでください。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむを得ず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで車止めをしてください。 ●刈取部は下げておいてください。 ●機械から離れるときは，キースイッチからキーを抜取ってください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線などの無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……

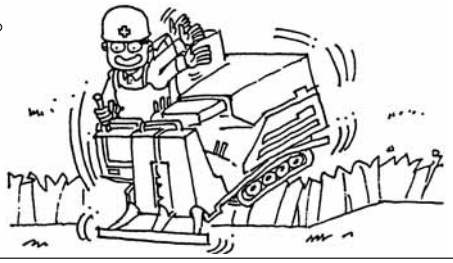
必 ず 守 っ て く だ さ い ⟶ **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆積載重量が自動車の最大積載量を超えない車で，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し変速を１速か後進に入れ，タイヤに車止めをしてください。 ◆アユミはじゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用してください。 ●アユミの幅は，クローラ幅に合ったものを使用してください。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真直ぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認してください。	
⚠警告 ◆ホッパおよびグレンタンク内の籾をすべて排出してください。 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で副変速は《標準》で行なってください。 ◆［方向自動制御仕様(ディーラオプション)］は自動スイッチを《切》にしてください。 ●こぎ深さ自動制御スイッチも《切》にしてください。	転倒のおそれが増し，傷害事故の原因となります。
⚠警告 ◆アユミの上では，進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対して真直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，アユミの途中で機械を止める必要がないようにしてください。 ◆自動車への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。 

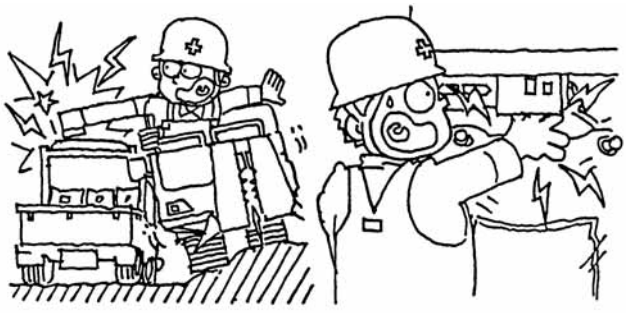
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆補助者立合誘導のもとに行なってください。機械の周囲に子供など，人を近づけないでください。	転倒事故に巻き込まれるおそれがあります。
⚠警告 ◆自動車の荷台の上では，刈取部を床に当たるまで降ろして駐車ブレーキを掛けてください。 ●副変速レバーを《標準》位置にしてください。 ◆所定の［ロープ掛けフック（４箇所)］にロープを掛けてしっかり固定してください。 ●車止めをしてください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆自動車での輸送時には機械の各カバーを固定してください。 ●カバー類などは風圧で破損，脱落のおそれがありますので，確実に固定するか，外して荷台に置いてください。	輸送中にカバー類が脱落し，思わぬ事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。	輸送中に機械が動き，思わぬ事故の原因となることがあります。

⚠ほ場で作業をするときは……

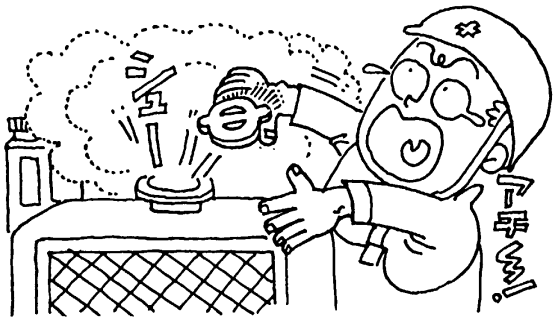
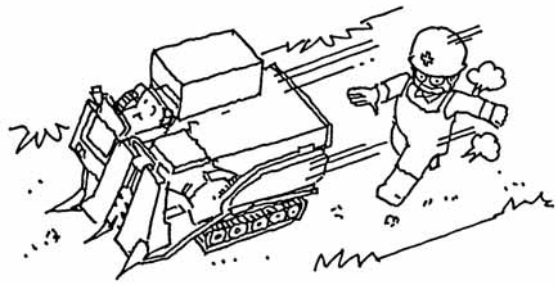
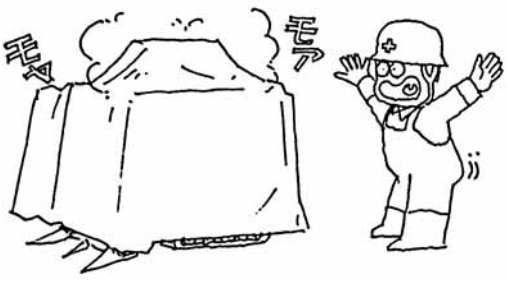
必ず守ってください	⟶	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●アユミ上では進路変更しない。 ●ホッパ，グレンタンク内の籾を排出して行ってください。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆あぜ越えは，副変速を《標準》にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ●あぜが崩れないことを確認して行ってください。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンで合図してください。 ◆作業時の旋回は，低速で行なってください。 ●旋回するときは，周囲を確認し，低速で行ってください。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ◆手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，巻きタオル，腰タオルは着用しないでください。 ●手袋は使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど，多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラが溜まったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は走行を停止し，駐車ブレーキを掛けて行ってください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆詰まりなどの除去や，ノッタのひも交換（ノッタ仕様）をするときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。 ●脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。 ●こぎ胴部を開いたときはストッパをかける。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆補助者は，機械に近づくとき運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，脱こく・刈取クラッチ操作をしてください。 ◆カッタでの事故がいちばん多く発生していることを，作業者は認識しておいてください。 ◆エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけないでください。 ◆補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておいてください。 ◆作業中は機械に人を近づけないでください。 ◆籾袋を交換するとき，籾排出作業を行うときは機械を止め，駐車ブレーキを掛けて行なってください。 ◆運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をしてください。 ●特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には作業中は近づかない。 ◆ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さないでください。 ◆運転者と補助者は常に「合図」し合いながら作業をしてください。	傷害事故を引起こすことがあります。   

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠注意 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしないでください。カッタのカバーを開閉するときはエンジンを停止してください。 ●カッタをオープンしたときは，ストッパをかける。	カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止めてください。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしないでください。	マフラの排気で火災になることがあります。 
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズが溜まった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。 
⚠注意 ◆排出オーガの排出口やホッパのシャッタ内には手を入れないでください。 ◆グレンタンク仕様の場合，排出オーガの操作は運転席から周囲の安全を確認してから行なってください。 ●走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認してください。	ラセンに巻込まれたり，シャッタに手をはさまれたりして負傷することがあります。 排出オーガが周囲の人に当たり，負傷したりすることがあります。 

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●高温部が冷えてから，エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除してください。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開けてください。 ●冷却水の点検は補助タンクで行ってください。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。 
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速レバーを《標準》に入れ，駐車ブレーキをかけてください。 ●キースイッチからキーを抜取っておいてください。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。 

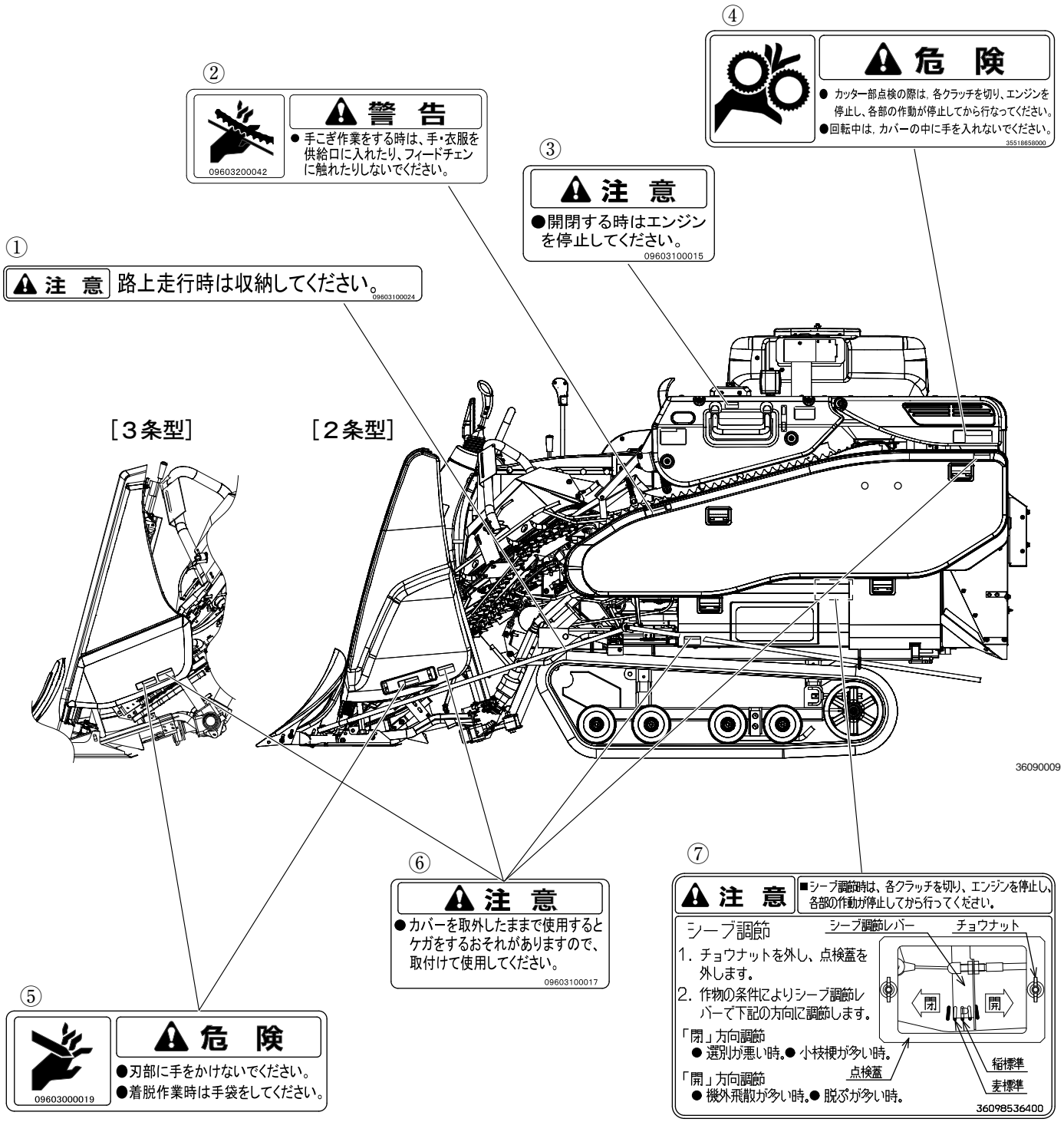
⚠長期格納するときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆バッテリコードの「⊖側」を外すか，バッテリを取外してください。 ●１ケ月に１回程度補充電をしてください。	思わぬ火災事故を起こす場合があります。 
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速を《標準》に入れ，クローラに車止めをしてください。 ●キースイッチよりキーを抜取っておいてください。	機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ●１年ごとに定期点検・整備を「お買いあげ先」で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。 	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し貼り替えてください。



④

危　険

● カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

⑧

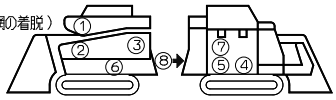
注　意

■掃除をする時は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。

脱こく部掃除口

①② こぎ室（受網の着脱）
③ 排塵室
④ 揚こくラセン
⑤ 2番ラセン
⑥ 1番2番ラセン
⑦ 第2こぎ胴
⑧ 揺動選別部

詳細



36098529000

③

注　意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

⑨

警　告

●エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。

09603200013

⑩

警　告

傷害事故防止のため，取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起さないために

■エンジンを始動する前に
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
●各部のカバーをすべて取付けてください。
●座席に座り、駐車ブレーキをかけてください。
●変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にしてください。
●屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■正しい操作方法で
●機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
●エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
●発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
●緊急停止が必要なときは、クラッチペダルをすみやかに、いっぱい踏み込んでください。
●刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は『籾』はすべて排出、あるいは降ろしてください。
●詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■転倒防止
●発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
●傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。
●軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがあるので走行しないでください。
●あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

■停止する時は
●平坦な場所で駐車ブレーキをロックし、刈取部を下げ、変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にした後、エンジンを停止してください。
●機械から離れるときはキーを抜いてください。また、止むを得ず坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください。

■清掃・点検・整備・燃料補給
●エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
●火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。
●刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックしてください。
●火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください。
●燃料補給時はタバコなどー切の火気は厳禁です。
●こぼれたディーゼル軽油は必ずふき取ってください。

36098526000

警　告

■自動車への積込み・積降ろしをする時は
●平坦な硬い場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。また、機械の周囲に人を近づけないでください。
●積込む前にホッパ，およびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
●アユミの長さは、自動車荷台高さの4倍以上のものを使用し、自動車の後輪に車止めをしてください。
●アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください。旋回（左右）操作をすると転倒することがあります。
●車への積込みやあぜ越えは前進で、車から積降ろすときは後進で、運転席から降りて低速で行なってください。
●ノッタ仕様の場合は、積込むときは後進で、積降ろすときは前進で行ってください。
●積込み・積降ろしは、副変速レバー《標準》の位置で行なってください。
●積込む場合、マルチステアリングレバーを《上る》に操作して，刈取部を上げてください．積込みが終わったら、刈取部を一杯下げてください。



⑪

警　告

●機体を旋回（左右）操作する時は走行クラッチペダルに足を乗せないでください。
●ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

注　意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

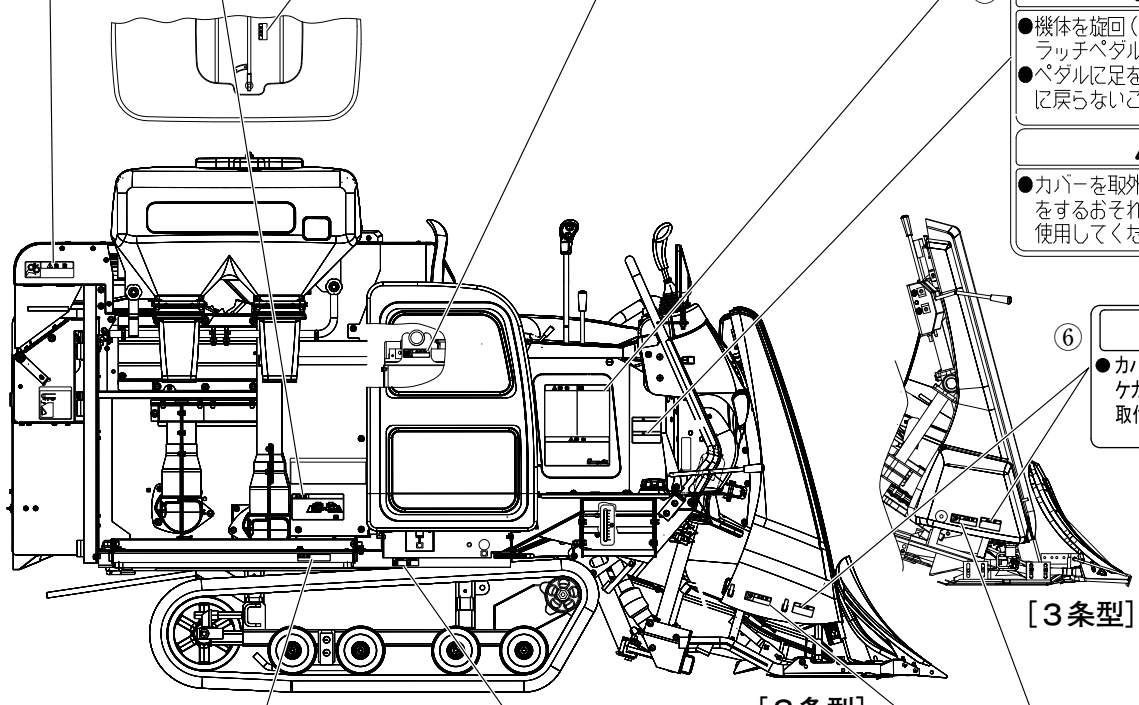
36098512100

⑥

注　意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017



［２条型］

［３条型］

⑫

注　意　路上走行時は収納
刈取作業時は乗らないでください。

35448528100

⑬

警　告

●排気ガスによる中毒のおそれがあるので換気の悪い所で使用しないでください。

注　意

●やけどをするのでマフラーにふれないでください。

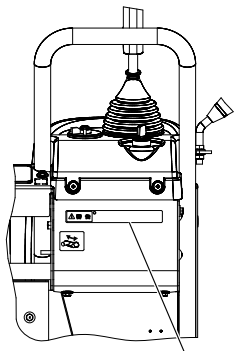
09603200023

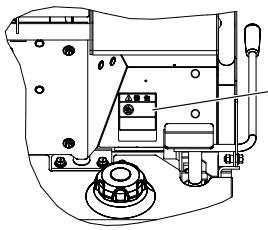
⑤

危　険

●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。

09603000019



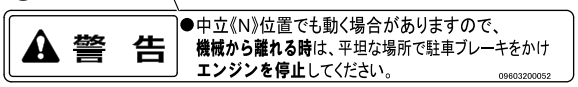


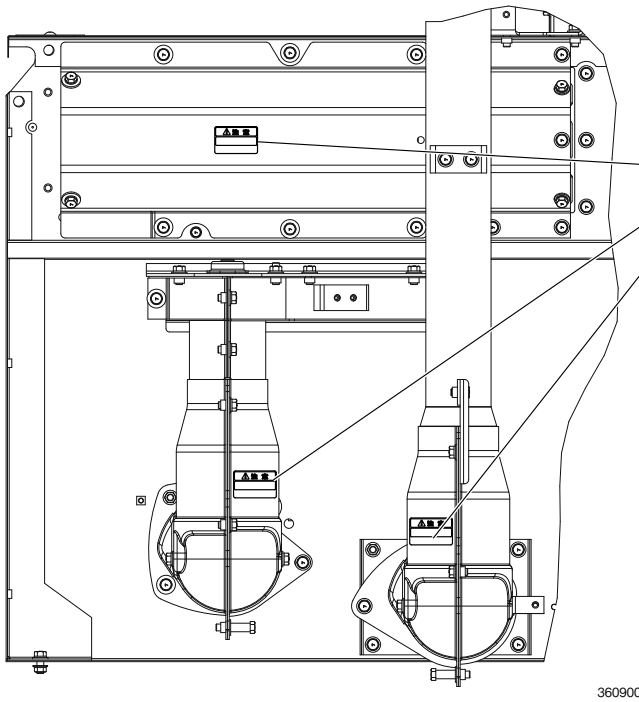
⑭



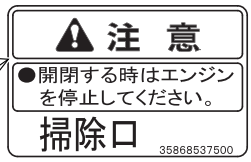
36090012

㉒



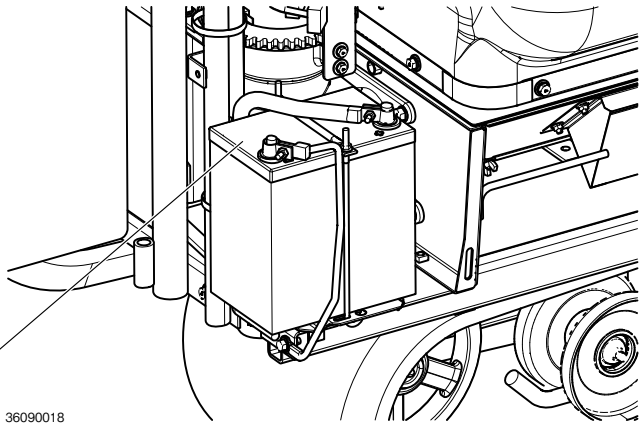


㉖



36090002

［グレンタンク仕様］

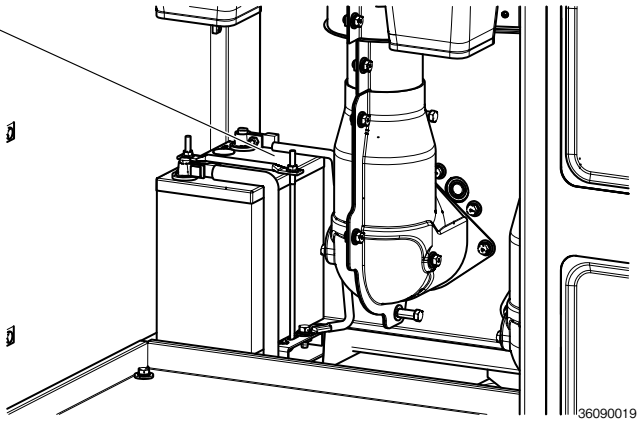


36090018

㉑



［ホッパ仕様］



36090019

⑮

⚠ 警 告

●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。

09603200034

⑯

⚠ 注 意

1．カッタをオープンした時は、カッタを固定させるためロッドで確実にロックしてください。
2．カッタの刃に触れると手、指を切る恐れがあるので、刃に触れないでください。

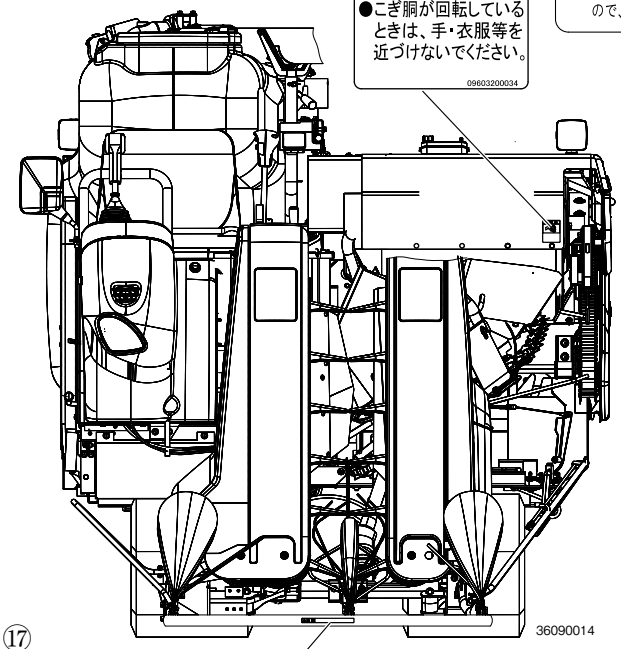
35728592000

④

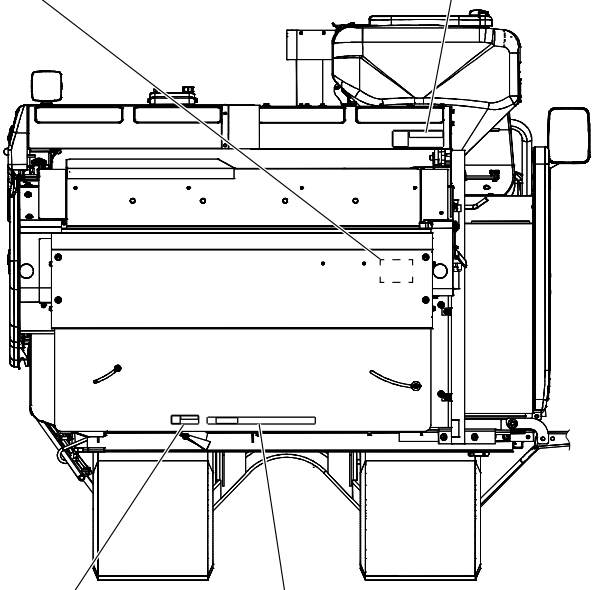
⚠ 危 険

● カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000



36090014



36090008

⑰

⚠ 注 意 路上走行時は装着してください。

09603100023

⑱

⚠ 警 告

●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。

09603200041

⑲

⚠ 注 意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

09603100020

㉘

⚠ 注 意

●作業時は、オーガ受けを作業位置にしてください。
●走行，あぜ越え，自動車への積込み，機確ろしの時は，グレンタンクを空にし，排出オーガは収納位置にしてください。
●排出オーガを上げた状態での刈取作業，路上走行はしないでください。
●傾斜地でエンジンを停止する時は，排出オーガを収納してください。
●排出オーガの操作は周囲を確認し、作動範囲内に頭や手を近づけないで行なってください。

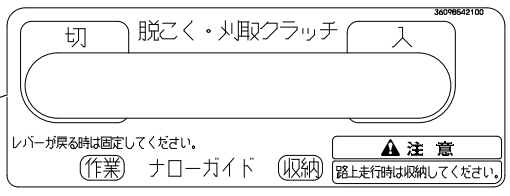
収納位置
作業位置

オーガ旋回自動の取扱い
（オーガ旋回自動装着仕様）

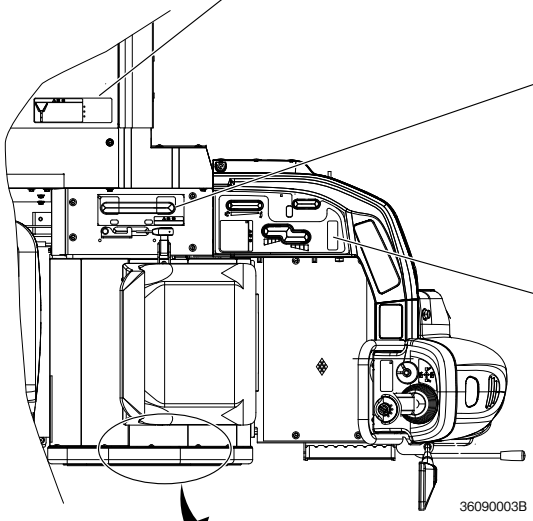
■格納位置でオーガ旋回スイッチを押すと機体後方まで旋回します。
■格納位置以外でオーガ旋回スイッチを押すと格納位置へ戻ります。
■自動中、手動スイッチ・旋回スイッチを押すと旋回が停止します。

36098545600

㉗

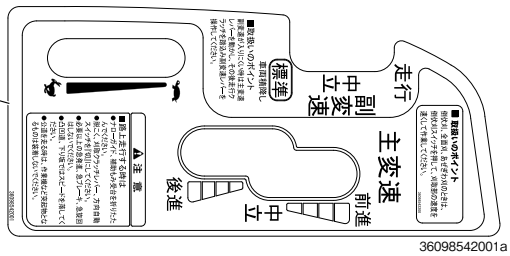


36098542100

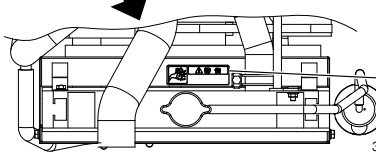


36090003B

⑳



36098542001a



36090015

⑱

⚠ 警 告

●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。

09603200041

［グレンタンク仕様］

③

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

㉔

⚠ 注 意

●巻込まれてケガをするおそれがあります。
折りたたみ時、開口部に手を近づけないでください。

取扱のポイント 折りたたむ時は、排出オーガ内のこく粒をすべて排出してください。

3553855620 0

㉓

⚠ 注 意

●排出オーガは手押し厳禁
●排出オーガの旋回は周囲を確認
●排出中は手を排出口に近づけない

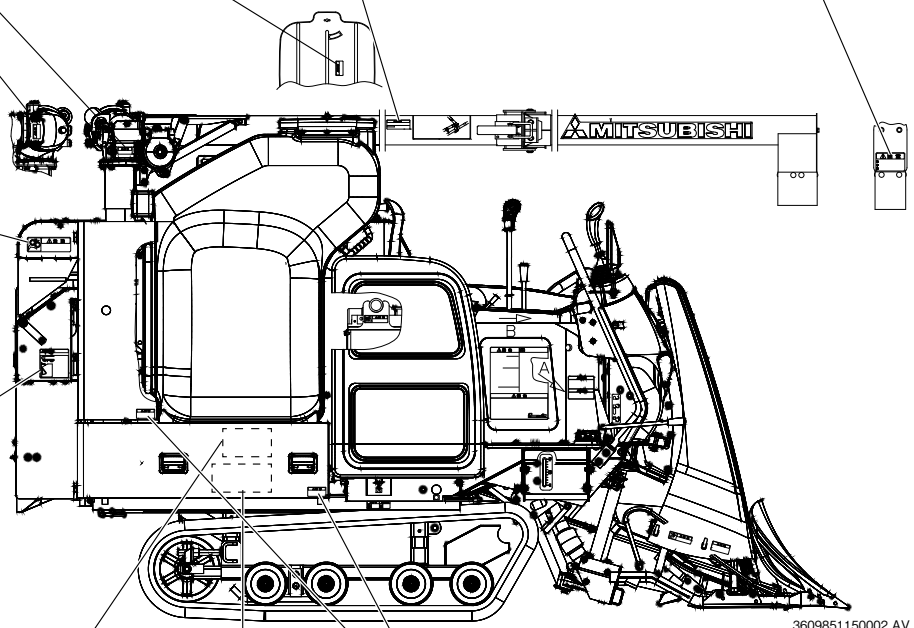
35448538300

④

⚠ 危 険

● カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

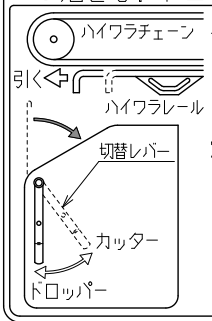


3609851150002 AV

㉙

⚠ 注 意 作業を行う際は、エンジンを停止してから行ってください。

バラ落とし、ドロッパー作業の仕方



1. 切替レバーを手前に引き、《ドロッパー位置》に切替えます。
2. ハイワラレール終端を当たりのあるところまで手で引き出します。

36098531100

⑥

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

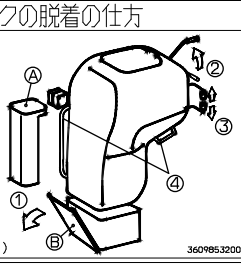
㉚

⚠ 注 意 点検・整備・掃除の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから下記の手順で、タンクを脱着してください。

グレンタンクの脱着の仕方

①タンクカバーA・Bを取り外します。
※タンクカバーA（217/319）
②タンクロックを外します。
③カプラを外します。
④グリップを握り、タンクを持ち上げて脱着してください。

□取扱いのポイント
○タンク内にもみが残っていないことを確認してから作業をしてください。
○手順を必ず守ってください。
取り付けは逆の手順で行ってください。
カバー類が破損する恐れがあります。
○フラッシャーランプを持ってタンクを持ち上げないで下さい。（217/319）

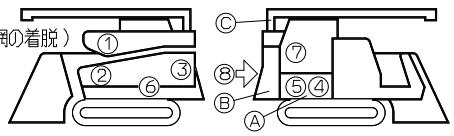


36098532000

㉕

⚠ 注 意 ■掃除をする時は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。

グレンタンク・脱こく部掃除口



①② こぎ室（受網の着脱）
③ 排塵室
④ 揚こくラセン
⑤ 2番ラセン　⑦ 第2こぎ胴　Ⓐ タンク下部　Ⓒ 上部ラセンフタ
⑥ 1番2番ラセン　⑧ 揺動選別部　Ⓑ 縦ラセンフタ　詳細

36098529100

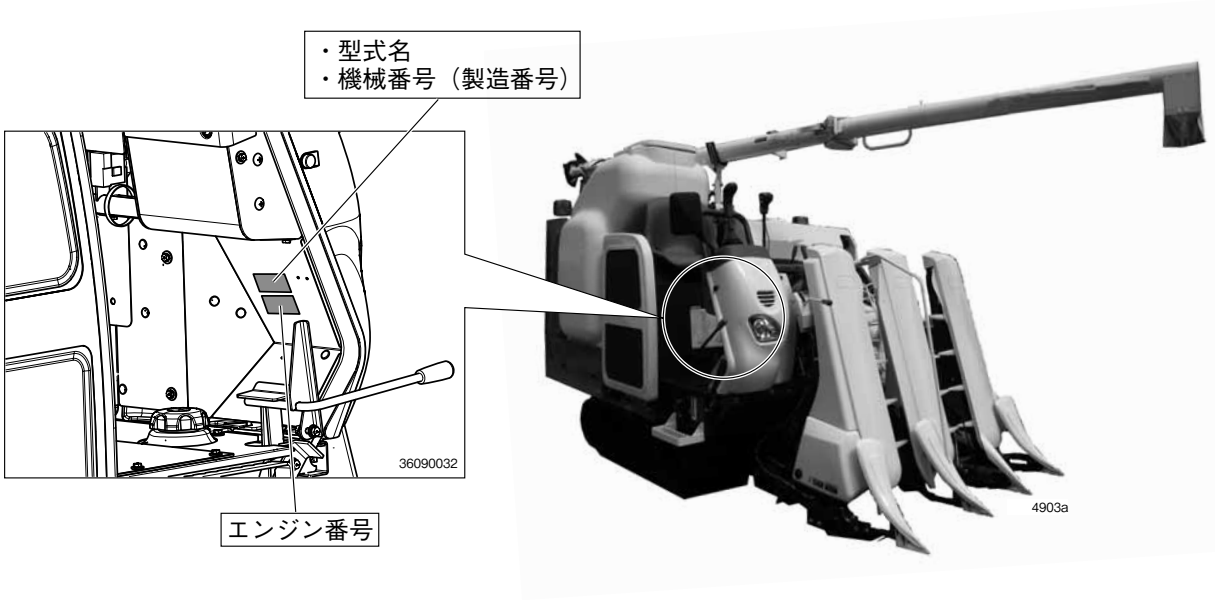
（グレンタンク下部カバーの裏側）

No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	チュウイラベル・シュウノウ	0960 3100 024	共通１枚
②	ケイコクラベル・チェン	0960 3200 042	共通１枚
③	チュウイラベル・カイヘイ	0960 3100 015	ホッパ仕様2枚，グレンタンク仕様3枚
④	キケンラベル・カッタ	3551 8658 000	共通３枚
⑤	キケンラベル・カリハ	0960 3000 019	共通２枚
⑥	チュウイラベル・カバー	0960 3100 017	ホッパ仕様3枚，グレンタンク仕様4枚
⑦	トリアツカイマーク	3609 8536 400	共通１枚
⑧	トリアツカイマーク	3609 8529 000	ホッパ仕様１枚
⑨	ケイコクラベル・ラジエータ	0960 3200 013	共通１枚
⑩	ケイコクラベル	3609 8526 000	共通１枚
⑪	トリアツカイマーク	3609 8512 100	共通１枚
⑫	チュウイラベル	3544 8528 100	ホッパ仕様１枚
⑬	ケイコクラベル・ハイガス	0960 3200 023	共通１枚
⑭	ケイコクラベル・ケイユ	3587 8542 000	共通１枚
⑮	ケイコクラベル・コギドウ	0960 3200 034	共通１枚
⑯	チュウイラベル	3572 8592 000	共通１枚
⑰	チュウイラベル・バンパＣ	0960 3100 023	共通１枚
⑱	ケイコクラベル・ファン	0960 3200 041	共通２枚
⑲	チュウイラベル・カッタカバー	0960 3100 020	共通１枚
⑳	ケイコクラベル	3609 8542 001	共通１枚
㉑	キケンラベル・バッテリ	0960 3000 017	共通１枚
㉒	ケイコクラベル・ストップ	0960 3200 052	共通１枚
㉓	チュウイラベル	3544 8538 300	グレンタンク仕様１枚
㉔	チュウイラベル	3553 8556 200	グレンタンク仕様１枚
㉕	トリアツカイマーク	3609 8529 100	グレンタンク仕様１枚
㉖	チュウイラベル	3586 8537 500	共通１枚
㉗	トリアツカイマーク	3609 8542 100	共通１枚
㉘	トリアツカイマーク	3609 8545 600	グレンタンク仕様１枚
㉙	トリアツカイラベル	3609 8531 100	共通１枚
㉚	チュウイラベル	3609 8532 000	グレンタンク仕様１枚

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

2．機械の使用目的について

・機械は**稲・麦の収穫作業**以外に使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，人身事故の原因になることがあります。

3. 仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合はそのつど［○○**仕様**］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式名をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。

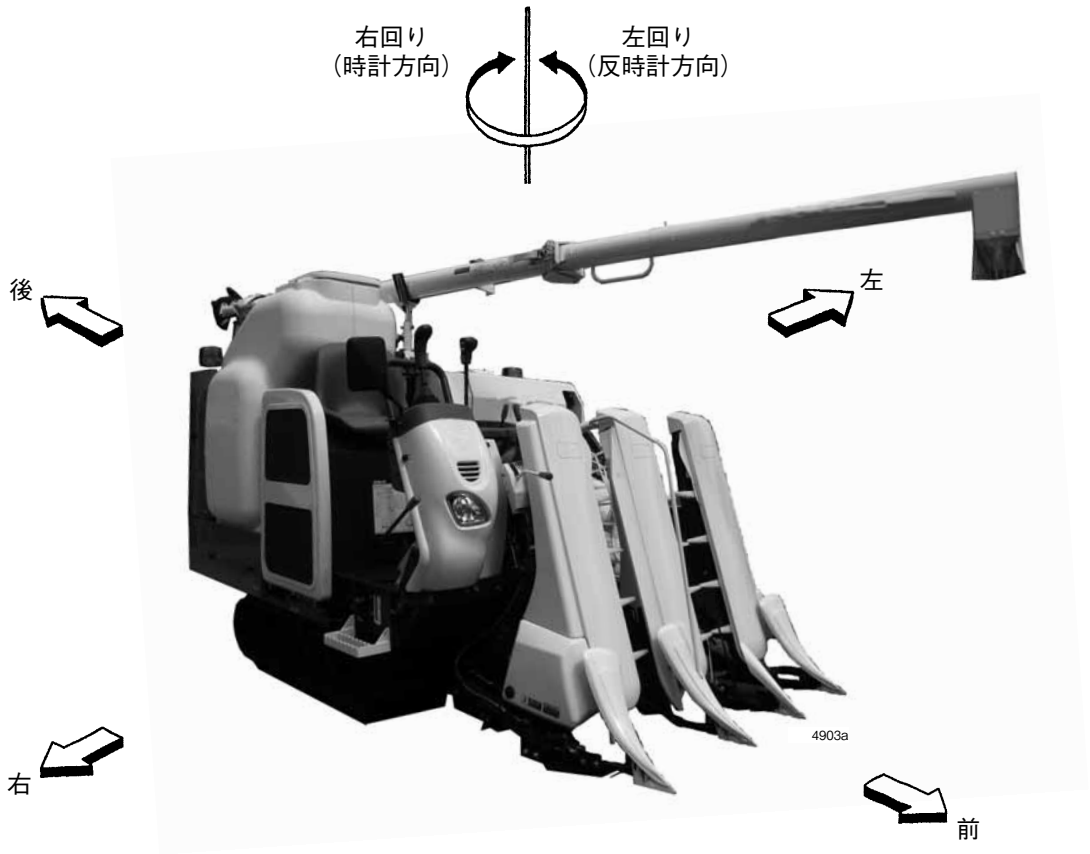
・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを次の表でお確かめください。

名称	型式名	仕様(装備) / 区分	エンジン E3112（17PS）	エンジン E3112（19PS）	クローラ ハイラグ 350㎜	クローラ ハイラグ 400㎜	グリスアップ転輪	走行HST+副変速2段	マルチステアリング	ナローガイド手元操作	集中注油	安全シフト	簡単刈取スタート	刈取スライド	刈取ジャストフロート	刈幅 900㎜	刈幅 1060㎜	強制かき込み+倒伏刈	リフトシャット	負荷モニタ	揺動スライドオープン	ダイヤメッシュ受網	ホッパ100L 2袋×2口	グレンタンク 400L	グレンタンク 脱着	2段折れオーガ	ホッパ・グレンタンク・満杯停止	グレン振動ガイド排出	ディスクカッタ 60㎜	ディスクカッタ 30㎜	排ワラ・カッタ後部切換	緊急エンジン停止	こぎ深さ自動
三菱V217	三菱V217	C	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○				○		○		○	○	○
		YC	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○				○		○		○	○	○
三菱V217G	三菱V217G	GC	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
		GCB	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
		GYC	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
三菱V319G	三菱V319G	GC		○	○		○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
		GYC		○		○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

（型式記号説明）　C：16枚刃カッタ付　CB：31枚刃カッタ付　G：グレンタンク　Y：超幅広クローラ

4. 用語について

❶ この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のとおりです。



❷ 形式別表示

この取扱説明書は３条型グレンタンク仕様機を基本に説明してあります。３条型グレンタンク仕様機と取扱いかたが異なる場合は，そのつど［**２条型**］，［**ホッパ仕様**］などで記載して追加説明しています。

名称（仕様）	本文表示例
V217	［217型］
V319	［319型］

❸ マークの説明

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・ ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・ **取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと故障の原因になることがあります。

5. 小型特殊自動車について

このコンバインは，「**小型特殊自動車**」に該当し，道路運送車両法に適合していますので公道走行ができます。

1. 小型特殊自動車の届出

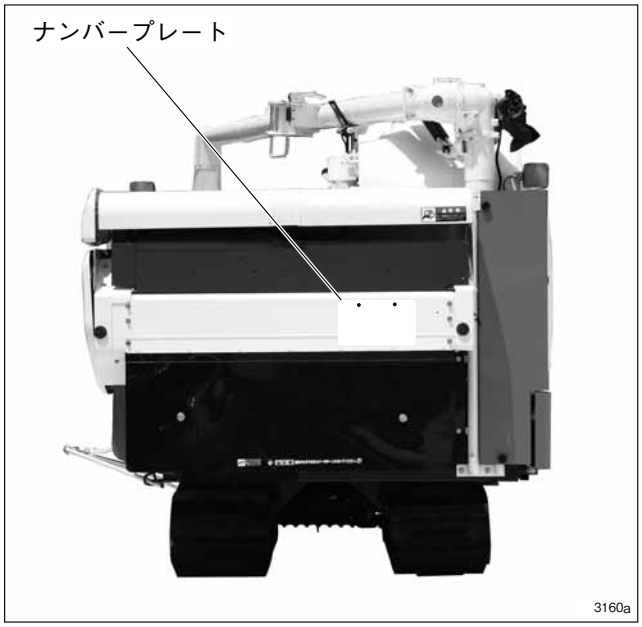
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書など（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

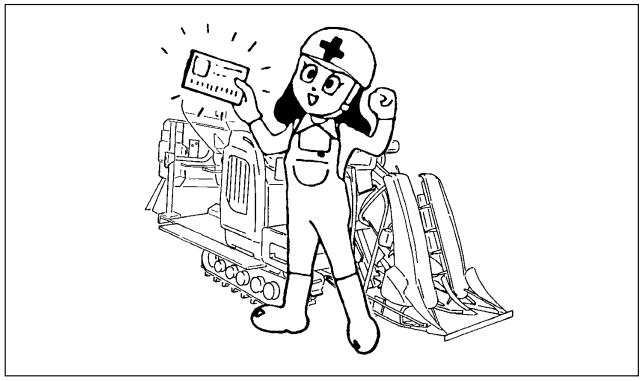
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2. 公道走行するために

❶ 運転免許

公道を走行するときは，「**小型特殊自動車**」の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷ 「**小型特殊自動車**」の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全長	4.7m以下
	全幅	1.7m以下
	全高	2.0m以下（注１）
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気量		制限なし

（注１）ただし，キャビンを除いた部分の高さが2.0m以下のものは2.8m以下

❸ 指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

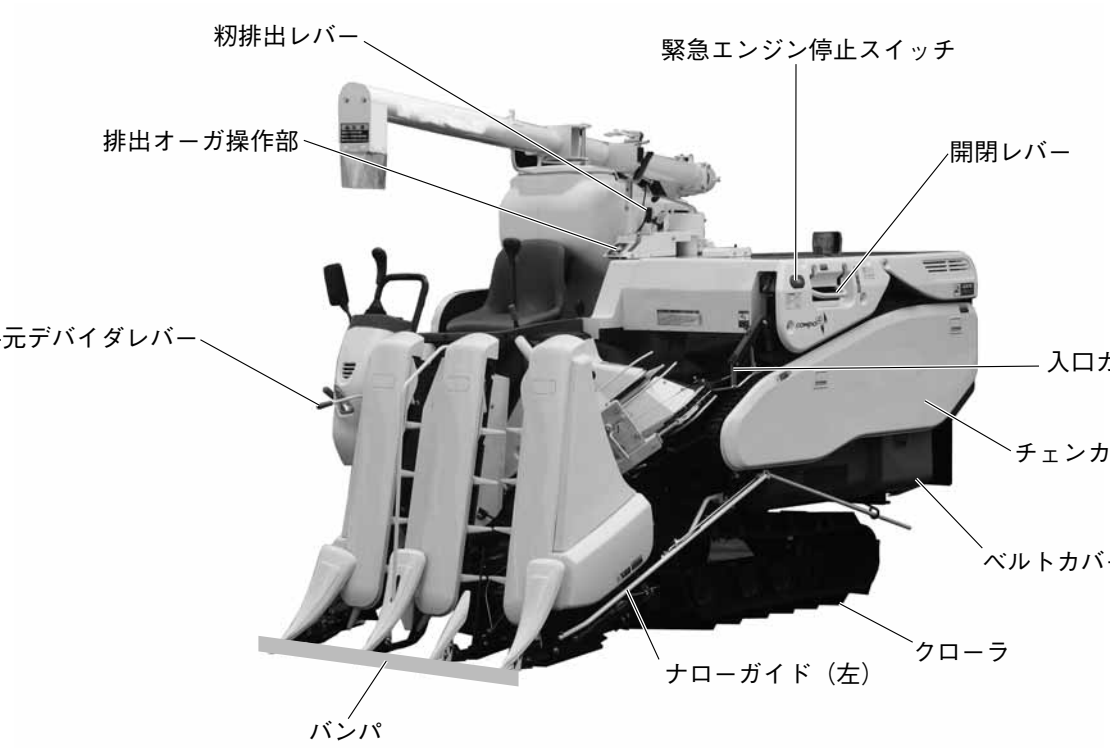
❹ 任意保険のお勧め

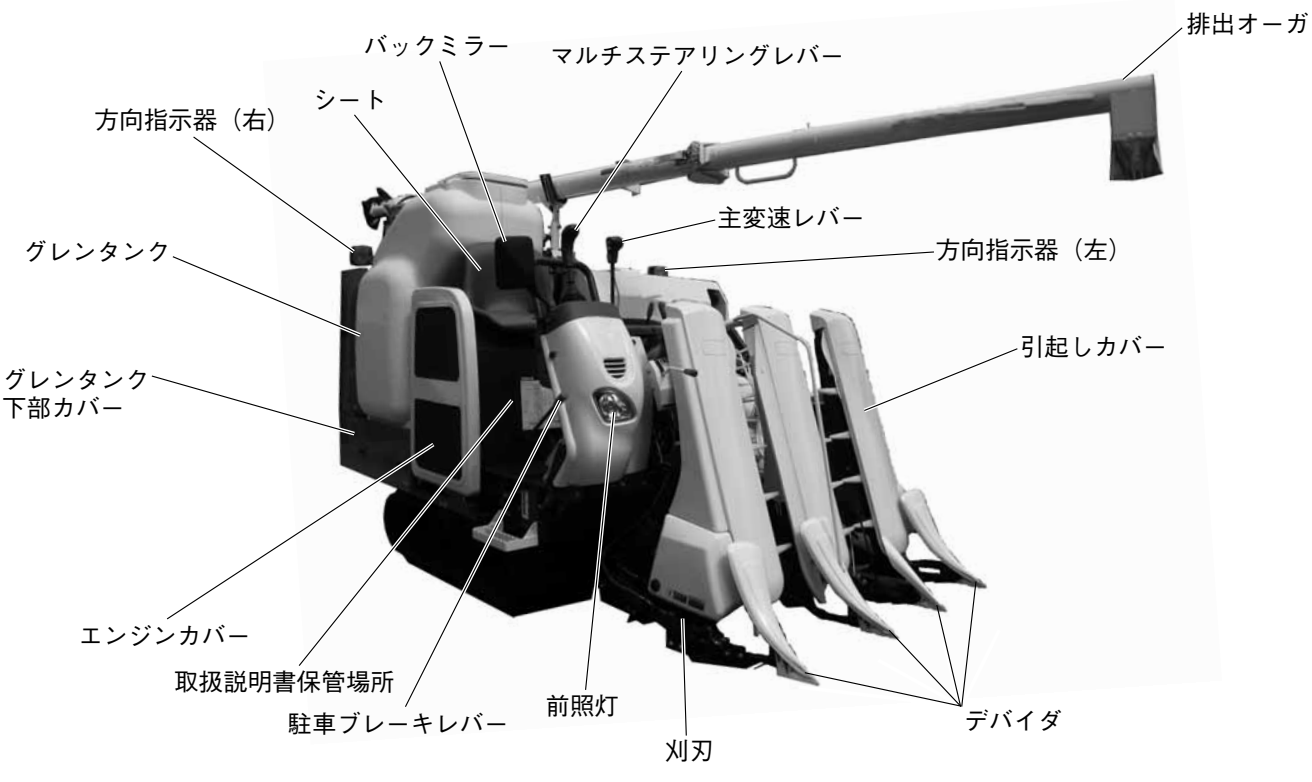
万一の交通事故にそなえ，任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

1．各部の名称

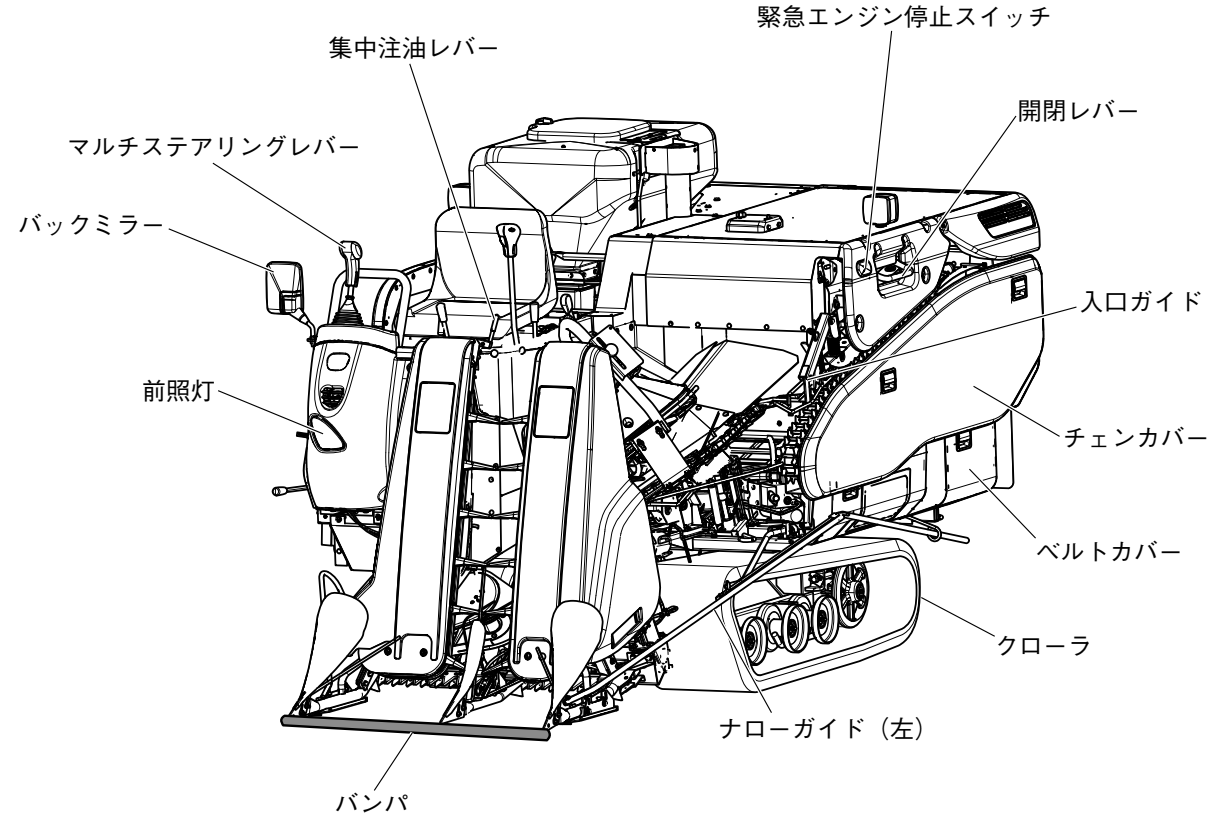
1．グレンタンク仕様

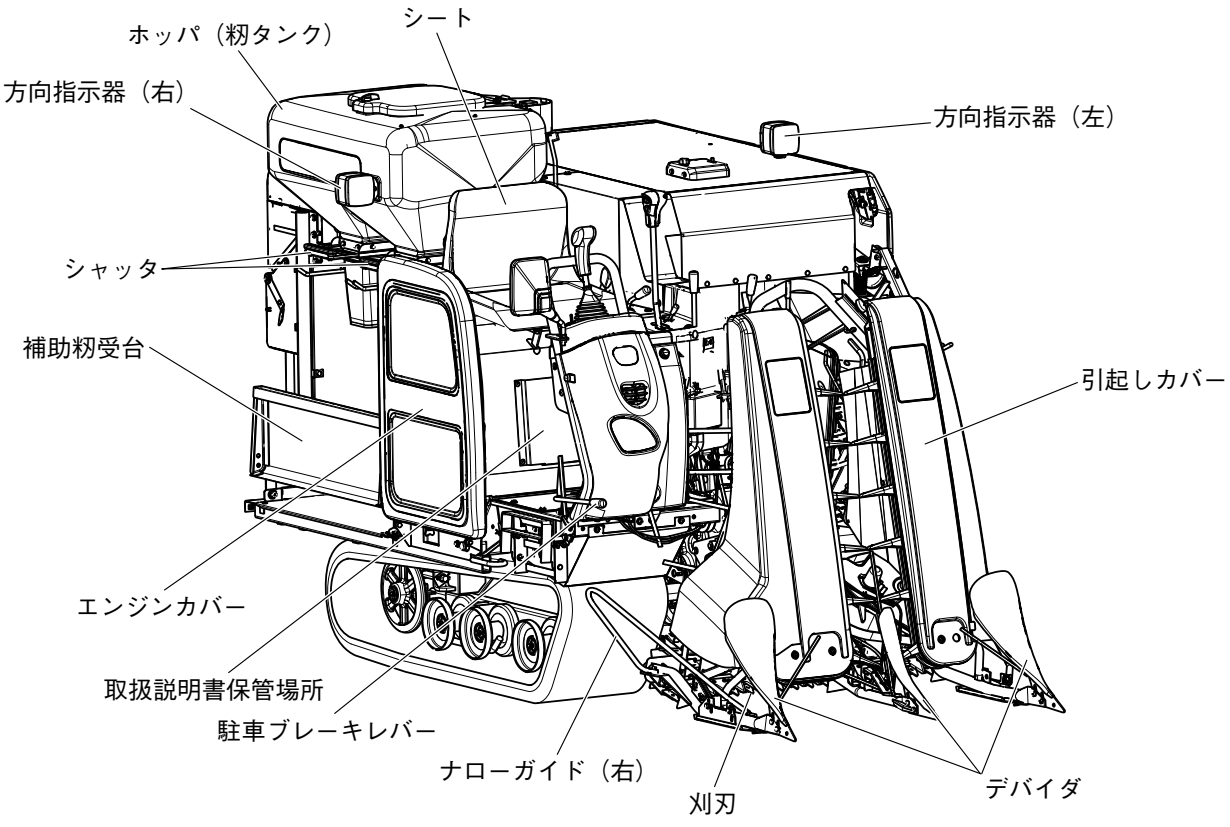




PA021509A
4903a

2. ホッパ仕様



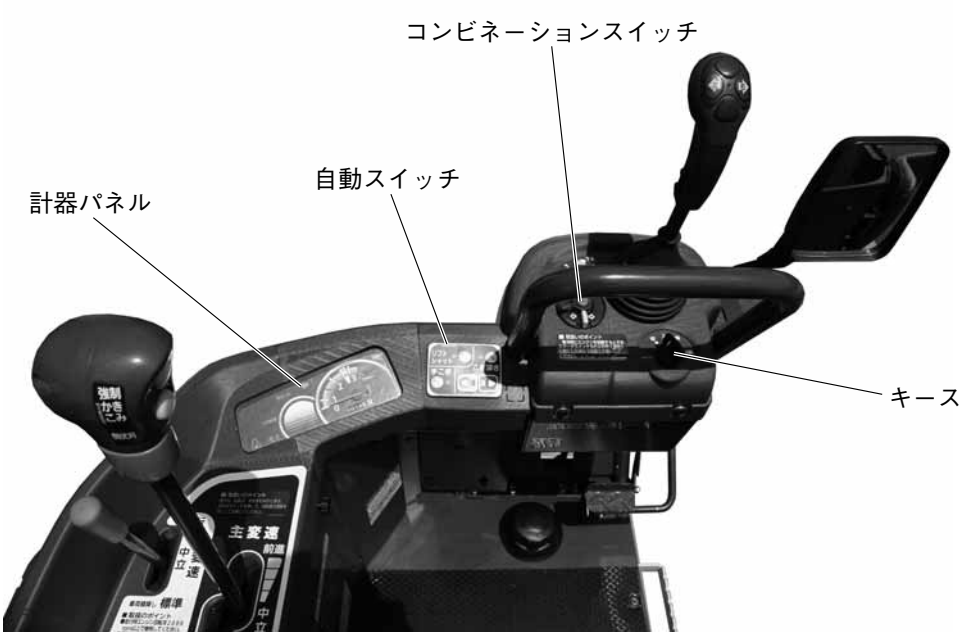


36090005B
36090004

2. 運転装置の取扱い

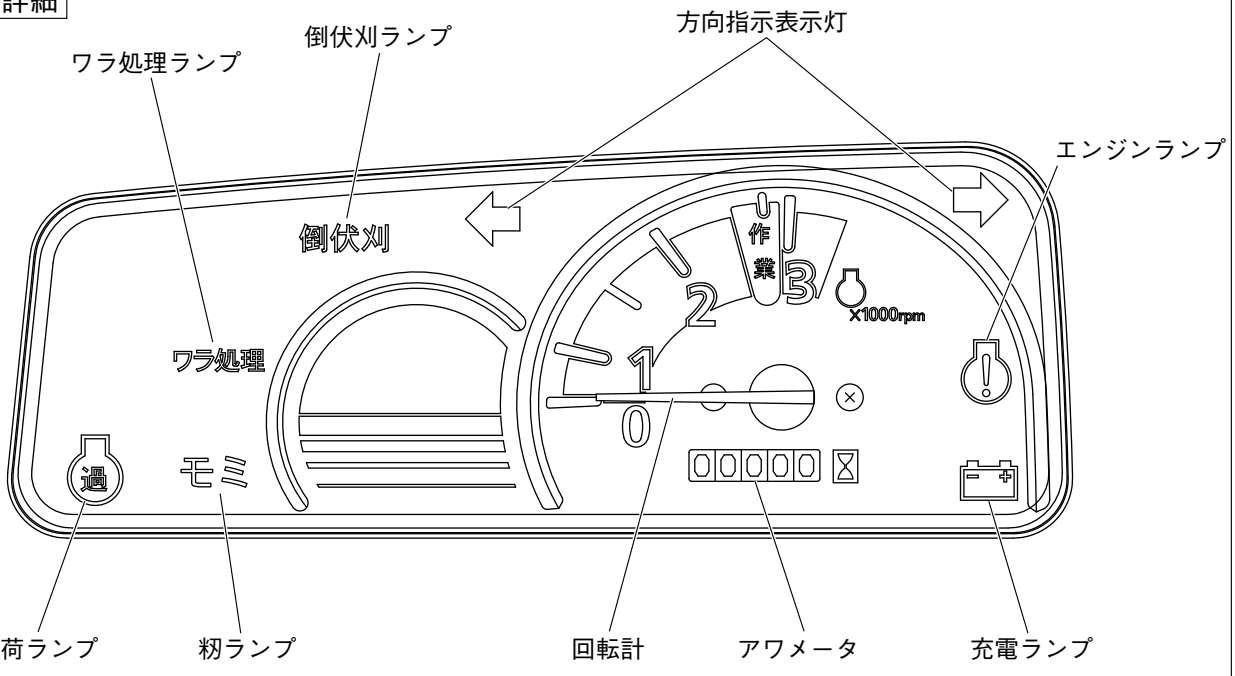
1. スイッチ・計器関係

運転操作部

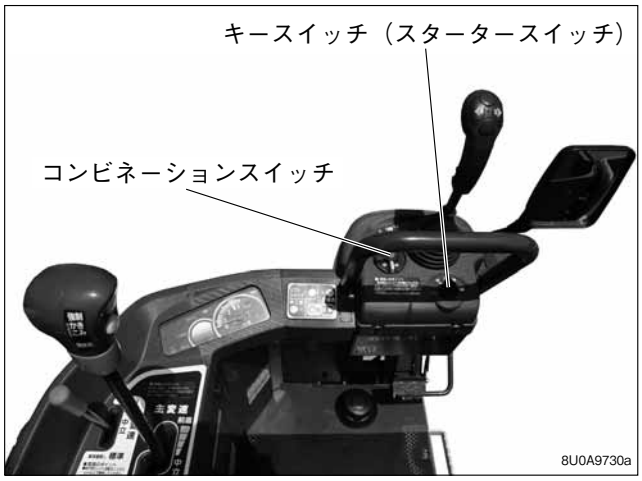


8U0A9730a

計器パネル詳細



36090001



❶　キースイッチ（スタータースイッチ）



《**切**》……電源切（エンジン停止）
　キースイッチを《**切**》にするとエンジンが停止します。

《**入**》**(運転)**……電源入（運転中）

《**予熱**》……エンジンの燃焼室内が予熱されます。
　手を放せば自動的に《**入**》位置に戻ります。

《**始動**》……エンジン始動
　キースイッチを《**始動**》位置に回すとエンジンが始動します。
　手を放せば自動的に《**入**》位置に戻ります。

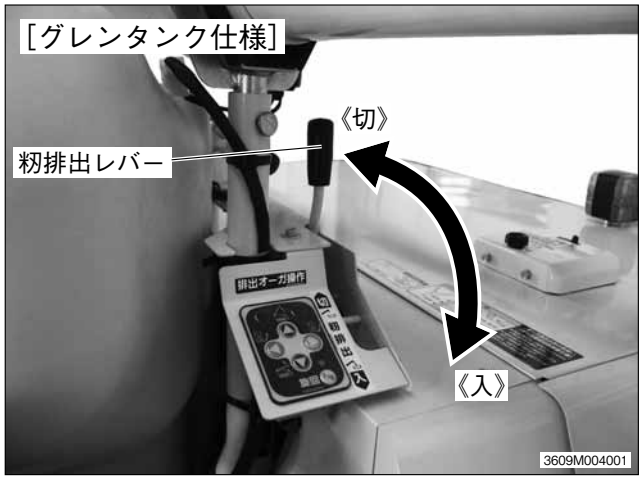
取扱いのポイント

●**寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にキースイッチを《予熱》位置で約6秒予熱したあと《始動》位置に回してください。**

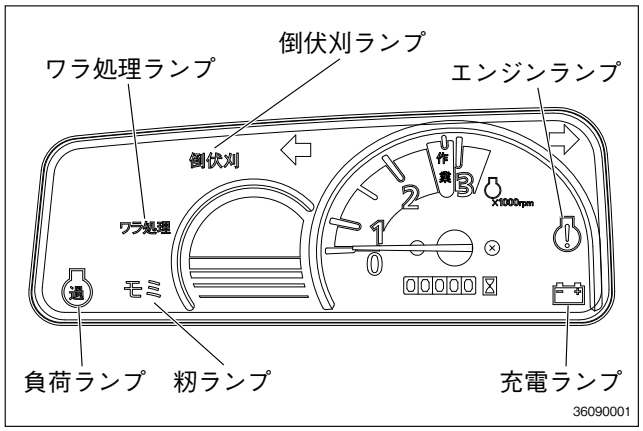
取扱いのポイント

●**脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更に籾排出レバー）を《切》位置にして，ブレーキペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。（ブレーキペダルを踏込むと主変速レバーは《中立》になります。）**





❷　警報ランプ



⑴ **充電ランプ**

エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，キースイッチを《**入**》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

⑵ **籾ランプ**

刈取り作業中，籾タンク内に籾が充満した状態を警報するランプで，満杯時に橙点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。

取扱いのポイント

- **警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，籾タンク内の籾を排出してください。**
- **警報ブザーはパネルのホーン・警報切ボタンを押すと鳴りやみます。(10ページ参照)**
- **警報ブザーが鳴った後もそのまま作業を続けるとエンジンが停止します。**
- **ホッパ仕様は，ホッパ内の籾を袋に排出してから，エンジンを始動してください。**
- **グレンタンク仕様は，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてブレーキペダルを踏込みエンジンを始動したのち，籾排出場所まで移動し，グレンタンク内の籾を排出してください。**

⑶ **ワラ処理ランプ**

排ワラチェン部に詰まりが発生するとランプが点灯し，警報ブザーが鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらキースイッチを《切》位置にし，詰まりを取除いてください。また，排ワラ切換カバーをカッタ・排ワラ作業状態にしてください。**
- **脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様］は更に籾排出レバー）を《切》位置にしてブレーキペダルを踏込むとエンジンの再始動ができます。**

⑷ **負荷ランプ**

エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がるとモニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅したら，主変速レバーで走行速度を下げ，エンジンの負荷を軽くします。

取扱いのポイント

- **負荷ランプは，刈取り作業中のみ警報作動するようにしていますので，以下の条件では警報は作動しません。**
  - **・こぎ深さ自動センサが《切》のとき**
  - **・脱こく・刈取クラッチレバーが《切》のとき**

⑸ **エンジンランプ**

エンジンの冷却水温が高温になると点灯して警報ブザーが鳴ります。(水温警報)

エンジンオイルの圧力が異常に低下すると点灯します。(油圧警報)

取扱いのポイント

- **エンジンが停止しているとき，キースイッチを《入》位置にすると，エンジンランプが点灯します。エンジンを始動すると消灯します。**

❸ **アワメータ** 00001HR

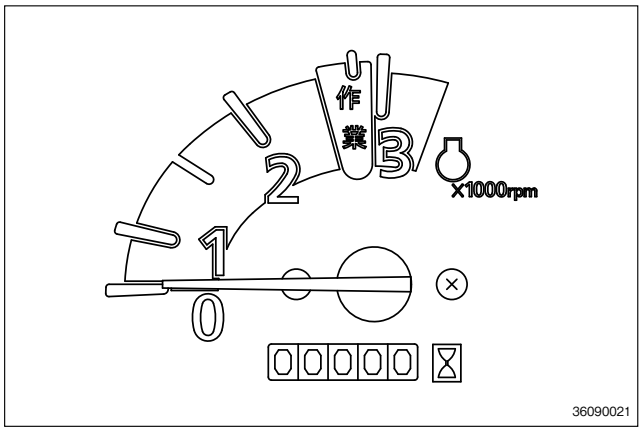
エンジン稼働時間の積算時間を表示します。

取扱いのポイント

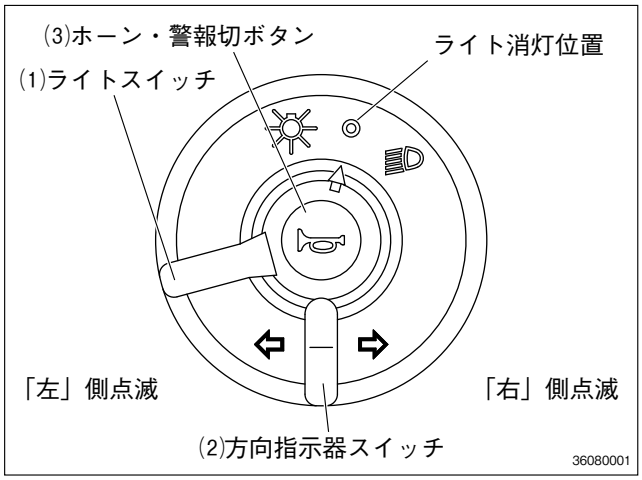
- **定期点検整備はアワメータ表示時間を基準に行なってください。**

❹ 回転計

エンジンの１分間の回転数を表示します。



❺ コンビネーションスイッチ



(1) ライトスイッチ

《 ◎ 》……消灯

《 ≣D 》……計器パネルランプの点灯および，前照灯が点灯します。

(2) 方向指示器スイッチ

スイッチを左右へ操作すると左側または右側の方向指示器が点滅します。

(3) ホーン・警報切ボタン

・キースイッチを《**入**》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

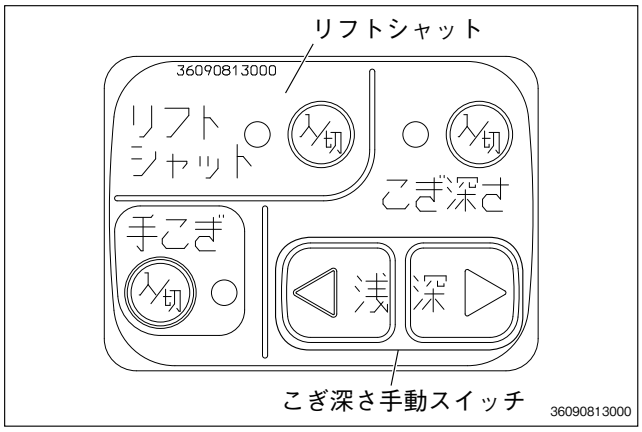
・籾ランプの点灯（タンク充満），および警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴りやみます。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報切ボタンを押しても鳴りやみません。下記の方法で警報を解除してください。

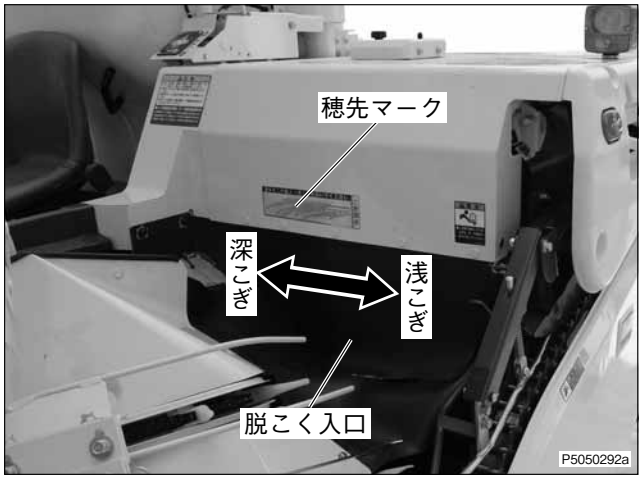
警報機能	解除方法
・エンジンランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」する
・ワラ処理ランプ点灯（排ワラ詰まり）	エンジンを停止し脱こく･刈取クラッチレバーを《切》位置にして詰まりを取除く
・負荷ランプ点滅	走行速度を下げる

❻ こぎ深さ手動スイッチ



作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を調整するスイッチです。

脱こく入口の「**穂先マーク**」位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。



《深》（深こぎ）……こぎ深さが深い位置に移動し，スイッチから手を離すと任意の位置に固定されます。

《浅》（浅こぎ）……こぎ深さが浅い位置に移動し，スイッチから手を離すと任意の位置に固定されます。

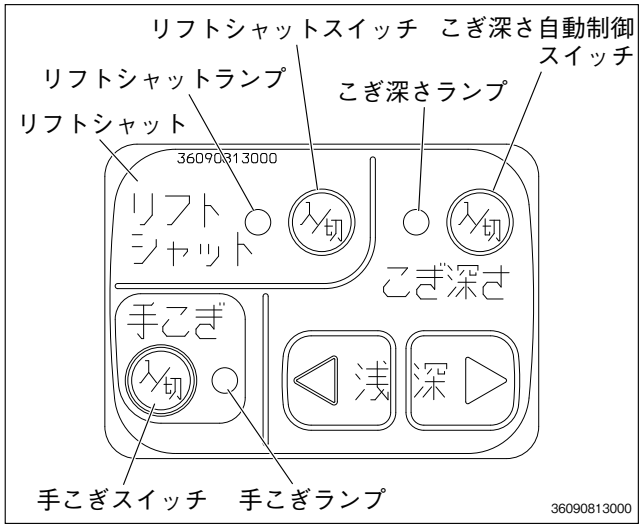
取扱いのポイント

●穂先マークに穂先を合わせますが，穂先マークより深く穂を入れないでください。

❼ リフトシャットスイッチ

刈取部を上げると刈取搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。リフトシャットスイッチの**《入》《切》**操作でリフトシャットの**《入》《切》**の切換を行います。

リフトシャットスイッチ**《入》**のときリフトシャットランプが点灯します。



❽ こぎ深さ自動制御スイッチ

キースイッチを**《入》**位置し，こぎ深さ自動制御スイッチを押すと，こぎ深さ自動制御が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は［**自動制御について**］の項目参照）

❾ 手こぎスイッチ

手こぎスイッチを使用するときは，スイッチを押して**《入》**ランプが点灯で使用します。刈取作業を行なうときは，スイッチを押して**《切》**，ランプを消灯します。

⑩ 強制かき込みスイッチ



走行停止状態または後進時に刈取搬送を作動させたいときに，強制かき込みスイッチを押します。押しているあいだ作動します。

⑪ 倒伏刈スイッチ

倒伏刈取作業などで，刈取部の速度を通常より速くしたいときに，倒伏刈スイッチを押します。前パネルの倒伏刈ランプが点灯します。再度倒伏刈スイッチを押すと，倒伏刈ランプが消灯し通常の刈取速度になります。

⑫ 緊急エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時などの万一のトラブル時にこのスイッチを押すと，警報ブザーが鳴り，エンジンが停止します。

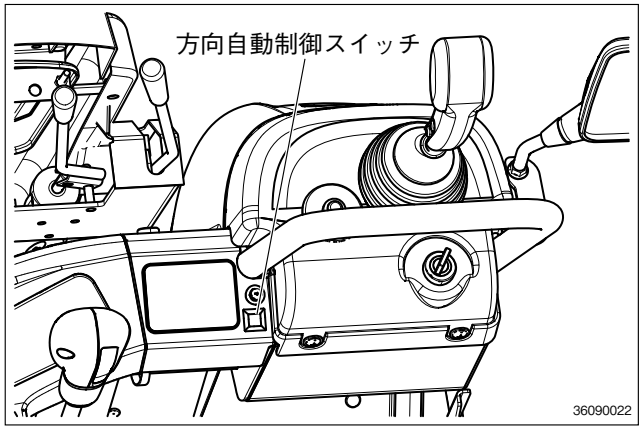


取扱いのポイント

- **緊急エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，キースイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリあがりの原因になります。**
- **緊急エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。**

⑬ 方向自動制御スイッチ［ディーラオプション］

方向自動制御を使用するときは，方向自動制御スイッチを押して，スイッチ内ランプを点灯させて使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は**［自動制御について］**の項目参照）

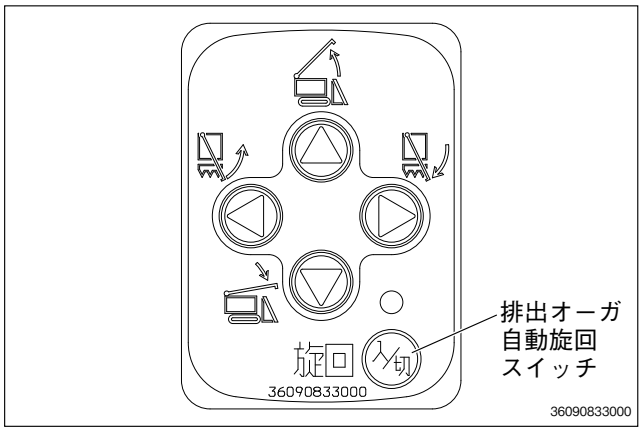


⑭ 排出オーガ操作スイッチ［グレンタンク仕様］



・排出オーガの旋回および上昇・下降の操作を行なう手動の操作スイッチです。
・排出オーガを旋回するときは，排出オーガを上限まで上げてから行います。

⓯ 排出オーガ自動旋回スイッチ
［グレンタンク仕様］

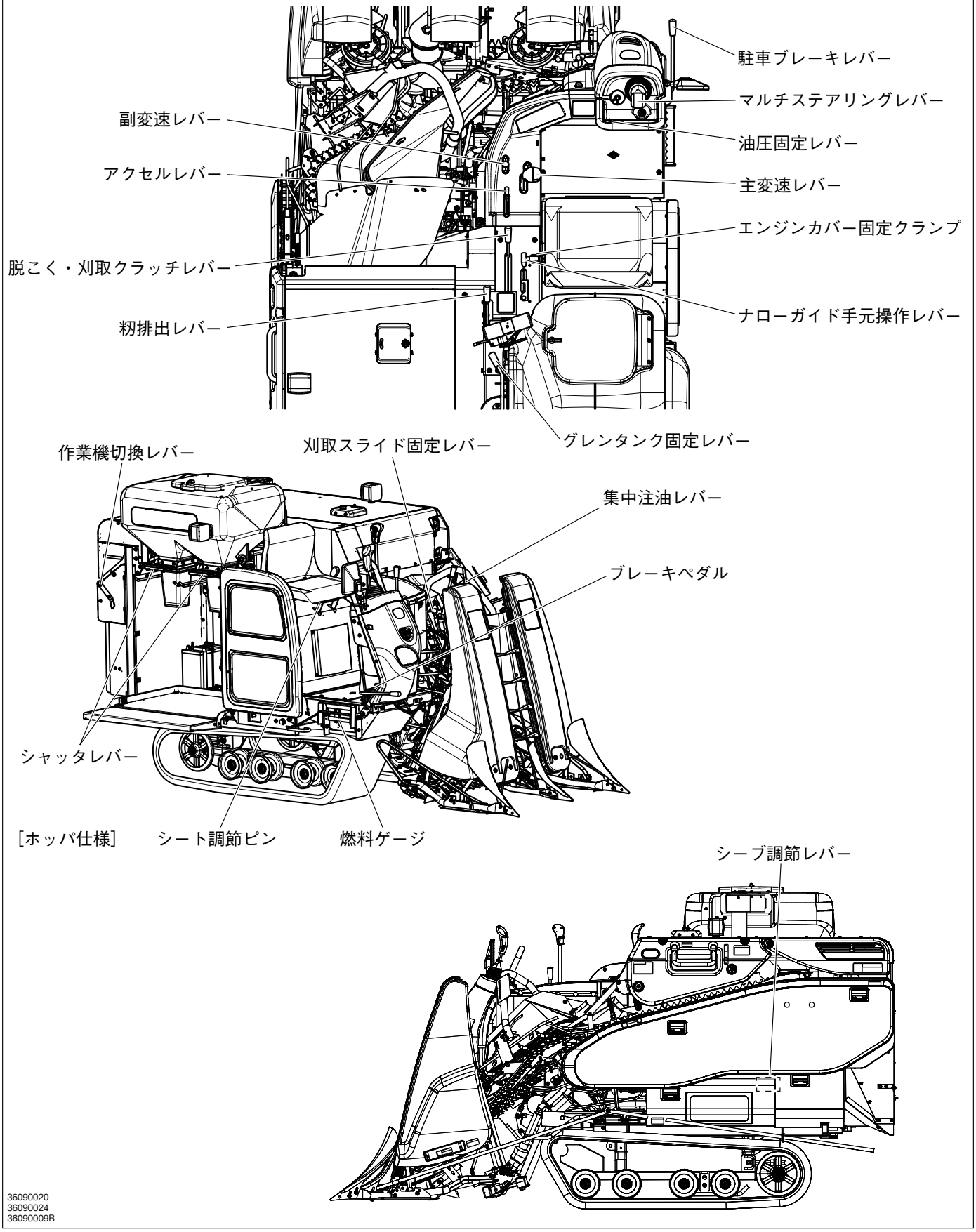


・排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが機体後方まで，自動的に旋回します。
・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

取扱いのポイント

- **スイッチを《入》にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか，確認してください。**
- **自動旋回および収納が故障のときは，排出オーガ操作スイッチによって，手動で操作してください。**

2. ペダル・レバー関係



36090020
36090024
36090009B

❶ ブレーキペダル

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ブレーキペダルは自動車への積込み・積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆ブレーキペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。



機械の始動，停止（ブレーキ），副変速レバーの操作に使用します。

⑴ **エンジンの始動に使用します。**

・エンジンを始動するときはブレーキペダルをいっぱいに踏込みます。

取扱いのポイント

●脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更に籾排出レバー）を《切》位置にして，ブレーキペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。

⑵ **機械の停止（ブレーキ）に使用します。**

・ブレーキペダルをいっぱいに踏込むと，主変速レバーが《**中立**》に戻りトランスミッションへの動力が断たれ，ブレーキがかかる構造になっています。



⑶ **副変速レバーの操作に使用します。**

・副変速レバーを操作するときはブレーキペダルをいっぱい踏込みます。

取扱いのポイント

●主変速レバーはブレーキペダルを踏まなくても操作できます。

●作業中，ブレーキペダルを踏むと走行と同時に刈取部も停止します。

❷ 駐車ブレーキレバー

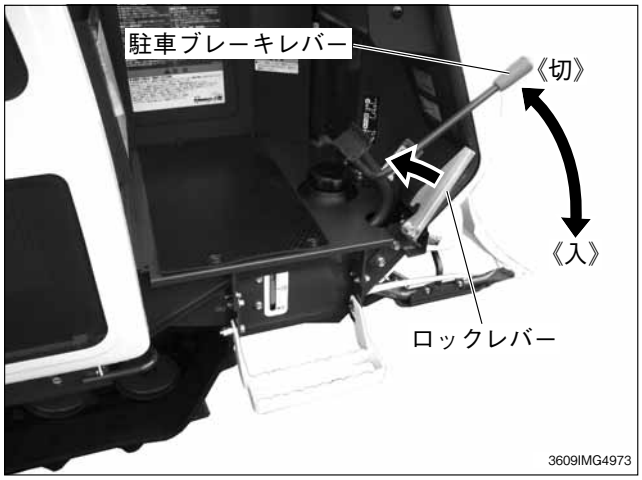
⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「車止め」をしてください。

◆駐車ブレーキレバーは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

・駐車ブレーキレバーを前方（《**入**》方向）に倒し，ロックレバーを掛けると，駐車ブレーキがかかります。

・駐車ブレーキレバーは主変速レバーと連動していますので，シートから降りて，機械の停止操作を行うときにも使用します。



取扱いのポイント

●駐車ブレーキレバーを《入》方向に倒すと主変速レバーが《中立》位置に戻りますので，再発進するときは駐車ブレーキレバーを《切》にしてから，主変速レバーを操作してください。

❸ アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。

・「**始動**」のときは……アクセルレバーを手前に引き，《🐇》(**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。

・「**停止**」のときは……《🐢》(**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



取扱いのポイント

●走行時および，マルチステアリングレバーを操作するときは，エンジン回転「2000回転以上」で使用してください。それ以下で使用すると正常に作動しないことがあります。

●アクセルレバーが作業位置より低いとき，刈取クラッチレバーを《入》側に操作すると，操作に連動してアクセルレバーが作業位置まで動作します。

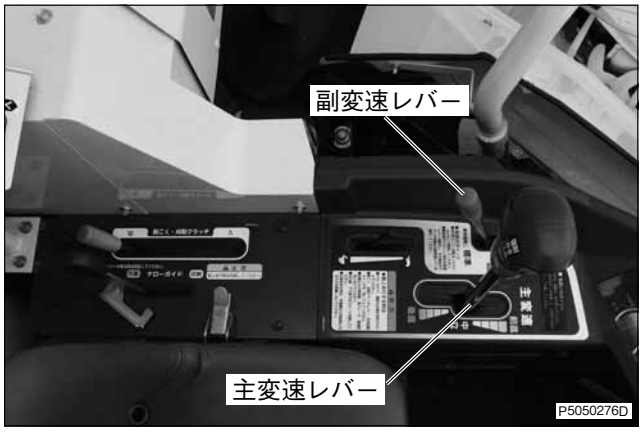
❹ 主変速レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行中，主変速レバーを急激に増速・減速操作しないでください。
◆前後進の切換えは，機械が停止してから行なってください。
◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。
◆機械から離れるときは，《中立》でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

ブレーキペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。《**前進**》・《**後進**》いずれにも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

・ブレーキペダルを踏むと，主変速レバーは《**中立**》位置に戻ります。
・エンジンを始動するときは，脱こく・刈取クラッチレバー（[**グレンタンク仕様**] は更に籾排出レバー）を《**切**》位置にしてブレーキペダルをいっぱい踏込んで始動します。



取扱いのポイント

●駐車ブレーキレバーが《入》位置の状態，およびブレーキペダルを踏込んでいる状態では，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かそうとすると機械が破損することがあります。

❺ 副変速レバー

《**走行**》，《**標準**》の切換えを行います。

切換え操作は主変速レバーを《**中立**》の位置にし，機械が停止してから行います。

「**作業別適性速度表**」

作業内容	副変速
積込み，あぜ越え（前進）	標準
倒伏刈取り	
標準刈取り	標準
集中注油	中立
路上，ほ場走行（前進）	標準，走行
路上，ほ場走行（後進）	標準，走行
積降ろし，あぜ越え（後進）	標準
刈取りのときの後進	標準

❻ マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

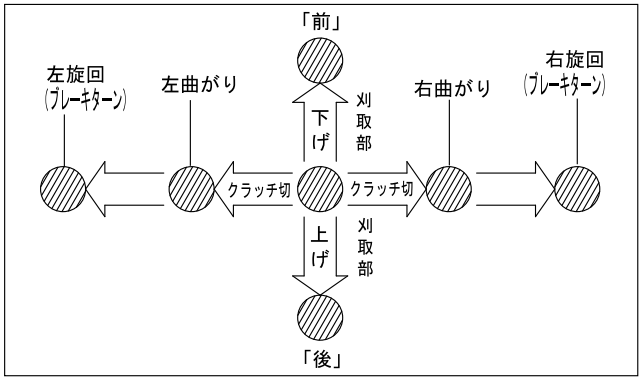
◆旋回するときは主変速レバーで速度を落として行なってください。また，急旋回はしないでください。

◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・１本のレバー操作により，左右操作で「**旋回**」，前後操作で刈取部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。

・左右方向に浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。



取扱いのポイント

●マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❼ ジャストディレクタ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回操作（方向修正）時に走行クラッチペダルに足を乗せないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

◆自動車への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



ジャストディレクタ《**右**》を押すと右方向に，《**左**》を押すと左方向に進行方向を修正します。

・刈始めの条合わせや，刈取中の微調整に使用します。

・自動車などへの積込み・積降ろし，あぜ越え，路上走行など刈取以外の作業では使用しません。

取扱いのポイント

●自動車への積込み・積降ろし，あぜ越え，路上走行など刈取作業以外はジャストディレクタを使用しないでください。

❽ 油圧固定レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部を上げて，その下で整備などするときは，エンジンを停止し，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にしてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。

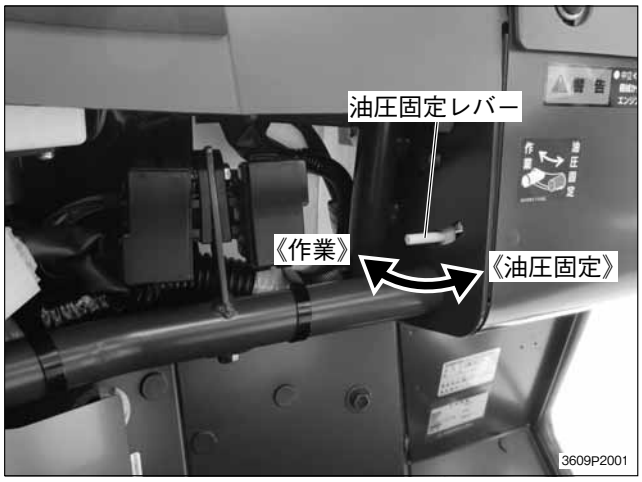
◆油圧固定レバーを操作するときは，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

刈取部の「**上げ**」・「**下げ**」を固定します。

《**油圧固定**》位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。

路上を走行するときは，《**油圧固定**》位置で使用します。

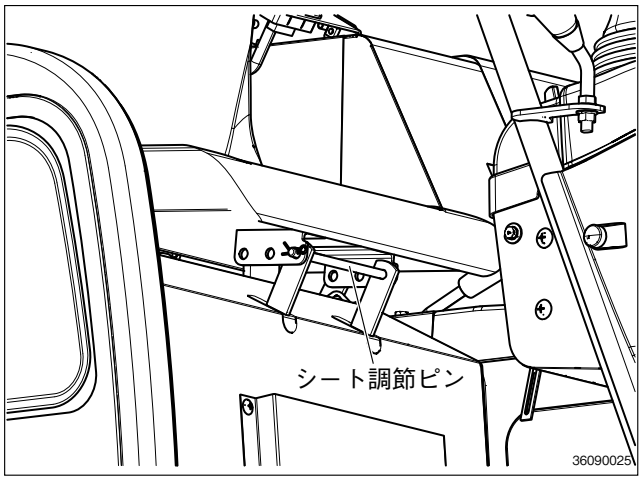
・作業時には，油圧固定レバーを《**作業**》の位置で使用します。



❾ シート調節ピン

シートの前後位置がシート調節ピンで３段階に調節できます。

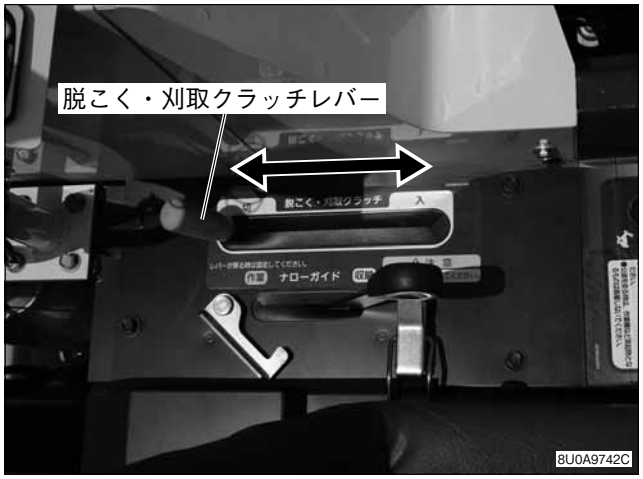
スナップピンを外し，シート調節ピンの位置を変えて，シートの前後位置を調節します。



❿ 脱こく・刈取クラッチレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆脱こく・刈取クラッチレバーを《入》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。



・脱こく・刈取クラッチレバーは１本のレバーで脱こく部と刈取部の運転・停止を行います。

取扱いのポイント

- **刈取・脱こく運転中，ブレーキペダルを踏むと，走行と刈取部は停止しますが脱こく部は停止しません。**
- **脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様］は籾排出レバー）が《入》位置にあるときはエンジンは始動できません。**
- **エンジンを始動するときは，脱こく・刈取りクラッチレバー（[グレンタンク仕様］は更に籾排出レバー）を《切》位置にして，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。**

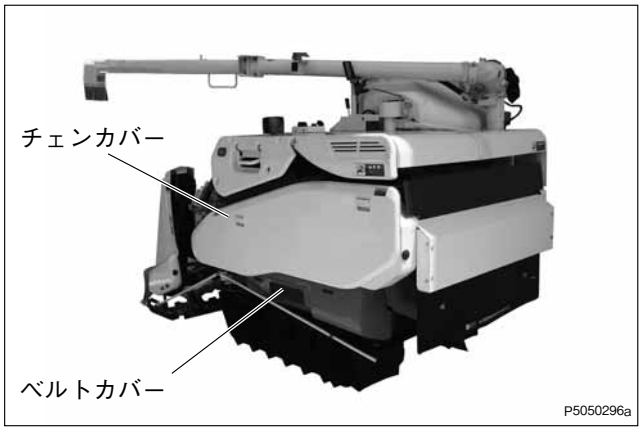
⓫ シーブ（選別量）調節レバー

⚠注意 傷害事故防止のために

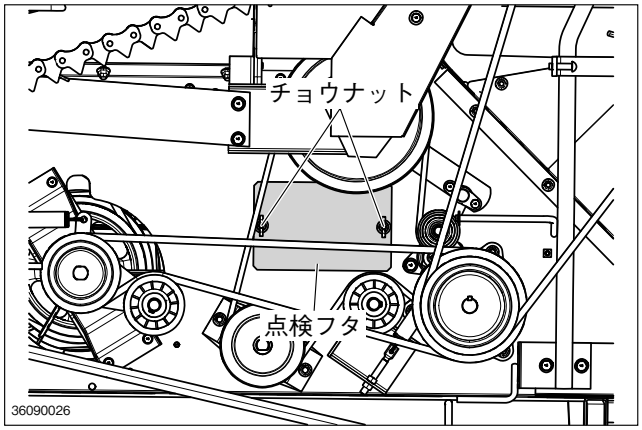
◆シーブ調節時は，各クラッチを切り，エンジンを停止し，各部の作動が停止してから行なってください。

作物や刈取りの条件により，籾に枝梗の付着や稈切れ混入が多い場合や収穫量が少ない場合に調節するレバーです。

⑴ チェンカバー，ベルトカバーを外します。



⑵ チョウナットを外し，点検フタを外します。



取扱いのポイント

- **レバーを操作するときは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで脱こく部を空運転してからエンジンを停止し，行なってください。**
- **シーズン途中や格納前にも作動をスムーズにするために，ときどき，同じ方法でレバーを操作してください。**

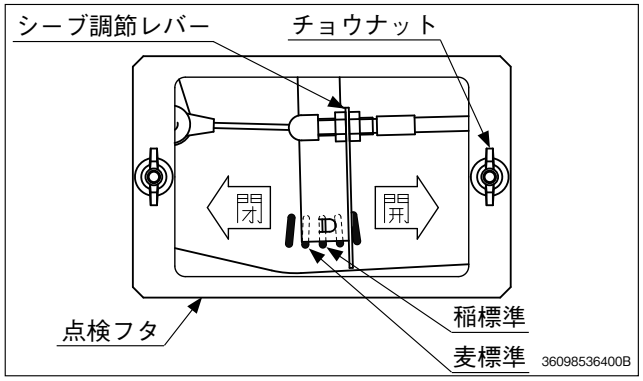
⑶ 作物の条件により下記を参考にしてシーブ調節レバーで調節します。

「閉」方向調節

・選別が悪いとき。　・小枝梗が多いとき。

「開」方向調節

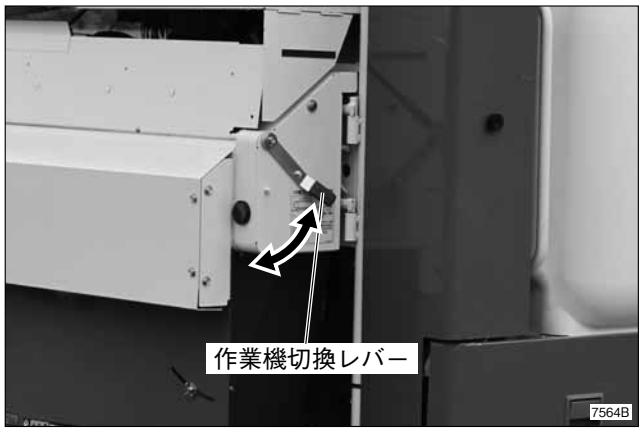
・ロスが多いとき。　・損傷米が多いとき。

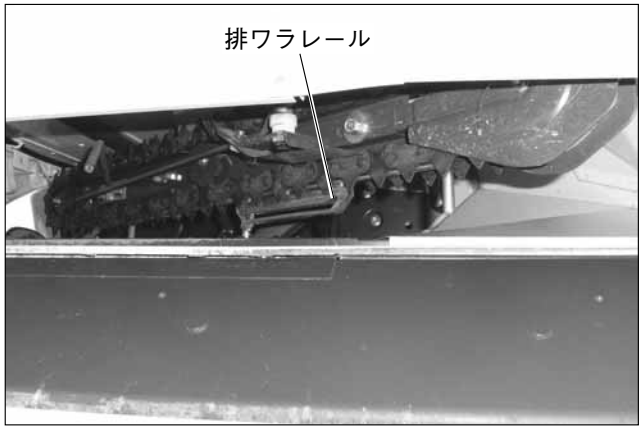


⑷ 調節後は点検フタ，チェンカバー，ベルトカバーを取付けてください。

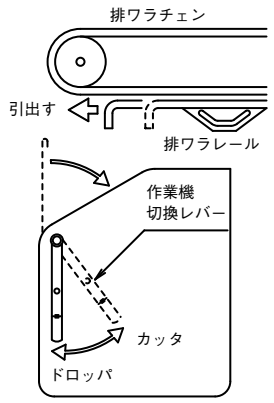
⓬ 作業機切換レバー

排ワラ作業またはカッタ作業の切換えをするレバーです。レバーの切換と同時に排ワラレール位置も切換えてください。





・ドロッパ，排ワラ作業のしかた



1．エンジンを停止してください。

2．切換レバーを手前に引き,《ドロッパ位置》に切換えます。

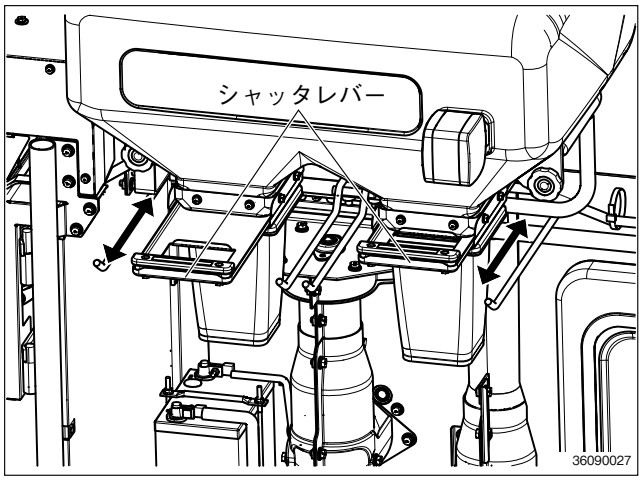
3．排ワラレール終端を当たりのあるところまで手で引き出します。

⓭ シャッタレバー［ホッパ仕様］

⚠注意 傷害事故防止のために

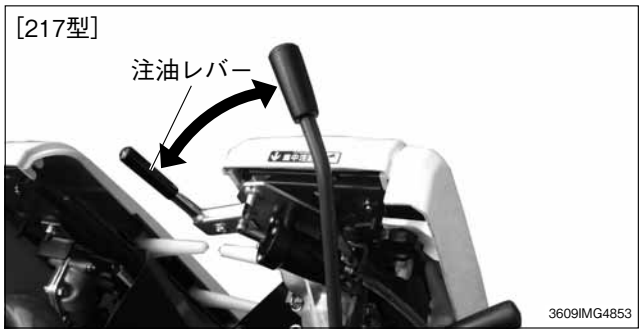
◆樋口の中に手を入れないでください。

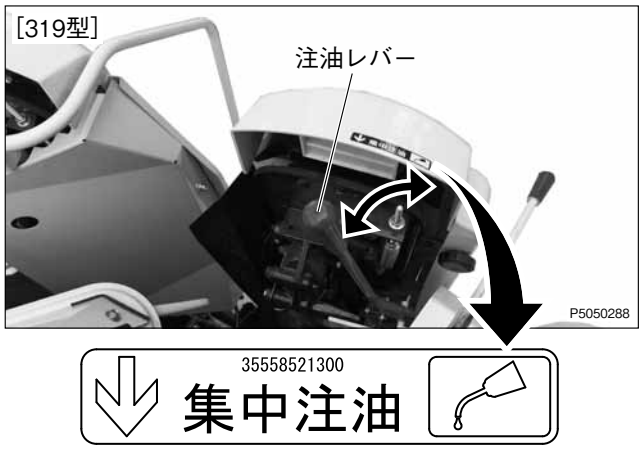
・籾袋を交換するとき，シャッタレバーを押込んで閉じて行います。
シャッタを開くときはシャッタレバーを引き出します。



⓮ 注油レバー

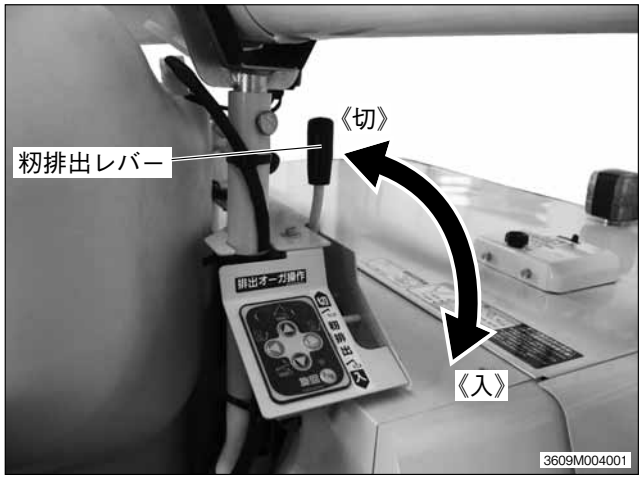
刈取部に注油するレバーです。





⓯ 籾排出レバー［グレンタンク仕様］

グレンタンク内の籾を排出するレバーです。



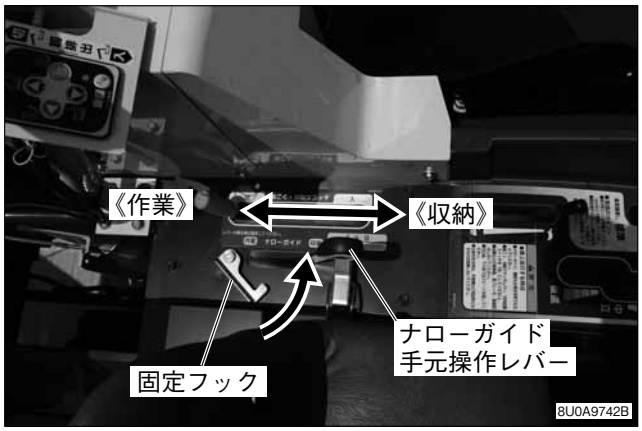
取扱いのポイント

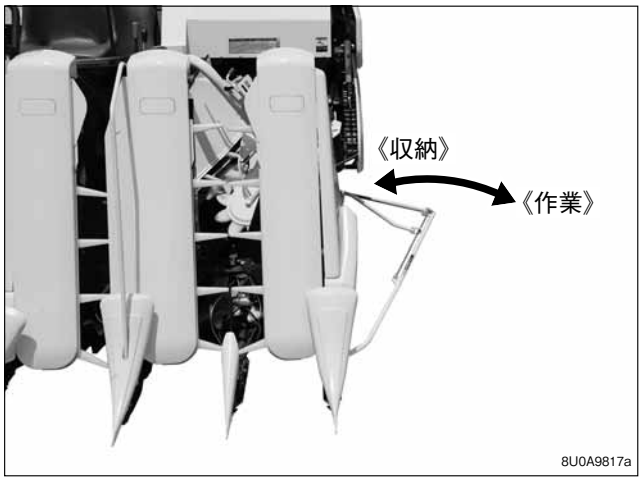
- **籾を排出する場合は，アクセルレバーを《🐇》（高速）位置に合わせてください。エンジンの回転が低いと詰まりの原因となります。**
- **排出オーガは，オーガをいっぱい上げた状態で旋回させてください。**
- **エンジンを始動するときは，籾排出レバーが《入》位置にあると始動できません。**

⑯ ナローガイド手元操作レバー

ナローガイド（左）をシートに座ったまま操作するレバーです。

・ナローガイド手元操作レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド（左）が引出され作業状態になります。
・通常固定フックは使用しないで作業します。
・路上走行時には《**収納**》位置にします。



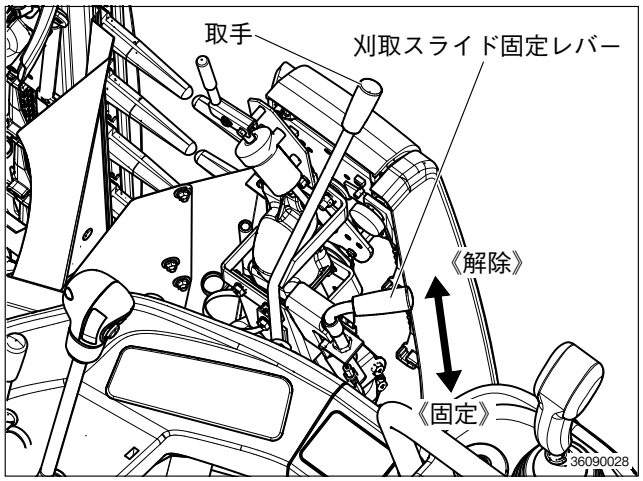


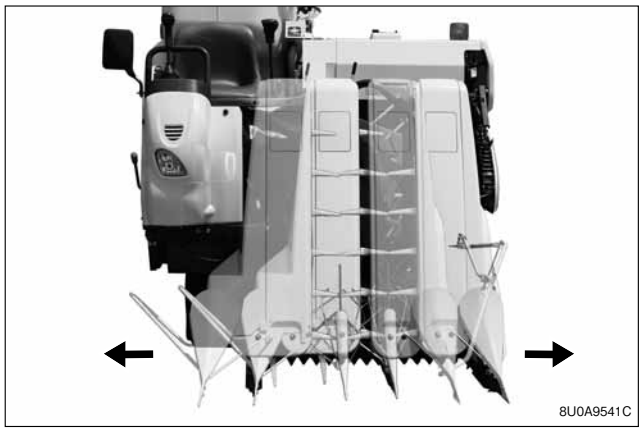
・作業時，レバーが戻る場合は固定フックでレバーを固定してください。

⑰ 刈取スライド固定レバー（[217型] のみ）

刈取スライド固定レバーを持ち上げて，《**解除**》することにより取手を握って刈取部を手動で横移動させるレバーです。

移動させた後は刈取スライド固定レバーで刈取部が《**固定**》されていることを確認します。





取扱いのポイント

- **刈取スライドは右端または左端で固定して使用します。**
- **刈取スライドを作動させるときは，刈取部をデバイダ先端で10～15㎝上げて行なってください。**
- **刈取スライドを作動させる前にこぎ深さ手動スイッチの《浅こぎ》側を押してこぎ深さを最も浅い位置にすると容易に動かすことができます。**

⑱ グレンタンク固定レバー［グレンタンク仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

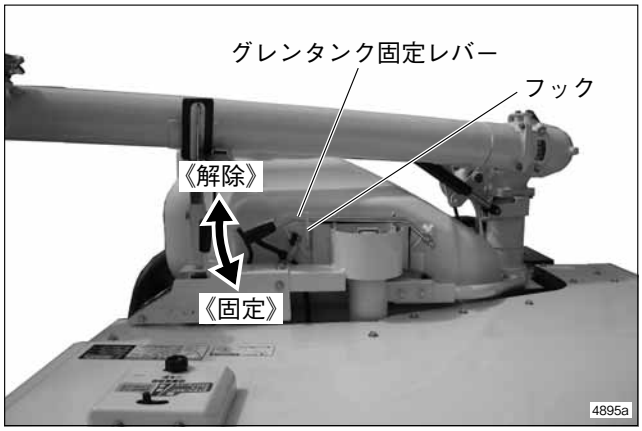
◆グレンタンク固定レバーを「解除」するときは，平坦な場所で各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆グレンタンク内に籾が入っていないことを確認してから行います。
タンク内に籾が入った状態でグレンタンク固定レバーを「解除」するとグレンタンクが不意に転倒し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

◆エンジンを始動する前に，グレンタンクが固定レバーで固定されている事を確認します。グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に転倒し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

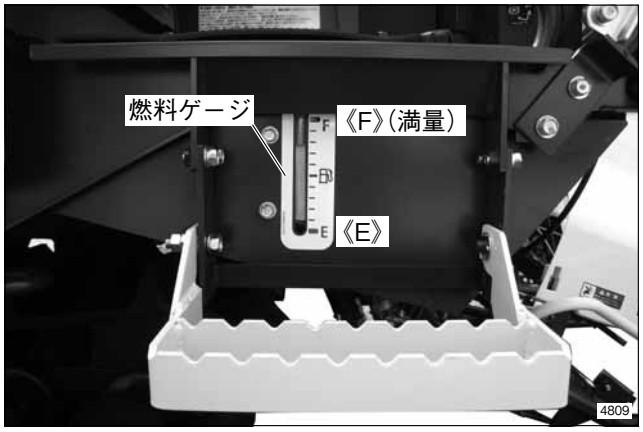
グレンタンクを固定するレバーです。

※グレンタンクの脱着は**［手入れのしかた］**の「**グレンタンクの脱着のしかた**」88ページ参照。



⑲ 燃料ゲージ

ステップ下側にある燃料ゲージで残量を示します。《F》が満量（14L）を示し，《E》に近づくにつれて燃料が減っていくことを表示します。

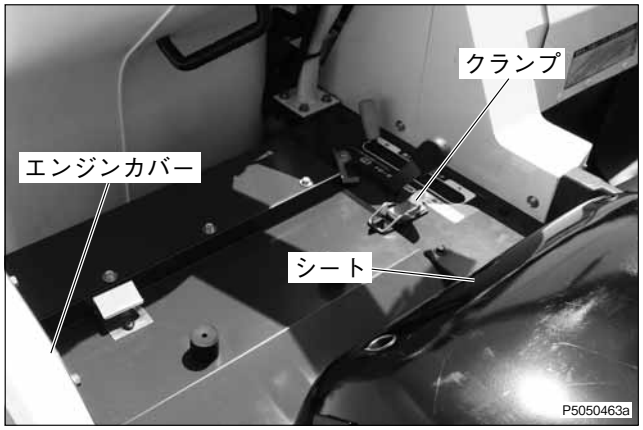


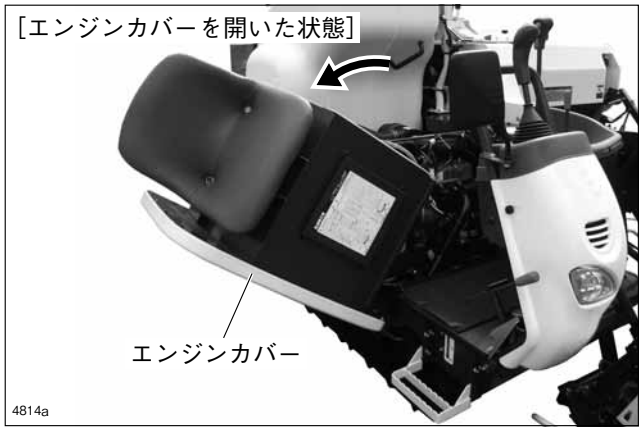
取扱いのポイント

●燃料の残量が《E》近くになったら早めに燃料を補給してください。

⑳ エンジンカバー固定クランプ

・エンジンを整備するときにクランプを外すと，エンジンカバーが開きます。





運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆異常が見つかった場合は処置が完了するまでは使用しないでください。整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引き起こす可能性があります。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいに拭取ってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの劣化，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。
◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行なってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

「**運転まえの点検表**」

点検箇所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー　およびフィルタ ラジエータフィン	・エンジンカバーの内側にゴミが溜まっていませんか。 ・フィルタ・ラジエータフィンの目詰まりはありませんか。	・ゴミを取除く。 ・フィルタを軽くたたくか水洗いして乾かす。 ・ラジエータフィンは，コンプレッサでエアを吹きつける。	75，76
マフラやエンジン回り，チェンカバー，ベルトカバー	・ワラクズが溜まっていませんか。	・掃除をする。	―
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみは締める。 ・損傷したものは交換。 ・汚れはきれいにする。	―
油漏れ	・各給油箇所部に油漏れがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締める。 ・直らないときは点検を受けてください。	68～74
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料漏れがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締める。	110

点検箇所	内　　容	処　　置	参照ページ
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズなどを取除く。	81
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを外して軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。または交換する。	75
エンジンオイル (エンジンクランクケース)	・オイルがオイルレベルゲージの上限，下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	68
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。（給水レベルの上限と下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給する。	69，70
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	―
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。	67
脱こくフィードチェン	・スムーズに動きますか。	・注油をしてください。	73
ホーン	・ホーン警報切ボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	10 78～80
方向指示器などの保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	10 78～80
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを《**後進**》位置にしたとき，バックブザー（ホーン）が鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	78～80
スイッチパネル	・充電，エンジンランプは消灯しますか。(エンジン始動後)	・エンジンオイルを補給する。 ・異常箇所を調べ，処置する。 ・バッテリを充電する。	8，9 68 81～87
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作して正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・点検を受けてください。	18
駐車ブレーキレバー	・ゆっくり走行してレバー操作したとき，正常に機械が停止しますか。	・駐車ブレーキレバーの調整をしてください。	15 111
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整するか交換をしてください。	114～123

2. エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

◆主変速レバー，副変速レバーが《中立》位置，脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更に籾排出レバー）が《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆始動はシートに座って行なってください。
◆暖機運転は主変速レバー，副変速レバーを《中立》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして駐車ブレーキをかけて行なってください。
●運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
●外気温が「0℃以下」のときは暖機運転を10分間以上行ってください。行わないと油圧装置が正常に作動しなくなり，方向変換ができなくなることがあります。
◆空運転するときはこぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

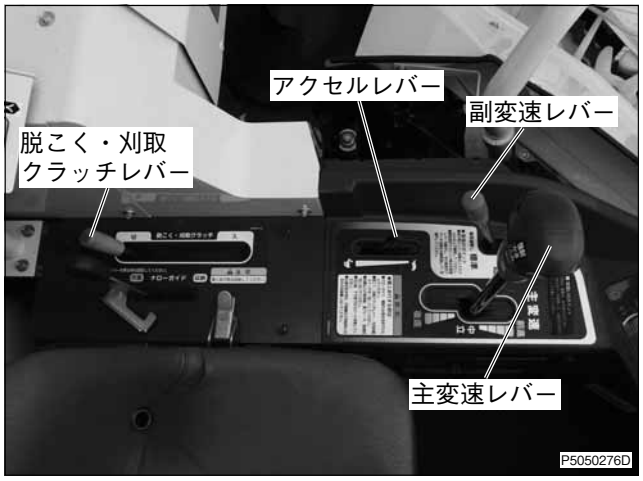
⚠注意 傷害事故防止のために

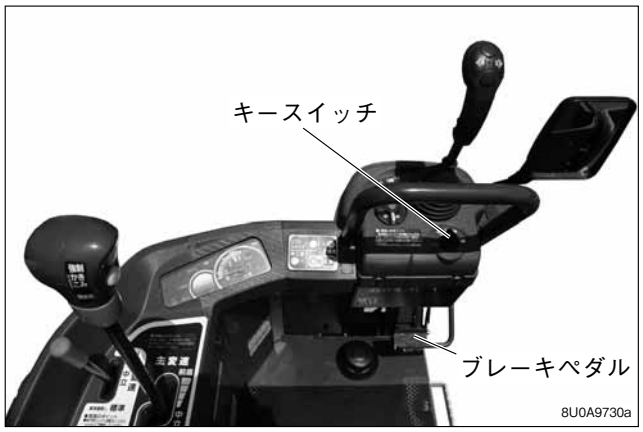
◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

1. エンジン始動のしかた

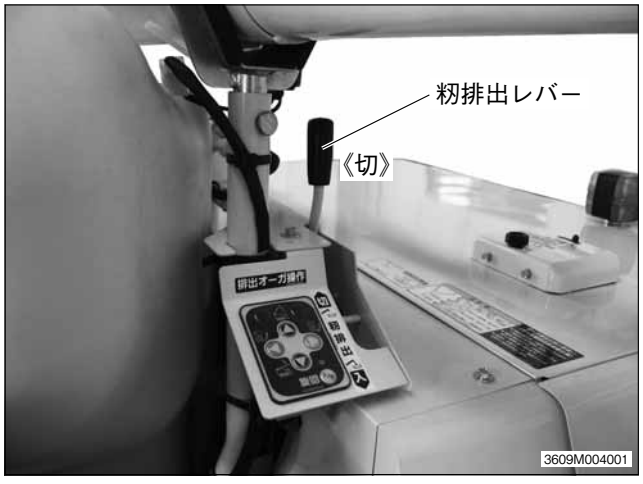
❶ 体格に合わせシート調節ピンで着座位置を調節します。

❷ 主変速レバー，副変速レバーを《**中立**》位置にします。



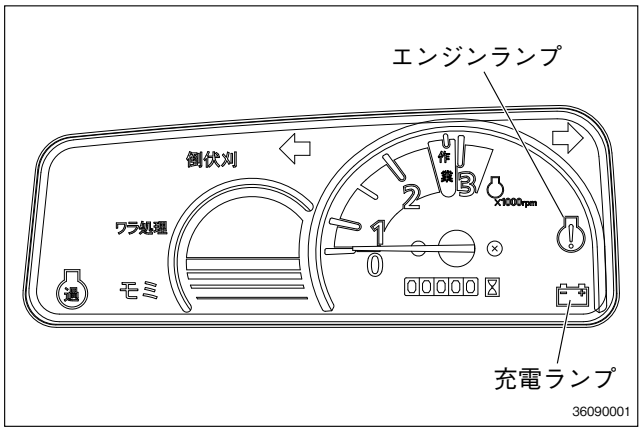


❸ 脱こく・刈取クラッチレバー（[**グレンタンク仕様**] は更に籾排出レバー）が《**切**》位置にあることを確認します。



❹ アクセルレバーを《🐇》(**高速**) 位置にセットします。

❺ キースイッチを《**入**》位置にし，エンジン，充電ランプが点灯することを確認します。



❻ ブレーキペダルをいっぱい踏込みキースイッチを《**始動**》位置に回し，エンジンを始動します。

❼ 始動後駐車ブレーキをかけエンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- **寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にキースイッチを《予熱》位置で約６秒予熱したあと《始動》位置に回してください。**
- **脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更に籾排出レバー）を《切》位置にし，ブレーキペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**
- **エンジン始動後，「エンジン」「充電」のランプが消灯することを確認してください。**
- **《始動》位置は５秒以上の連続使用はしないでください。**
  セルモータは短時間に大きな電力を消費しますので５秒以上の連続使用はバッテリ故障の原因となります。

2. エンジン停止のしかた

❶ アクセルレバーを《🐢》(**低速**) にします。

❷ キースイッチを《**切**》位置にするとエンジンが停止します。

3. 走行・停車のしかた

1. 走行のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

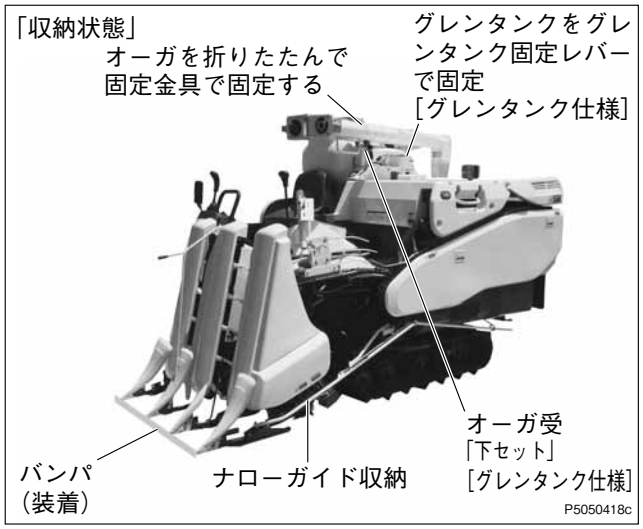
◆公道走行は交通法規を守って運転してください。
◆運転者の他に子供など，人や物を機械にのせないでください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回するときは周囲を確認し速度を落としてください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
◆走行時に排出オーガ先端部を障害物などにあてないようにしてください。

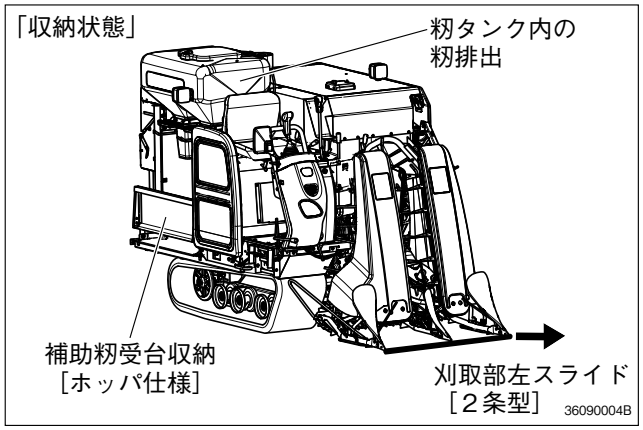
⚠注意 傷害事故防止のために

◆走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
●籾タンク内の籾はすべて排出します。
●バンパを取付けます。
●ナローガイド，補助籾受台［ホッパ仕様］を収納します。
●排出オーガを「下セット」にし，収納状態にします。［グレンタンク仕様］
●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。［グレンタンク仕様］
●方向自動制御スイッチを《切》(ランプ消灯)にします。［ディーラオプション］
●カッタ以外のアタッチメントを取外します。
●刈取スライドを左スライドに固定します。［スライド仕様］

◆公道走行する前に保安部品であるエンジン，燃料タンクホース，トランスミッション，変速装置，ブレーキ，各警報（ブザー），灯火装置（スイッチ，メータ，ランプ含む）を確認し異常がある場合は，「お買いあげ先」に連絡して処置を行ってください。また，異常がある場合はトラック輸送を行なってください。

❶ 走行するときは機械を「**収納状態**」にして「**安全な速度**」で走行します。

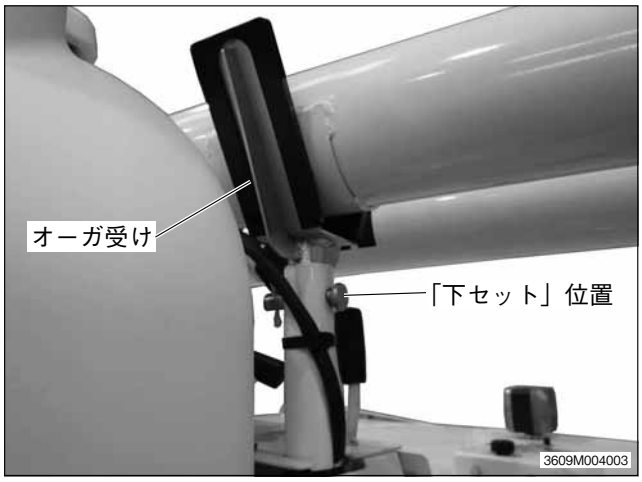




❷ 公道を走行するときは，カッタ以外の**アタッチメント（ノッタなど）を取外します**。

❸ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にしてエンジンを始動します。

❹ オーガ受けを「**下セット**」にして，オーガがオーガ受けに収納されていることを確認します。



❺ エンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

❻ マルチステアリングレバーで刈取部先端を「**20 cm**」程度上げ，油圧固定レバーを《**油圧固定**》にし，刈取部を固定します。

❼ 走行する条件に合わせて副変速レバーを《**標準**》または《**走行**》に入れ主変速レバーをゆっくり操作し適正な走行速度にします。

❽ 発進するときや作業開始するときはホーンで合図をします。

❾ 路上走行で方向を変えるときは，方向指示器の点灯で合図をします。

❿ 発進するときや作業開始の合図は，ホーン・警報切ボタンで行います。

2. 停車のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げて，各操作レバーを《切》，《中立》，副変速レバーを《標準》に入れてください。機械から離れるときは，キースイッチからキーを抜取ってください。

◆燃えやすいものの近くに，止めないでください。

❶ 主変速レバー，副変速レバーを《**中立**》にします。

❷ 駐車ブレーキをかけます。

❸ アクセルレバーを《🐢》(**低速**) の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，エンジンを停止します。

❹ 副変速レバーを《**標準**》に入れます。

❺ 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。

4. 自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，周囲に障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して，次のことを守り慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆積載重量が，自動車の最大積載量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

●自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに車止めをしてください。

◆アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。

●アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。

◆機械は積込む前に，「収納状態」にしてください。

●籾タンク内の籾はすべて排出します。

●バンパを取付けます。

●ナローガイド，補助籾受台［ホッパ仕様］を収納します。

●排出オーガを「下セット」にし，いっぱいに収納します。［グレンタンク仕様］

●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。［グレンタンク仕様］

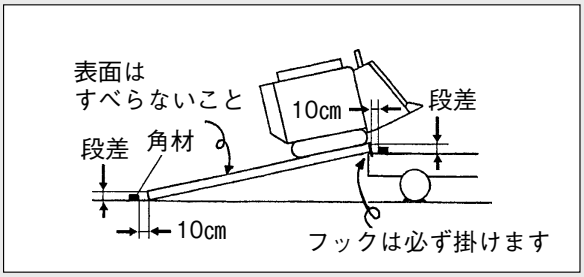
●カッタ以外のアタッチメントを取外します。

●刈取スライドを左スライドに固定します。［スライド仕様］

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

●アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央に真直ぐにセットします。

◆アユミと路面および自動車の荷台との段差が６㎝以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。



◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

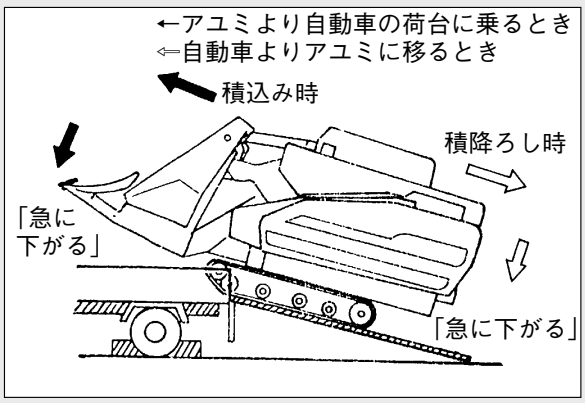
・主変速レバー・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・ジャストディレクタ
・ブレーキペダル
・駐車ブレーキレバー

} はアユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速レバー《低速》位置，副変速レバー《標準》位置で行なってください。

◆機械に乗らないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

◆運転者は機械が自動車に乗る直前や降りた直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づき，駐車ブレーキレバーを《入》れて，機械を停止させてください。

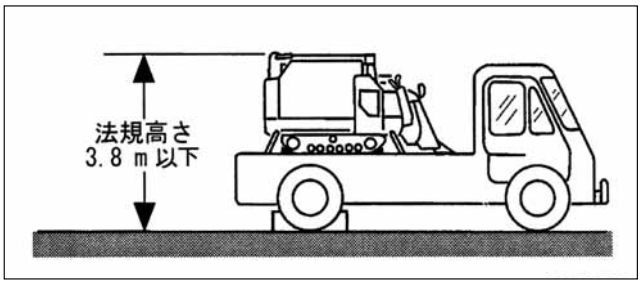


◆各カバーの固定が確実か確認してください。
◆積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて

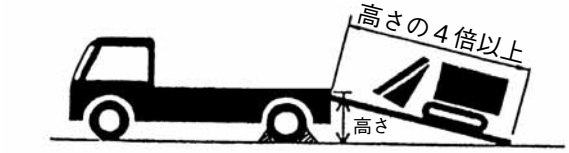
❶ 積載重量が自動車の最大積載重量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

・トラックに積んだ場合，「**車両制限令**」により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。



❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに「**車止め**」をします。

❸ アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。



アユミの基準

長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	45㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が1000kg以上の重量に耐えるもの

❹ アユミは機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにかけ，「**横ずれ**」したり，「**外れ**」たりしないようにセットします。

❺ 機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドルなどの操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2．機械の積込み要領

❶ ナローガイド，補助籾受台，排出オーガを収納します。(収納状態)

❷ エンジンを始動して，アクセルレバーでエンジン回転を「**2000回転**」程度にセットします。

❸ 刈取部をいっぱい上げます。

❹ 積込みは，主変速レバー《**前進**》の低速，副変速レバー《**標準**》で行います。

❺ 積降ろすときは，主変速レバー《**後進**》の低速，副変速レバー《**標準**》で行います。

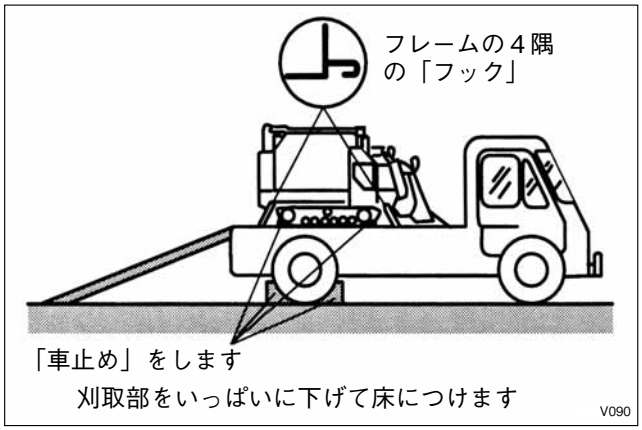
❻ 積込み・積降ろしは，機械に乗らないで行います。

❼ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更はしないようにします。

❽ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❾ 自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「**車止め**」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４箇所のフックにロープまたはワイヤをかけて固定します。

❿ 刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，いっぱいに下げ（深こぎ側）ておきます。



取扱いのポイント

- **［スライド仕様］は，路上走行やトラック積込みのとき，刈取部を左スライドに固定してください。**

5．ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

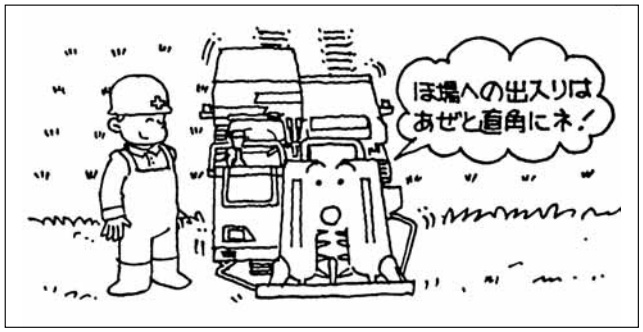
◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行なってください。

●急な坂道の場合は，進行方向や速度を誤ると，転倒してケガをするおそれがあります。

◆ほ場への出入りをする前に籾タンク内の籾をすべて排出してください。

◆あぜが崩れないことを確認してから，ゆっくり行なってください。

1．ほ場への出入りのしかた



❶ 刈取部を上げ，アクセルレバーでエンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速レバーを《**標準**》位置，主変速レバーを《**前進**》の低速または《**後進**》の低速にしてあぜに直角に走行します。

❷ アユミを使用するときは，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取作業に適していないと，脱こく精度が低下するおそれがあります。つぎの条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

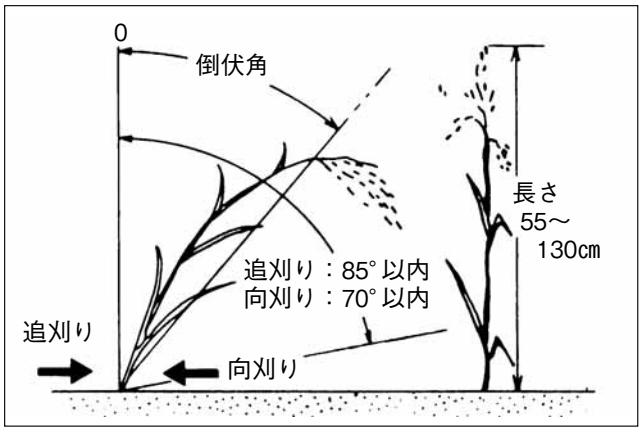
❶　作物の長さと倒れ

・長さ…55～130㎝まで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：85°以内まで刈取りできます。

向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷　作物のぬれ

・ぬれた作物（雨あがり・朝露）の刈取りはつぎのようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸　病害虫におかされた作物

病害虫におかされた作物の刈取りはつぎのようなことがありますので，刈取作業の速度をおそくするか，またはできるだけその部分は**「手刈り」**をしておきます。

・こく稈が折れやすい

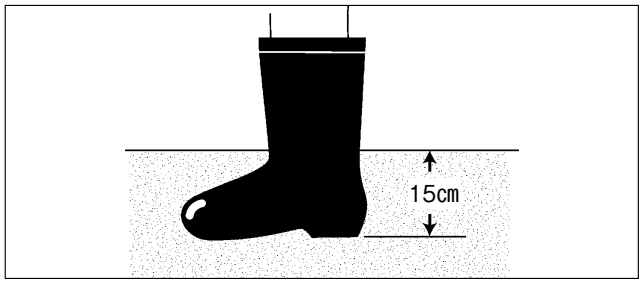
・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

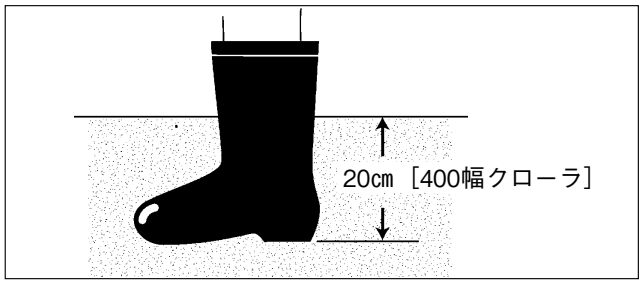
❶　湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が**「15㎝」**までは作業ができます。



［オプション仕様］

・仕様によっては下記沈下量までは作業ができます。

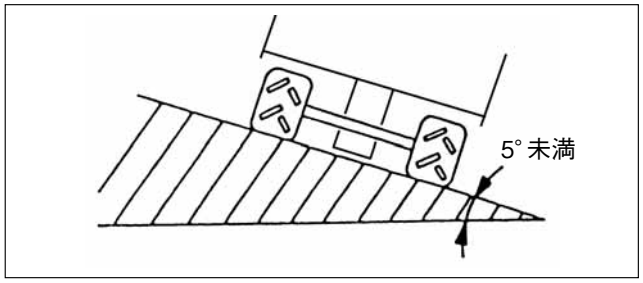


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❷　機械の傾斜

・機械の傾斜角度５°以上では作業できません。



取扱いのポイント

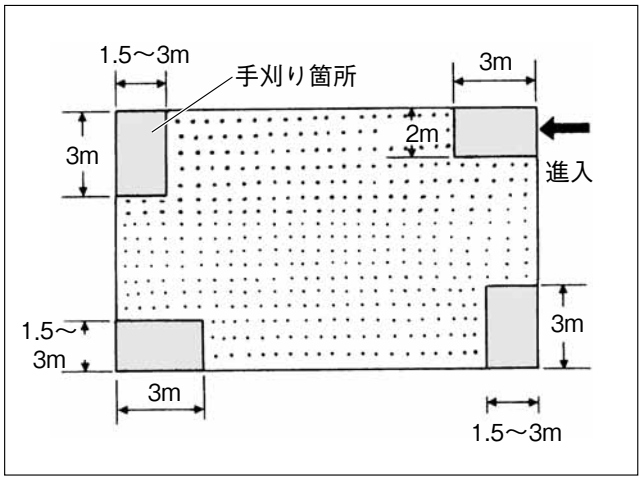
●適応範囲をこえての作業はできません。行わないでください。

●ほ場内に雑草が多いと刈取作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

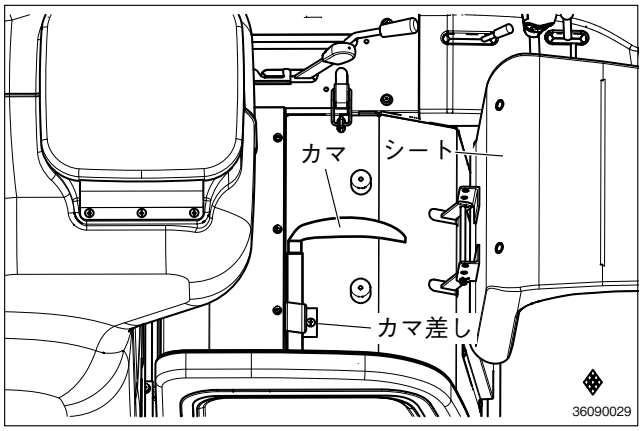
3. ほ場の準備

❶ 手刈り

・機械をほ場に入れるまえに，あらかじめ四隅を「旋回できる程度」手刈りします。



・カマ差しは，シート下方にあります。
カマは図のようにセットし，刃部に身体が触れないようにします。



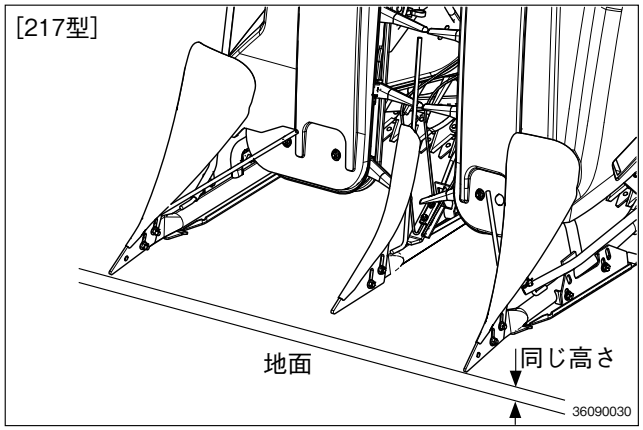
取扱いのポイント

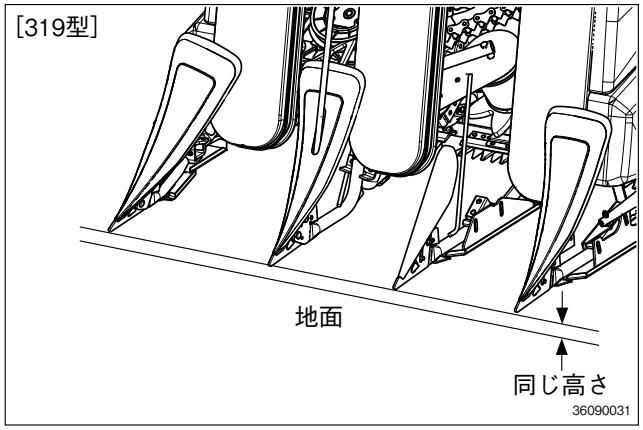
- **ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。**
- **強制かき込みスイッチを使用すると手刈り面積を小さくしても，コーナー刈りができます。**

4. 機械の準備

❶ デバイダの調整

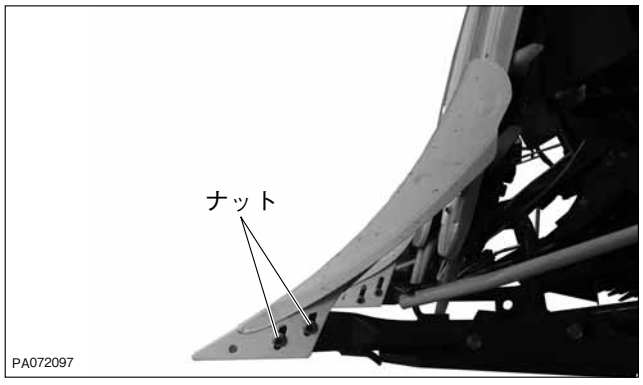
⑴ デバイダの高さを全て同じにします。





⑵ 刈取部を下げたとき，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合やデバイダ先端が地面より離れている場合はデバイダの取付け位置を調整します。

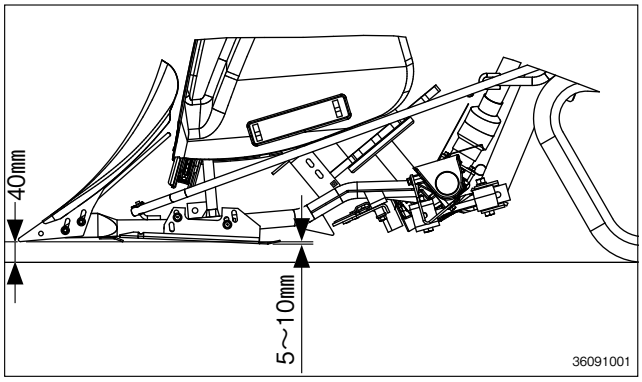
・取付ナットをゆるめ，長穴部で調整し確実に締付けます。



取扱いのポイント

- **デバイダは全て同じ高さになるようにセットしてください。**

⑶ 左右デバイダの先端をクローララグ先端より40㎜上げた状態のとき，デバイダより５～10㎜ソリ後方が下がるように調整します。



❷ 刈取幅の調節［319型］

・植付条間のひろいほ場やあぜぎわ，中割作業では右側デバイダを広げてください。

手元デバイダレバーを《**４条刈**》位置にしてデバイダを広げます。

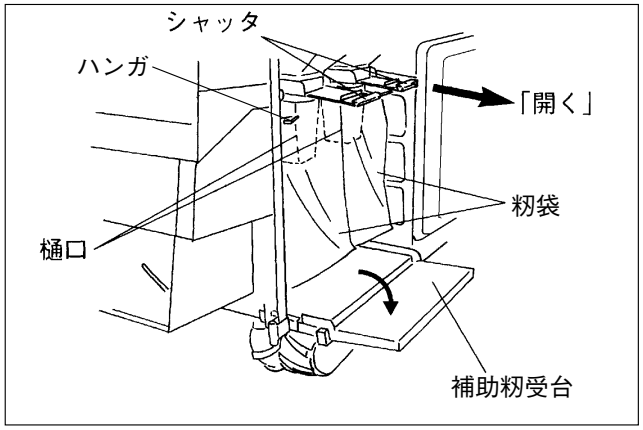


❸ 籾袋の取付け［ホッパ仕様］

⑴ 補助籾受台を作業位置に開きます。

⑵ 籾袋のファスナを開き，１組のハンガに**10枚程度**の籾袋をかけます。

⑶ １番外側の籾袋は樋口に差込みシャッタを開いておきます。



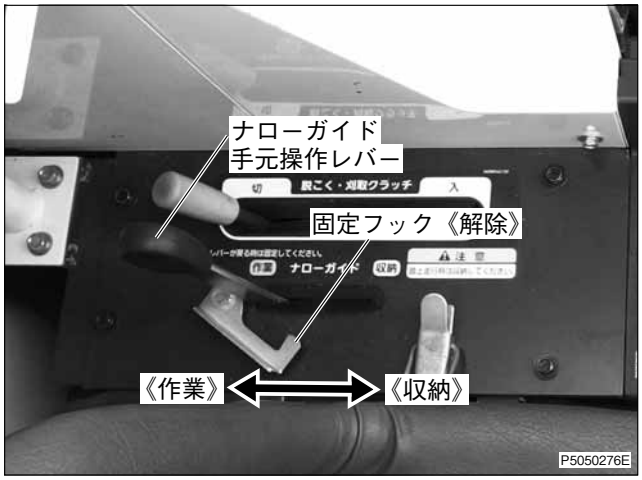
取扱いのポイント

●回り刈りや中割り刈りを行う場合は補助籾受台を収納してください。収納せずに作業を行うと作物やあぜにひっかかるおそれがあります。

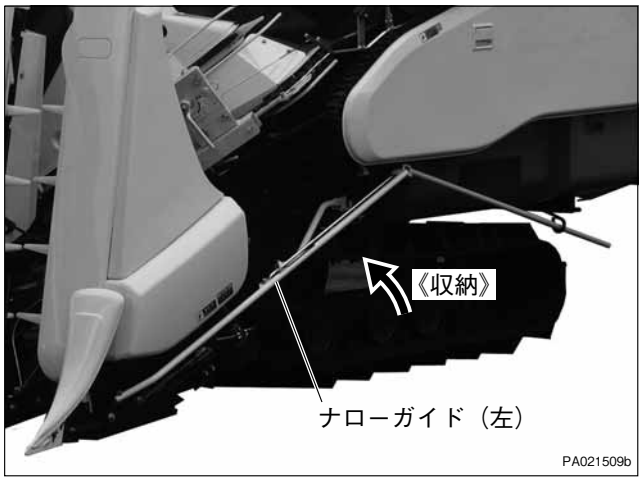
❹ ナローガイドの調節

・ナローガイド手元操作レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド（左）が引出され，作業状態になります。

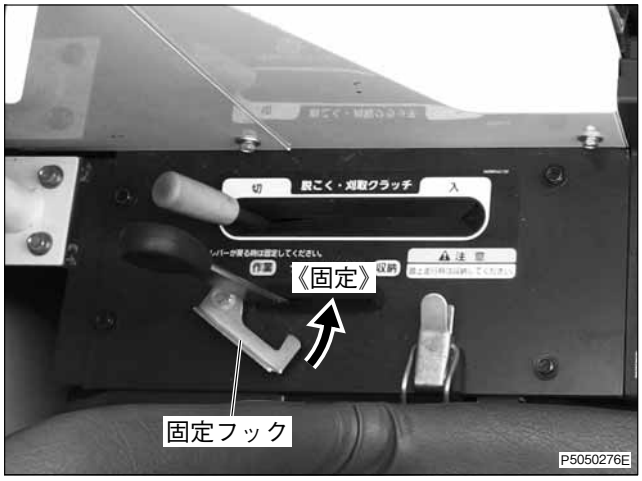
・通常固定フックは《**解除**》の位置で作業します。



・右回り，あぜぎわ刈取など，障害物があるときには，収納してください。

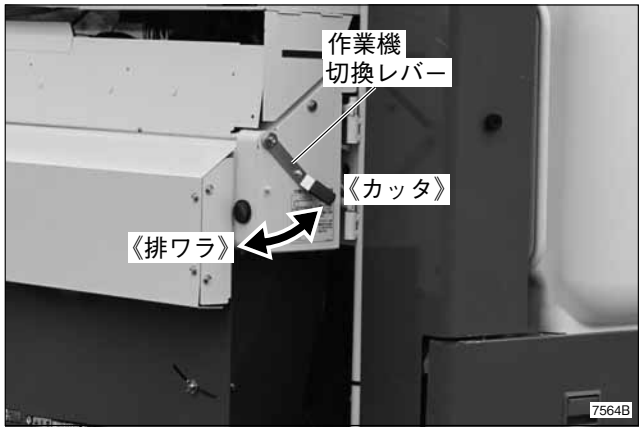


・作業時，レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》してください。

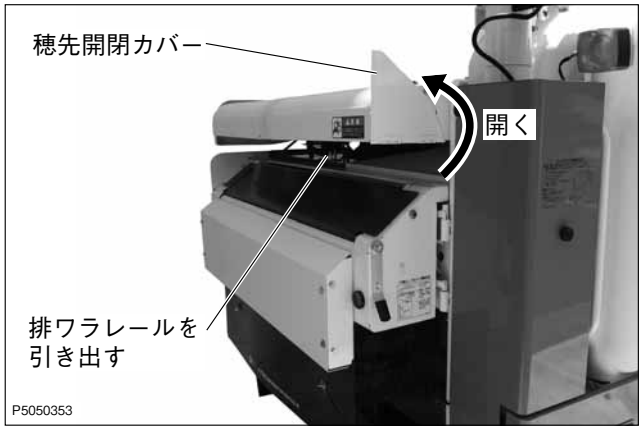


❺ 作業機切換レバー

・作業内容に合わせて，切換レバーで《**カッタ**》・《**排ワラ**》の切換えを行います。



・排ワラ作業の場合は，穂先開閉カバーを開き排ワラレールを引き出します。



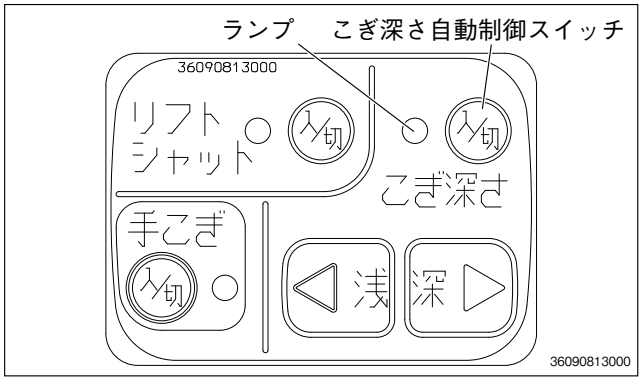
2. 刈取作業のしかた

1. 刈取操作の手順

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。



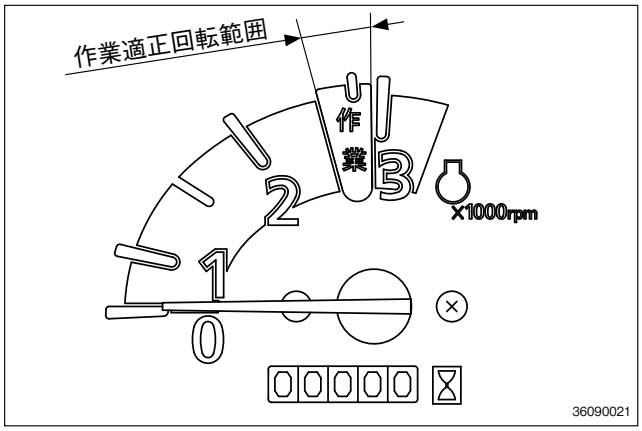
❷ 刈取条件に合わせ副変速レバーをセットします。(38ページ参照)

❸ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》位置に入れます。

脱こく・刈取クラッチレバーの《**入**》操作に連動してアクセルレバーが作業適正回転範囲のエンジン回転となる位置まで動きます。

ブザーが3回鳴ると同時に脱こく部が回転します。

更に主変速レバーを前進側に倒すと，刈取部が回転します。

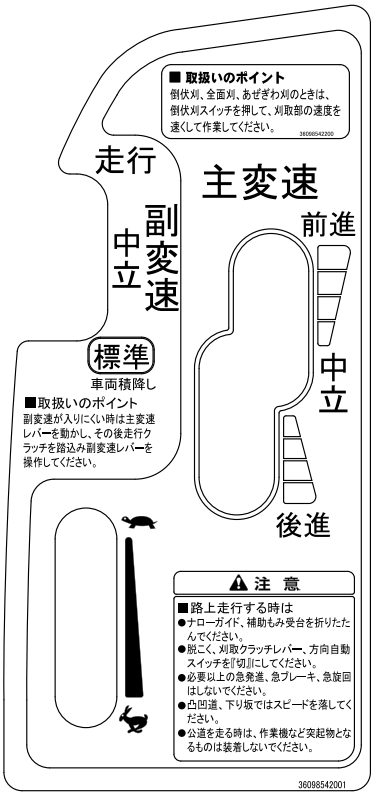


取扱いのポイント

- 刈取作業中は，「作業適正回転範囲」の範囲内に常時指針があるように，主変速レバーとアクセルレバーで作業速度を調整してください。
- 規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部に籾が詰まったりすることがあります。
  また，回転が高すぎると，籾が損傷したり飛散が多くなることがあります。

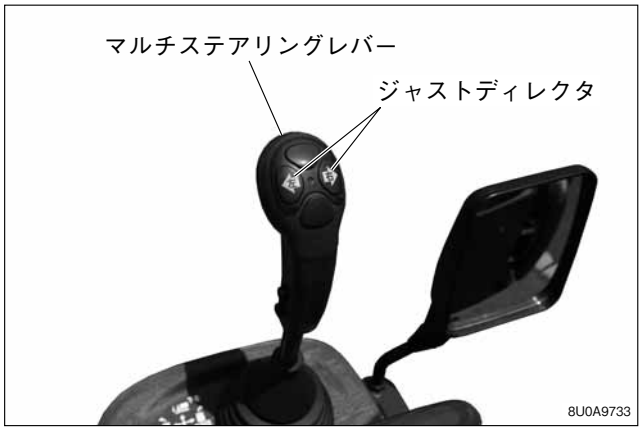
❹ 作業速度の選びかた

作業の状態など，作業内容に合わせて，主変速・副変速レバーの速度を選び，最適の状態で作業してください。

No.	使用条件 （作物の状態）	変速レバー位置		
		副変速	主変速	各レバー略図
①	1. 直立 2. 中倒伏の場合	標準	《**中立**》位置から発進してください。 稈の搬送状態，およびエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。	 36098542001a
②	1. 倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合，または整然と搬送されない場合	標準	《**中立**》位置から発進してください。 低～中速で作業を行ってください。	
③	1. 全倒伏の場合 2. 周囲刈りで，低速作業をする場合 3. 稈のボリュームが多く，脱こく部が頻繁にゴトゴト音を発する場合	標準		
④	1. 3条刈を使用する場合（[**319型**]は4条刈を使用する場合）	標準	《**中立**》位置から発進してください。	
⑤	1. 路上走行 2. 長距離の走行	走行	《**中立**》位置から発進してください。 エンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。	
⑥	1. 積込み，積降ろし 2. あぜ越え	標準	《**中立**》位置から発進して，低速で作業を行ってください。 エンジン回転は，2000回転程度で行ってください。	
⑦	1. 集中注油	中立	《**中立**》から《**前進**》の任意。	

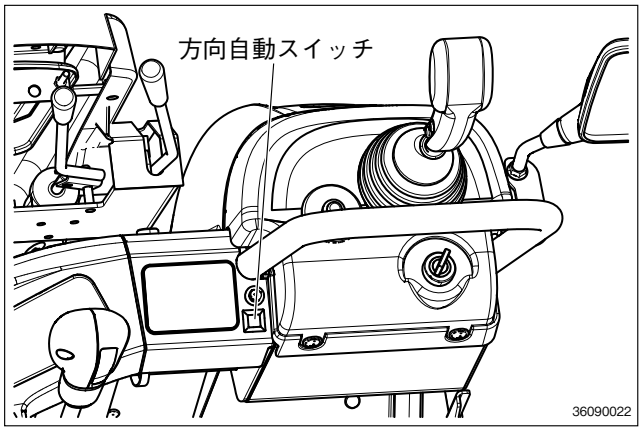
❺ 方向修正

刈取り作業中の方向修正はマルチステアリングレバーまたはジャストディレクタでこきざみに操作します。



取扱いのポイント

- **方向自動制御（ディーラオプション）を使用する場合は，「方向自動制御」(60〜61ページ）の項を参照します。**



- **ジャストディレクタで方向修正を行うとスムースに行えます。**



❻ こぎ深さ調整

作物が脱こく入口に搬送され始めたら穂先が「**穂先マーク**」の位置になるようこぎ深さ手動スイッチで調整します。



取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動制御は，「こぎ深さ自動制御」(58〜59ページ）の項を参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。**

❼ 作業中は，回転計の指針が，「**作業適正回転範囲内**」に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

刈取作業中，エンジン回転が下がると，エンジン回転負荷モニタ（ランプ）の点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ，エンジンの負荷を軽くして作業を行います。

取扱いのポイント

- **負荷モニタの警報ブザーはホーン・警報切ボタンを押しても鳴りやみません。**
  走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くするとブザーは鳴りやみます。

2．刈取部スライドの使い方［217型］

この装置は刈取部を左右に18㎝スライド（横移動）でき，刈取部を右側に移動することにより「**中割り刈り**」や「**あぜぎわ（左回り）刈り**」ができます。

⚠警告 傷害事故防止のために

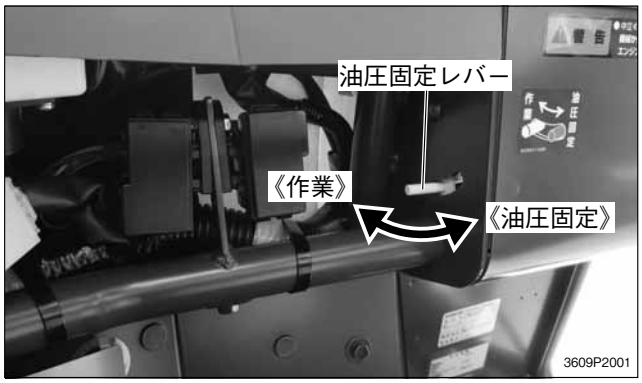
◆刈取部をスライドさせるときは，平たんな場所で行なってください。

◆刈取部をスライドさせたときは刈取スライド固定レバーで確実に《固定》してください。

「**刈取部スライド（横移動）のしかた**」

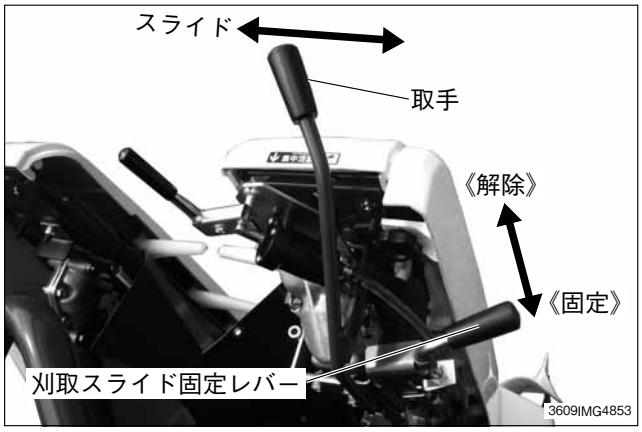
❶ 駐車ブレーキをかけます。

❷ エンジンを始動し，刈取部をデバイダの先端で10～15㎝程度上げて，油圧固定レバーを《**油圧固定**》にし，エンジンを停止します。



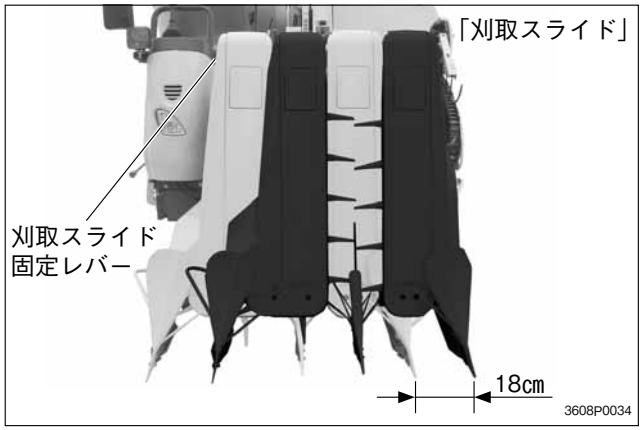
❸ 刈取スライド固定レバーを持ち上げると，刈取スライド固定レバーが《**解除**》方向に動き，刈取スライドの《**固定**》が外れます。

《**解除**》の状態で取手を握り刈取部を左端または右端に手動でスライドさせます。



❹ 刈取部が右端または左端に移動したら刈取スライド固定レバーを離します。

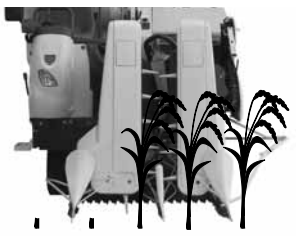
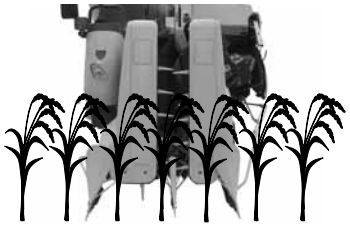
❺ 刈取スライド固定レバーが《**固定**》方向に動き，刈取スライドは自動的に固定されます。



取扱いのポイント

- **刈取スライドを作動させる前にこぎ深さ手動スイッチの《浅こぎ》側を押してこぎ深さを最も浅い位置にすると容易に動かすことができます。**
- **刈取スライド固定レバーが《解除》しにくいときは，取手を左側へ押して刈取スライド固定レバーを操作してください。**
- **刈取部が端に移動し，刈取スライド固定レバーが《固定》位置まで下がったことを確認してください。**

「**作業のしかた**」

スライド位置	適用作業
左スライド（通常） 36080004a	・通常の左回り刈り ・麦うね ・点検整備時
右スライド 36080005	・中割り刈り ・あぜぎわ（左回り）刈り ・路上走行 ・トラック運搬

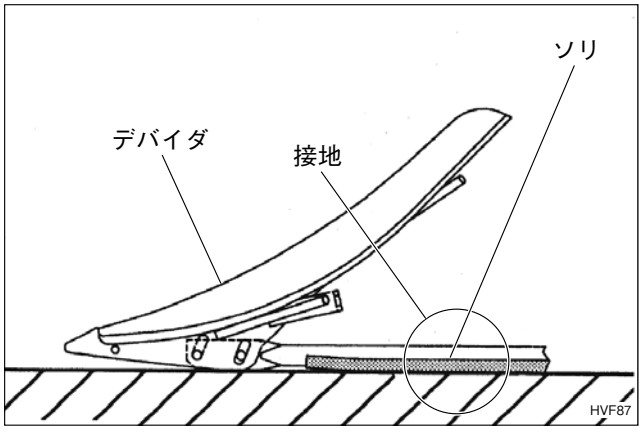
3. 刈高さの合わせかた（刈取ジャストフロート）

乾田のほ場では，ソリを地面に接地させて稲の刈取りを行うと，切株高さが均一になります。

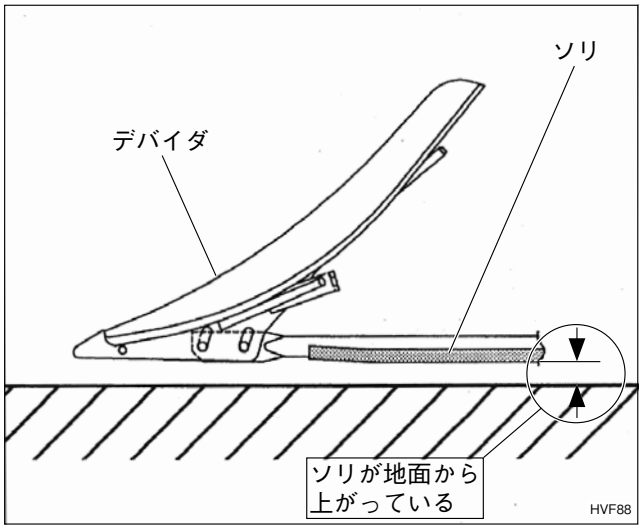
取扱いのポイント

- **ほ場面が軟らかく，ソリが沈み込むほ場では，デバイダ・ソリを地面から上げて作業をしてください。**
- **ソリが接地している状態のとき，マルチステアリングレバーで下降操作を行なわないでください。**

[ソリを地面に接地した刈りかた]



[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]



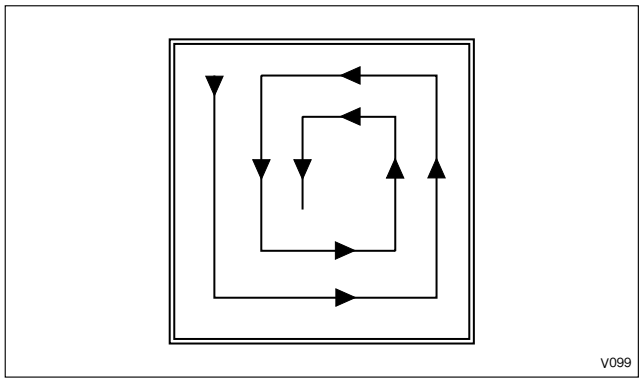
4. ほ場の刈取手順

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは,「**左回り刈り**」が基本です。

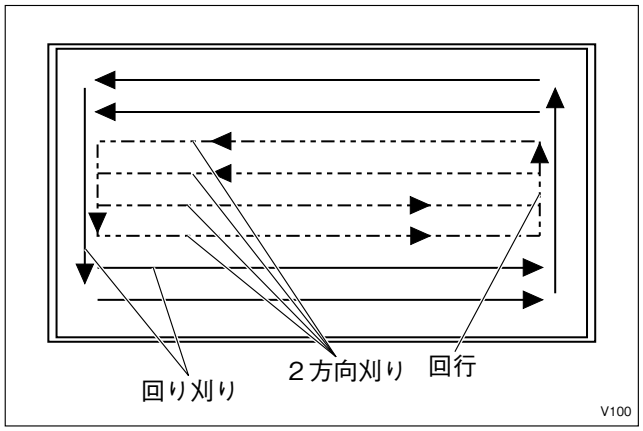
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴ 正方形に近いほ場



⑵ 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

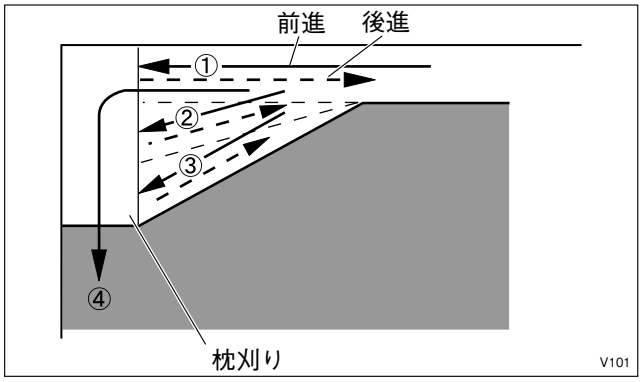


⑶ あぜぎわ刈り

あぜの草などにより，デバイダが見づらい場合がありますので，デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。



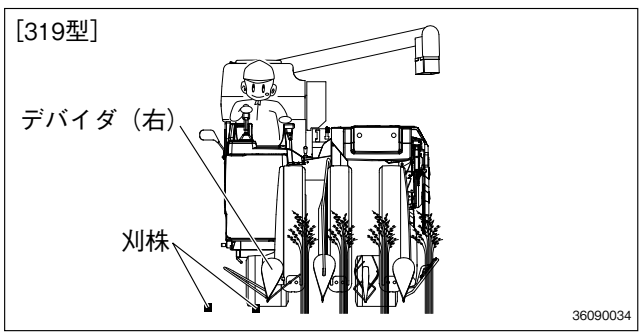
取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**
- **刈り終わりから前進する余裕がないときは，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**

⑸ 条合わせ刈り

・デバイダ（右）を基準に「**左回り**」で刈残しのないように刈取りします。



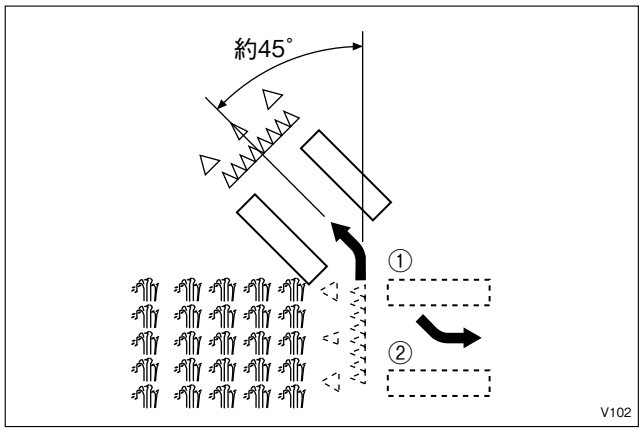


⑹ 旋回のしかた（左回り刈り）

・刈り終わったら，刈取部を40㎝程度上げます。（デバイダでワラを引っ掛けない高さ）

1．脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にしないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回し，（湿田では大きく回ります。）左に「**約45°**」向きを変えて停止します。

2．後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械がまっすぐになるように「**条合わせ**」をします。



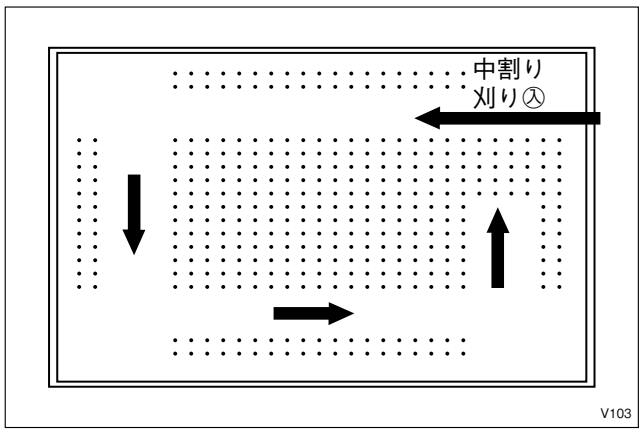
取扱いのポイント

- **旋回のときには，エンジン回転を下げたり，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

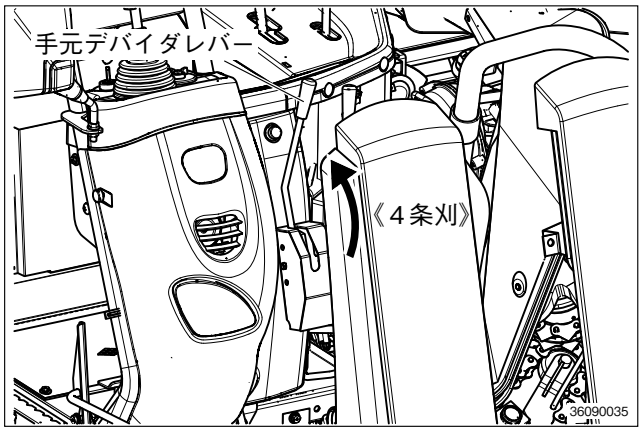
❷ 3条型の中割り刈り

・あぜぎわ刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。

・中割り刈りは，「**低速**」で行います。



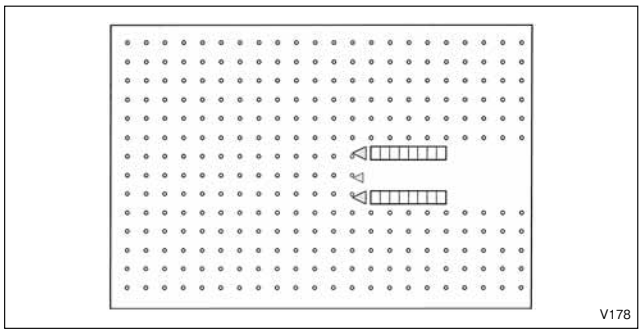
⑴ 手元デバイダレバーを《**４条刈**》にセットします。



⑵ デバイダ（右）を，刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

❸ ２条型の中割り刈り

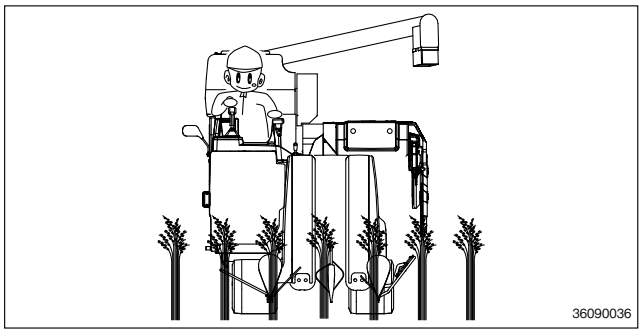
・広いほ場を能率良く刈取り作業を行う場合は「**中割り刈り**」をして分けて刈取ります。



⑴ 刈取部を「**右スライド**」させて固定します。

・補助籾受台を折たたみます。[**ホッパ仕様**]

⑵ デバイダ（右）を刈取る株元の右側に合わせて刈取ります。



取扱いのポイント

- **倒伏した作物の，中割り刈りはさけてください。**
- **カッタ下部カバーを中割り位置にしてください。**
(57ページ参照)

❹ ３条型のあぜぎわ刈り

⑴ 回りのあぜが高く，あぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ３条を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。

⑵ 残した３条を最後に「**右回り**」で刈取ります。

⑶ あぜぎわを「**右回り刈り**」するときは，「**ナローガイド（左）**」を収納し，「**デバイダ（左）**」をあぜに突込まないようにします。

❺ ２条型のあぜぎわ刈り

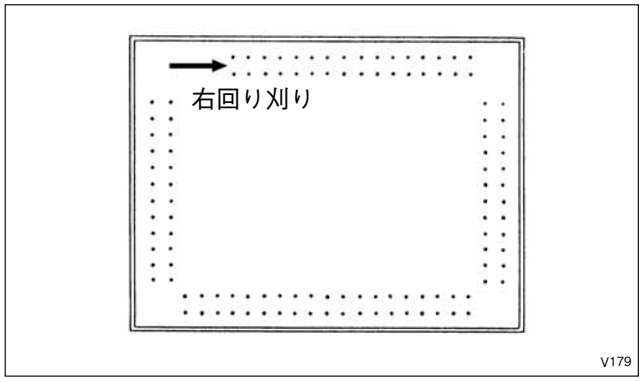
まわりのあぜが高く左回り刈りできないとき，右回りであぜぎわを刈取ります。

⑴ 刈取部を「**右スライド**」させ，あぜぎわの２条を残して「**中割刈り**」します。

⑵ 中央部は刈取部を「**左スライド**」し「**左回り**」刈りします。

⑶ 残した２条を最後に「**右回り**」で刈取ります。

⑷ あぜぎわを「**右回り刈り**」するときは刈取部を「**左スライド**」させ，「**ナローガイド左**」を収納し「**デバイダ左**」をあぜに突っ込まないようにします。

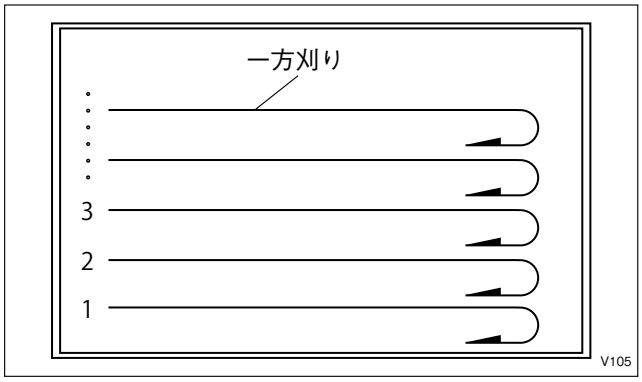


取扱いのポイント

- **あぜがコンクリートの場合はあぜでクローラを傷めることがありますので，左回り刈りで外側２条を残して刈取り，最後に右回りで外側２条を刈取ります。**
- **あぜぎわ刈りのときは補助籾受台を折りたたんでください。[ホッパ仕様]**

❻ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**一方刈り**」を行います。



⑴ 刈取り方向

・倒伏した作物の刈取りは下および右の図表を参考にして行います。

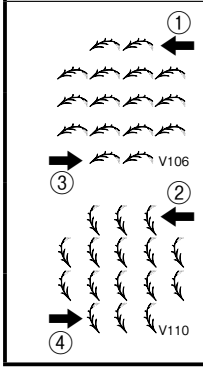
1．中倒伏の場合は副変速《**標準**》で，倒伏している場所でのみ倒伏刈スイッチを《**ON**》にして刈取作業を行ってください。

2．倒伏の場合は副変速《**標準**》で，倒伏刈スイッチは《**ON**》で刈取作業を行ってください。

※中倒伏および倒伏とも，主変速レバーは，低速～中速で使用してください。搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。

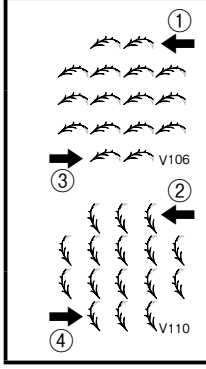
3．②右倒伏刈りが困難なときは，「**④左倒伏刈りまたは・③追い刈り**」となるように「**一方刈り**」をします。

「方向自動制御を使用しないとき」

刈取り方向 ＼ 倒伏程度		倒伏 V107	中倒伏 V108	立毛状態 V109
	① 向い刈り	×	△	○
	② 右倒伏刈り	×	○	○
	③ 追い刈り	△	○	○
	④ 左倒伏刈り	△	○	○

○刈取り可能　△走行速度を落として刈取り可能
×刈取り不可能

「方向自動制御で刈取りするとき」

刈取り方向 ＼ 倒伏程度		倒伏 V107	中倒伏 V108	立毛状態 V109
	① 向い刈り	×	×	○
	② 右倒伏刈り	×	○	○
	③ 追い刈り	×	○	○
	④ 左倒伏刈り	×	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

⑵ 補助デバイダ（別売り）

補助デバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき,（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき）倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- **倒伏した作物を刈取るときは，引起しタインが最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。**
- **デバイダ先端が土に突込まないようにしてください。**
  土に突っ込むと株の引抜きが発生し，詰まりの原因となります。
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。**
  脱こく部の詰まりなどの不具合につながることがあります。
- **倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。**

❼ **刈取り途中での停止**

⑴ 籾袋の交換など刈取り途中で機械を停止する場合は，主変速レバーを《**中立**》位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

⑵ 刈取り作業を再スタートするときは回転を整えてから刈取り作業します。

⑶ **強制かき込みスイッチ**



走行停止状態または後進時に刈取搬送を作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押しているあいだ作動します。

取扱いのポイント

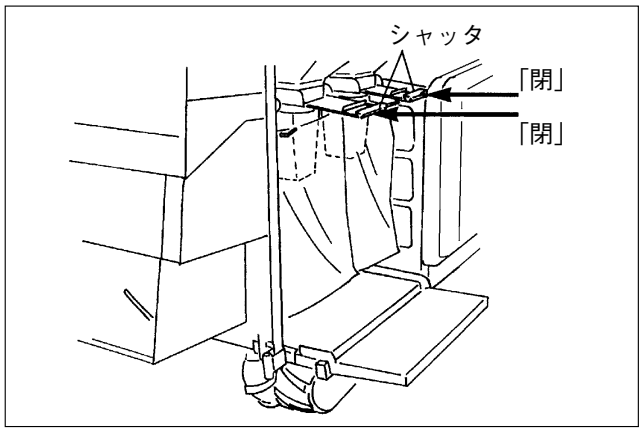
●**倒伏刈，全面刈，あぜぎわ刈のときは，倒伏刈スイッチを押して，刈取部の速度を速くして作業してください。**

5．籾袋の交換のしかた［ホッパ仕様］

❶ ２つの籾袋とホッパが満杯になると，籾ランプが点灯し，警報ブザーが「**断続音**」で知らせます。

⑴ 直ちに作業を中止し（停車し，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にする），ホーン・警報切ボタンを「**押**」します。

⑵ シャッタを「**閉**」じて籾袋を交換し，ホッパ内の籾を全て籾袋に排出します。



取扱いのポイント

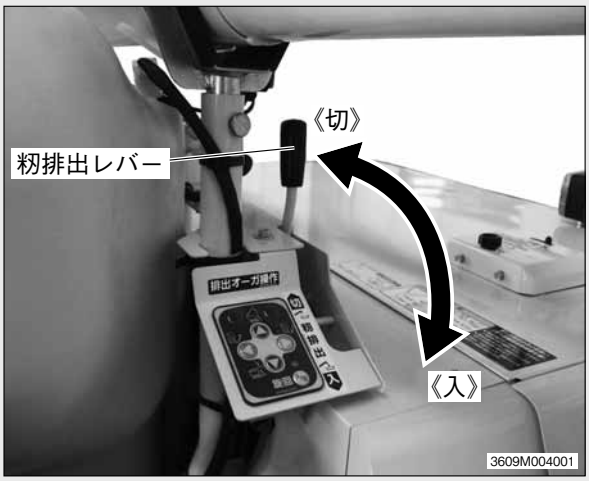
●**警報ブザーが鳴った後もそのまま作業を続けますと，エンジンが停止します。**
籾を籾袋に排出し，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでエンジンの始動を行なってください。

6．籾の排出操作方法

［グレンタンク仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときはグレンタンク内の籾を排出してください。
◆傾斜地での籾の排出作業はしないでください。
◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲を確認して行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆籾の排出作業をするときは，駐車ブレーキレバーを《入》にして行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まった籾を取除く場合は，籾排出レバーを《切》位置にしエンジンを停止してください。



◆籾排出後の移動は，排出オーガを収納してから行なってください。
◆グレンタンク内に籾がある場合は傾斜地での移動はしないでください。

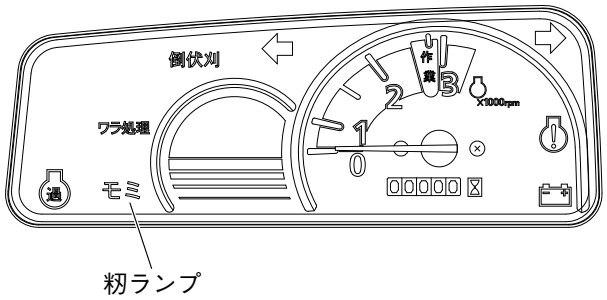
⚠注意 傷害事故防止のために

◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

❶ グレンタンクの籾警報

⑴ グレンタンクに籾が充満すると，籾ランプが点灯し警報ブザーの「**断続音**」で警報します。

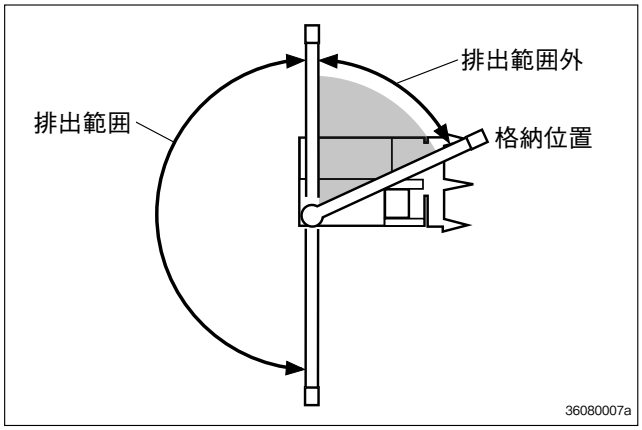
⑵ 警報ブザーが鳴ったら直ちに刈取り作業を中止し，籾の排出を行います。
警報ブザーはホーン・警報切ボタンを押すと止まります。



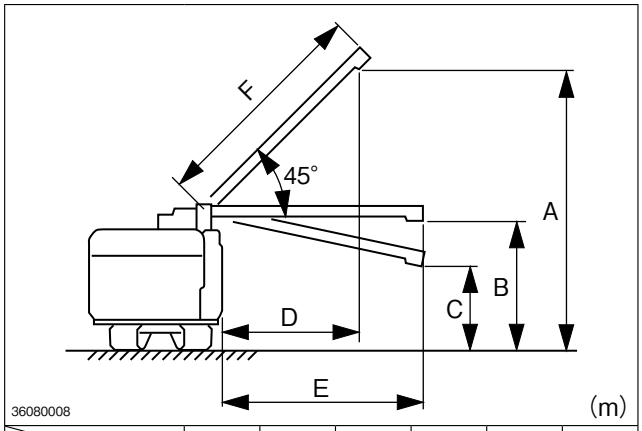
取扱いのポイント

●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けるとエンジンが停止します。脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしないとエンジンを再始動する事ができません。

❷ 籾排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《**中立**》位置にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。



「排出オーガ高さと距離」



型 ＼ 寸法	A	B	C	D	E	F
217・319型	3.80	1.52	0.73	2.08	3.02	3.30

❸ **籾排出操作手順**

⑴ **排出オーガを伸ばします。**

オーガを伸ばし固定金具で固定します。



⑵ **オーガの先端部を排出位置にセットします。**

位置をセットする場合は，「**手動**」と「**自動**」の２通りの操作ができます。

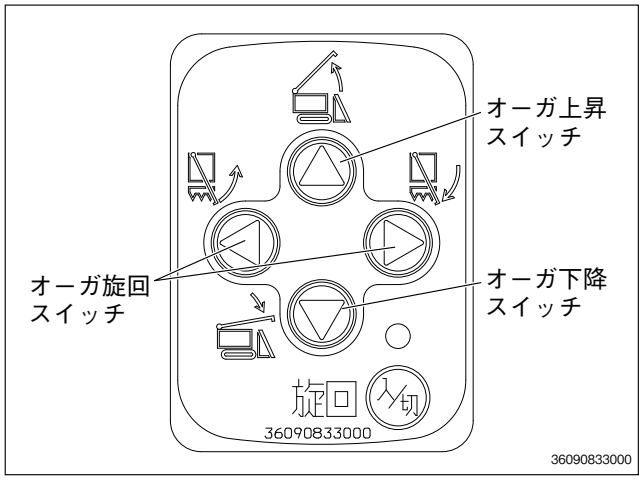
・**手動操作のとき**

「**上げ**」→**オーガ旋回スイッチ**「**左右**」→「**下げ**」を押して位置を合わせます。

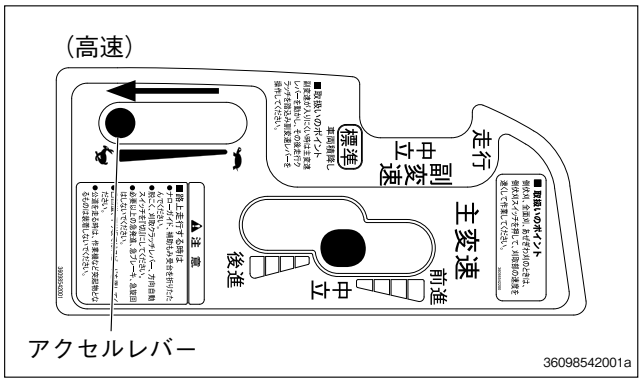
・**自動操作のとき**

オーガ旋回自動スイッチ「**入／切**」を押すと，自動旋回が開始し，真後ろで停止します。

手動で高さを合わせます。(62ページ参照)



(3) アクセルレバーを《 》(高速) 位置にします。

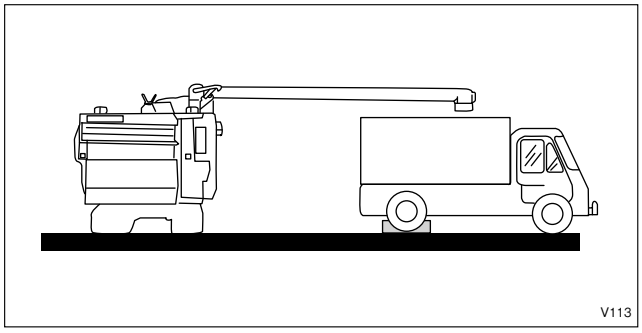


(4) 籾排出レバーを《入》にします。

……籾排出開始

(5) 籾排出レバーを《切》にします。

……籾排出終了



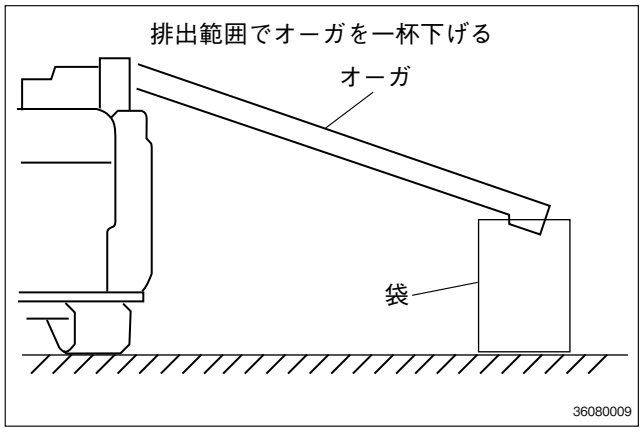
(6) エンジン回転を下げます。

(7) オーガ排出位置セットと逆の手順で収納します。

取扱いのポイント

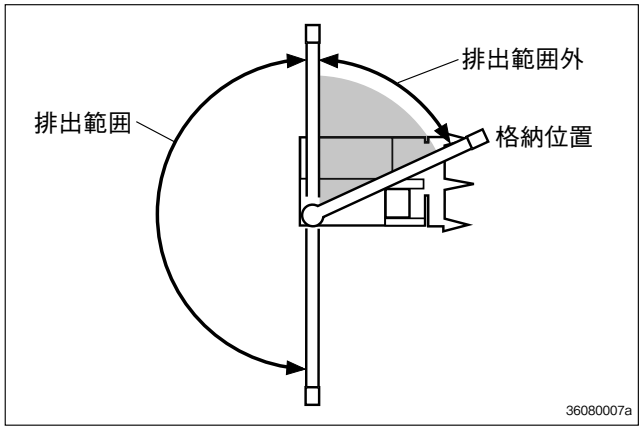
- 籾の排出は，オーガの排出口を籾で塞がないようにして，排出位置を変えながら行なってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行なってください。
- 機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）しますので，旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- オーガ旋回はオーガを一杯上げてから行なってください。

❹ 袋取り作業



取扱いのポイント

- 排出範囲外でオーガを水平より下げるとオーガが本体に接触し，破損の原因となります。



7．グレンタンク補助樋口の取扱い

故障などによりグレンタンク内の籾が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すとその内側にあります。

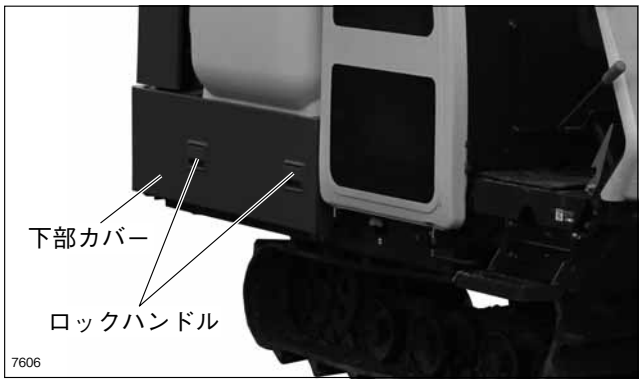
⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口から籾を取出すときはエンジンを停止してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

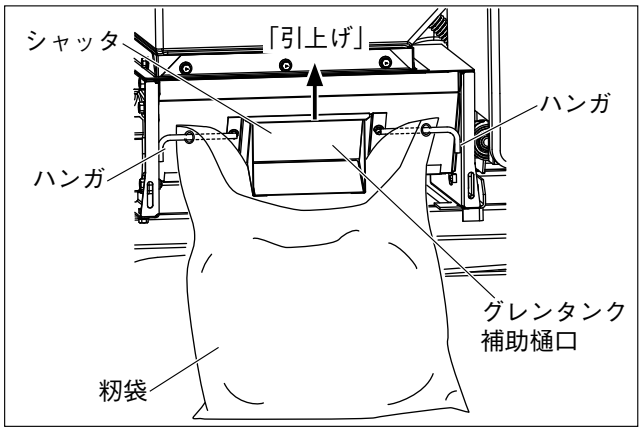
◆カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので，籾の排出後取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバーロックハンドルのロックを解除して，カバーを外します。



❷ ハンガに籾袋をかけます。

❸ シャッタを引上げタンク内の籾を籾袋に取出します。



❹ 籾の取出しが終了したら，シャッタを締め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

8．リフトシャットの取扱い

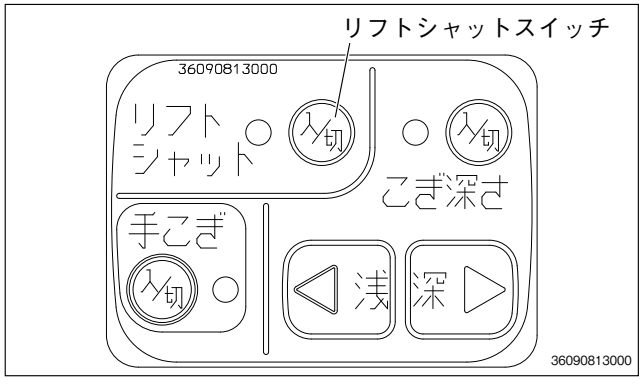
⚠警告 傷害事故防止のために

◆リフトシャットスイッチを《入》にして脱こく・刈取クラッチが入っていると，刈取部を下げたときは，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。
刈取部，脱こく部に近づかないでください。

◆リフトシャットが作動し，刈取部，脱こくフィードチェンが停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。
強制かき込みスイッチを押すときは，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは，リフトシャットスイッチを《**入**》にして刈取部を上げると，脱こく・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると刈取搬送と脱こくフィードチェンが回り始めます。

・リフトシャットスイッチを《**切**》にすると，リフトシャットは機能せず，刈取部の上下位置に関係なく，刈取部・脱こく搬送部は回転します。



次の場合は，リフトシャット《**切**》位置で使用します。

・手刈りのしていないほ場の回り刈り作業
・あぜ越え直後からの刈取り作業
・あぜぎわなどを高刈りする場合
・湿田などで刈取部を上げた状態で作業する場合

9. トルクリミッタの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生したときに詰まったワラクズなどを取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

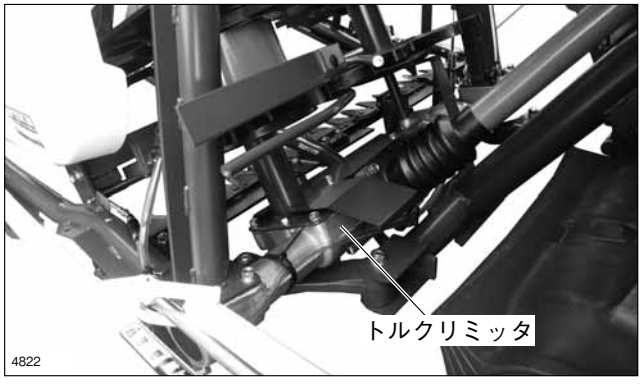
◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にしてください。さらに刈取部の下に「固定脚」などをかませて作業してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に取外したカバーをすべて取付け，機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取作業中に異常（詰まりなど）が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐため，刈取部に**「トルクリミッタ」**が設けてあります。

❶ ［217型］



① **トルクリミッタの作動**

設置箇所	トルクリミッタの作動
スターホイル(左) 下部 (スターホイルギヤケース内)	・株元搬送で搬送詰まりおよび異常負荷が発生したとき

② **トルクリミッタの処置**

⑴ 作業中，刈取部および脱こく部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まりなど）が発生したときは，**「トルクリミッタ」**が作動して搬送が停止します。

⑵ ただちに作業を中止し，脱こく・刈取クラッチレバーを**《切》**位置にし，エンジンを停止します。

⑶ エンジンを始動し，刈取部を上げ油圧固定レバーを**《油圧固定》**位置にしてください。さらに刈取部の下に**「固定脚」**をかませ，詰まり箇所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

⑷ エンジンを始動します。脱こく・刈取クラッチレバーを**《入》**にし，アクセルレバー（低速）で搬送部が正常に回転することを確認してから作業を開始します。

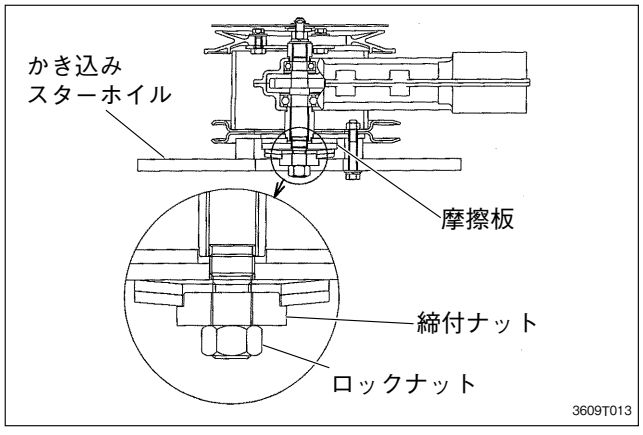
❷ ［319型］

かき込みスターホイルがすべるときには，締付ナットで調整してください。

⑴ かき込みスターホイルのロックナットを取外します。

⑵ 締付ナットを締付トルク69～78N・m {700～800kgf・cm} で締付けます。

⑶ ロックナットを締付けます。



●締付ナットを調整しても，かき込みスターホイルがすべる場合には，摩擦板を交換してください。交換は，「お買いあげ先」に相談してください。

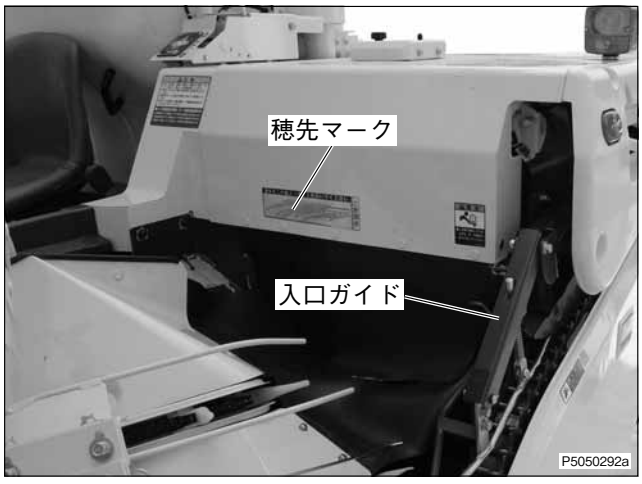
10. 手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は機械を停止し駐車ブレーキをかけて行なってください。
●機械を走行させながらの手こぎ作業はしないでください。
●機械をワラクズの近くに止めないでください。（火災防止）
◆脱こく・刈取クラッチレバーは周囲の人に合図してから《入》にしてください。
◆手こぎ作業をするときは手袋を使用しないでください。
◆手こぎ作業は，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。
◆手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，巻きタオル，腰タオルは着用しないでください。
◆カッタの切ワラがたまったら作業を中断し機械を移動するか，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止して切ワラを取除いてください。

❶ 主変速レバーを《**中立**》にし，走行を停止し，駐車レバーをかけます。

❷ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」ます。



❸ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》位置にし，手こぎスイッチを押して《**入**》(ランプ点灯）にし，エンジン回転を「**作業適正回転範囲**」の**上限**にセットします。

❹ 入口ガイドを上げます。

❺ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

❻ 手こぎ作業が終わったら，入口ガイドを下げ，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にし，こぎ深さ搬送体を手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

●**バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。**
●**手こぎスイッチを《入》にすると，こぎ深さ搬送体が自動で《深こぎ》側いっぱいに下がります。**
●**手こぎスイッチを《切》にすると，こぎ深さ搬送体が自動で《浅こぎ》側，ほぼ中間位置まで上がります。**
●**大束や大ボリュームの作物を供給しないでください。故障の原因となります。**

11．緊急エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，警報ブザーが鳴り，エンジンが停止します。手こぎ作業中などに万一トラブルが発生したときはこの緊急エンジン停止スイッチを押してエンジンを停止します。



取扱いのポイント

- **緊急エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，キースイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリあがりの原因になります。**
- **緊急エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。**

12．エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

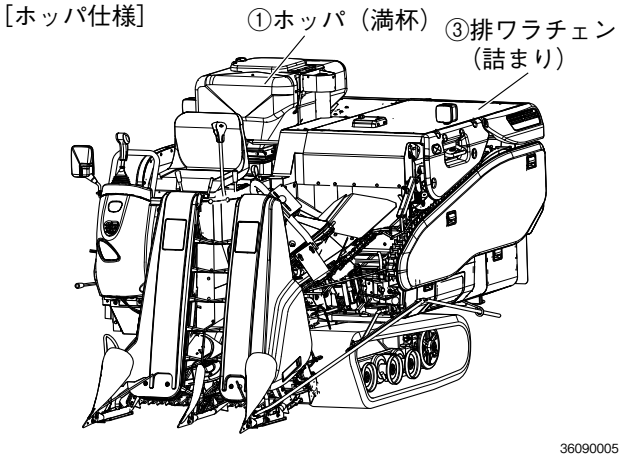
◆詰まりなどの異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，キースイッチを《切》位置にして脱こく･刈取クラッチレバーを《切》位置にしてから，平坦な場所で詰まりを取除いてください。

◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業はカッタをオープンしてストッパをかけてから行なってください。(98～99ページ参照)

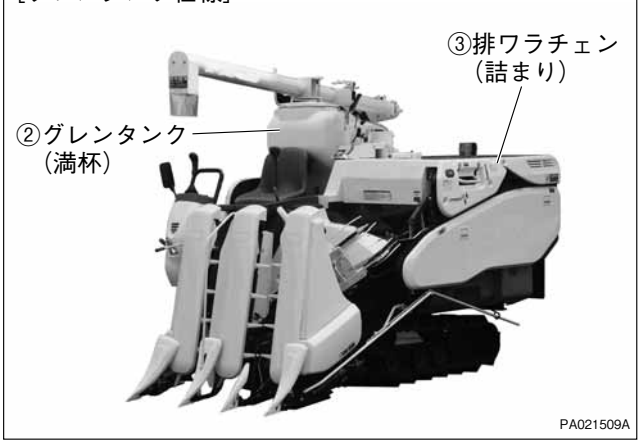
◆詰まりを取除いた後の回転確認は全てのカバーを取付けて，こぎ胴部を閉め機械の周囲に人がいないことを確認した後，低速回転で行なってください。

刈取作業中に異常（詰まりなど）が発生したとき，機械の破損や変形を未然に防ぐためつぎの箇所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理ランプまたは籾ランプが点灯してエンジンが自動停止します。

① **ホッパ（満杯）**
② **グレンタンク（満杯）**
③ **排ワラチェン（詰まり）**



［グレンタンク仕様］



❶　エンジンが停止したら，キースイッチを《**切**》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にしてから詰まりを取除きます。

❷　詰まりを取除いたあとはこぎ胴部を閉じ，主変速レバーを《**中立・始動**》(**前進側**）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏み込んでエンジンを始動します。アクセルレバーを《🐢》(**低速**)にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》位置にして，主変速レバーを《**前進**》に操作し正常に回ることを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- **こぎ胴部を閉じるときは，脱こくフィードチェン，排ワラチェン部のワラを取除いてから閉じてください。**

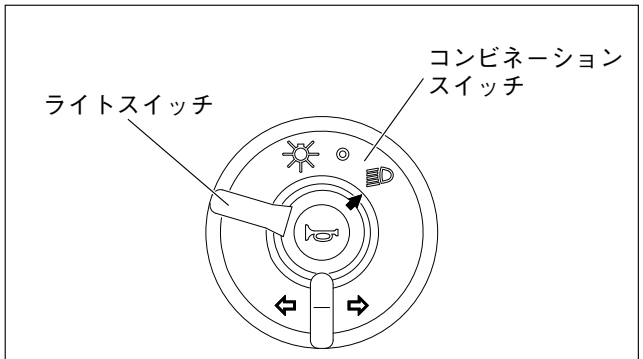
13. 夜間作業

⚠警告　傷害事故防止のために

◆夜間作業を行うときは前照灯を点灯してください。

コンビネーションスイッチのライトスイッチの操作で，前照灯を点灯または消灯します。

❶　ライトスイッチを回すと前照灯が点灯します。

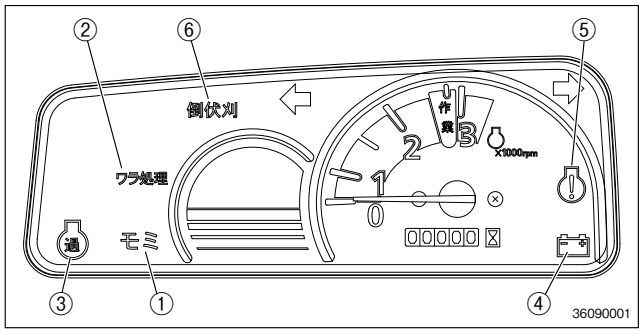




14. 警報装置について

つぎの箇所に異常が発生した場合は，インジケータランプの点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常箇所を確認して，つぎの処置を行います。

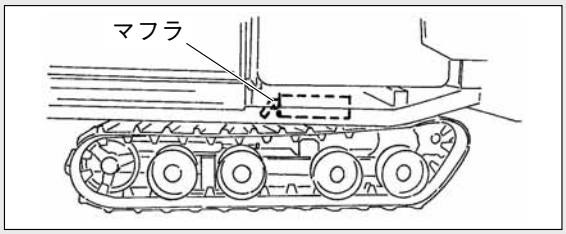


No.	名称	現象	警告の方法 インジケータランプ	警告の方法 ブザー	警告の方法 エンジン	解除方法	点検と処置	参照ページ
①	モミ	満杯	点灯	断続音の断続	－	警報切ボタン「**押す**」または脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》	籾が満杯になっていますので，籾を排出します。	9，10 46
				断続音の連続	ランプ点灯後40秒で停止			
②	ワラ処理	排ワラ詰まり	点灯	連続	停止	脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》	排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	9，10 52，53
③	負荷	エンジン回転が下がる	点滅	断続	－	走行速度を下げる	・走行速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。	9
④	充電	充電不足	点灯	－	－	キースイッチ《**切**》	・キースイッチ《**入**》で点灯し，エンジンを始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルトなどを点検します。	9 114
⑤	エンジン	オーバーヒート	点灯	連続「低速運転」中は断続	－	水温が下がるまでエンジンを「**低速運転**」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。 ・エンジンを停止し，エンジンカバー金網，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	9 69，70 75 114
		エンジンオイル量不足	点灯	－	－	キースイッチ《**切**》	・キースイッチ《**入**》で点灯し，エンジン始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	68，69
⑥	倒伏刈	刈取部または脱こくフィードチェン部の詰まり	点滅	断続	停止	脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》	・刈取部または脱こくフィードチェン部にワラが詰まっていますので取除きます。 ・ＨＳＴ駆動モータ，ＨＳＴ回転センサの配線接続部の外れがないか点検してください。	12 52，53

15．刈取作業終了後の取扱い

⚠警告　火災防止のために

◆機械をワラクズのたまった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。
◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。
◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズなどを掃除してください。



❶　平坦な場所で主変速レバーを《**中立**》の位置にします。

❷　脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》の位置にします。

❸　駐車ブレーキをかけます。

❹　アクセルレバーを《🐢》(**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**作業**》に入れて停止します。

❺　**作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

取扱いのポイント

●脱こく・刈取クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで空運転してから《切》にします。

●水洗いするときは，エンジンまわり，電気配線部，運転パネル部その他電装品および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。

3．ワラ処理部の取扱い

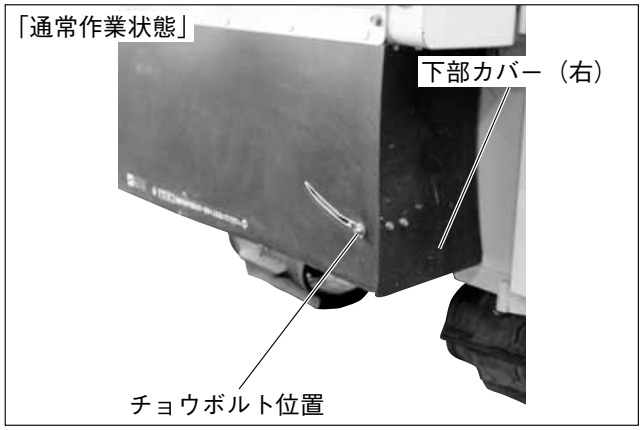
⚠警告　傷害事故防止のために

◆回転部にワラなどの巻付きが発生し，または異物が混入したときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタをオープンして，ワラなどを取除いてください。
◆巻付きなどを取除くときは，カマなどを使用し，手ではカッタ刃にふれないでください。
◆排ワラ・カッタの切換えはエンジンを停止して行なってください。

1．カッタ作業

・下部カバー（右）を「**通常作業状態**」にセットします。

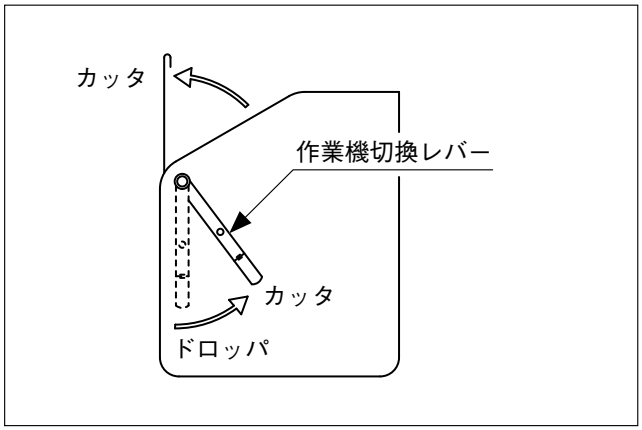
※工場出荷時は下部カバーが「**通常作業状態**」にセットしてあります。



・チョウボルトをゆるめて，カバーを開き（閉じ）チョウボルトを締めます。

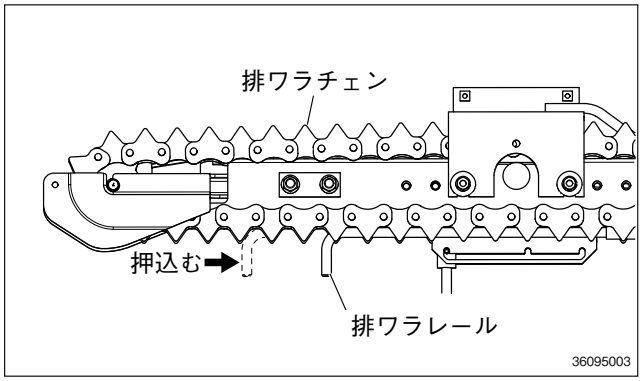
レバーを切換えると切換板がカッタ，ドロッパに切換わります。切換板と排ワラレールは同時に切換わりません

❶ 作業機切換レバーを《**カッタ**》位置にします。



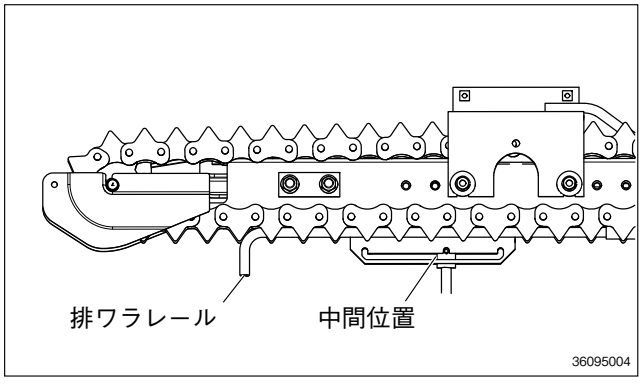
❷ こぎ胴部を開いて，ストッパで固定します。

❸ 排ワラレールを一杯押し込みます。



取扱いのポイント

●小量稈刈取りのときや，浅こぎで作業する場合は，排ワラレールを中間位置に調整します。

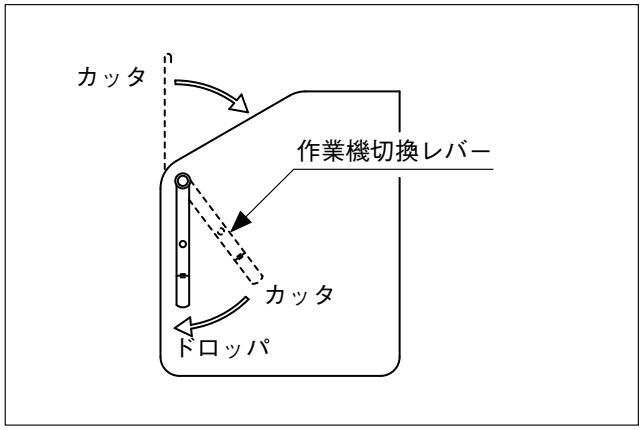


●大量稈刈取りのときや，深こぎで作業する場合は，排ワラレールを中間位置にすると，カッタ詰りが発生することがあります。

2．排ワラ作業

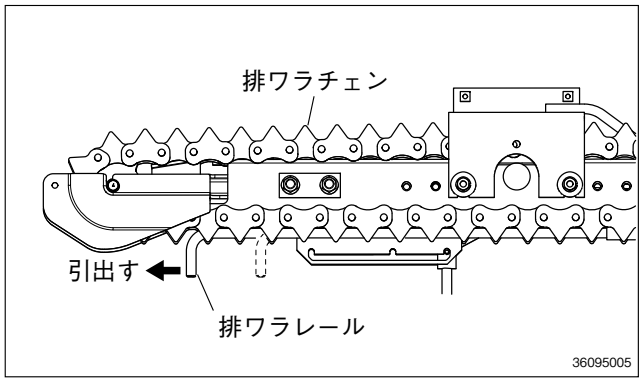
排ワラ作業には，①脱こくされたワラをそのまま排出する作業，②集稈（ドロッパ）作業，③結束（ノッタ）作業があります。

❶ 作業機切換レバーを《**ドロッパ**》位置にします。



❷ こぎ胴部を開いて，ストッパで固定します。

❸ 排ワラレール終端を当たりのあるところまで引き出します。

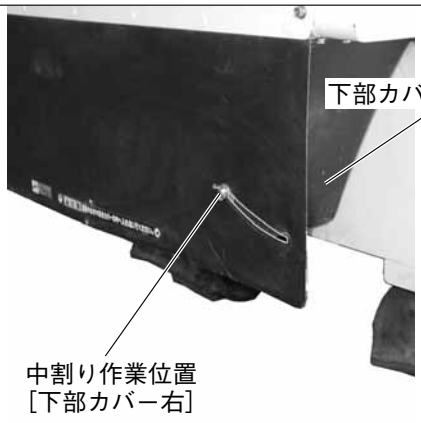


取扱いのポイント

●排ワラレールを操作するときには，作業機切換レバーを《ドロッパ》位置にしておいてください。

3. 中割り作業

下部カバー（右）を中割り作業位置にして行ってください。

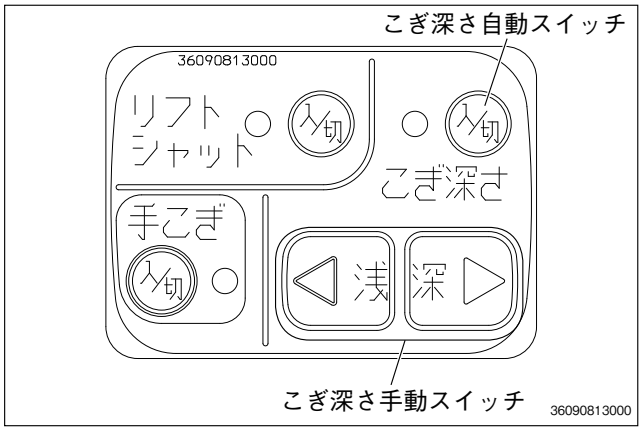


自動装置について

1．こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に手動スイッチで手動操作すると手動が優先となります。

1．運転装置



こぎ深さ調整は，**「自動制御」**と**「手動」**の二通りの操作が可能です。

・自動制御中は手動スイッチによる調整の必要はありません。

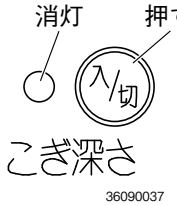
ただし，倒伏角45°以上の倒伏材および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除（**「切」**）してこぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

❶　こぎ深さ自動スイッチ



・**「入」**……

こぎ深さ自動スイッチを**「入」**にするとランプが点灯し，こぎ深さ自動スイッチが**「入」**の状態であることを表示します。

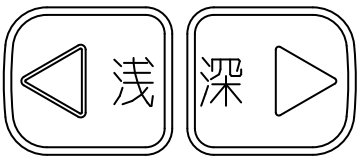


・**「切」**……

「入」の状態から再び押すとランプが消え，こぎ深さ自動制御は作動しません。

❷　こぎ深さ手動スイッチ

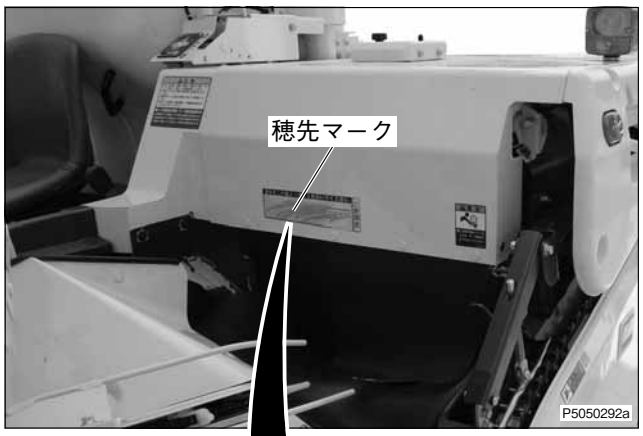
脱こく入口の**「穂先マーク」**位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。



36090038

《深こぎ》……**《深こぎ》**側を押すと作物の穂先が深い位置に移動します。

《浅こぎ》……**《浅こぎ》**側を押すと作物の穂先が浅い位置に移動します。





36085001

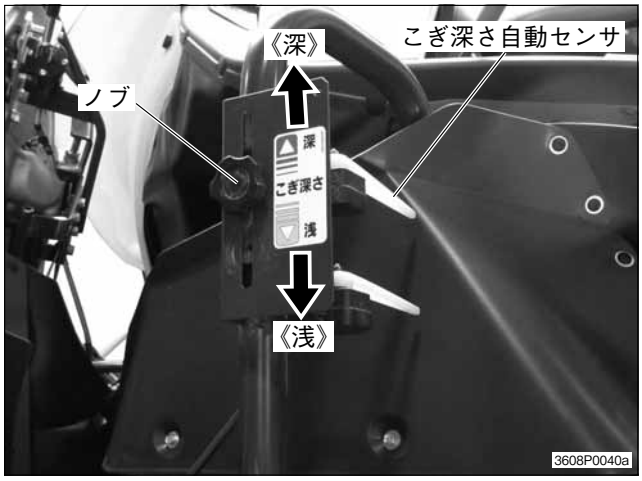
2. こぎ深さ自動センサの調整

こぎ深さ自動センサは工場からの出荷のときは「**標準**」(合わせマークの中央）の位置に調整してあります。

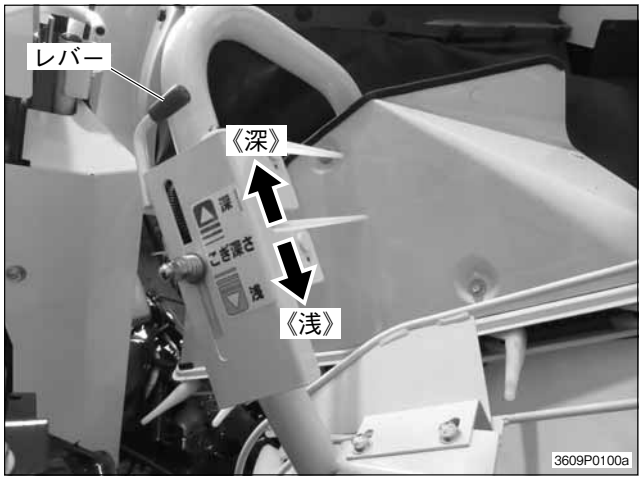
・つぎのようなときは，セット位置を調整します。

こぎ深さ自動を「**深く**」したいときは，矢印の《**深こぎ**》方向へ移動します。こぎ深さ自動を「**浅く**」したいときは《**浅こぎ**》方向へ移動します。

・[**217型**] はノブをゆるめセット位置を調整後ノブを確実に締めます。



・[**319型**] はレバーを動かしてセット位置を調整します。



・[**217型**] の場合

短稈刈取時に，作物の穂先が「**穂先マーク**」位置にこないときは，ピンを「**短稈セット**」位置に差替えて使用してください。



3. こぎ深さ自動制御が使えない条件

・つぎの状態ではこぎ深さ自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

○**倒伏角 45° 以上の倒伏作物**

○**腐れ状態の作物**

○**雑草が多いとき**

○**作物の長さが極端に変動するとき**

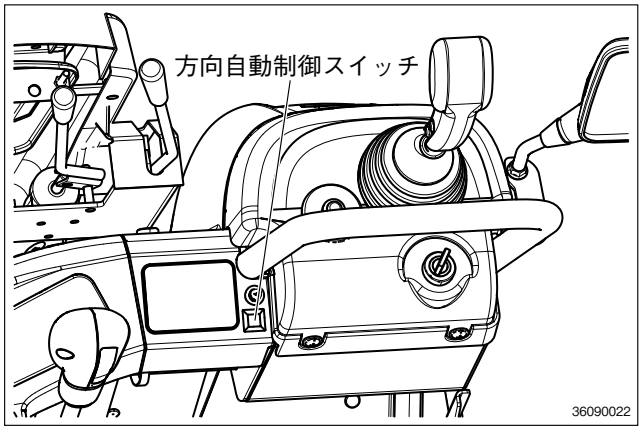
2. 方向自動制御 [ディーラオプション]

方向自動制御は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動走行します。またマルチステアリングレバーを操作すると方向自動制御は「**解除**」され，手動操作優先となります。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動制御スイッチを「切」にしてください。

1. 運転装置

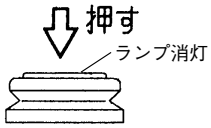


❶　方向自動制御スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，方向自動制御スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，方向自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

●方向自動制御スイッチ内ランプが点灯しても方向自動制御が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

2. 作業のしかた

❶　スイッチの操作・条合わせのしかた

⑴　方向自動制御スイッチを「**入**」(ランプ点灯)にします。

⑵　機械が条列に真っ直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

❷　刈取作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタを手動操作すると，「**手動優先**」で進路をかえることができます。

❸　旋回時の操作

旋回するときは，マルチステアリングレバーで手動操作します。

このときに方向自動制御スイッチを「**切**」にする必要はありません。

取扱いのポイント

●条合わせは機械が条列に真っ直ぐになるようにしてください。斜めになったときは条外れすることがあります。

3．方向自動制御の使えない条件

つぎの条件では方向自動制御スイッチを**「切」**にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

・斜め刈り，横刈り，中割り
・あぜぎわ刈り
・雑草が多いとき
・バラまきほ場
・湿田
・条間および株間が極度に乱れているとき
・稈量が少ないとき
・欠株，孫株が多いとき
・植付条間が28㎝未満の場合
・植付条間が33㎝を超える場合
・倒伏材は**［作業のしかた］**の**「4．ほ場の刈取手順」**を参照（41～45ページ）

3．排出オーガ自動制御

・オーガ自動旋回は，自動スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き，排出位置から収納位置まで動きます。

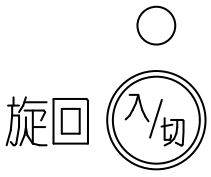
⚠警告 傷害事故防止のために

◆オーガの運転操作は運転席から，周囲の安全をよく確認してから行なってください。
◆オーガの作動範囲に，頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内の籾を排出してください。
◆傾斜地での籾の排出作業は，行わないでください。
◆籾の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆オーガ先端部に溜まった籾を取除く場合は，籾排出スイッチを「切」にして，エンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
◆籾排出後の移動は，オーガを収納してから行なってください。

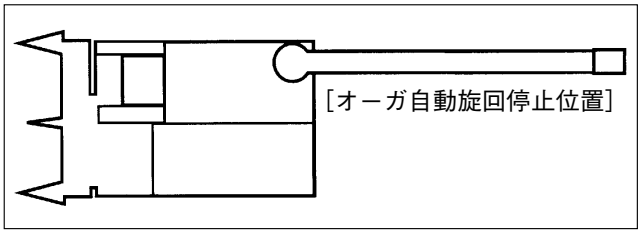
1．運転装置



❶ オーガ自動旋回スイッチ

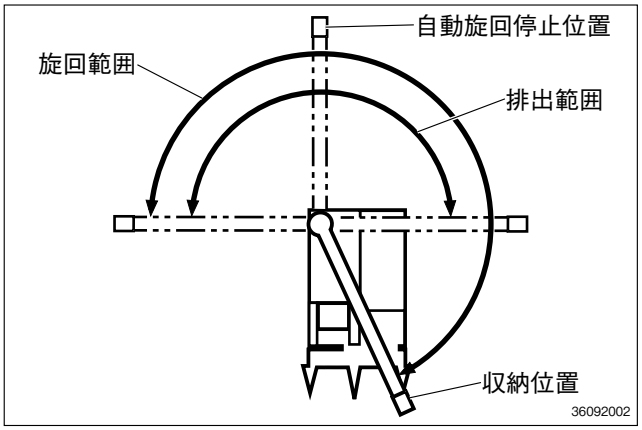


・「入」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで旋回します。収納位置以外でスイッチを押すと，自動的に旋回収納します。自動収納後，ランプは消灯します。



取扱いのポイント

●収納位置にあるときは自動旋回が作動します。



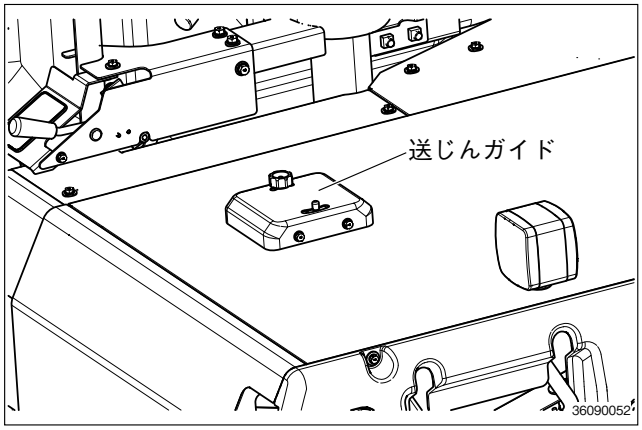
●スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。
●自動が故障したときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。

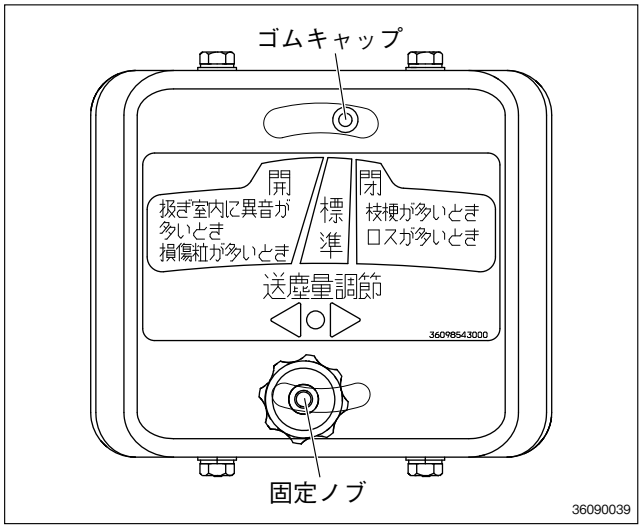
❷ ヒューズ

取扱い方は，78～80ページを参照します。

4. 送じん量自動調節

・送じん量は《**標準**》位置で出荷しています。
送じん量自動調節は，こぎ室内の発生クズ量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し，こぎ室内の負荷を軽減する機構です。





取扱いのポイント

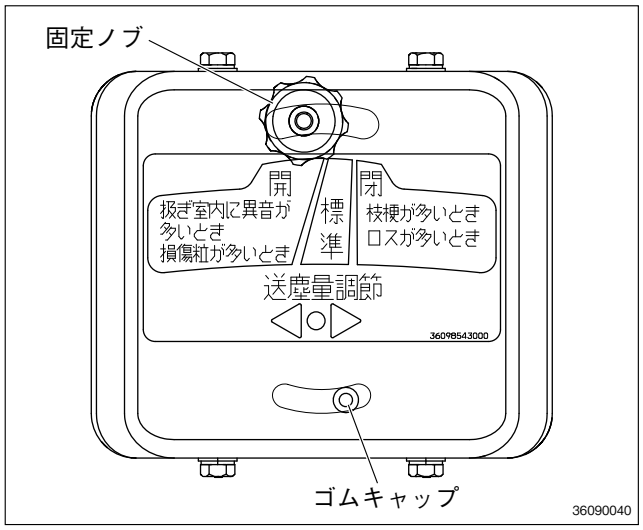
●籾に枝梗の付着が多いときや，こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合は，固定ノブ位置を変えて送じん量を調節します。

作業状態	送じん量調節位置
こぎ室内に異音が多いとき 損傷粒が多いとき	《**開**》
通常の刈取りの場合	《**標準**》**出荷位置**
枝梗が多いとき ロスが多いとき	《**閉**》

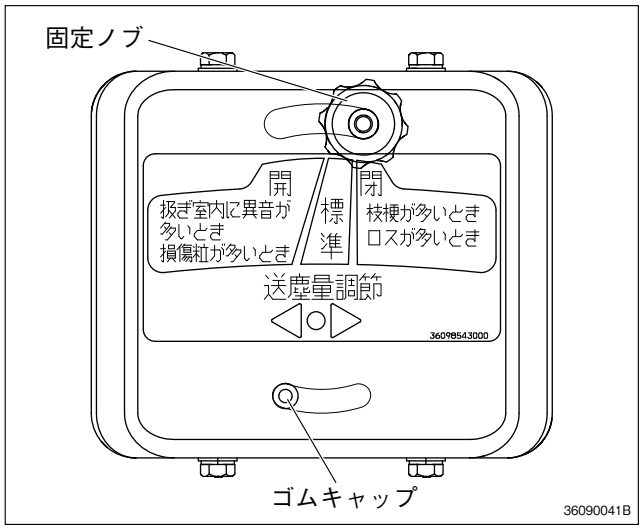
送じんガイド固定のしかた

・作業状態に応じて送じん量調節位置の固定ができます。
ゴムキャップと固定ノブの位置を入替えて取付けます。固定ノブで作業状態に応じた位置に固定します。

送じん量調節位置が《**開**》のときの固定位置



送じん量調節位置が《**閉**》のときの固定位置



手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

●機械または部品等を破棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。

●使用済み廃棄物の処分について

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

◆機械から廃液を抜く場合は，適切な容器に受けてください。

◆地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

◆廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは，「お買い上げ先」，または「産業廃棄物処理業者など」に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って，定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

◆使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは，「お買いあげ先」に必ず連絡して修理を依頼してください。

●結束部の結節部完備（ノッタ部）[ディーラーオプション]　●エンジン本体

●トランスミッション　●ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類

●油圧系統（HST含む）　●電気部品と電気系統　●刈取部の動力伝達系統　●燃料系統

取扱いのポイント

●分解・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

「定期点検整備表」(点検・補給・掃除・調整・グリスアップ○，交換●)

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）										格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250 (200)	350 (300)	450 (400)	500 (550)			
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●	●	●	●	●(550)			68，69
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●	●	●	●	●(550)			☆69
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○									●		69，70
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○					●			●			75
	燃料フィルタ（エンジン側）	点検・掃除・交換	○								●(400)				☆77
	ラジエータ，金網	点検・掃除	○	○		○							○		75
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○						●			●			☆114
	燃料ホース	点検・交換	○	●（80時間または２年毎の早い方）									○	燃料もれ点検	☆110
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○										○		84～87
	電気配線（配線・接続部のゆるみ・損傷）	点検・修理	○	○										損傷の場合交換	☆81
	計器，スイッチ類	点検	○	○											7～13
走行・運転操作部	油圧ホース	点検・交換	○	●（80時間または２年毎の早い方）										油もれ点検	☆110
	駐車ブレーキレバー	点検・調整	○												111
	ブレーキシュー	点検・交換	●（100時間または２年毎の早い方）												☆－
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○			●				●					☆71
	油圧オイルフィルタ	交換					●		●		●				☆－
	HSTオイルフィルタ	交換					●		●		●				☆－
	走行駆動ベルト	点検・調整・交換	○			○			●			●			☆114
	脱こく・刈取クラッチレバー	点検・調整	○		○										112，113
	クローラ	点検・調整	○	○											123，124
	ローラ・アイドラ	点検・調整・補給	○		○	（グリスアップは50a（アール）作業毎，および格納時に行います）								湿田作業直後にグリスアップ	73
	操作ワイヤ	点検・交換	○								●				☆－
刈取部	スターホイルギヤケースオイル	点検・補給・交換	○												☆72
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○			☆117
	供給穂先（穂先搬送）チェン	点検・調整・交換	○	○	○	○				●	○	●			☆119～123
	刈刃	点検・調整・交換	○	○		○			●(200)		●(400)		○		107
	集中注油タンク	点検・補給	○	○										エンジンオイル	72
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○	○				●			●			☆112
	かき込みスターホイル	点検・調整・交換	○	○											☆124
脱穀部	搬送ギヤケースオイル	点検・補給・交換	○			●				●					☆71
	脱こく入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●			☆112
	脱こくカウンタベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●			☆118
	こぎ胴駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●			☆115
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●			☆116
	排ワラ入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●			☆116
	２番ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●			☆115
	搬送入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●			☆119
	脱こくフィードチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●		●			☆120
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●		●			☆120
	穂先排ワラベルト(突起付)	点検・調整・交換	○	○		○			●			●			☆118
	揚こくラセン部	点検・掃除	○										○		92
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○			○						●			110
	ワラ切カマ	点検・交換	○						●			●			109
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○									●	○		95
	脱こく底板・ごぎ室揺動選別部	点検・掃除	○										○		94
	２番ラセン部	点検・掃除	○										○		92
カッタ部	カッタ刃	点検・交換	○	●（100時間毎）											100～106
	カッタベルト	点検・調整・交換	○		○				●			●			☆117
グレンタンク部	籾排出レバー	点検・調整	○												113，114
	グレンタンク	点検・掃除	○										○		96，97
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○			●			●			☆113，114
	縦ラセン筒上部，下部	点検・掃除	○										○		97

参照ページに☆印のある整備項目の交換・修理については「**お買いあげ先**」で行ってください。

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検･交換は,「**運転まえの点検**」および「**定期点検整備表**」に従って行います。
・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。
・交換したオイルを廃却するときは,「**お買いあげ先**」に相談ください。

取扱いのポイント

- **各給油箇所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **下表の容量は工場出荷時の数値です。**
  交換時は残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により容量を確認してください。
  但し検油栓のない箇所は全量交換してください。
- **使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。**
- **刈刃，チェンなどに注油する際は，指定の潤滑油を使用してください。**
- **交換したオイルを，廃却するときは,「お買いあげ先」または,「産業廃棄物処理業者など」に相談して，所定規則に従って処理してください。**

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から摺動音が発生するときはエンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

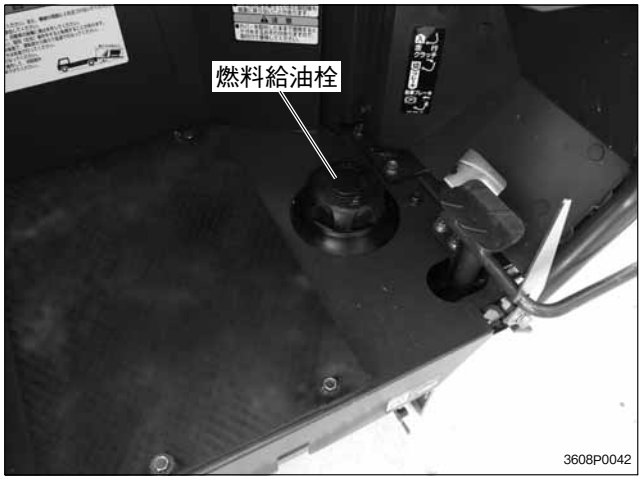
◆エンジンカバーを開いて点検などを行なった後は，エンジンカバーを閉じて固定金具（クランプ）で固定してください。

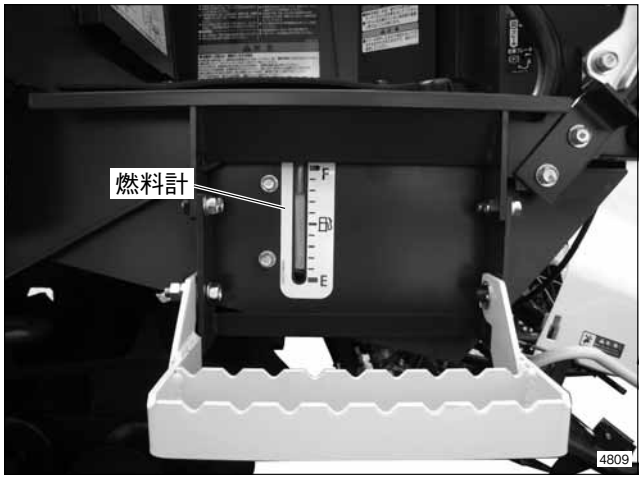
「給油・注油・給水表」

No.	箇所	種類	種類		容量（L）		備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号	2条型	3条型	
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	−	−	14		
②	エンジンクランクケース	ディーゼル車用エンジンオイル	CD級以上	10W−30	3.5		
③	ラジエータ（補助タンク分含む）	冷却水（不凍液40〜45％含む）	−	−	3.6		北海道は不凍液割合45〜50％
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL−4以上	80W	4.8		
⑤	スターホイルギヤケース	ギヤオイル	GL−5以上	140	0.25	−	
⑥	集中注油タンク	エンジンオイル			0.7	1.0	
⑦	搬送ギヤケース	ギヤオイル	GL−4以上	80W	1.4		

1．燃料の補給

❶　運転席足元の燃料給油栓を外して，燃料計で確認しながら補給します。





・燃料は「ディーゼル軽油」を使用してください。ディーゼル軽油には下表の種類があり，地域・季節により流通している種類が異なります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１号	－２．５以下
２号	－７．５以下
３号	－２０以下
特３号	－３０以下

・タンク容量……14.0 L

取扱いのポイント

●燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように給油してください。

●運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は燃料のエア抜きを行なってください。(77ページ参照)

●燃料補給後は給油栓を確実にしめてください。

●流動点付近以下の温度になると軽油が凍結し，エンジンの始動が困難になったり，停止したりすることがあります。

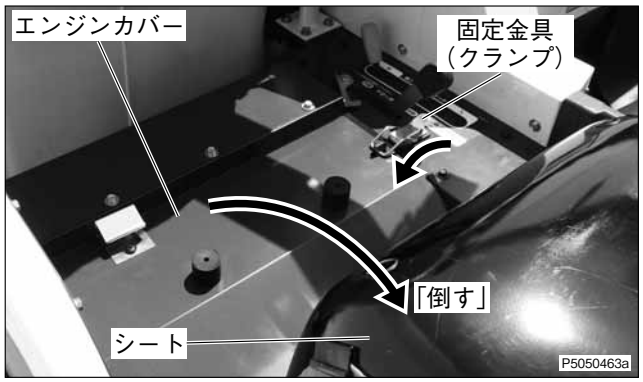
●未使用の菜種油や，使用済みの調理油などを原料としたバイオディーゼル燃料（BDF），およびその混合油の使用は止めてください。

2．エンジンカバーの開閉のしかた

❶　エンジンカバーを開きます。

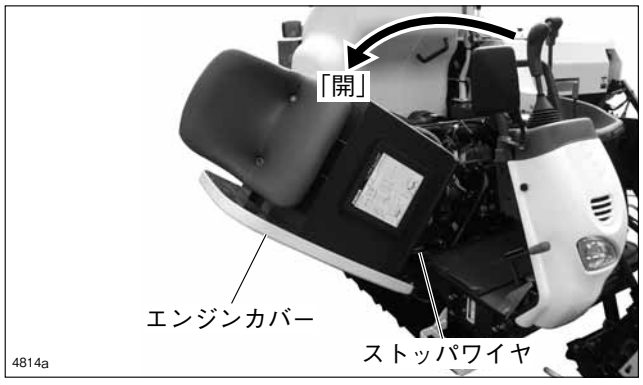
(1)　シートを前方へ倒します。

(2)　固定金具（クランプ）を矢印方向へおこし，エンジンカバーの固定を解除します。



(3)　エンジンカバー端部を両手で持って，ゆっくり「開」方向に回動させます。

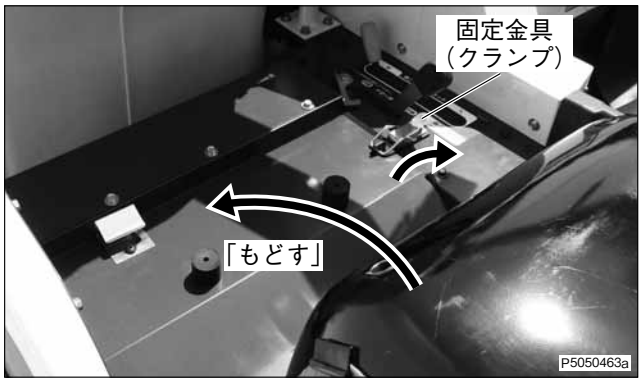
(4)　エンジンカバーが一定の位置まで開くと，ストッパワイヤによりそれ以上開かなくなります。



❷　エンジンカバーを閉じます。

(1)　エンジンカバー端部を両手で持って「閉」方向に持ち上げます。

(2) エンジンカバーを片手で押さえながら固定金具（クランプ）をロック（固定）します。



(3) シートを使用位置へもどします。

3. エンジンオイルの点検・交換

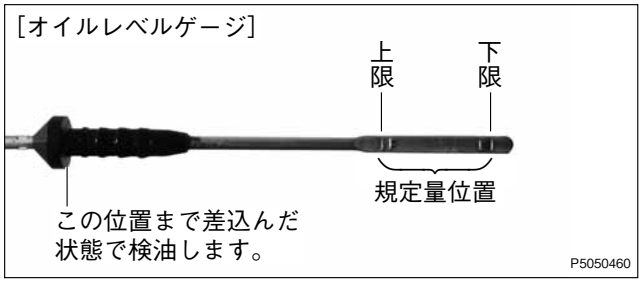
❶ エンジンオイルの点検

(1) グレンタンク仕様はグレンタンクを取外します。(88ページ参照)

(2) エンジンカバーを開きます。

(3) オイルレベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度一杯差込んでから抜き，ゲージの上限と下限の間にオイルがある事を確認します。不足しているときは，給油口よりオイルレベルゲージの刻み線上限（規定量位置）まで給油します。さらに，油もれのないことも調べます。





(4) 点検後は元どおり，エンジンカバーを閉じます。グレンタンク仕様はグレンタンクを取付けます。

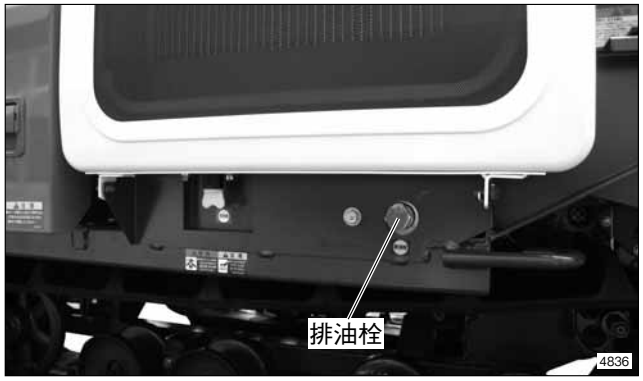
取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。**
- **給油口からワラクズなどが入らないよう事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓，オイルレベルゲージは確実に固定されていることを確認してください。**
  また，エンジンカバーに固定金具（クランプ）をかけ，確実に閉じてください。

❷ エンジンオイルの交換

(1) 給油栓を外し，排油栓を取外し，オイルを抜きます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。





(2) オイルを抜き終わったら排油栓を取付け，新しい**「ディーゼルエンジン用エンジンオイル」**を給油口よりオイルレベルゲージの刻み線上限（規定量位置）まで給油します。

- **ディーゼルエンジン用エンジンオイル**
  API・CD級以上，SAE・10W−30
- **オイル量……3.5 L**

⑶ 給油栓を取付けエンジンカバーを閉じてからエンジンを始動しオイルインジケータランプが消えるまで低速回転で運転します。

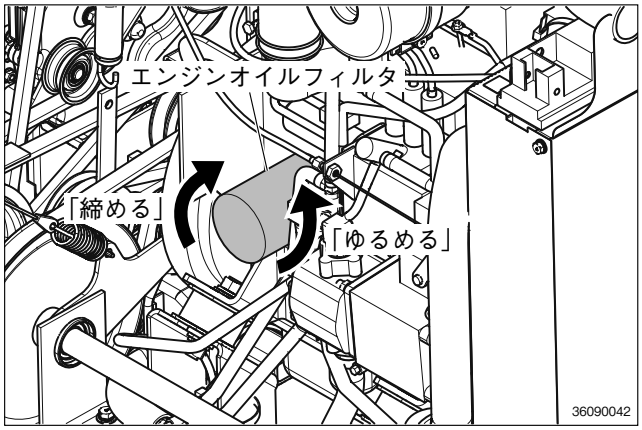
取扱いのポイント

- **エンジンオイルの交換時期は定期点検整備表に従ってください。**
- **オイルフィルタが装備してありますので定期点検整備表に従い交換してください。**

4. エンジンオイルフィルタの交換

オイルフィルタの交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

❶ エンジンカバーを開きます。



❷ エンジンオイルフィルタを「**ゆるめる**」方向に回して外します。

❸ 新しいフィルタと交換し「**締める**」方向に回して固定します。

❹ 交換後は元どおり,エンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

- **オイルフィルタは「カートリッジタイプ」を使用していますので，購入のうえ交換します。**
- **オイルフィルタの交換は取外すための専用工具が必要です。「お買いあげ先」へお申しつけください。**
- **オイルフィルタを交換したときは，エンジンオイルフィルタの容量分オイル量が多く入るので，オイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは規定量位置まで補給します。**

5. ラジエータ冷却水の点検・交換

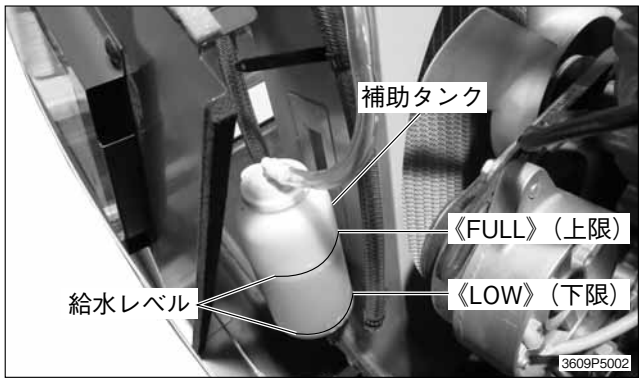
⚠警告 火傷防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検はエンジンカバーを開けて行います。

❶ **始業前の点検**

・エンジンが冷えているとき，補助タンク内の冷却水が「**給水レベルの上限と下限の中間**」にあるか点検します。



❷ **補助タンクの水を切らしたとき**

・ラジエータキャップを外して冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

・補助タンクの「**給水レベルの上限と下限の中間**」位置まで給水します。

・**冷却水……清水（水道水）**

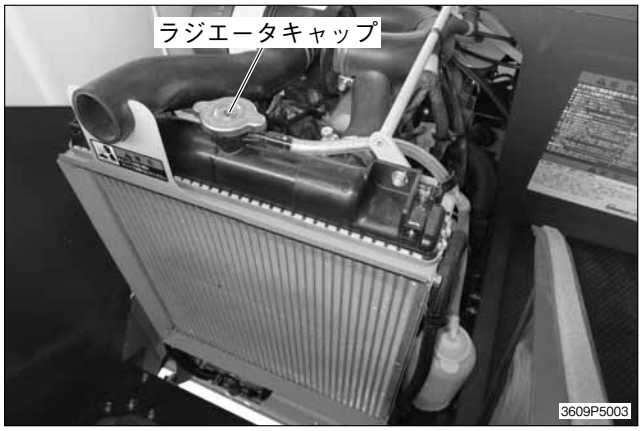
❸ 点検・交換後は元どおり，エンジンカバーを閉じます。

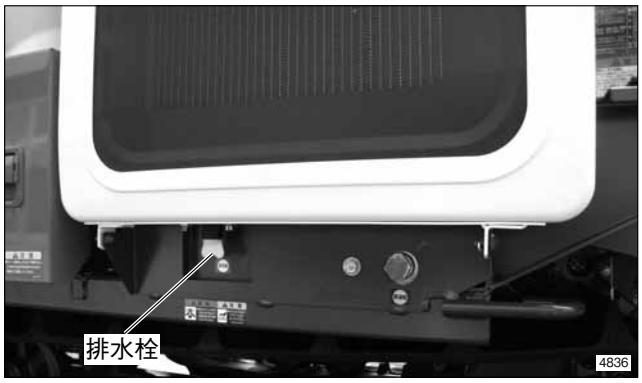
取扱いのポイント

- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。**
- **補助タンクには「給水レベルの上限」以上入れないでください。運転中冷却水があふれ出ます。**

❹ ラジエータ冷却水の交換

⑴ ラジエータキャップを外し，ラジエータ下部の排水栓を外し排水口から排水します。その際，冷却水は適切な容器で受けてください。





⑵ ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

⑶ 排水が終わったら排水栓を取付けます。

⑷ **不凍液の注入**

工場出荷のときは不凍液が注入され**「外気温度－25℃」**の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，１年ごとに冷却水を抜き**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

・不凍液は「ロングライフクーラント」（PT）を使用します。

⑸ ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を給水したのちラジエータキャップを閉めます。

⑹ 補助タンクの給水レベルの上限と下限の中間位置まで給水します。

・エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に市販の防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。

冷却水量……3.6Ｌ（補助タンク0.1Ｌ含む）

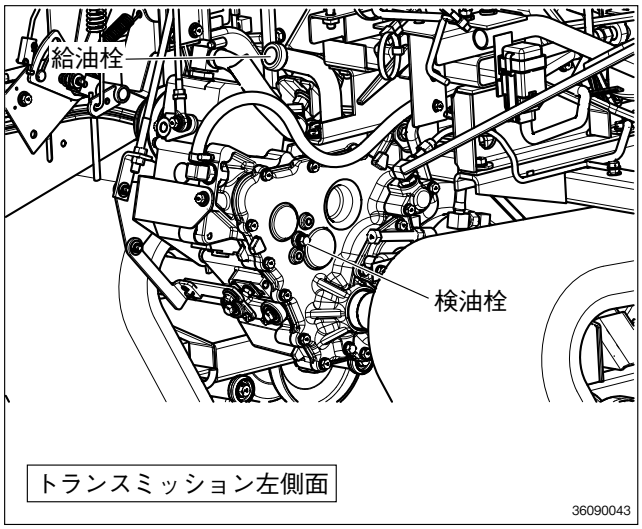
取扱いのポイント

●冷却水を交換したときは，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。

●不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまで「低速で空運転」を行なってください。

6. トランスミッションケースのオイル点検

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。



❶ 点検

・ミッションケース左側の検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。

・ギヤオイル……API・GL－４級以上, SAE・80W

・オイル量……4.8 L

取扱いのポイント

●点検後に給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。

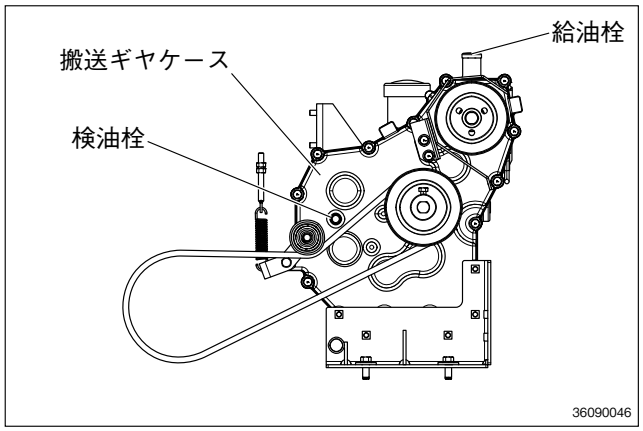
7. 搬送ギヤケースのオイル点検

オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。

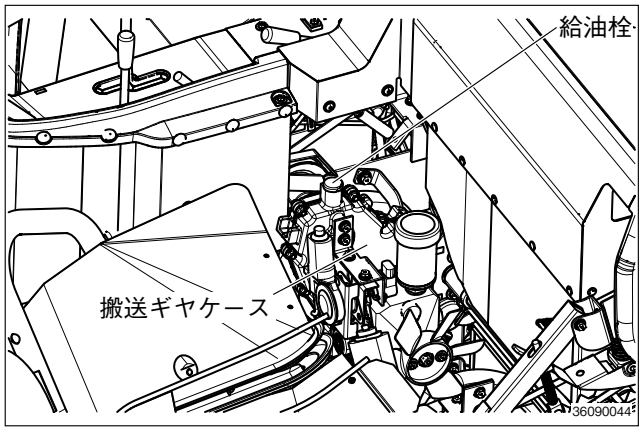
❶ 点検

・搬送ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。



・脱こく入口板を外して給油口より補給します。



・ギヤオイル……API・GL－4以上，SAE・80W

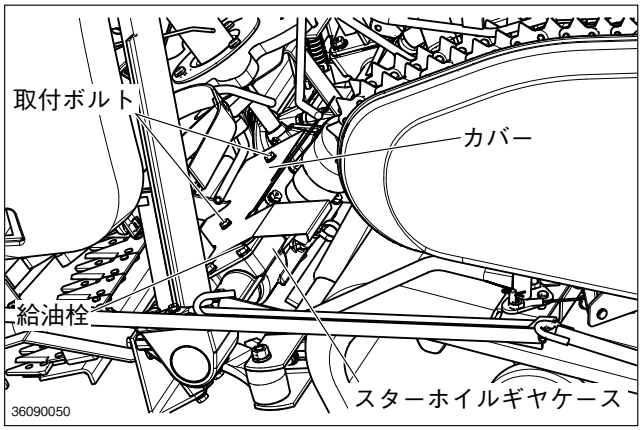
・オイル量……1.4 L

取扱いのポイント

●点検後に，給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。

8. スターホイルギヤケースのオイル点検［217型］

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。



・刈取部左側のスターホイル下部にあるカバーを外しスターホイルギヤケースの給油栓を外して給油口より給油します。

・**ギヤオイル……API・GL－５級以上，SAE・140**

・**オイル量……0.25 L**

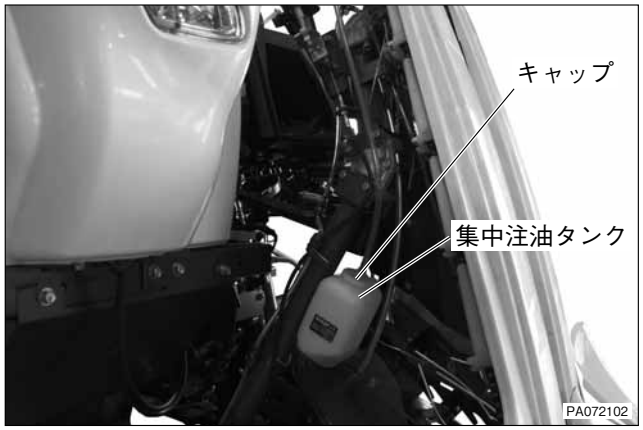
給油後に給油栓を取付けて，カバーを取付けます。

取扱いのポイント

●**点検後に，給油栓が確実に取付けてあるか確認してください。**

9. 集中注油タンク

［２条型］



［３条型］



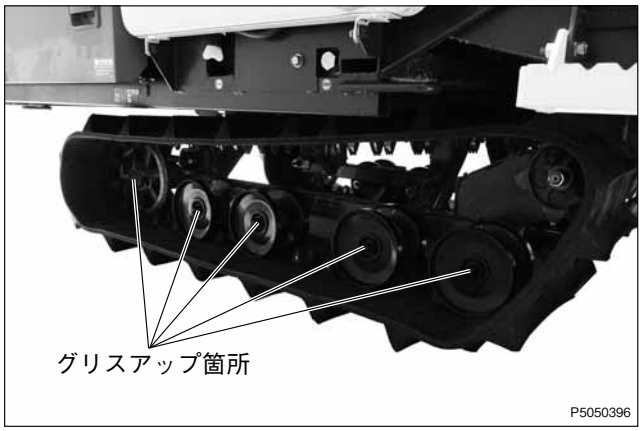
・刈取部サイドカバー（右）を外し，タンクに給油します。

・**エンジンオイル**を使用します。

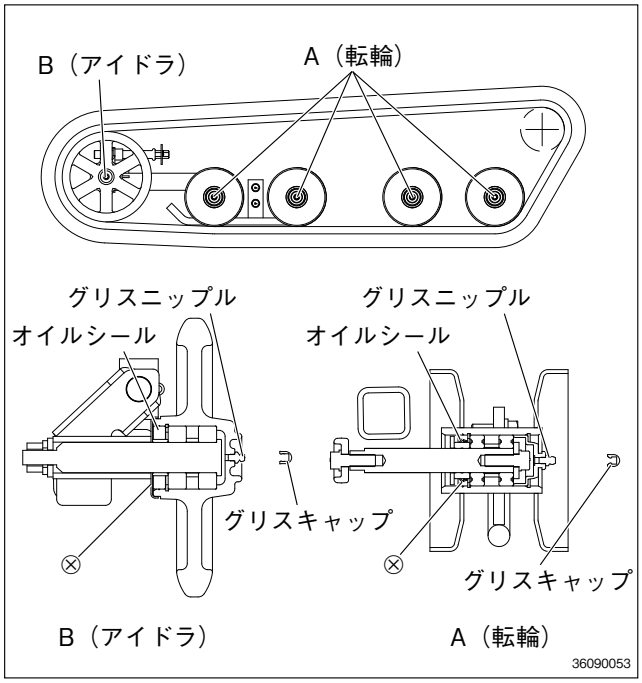
・**オイル量……0.7 L （２条）**

1.0 L （３条）

10. ローラ,アイドラのグリスアップ



・各部のグリスアップは50 a（アール）作業毎,湿田作業直後および格納時に行います。
・グリスアップ箇所は,下図のA（転輪）８箇所とB（アイドラ）２箇所です。



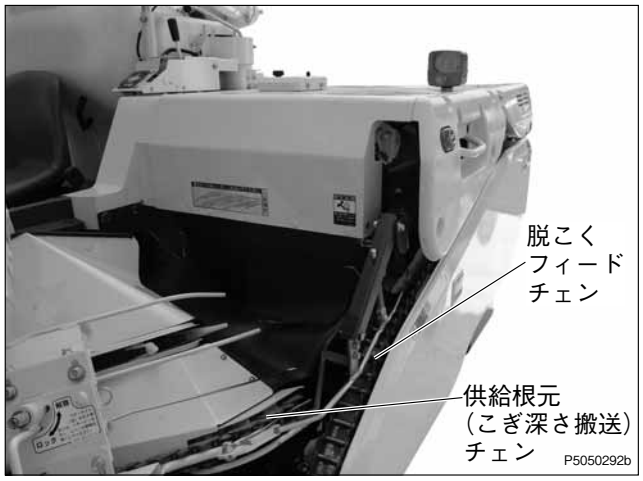
・グリスアップ箇所のグリスキャップを取外し,グリスニップルからリチウムグリスをポンプでオイルシール部（⊗部）よりわき出るまで封入してください。グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。

11. 供給根元（こぎ深さ搬送）チェン・脱こくフィードチェンの注油

始業前および20 a（アール）刈取毎に**「油さし」**で行います。

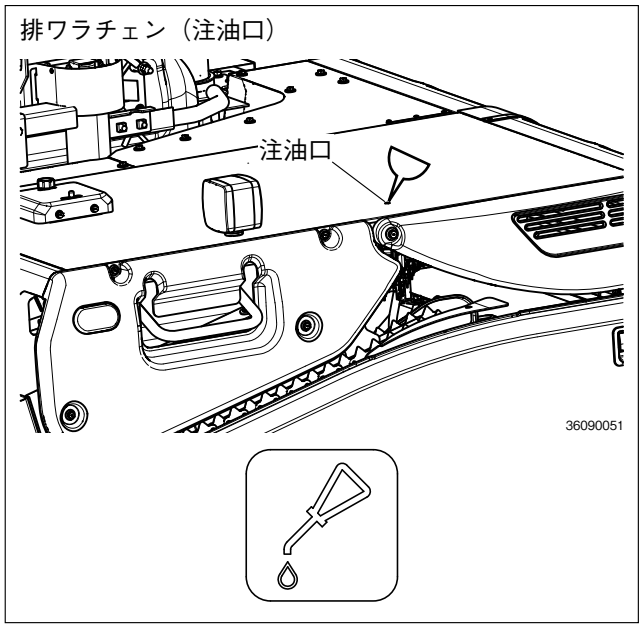
❶ 供給根元（こぎ深さ搬送）チェン・脱こくフィードチェンに注油します。

❷ エンジンを始動し，脱こく・刈取クラッチレバーを**《入》**にして，副変速レバー**《中立》**，主変速レバーを**「前進側」**に倒しフィードチェンを回しながらフィードチェン全体にオイルを行き渡らせます。



12. 排ワラチェンの注油

始業前および20アール刈取毎にチェンを回しながら**「油さし」**で注油口へ注油します。



13. 集中注油の使いかた

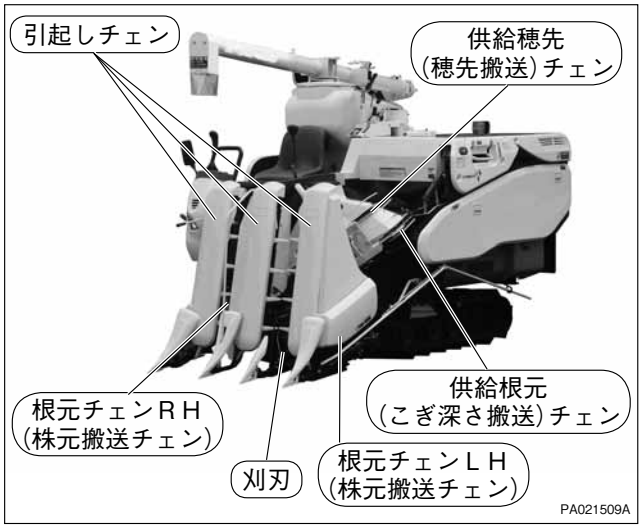
⚠警告 傷害事故防止のために

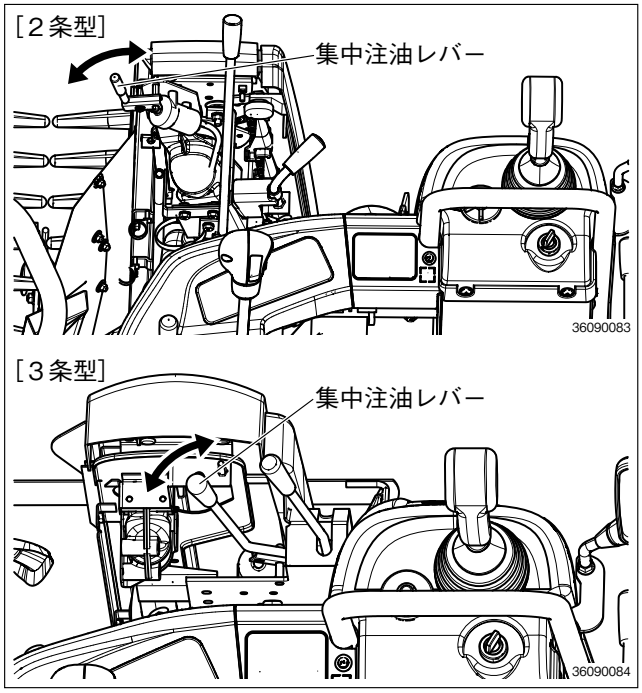
◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。
●クローラに車止めをかけてください。

◆刈取部，脱こく部を作動しますので，機械の周囲に人を近づけないでください。

始業前および20アール刈取毎に実施します。

刈取部関係の注油（　　）箇所）は集中注油装置で注油ができます。

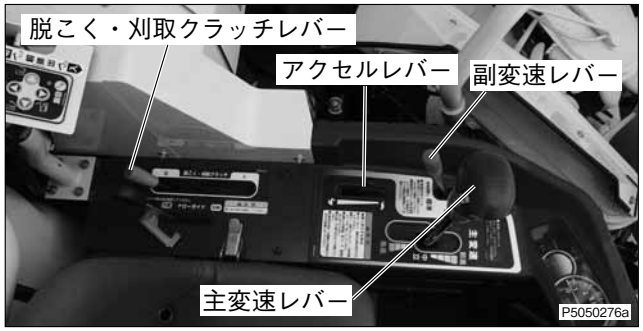




「注油操作手順」

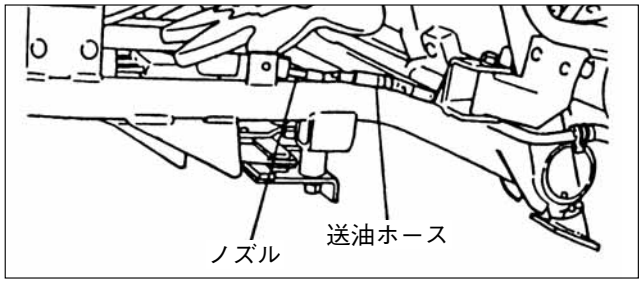
(1) エンジンを始動し，刈取部を約20cm上げます。

(2) 副変速レバーは《**中立**》にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》にし，アクセルレバーを《🐢》(**低速**)，主変速レバーを前進にして刈取部を運転します。



(3) 注油レバーを「**数回押して**」注油します。

(4) 注油後，さらに刈取部を３分間程度運転し，注油がゆきとどいたことを確認します。



取扱いのポイント

●注油中にオイルが流れて落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルはふき取ってください。

●ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので点検・掃除をしてください。(刈刃用ノズル)
ノズルが詰まった場合は針などで詰まりを除去してください。
このとき，刈取部を上げて作業する場合は，油圧固定レバーを《油圧固定》位置にし，刈取部を固定脚に乗せてから行なってください。
また，エンジンを停止してください。

●湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・送油ホースをカマなどで損傷しないようにしてください。

●送油ホースの継ぎ部などからオイルもれがないか，点検確認してください。

3. 各部の点検と掃除のしかた

1. ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除はエンジンを停止して行なってください。
◆高温部が冷えてから作業をしてください。

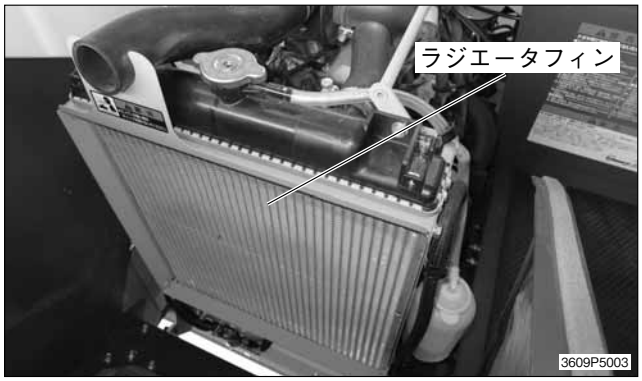
エンジンカバー金網，ラジエータフィンにゴミなどが目詰まりすると冷却風の通りが悪くなり，エンジンが**「オーバーヒート」**する原因となります。



❶ エンジンカバーを開き内側を掃除します。

❷ エンジンカバー金網のゴミを，やわらかいブラシなどで掃き落とすか，コンプレッサでエアを吹きつけてゴミを取除きます。

・ラジエータフィン部に**「ゴミ詰まり」**を生じたときは，電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押し当てないでください。強く押し当てるとフィンが変形するおそれがあります。



❸ エンジンカバーを閉じます。

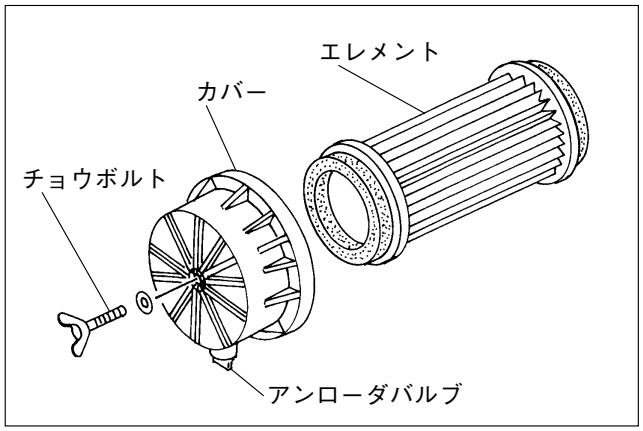
2. エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

❶ エンジンカバーを開け，エアクリーナカバーのチョウボルトを外し，エレメントを取出します。

❷ エレメントは軽くたたくか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。





❸ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

❹ エンジンカバーを閉めます。

取扱いのポイント

●コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「7 kgf/㎠以下」で行なってください。

3．燃料フィルタの掃除

⚠警告 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタの交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

燃料フィルタは燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

エンジン側燃料フィルタの掃除

エンジン側燃料フィルタは掃除はシーズン前に行います。

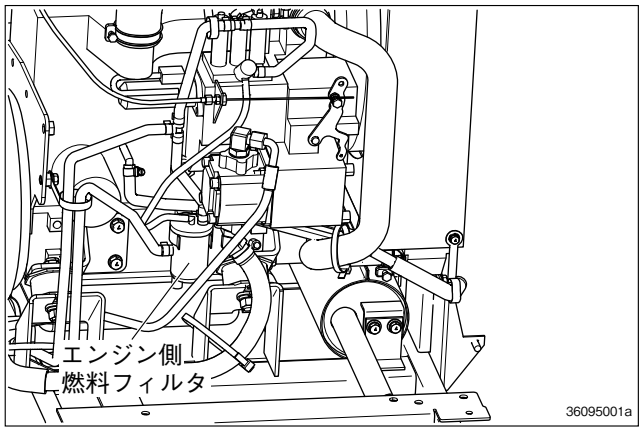
1) ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを外します。(88ページ参照)

［**ホッパ仕様**］はホッパ，ベルトカバー，エンジンカバーを外します。(89ページ参照)

2) エンジンカバーを開けます。(67，68ページ参照)

3) 燃料フィルタ透明部に水やホコリが沈澱している場合は，水抜きプラグを抜き，不純物を出してから確実に締めます。

4) 組付けは逆の手順で行います。



取扱いのポイント

- **燃料の中に，水やゴミなどが混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，燃料は燃料タンク給油口のフィルタを通して給油してください。**
- **燃料は雨水などがかからない場所に保管してください。**

4．燃料のエア抜きのしかた

燃料タンクが空になり，燃料系統に空気が入るとエンジンは止まってしまいます。もし，このようなことが起こったら燃料を満量にした上で，キースイッチを《**入**》位置のままで20～30秒待ってください。自動的にエア抜きが行なわれます。



❶　燃料タンク給油口のフィルタを通して燃料を給油します。

❷　キースイッチを《**入**》位置にします。

（このときエンジンは始動しません。）

20～30秒待った後，エンジンを始動にします。

始動しない場合は，もう一度同じ操作を行います。

5．ヒューズの交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと，異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などを使用すると，配線の加熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常が生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズが設けてあります。

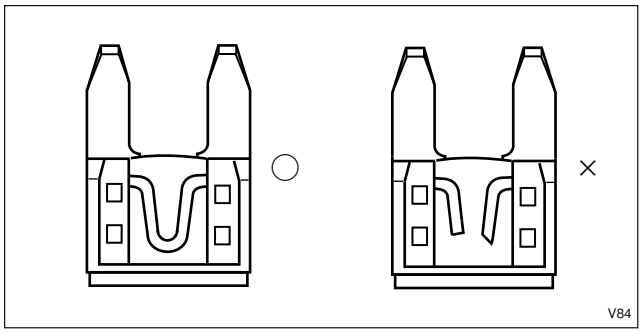
運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズの状態をチェックします

❶ ヒューズボックスのヒューズ交換

⑴ スタータスイッチを《**切**》位置にします。

⑵ ヒューズボックスの蓋を開き，ラジオペンチなどを使って，ヒューズを引抜きます。

⑶ ヒューズが図の右側（×印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。



取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

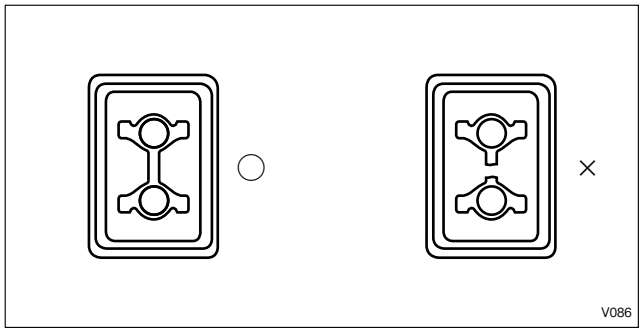
❷ 大電流用ヒューズ交換

⚠警告 火傷防止のために

◆作業直後はエンジン部が高温になっています。各ヒューズの点検はエンジンが冷えてから行ってください。

⑴ バッテリー（－）端子を外します。

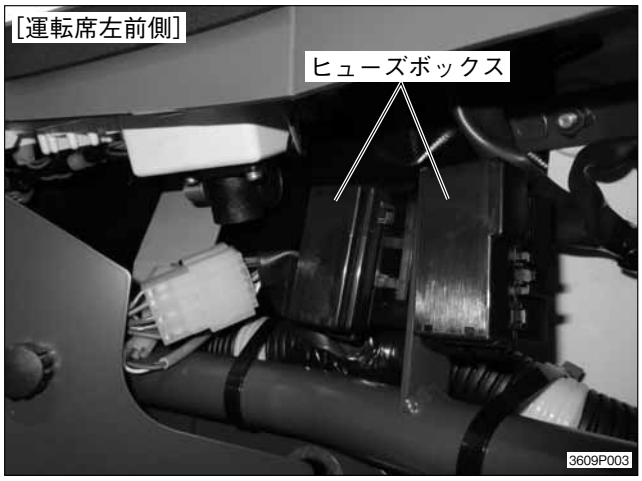
⑵ ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであれば，ヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。

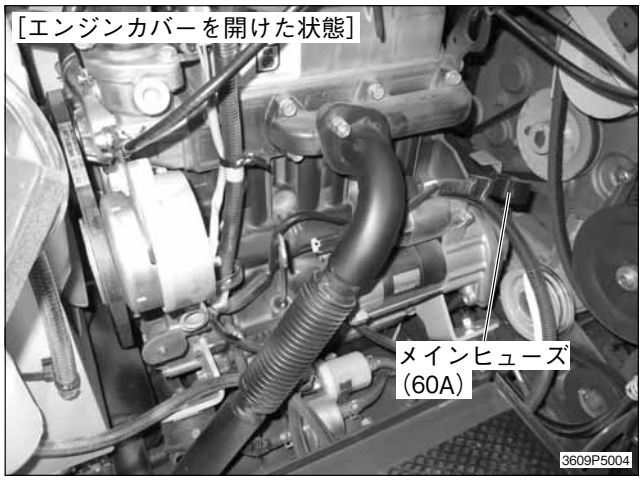


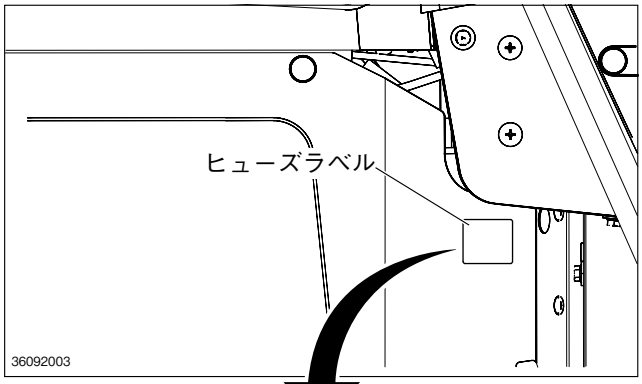
取扱いのポイント

●大電流用ヒューズが切れたときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

ヒューズボックス位置

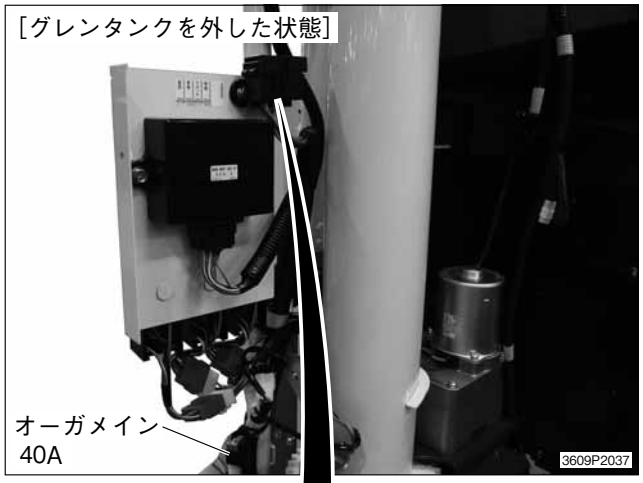






スペア10A	キー切り 10A	充電 20A	3609085600000
	ランプ計器 10A		
スペア15A	フラッシャ ホーン 15A	クラッチ 20A	スペア20A
	バルブ 10A	こぎ深さ 10A	
	マイコン 10A	ST電源 10A	
	搬送 20A	始動リレー 10A	

3609085600001



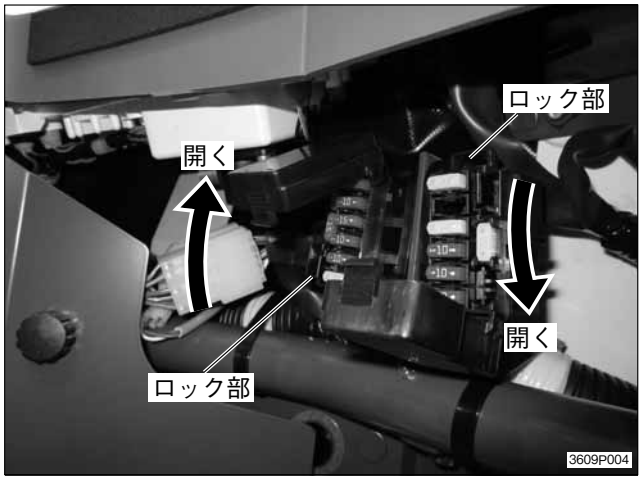
旋回 30A	昇降 20A	アタッチ 20A		36080883000
スペア20A		スペア30A		

[グレンタンク仕様] 用

36080883000

・ヒューズボックスの開けかた

ヒューズボックスのロック部を押しながら開けます。



ヒューズが溶断した場合，次の機能が作動不能となります。　　×：作動不能

ヒューズのNo. 種類 ＼ 影響の出る機能			エンジン始動	エンジン停止	燃料の供給	予熱	バッテリ充電	計器類のモニタランプ	前照灯	方向指示器	ホーン	バック警報	マルチステアリングレバー	ジャストディレクタ	方向自動制御（オプション）	こぎ深さ自動制御	搬送駆動	クラッチ駆動	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	籾排出	警報装置
ヒューズボックス	①	ランプ計器　（10A）			×			×	×													
	②	マイコン　（10A）						×			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×
	③	キー切り　（10A）	×																			
	④	バルブ　（10A）											×	×	×							
	⑤	ホーン・フラッシャ　（15A）								×	×	×										
	⑥	こぎ深さ　（10A）														×						
	⑦	クラッチ　（20A）																×				
	⑧	搬送　（20A）															×					
	⑨	ＳＴ電源　（10A）	×																			
	⑩	始動リレー　（10A）	×																			
	⑪	充電　（20A）					×															
	⑫	昇降モータ　（20A）																		×		
	⑬	旋回モータ　（30A）																	×			
	⑭	アタッチ　（20A）																				
大電流用	⑮	オーガメイン　（40A）																	×	×		
	⑯	メイン　（60A）	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×

6. 電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，キースイッチを《切》位置にし，バッテリコードのアース側⊖端子を外してください。
◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので，交換してください。
◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

❶ 電気配線の点検

配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」することがあります。

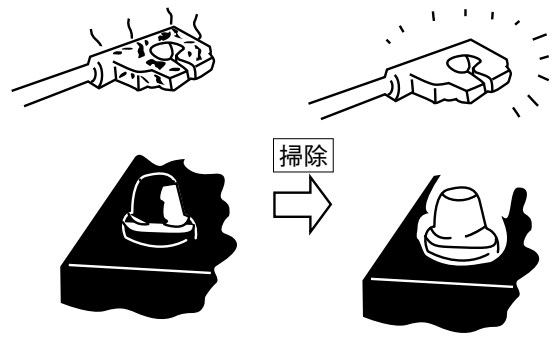
傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリースを塗ります。

「端子のチェック」



7. バッテリの点検と充電

この機械は出荷時には補水が必要なバッテリが装備されています。

指定バッテリ…34B19L

⚠危険 火災や死亡事故防止のために

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。
◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。
失明や火傷をすることがあります。
◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですので，こぼさないようにしてください。
◆バッテリを充電するときは，補水キャップをすべて取外してください。
◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」(LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。
◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。
◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。
◆ブースタケーブルは，100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。
◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。

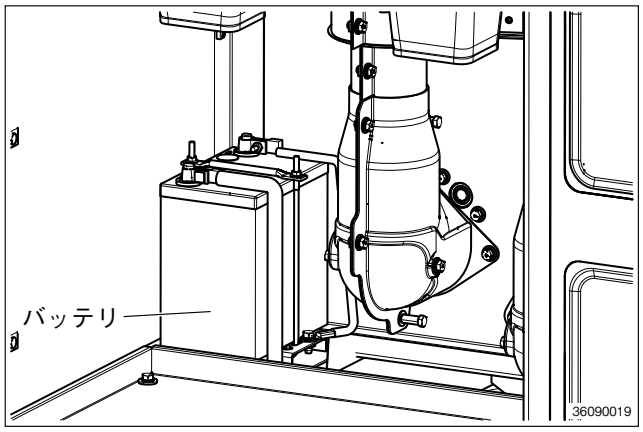
◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。
◆⊖端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，次にバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。
◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると，接続ケーブルが損傷し火災の原因となるおそれがあります。
また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。

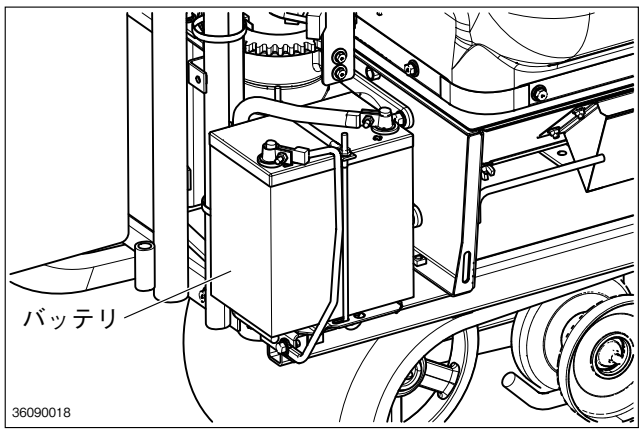
❶ バッテリの位置

［**ホッパ仕様**］は籾受台奥に見えます。



［**グレンタンク仕様**］グレンタンク下部カバーを外すと縦ラセン部の横に見えます。





❷ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり，亀裂を起こすことがあります。

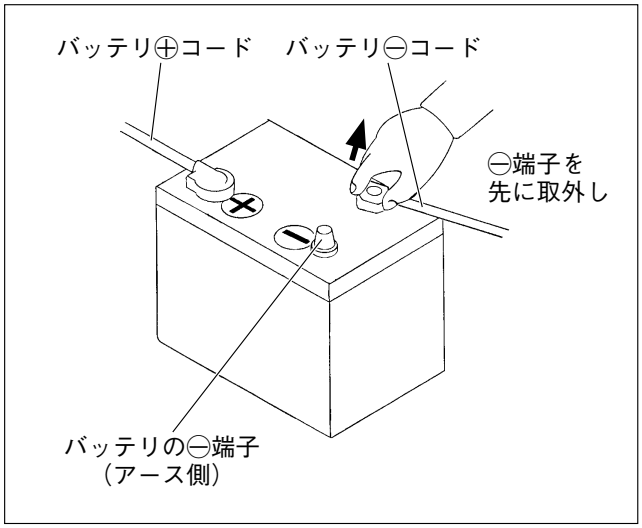
取付金具で，しっかり固定します。

取付金具などが腐蝕していれば，修理または取替えます。

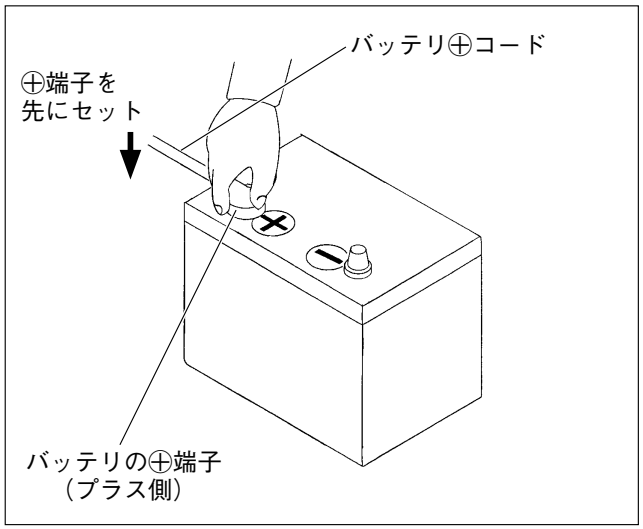
❸ バッテリ着脱時の注意

⑴ バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

⑵ バッテリコードを端子から取外すときは「**⊖端子（アース側）**」を先に外します。



⑶ バッテリコードを端子にセットするときは「**⊕端子（プラス側）**」を先に取付けます。



⑷ バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

❹ 点検・補水

⚠危険 火災と傷害事故防止のために

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。

◆バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

１．残存容量の確認

⑴ バッテリ液の「比重」を測定する方法と，「バッテリテスタ」で測定する方法があります。

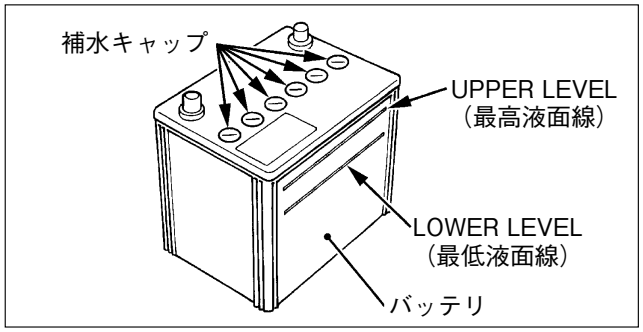
⑵ 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

⑶ バッテリ液の比重が「1.220（20℃）」以下であれば補充電をします。

比重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

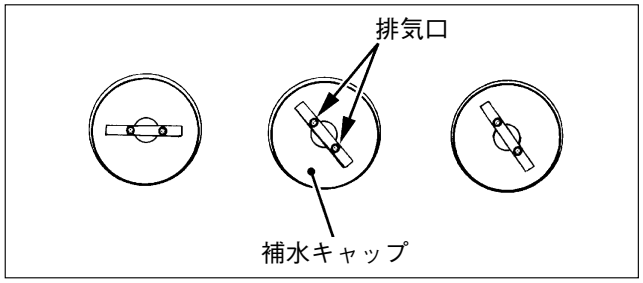
⑷ バッテリテスタで測定するときは，バッテリテスタの取扱説明書に従って測定と補充電を行ってください。

⑸ バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水します。



取扱いのポイント

- **バッテリ液が不足している極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。**
- **排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。**



❺ 補充電

⚠危険 傷害事故防止のために

◆補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1．補充電を行うときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行います。

また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行ってください。

取扱いのポイント

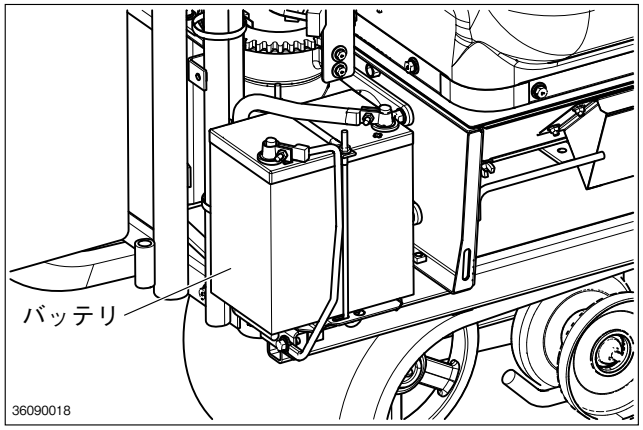
●急速充電を行ったときは，作業後必ず補充電を行ってください。

2．補充電が終ったら補水キャップを全て取付けてください。

❻ ブースタケーブルによるエンジン始動

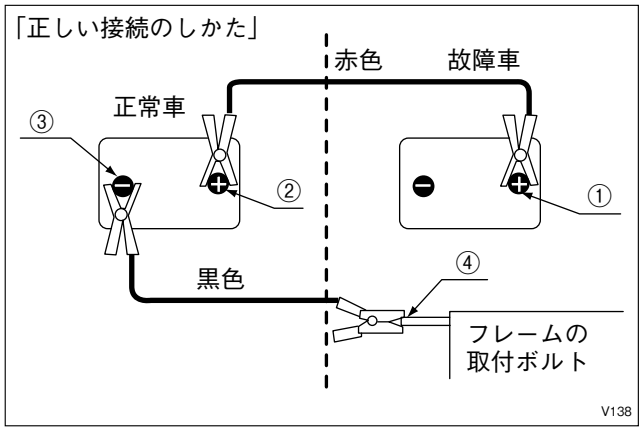
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動する場合，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①〜④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

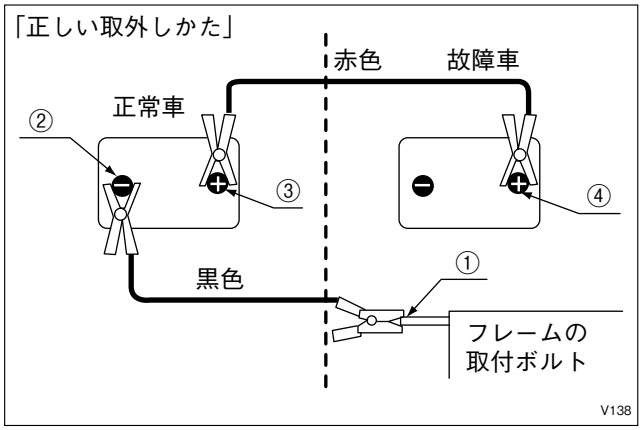


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレームの取付ボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときは，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



❼ バッテリ単体での充電

⑴ 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，キースイッチ（始動キー）を抜取ります。

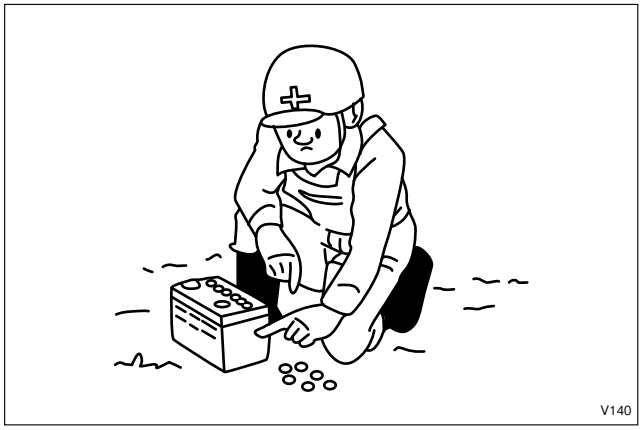
⑵ 機体からバッテリを取外します。

⑶ 「**水素ガス**」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

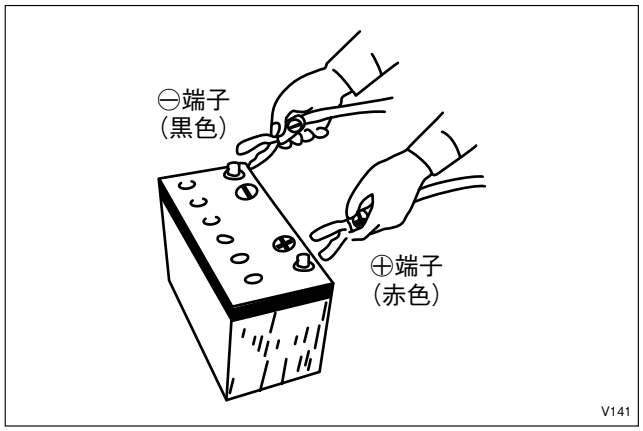
⑷ 「**火気**」を近づけたり「**スパーク（短絡）**」による電気火花が発生しないようにします。

⑸ 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを《**切**》にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。

⑹ 充電前に「**補水キャップ**」をすべて取外します。



⑺ 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が「**45℃**」を超えないようにします。



取扱いのポイント

- **各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などを拭き取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。**
- **バッテリ⊕端子のゴムブーツを，取付けておきます。**
- **厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分を拭き取ってください。**

❽ 補充電・交換

⚠危険 死亡事故防止のために

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明や火傷をするおそれがあります。
◆バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発の原因となるおそれがあります。
◆バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明や火傷の原因となることがあります。

⚠警告 火災防止のために

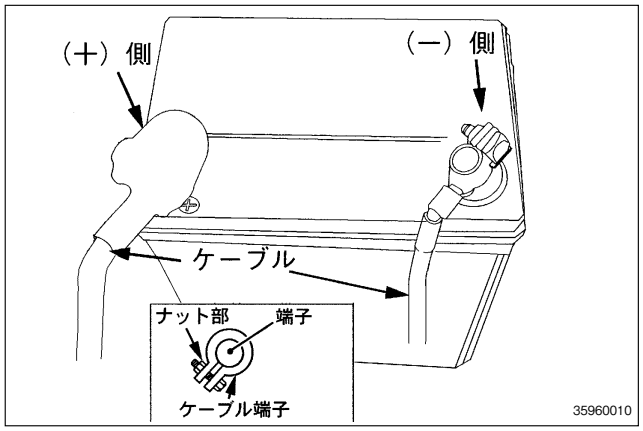
◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…（−）端子側（アース側）から外す。
・取付け…（＋）端子側を最初に接続する。
◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

取扱いのポイント

●バッテリが完全に放電し，キースイッチを《入》にしても充電・オイルランプが点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。
・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機体から取外します。
⑴ ナットをゆるめてフックを外します。
⑵ ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（−）側から取外してください。



2．補充電を行うときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。
3．補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

●バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：34B19L
●バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。
●バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

8．グレンタンクの脱着のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンクの脱着をするときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆グレンタンク内に籾が入っていないことを確認してから行います。
タンク内に籾が入った状態で脱着をさせるとタンクが転倒し，タンクにはさまれるおそれがあります。

◆グレンタンクを取付けたら，グレンタンク固定レバーでタンクを固定してください。

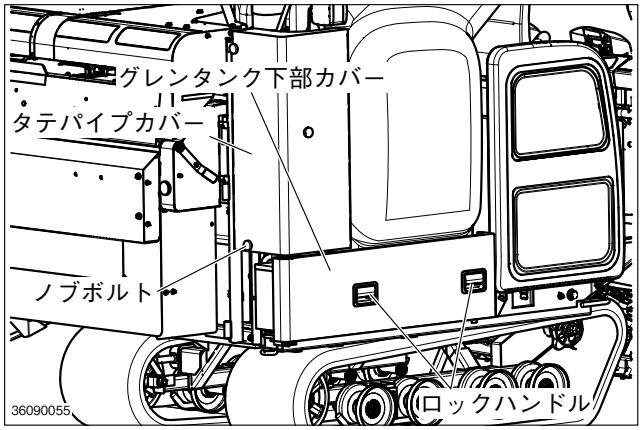
⚠注意　傷害事故防止のために

◆作業後カバーを取付けてください。

エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときはグレンタンクを取外して行います。

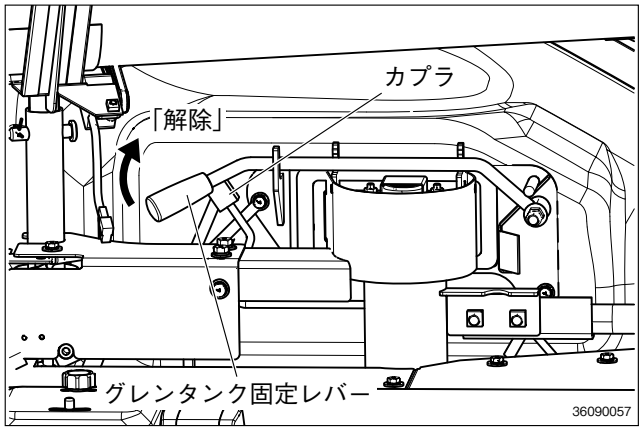
❶　下部カバーロックハンドルのロックを外し下部カバーを取外します。

❷　タテパイプカバーのノブボルト３本を外し，上方へ持ち上げ取外します。



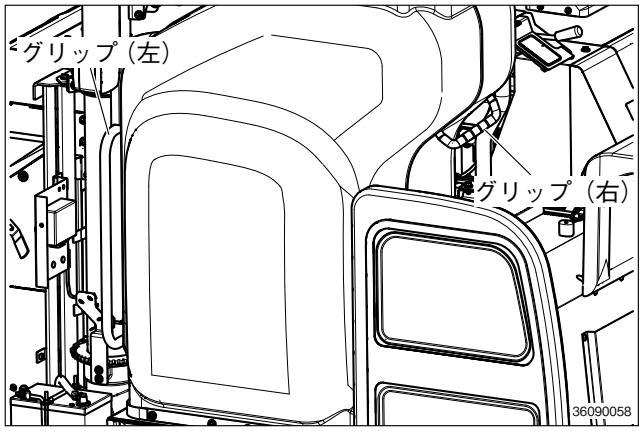
❸　グレンタンク固定レバーを解除しフックからレバーを外します。

❹　カプラを外します。

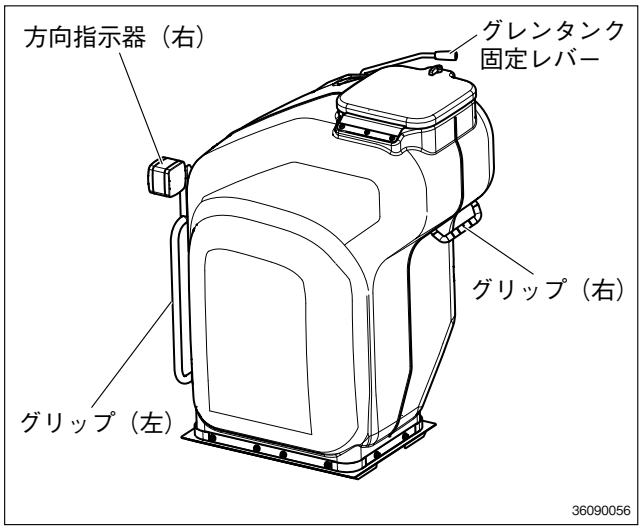


❺　シートを前方に倒し，グリップ（右）を握ります。

❻　グリップ（左）も握りグレンタンクを持ち上げて取外します。



❼　取外したタンクは，作業の妨げにならない平坦な場所に置いてください。



❽　タンクの取付けは❶～❼の逆の手順で行ないます。

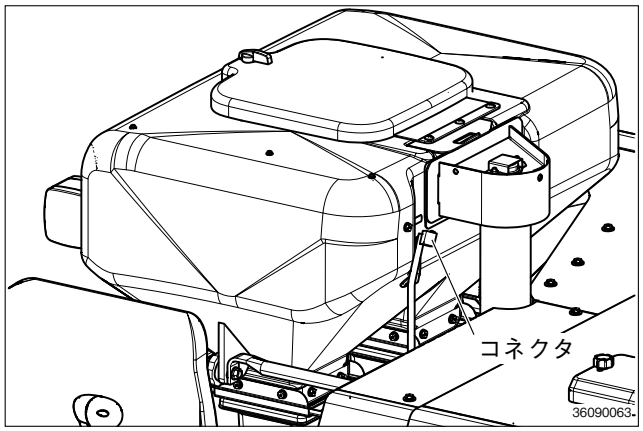
取扱いのポイント

●方向指示器（右）を持ってタンクを持ち上げないでください。

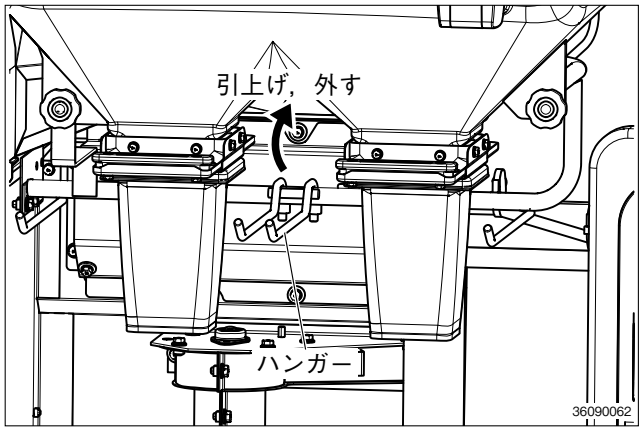
9．ホッパの脱着のしかた

⑴　第２こぎ室，揚こくラセンの掃除，ベルトの点検，調整時には，ホッパを取外して行います。また，ホッパ内部を掃除するときも外して行うと容易です。

⑵　ホッパとコンバイン本体を接続している電気配線のコネクタ部を外します。



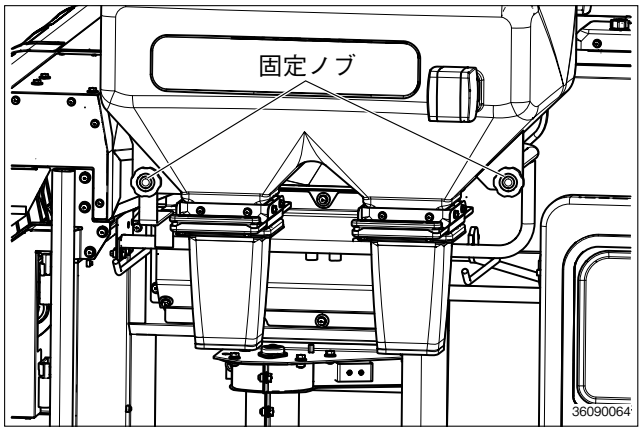
⑶　ハンガーを上方に引上げ，外します。



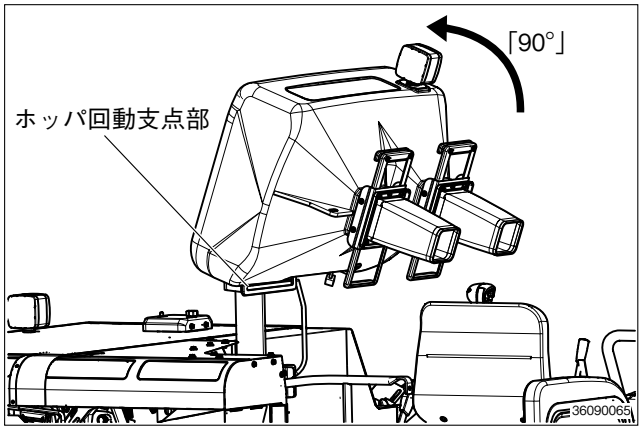
取扱いのポイント

●ホッパ内の籾を全て排出してから，ホッパを取外してください。ホッパ内に籾が入ったままだと機械を破損する事があります。

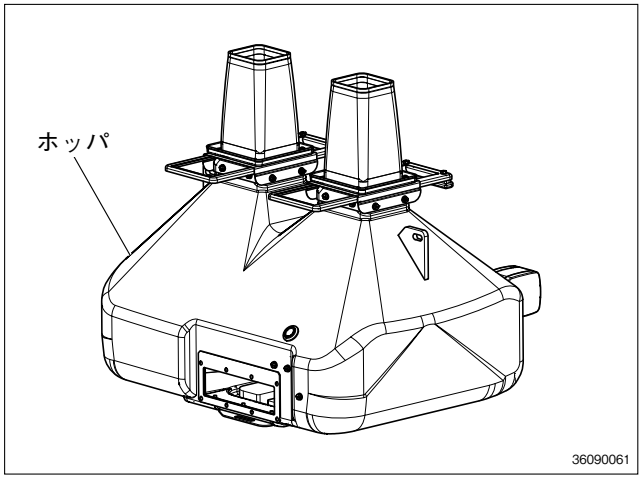
⑷ 固定ノブを緩めて，外します。



⑸ ホッパ下部を両手で支えて，矢印の方向に「90°」回動させながら持ち上げます。この状態でホッパを少し押し出すと，回動支点部から外れます。



⑹ ホッパを作業の妨げにならない所に静置します。



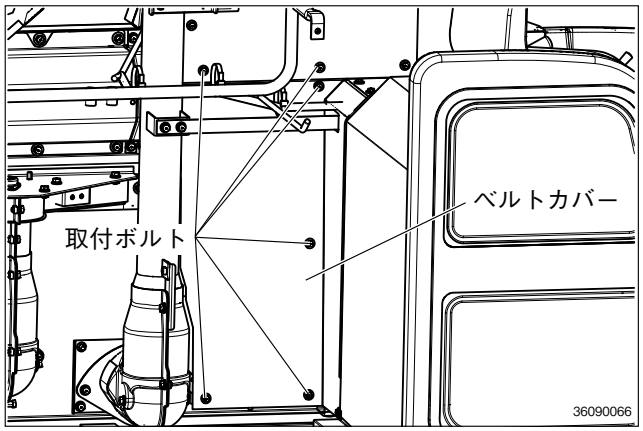
⑺ 取付は，取外しの逆の手順で行ないます。

10. ベルトカバーの脱着のしかた［ホッパ仕様］

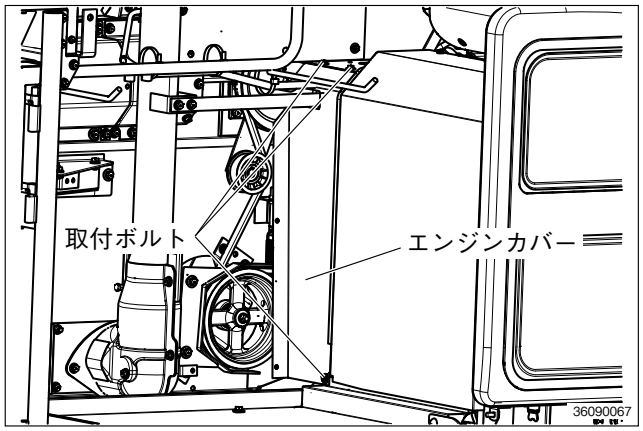
・ベルトの点検，調整時にはベルトカバーとエンジンカバーを取外して行います。

⑴ ホッパを取外します。(89ページ参照)

⑵ ベルトカバー取付ボルト（６ヶ）を外しベルトカバーを取外します。



⑶ エンジンカバー取付ボルト（３ヶ）を外しエンジンカバーを取外します。



11．脱こく内部の掃除

異品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

⚠警告 傷害事故防止のために

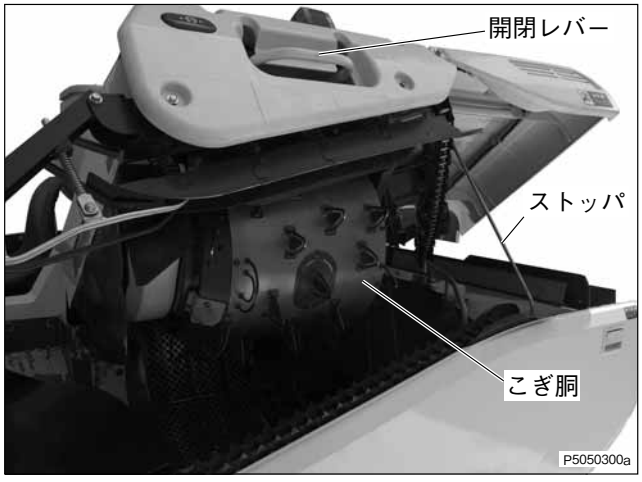
◆各カバー，フタを開き，脱こく内部を掃除するときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆２人以上で作業する場合，回転部を動かすときは互いに声をかけあい，確認してから行なってください。
◆こぎ胴部を開いたときは，ストッパをかけてください。
◆カッタをオープン状態で点検作業する場合は固定（ロック）にして作業を行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆作業後カバーを取付けてください。

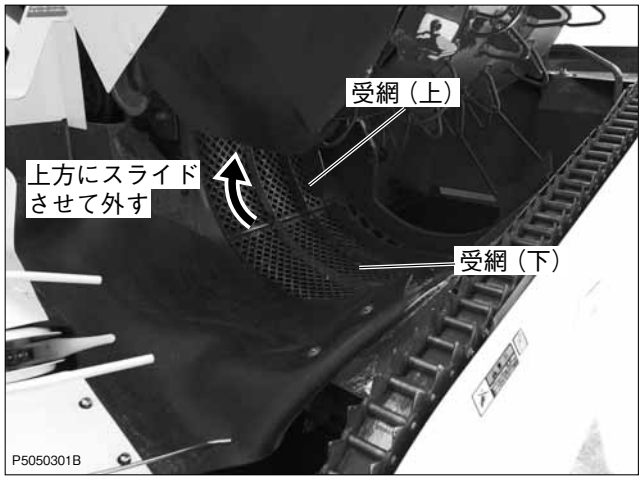
❶ こぎ室内部，脱こく受網の掃除

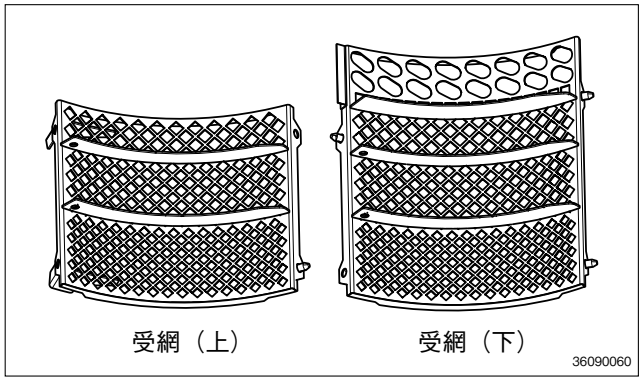
(1) こぎ胴部を開いてストッパで固定します。



(2) こぎ室内部にたまった穂切れ・ワラクズなどを掃除します。

(3) 受網（上）を上方へスライドさせた後，手前に引出します。
受網を取外して，受網にささったワラクズを掃除します。





(4) 受網の取付けは取外しと逆順に装着し，固定します。

(5) こぎ胴部を降ろすと自動的に，固定します。

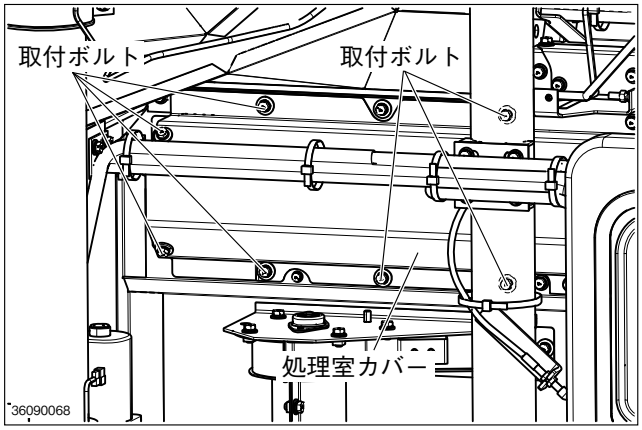
取扱いのポイント

- **受網が装着できないときは脱こく本体側に付着しているワラクズを取除いてください。(受網先端部にたまっているクズは脱こく入口部より取除きます。)**
- **シーズンオフの長期格納時には受網は取外して掃除をしてください。**
  (格納中の錆付こう着防止のため)
- **こぎ胴部を開いているときはエンジンを始動しないでください。**

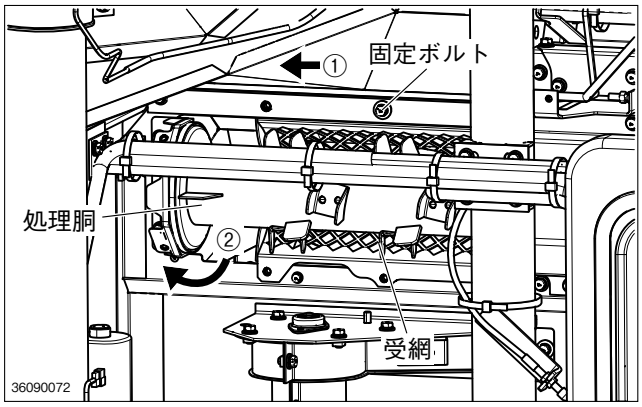
❷ 第２こぎ室などの掃除，点検

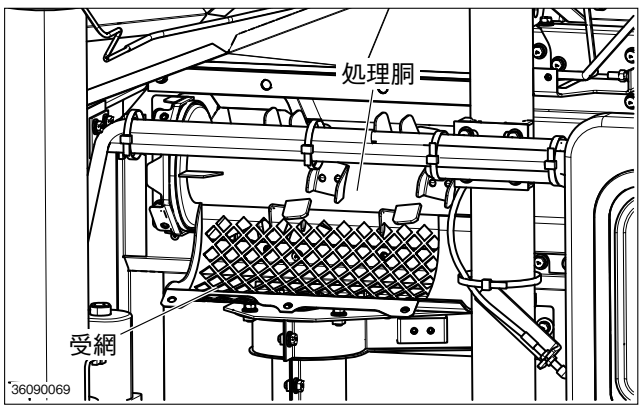
⑴ ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを取外します。(88ページ参照)［**ホッパ仕様**］はホッパを取外します。(89ページ参照)

⑵ 取付ボルトを取外し，処理室カバーを取り外します。(７ケ)



⑶ 受網の固定ボルトを外し，受網を矢印①方向にズラします。次に矢印②方向に第２こぎ胴を回転させながら受網を下側にスライドさせて外します。





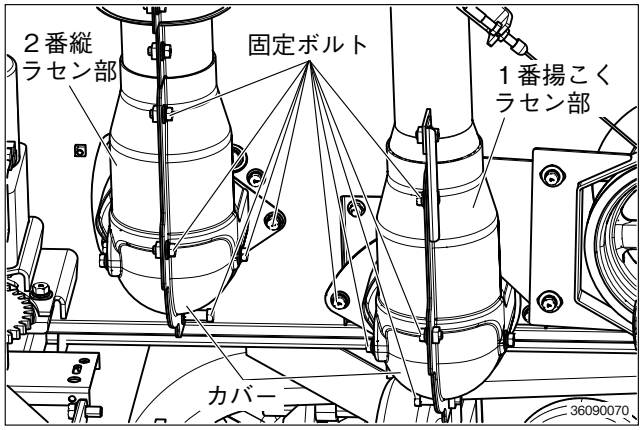
⑷ 処理室内部と受網に付着したワラクズや残粒を取除きます。

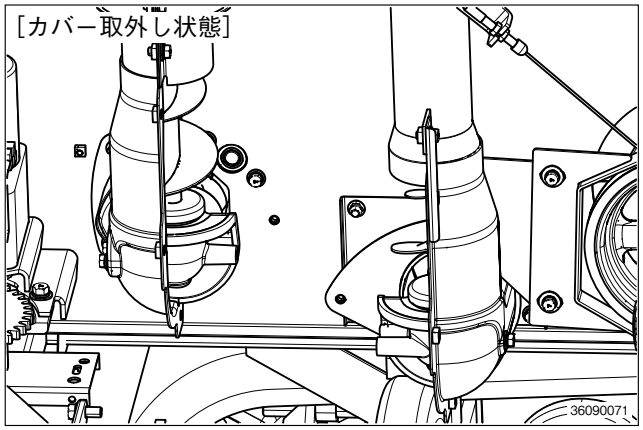
⑸ 掃除後は逆の手順で元どおりに取付けます。

❸ １番揚こくラセン部，２番縦ラセン部の掃除

⑴ ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを取外します。(88ページ参照)［**ホッパ仕様**］はホッパを取外します。(89ページ参照)

⑵ 固定ボルト（11ケ）を取外し，１番揚こくラセン部，２番縦ラセン部各々のカバーを取外します。





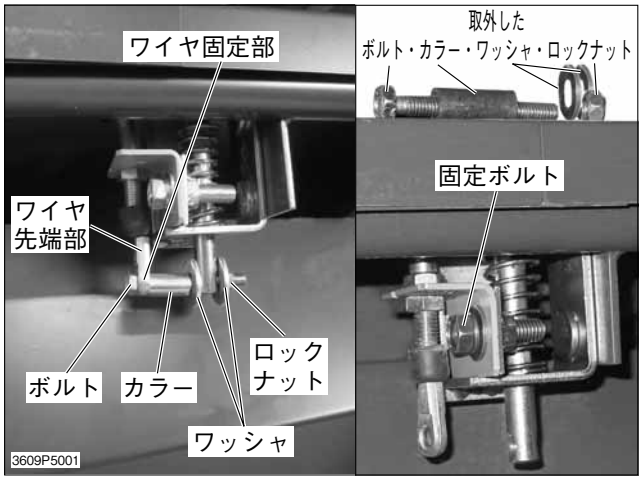
⑶ １番揚こくラセン部，２番縦ラセン部内部に付着したワラクズや残粒を取除きます。

⑷ 掃除後は逆の手順で元どおりに取付けます。

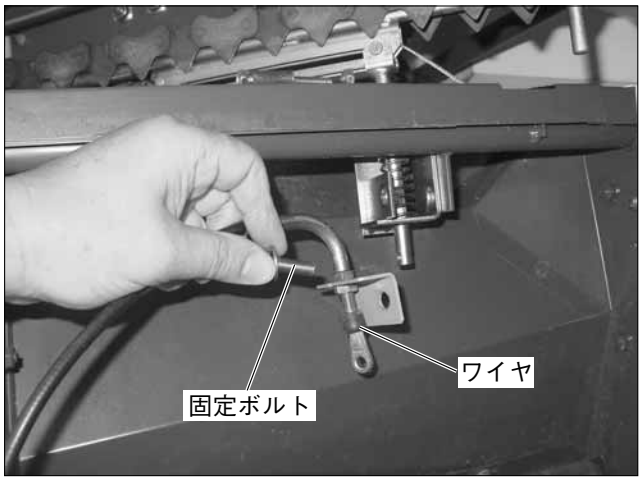
❹ 揺動選別部の取外し

(1) カッタをオープンします。(98～99ページ参照)

(2) ワイヤ固定部よりロックナットを外し，ボルトとカラーとワッシャを外して，ワイヤ先端部を取外します。

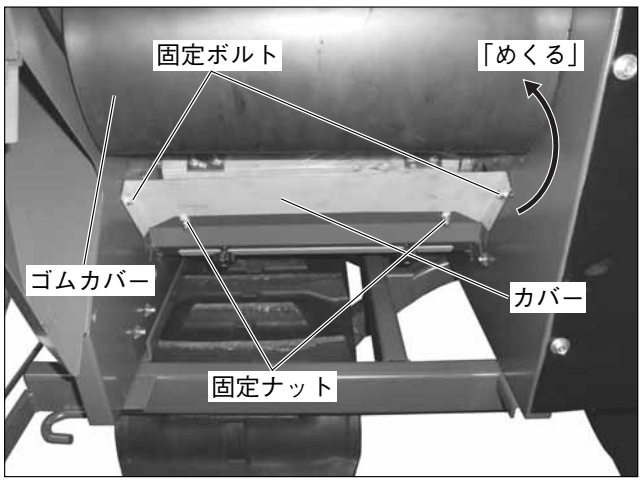


(3) 固定ボルトを外し，ワイヤを取外します。

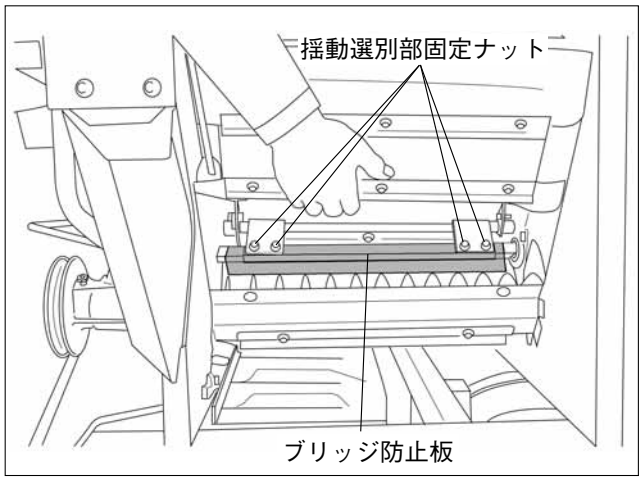


(4) ゴムカバーをめくります。

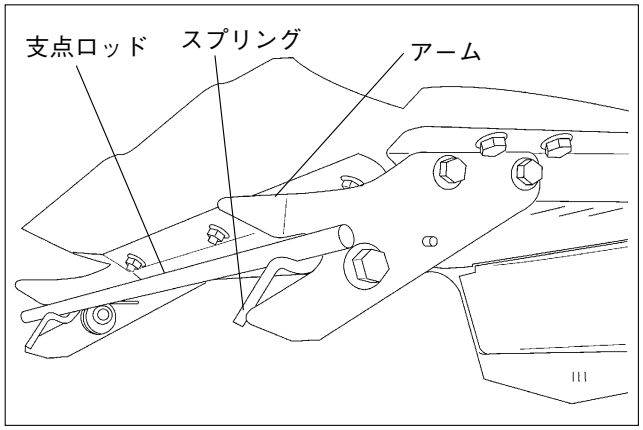
固定ボルト，ナットを取外し，カバーを外します。



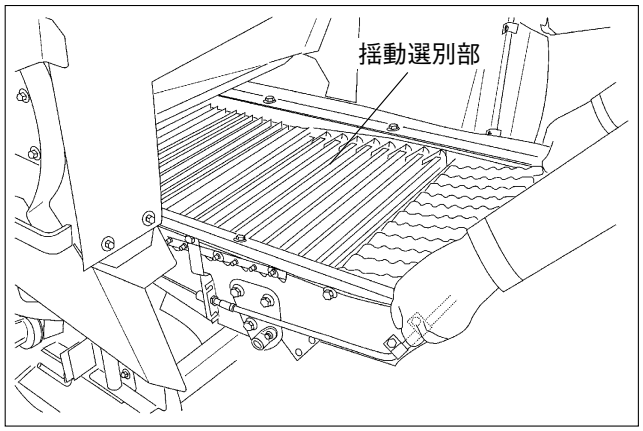
(5) 揺動選別部固定ナットを外し，ブリッジ防止板を外します。



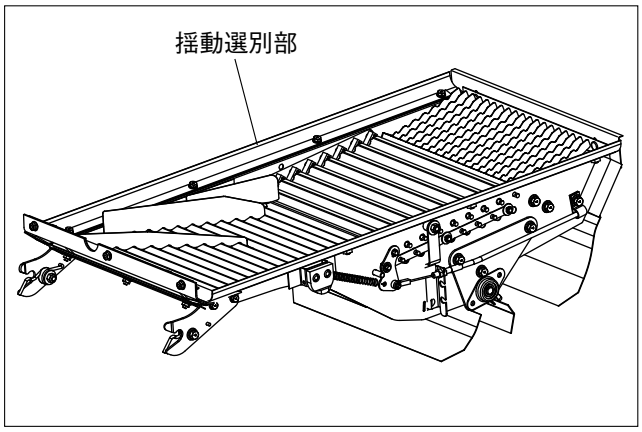
(6) 支点ロッドにスプリングがかみ込んでいますので，揺動選別部後部を手で持って後方に引き，外してください。



(7) 揺動選別部後部を手で持って，ゆっくりと抜き出します。



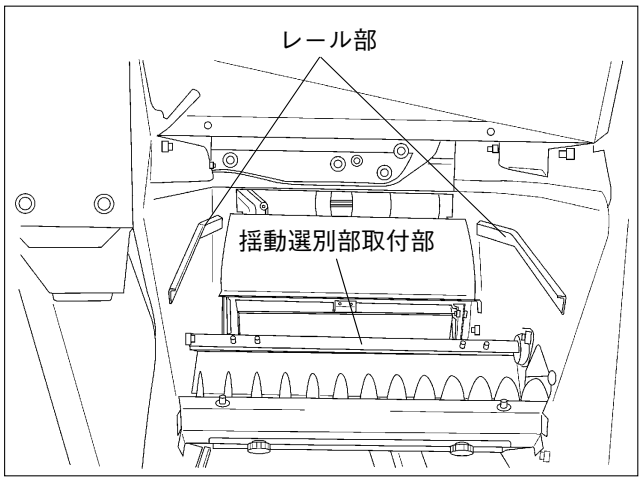
⑻ 落とさないように注意しながら，揺動選別部を作業の妨げにならない場所に静置します。



⑼ 揺動選別部に付着したワラクズや残粒を取除きます。

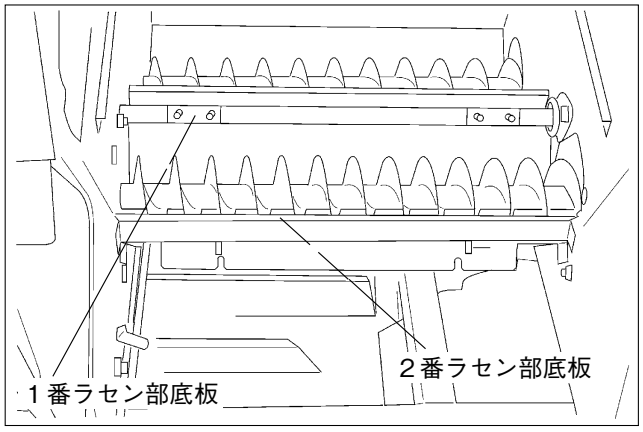
❺ 揺動部の掃除

⑴ レール部，揺動選別部取付部に付着したワラクズや残粒を取除きます。

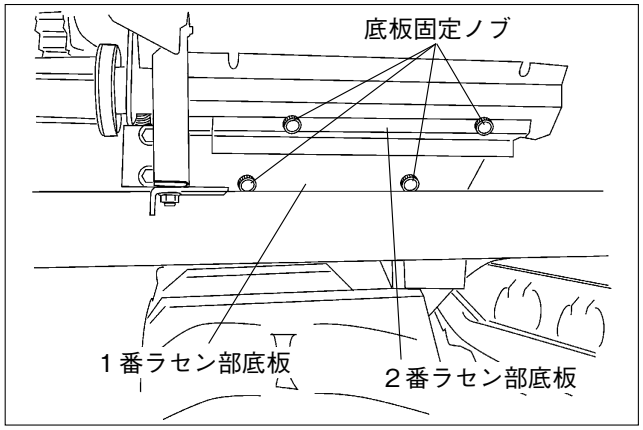


❻ 脱こく底板の掃除

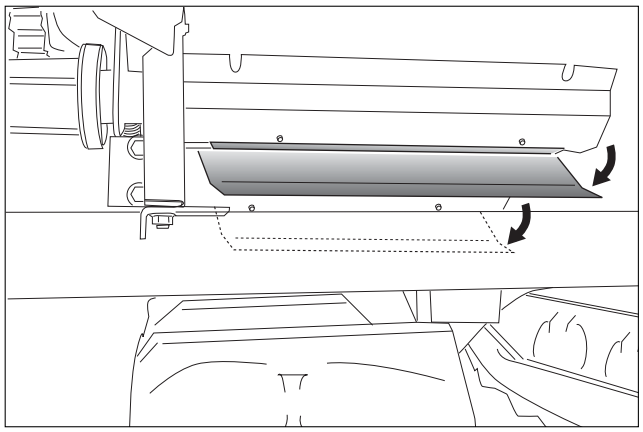
⑴ １番ラセン部，２番ラセン部の底にワラクズや残粒がたまっています。



⑵ 底板固定ノブを外します。



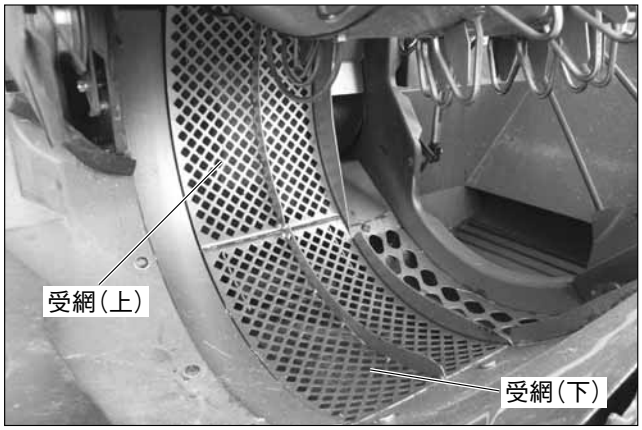
⑶ 底板を開いて中のワラクズや残粒を排出します。



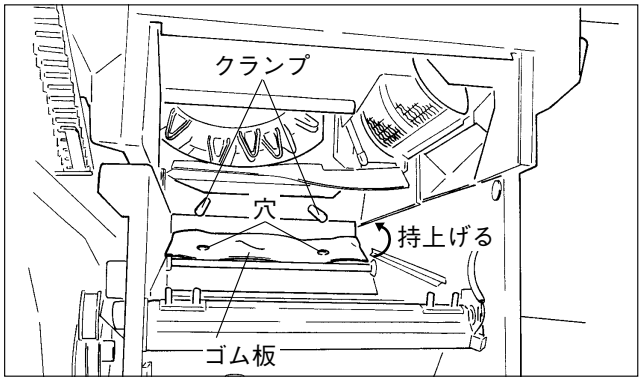
⑷ 掃除が終わったら，底板を閉じてノブで固定します。

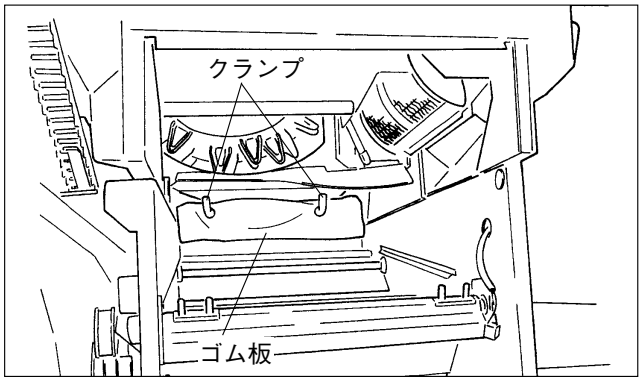
❼ 揺動選別部の取付けかた

⑴ 脱こく部を開いた状態にし，受網（上），（下）の順で外します。



⑵ 揺動選別部前方のゴム板を持上げてゴム板の穴にクランプを通して固定します。（揺動選別部でゴム板を噛込む事を防ぐため）



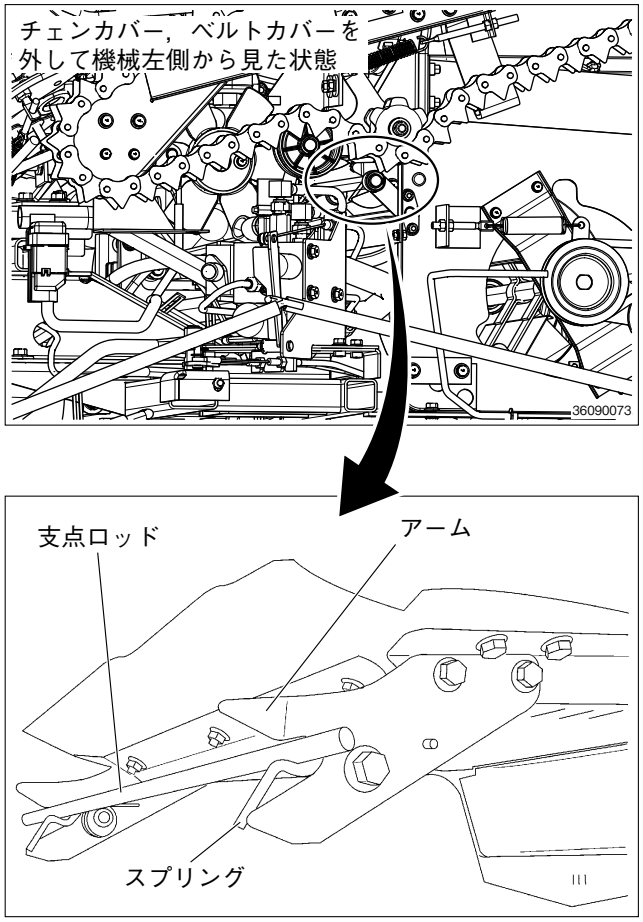


⑶ 取外しと逆の手順で取付けます。

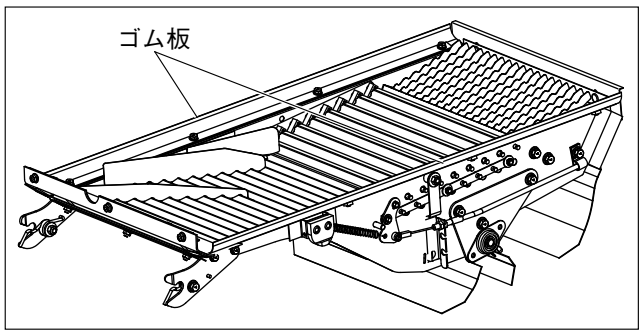
⑷ 揺動選別部先端のスプリングが，支点ロッドにかみ込んだ事を確認します。

取扱いのポイント

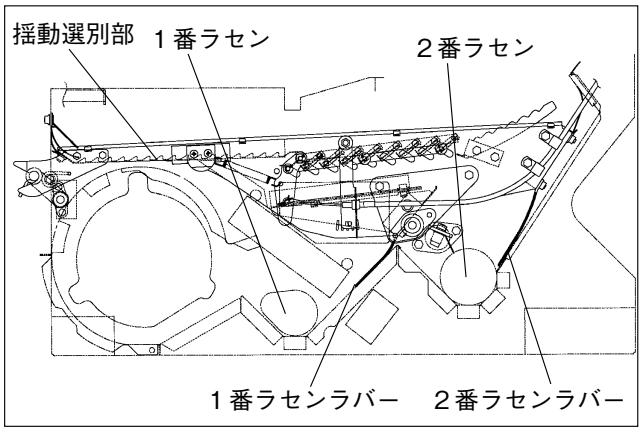
●揺動選別部を押し込んだとき，揺動選別部先端のアームとスプリングが，支点ロッドを挟み込んでいるか確認してください。挟み込んでいない状態で機械を作動させると正常に機能しないばかりでなく，故障の原因になります。



⑸ 揺動選別部両面のゴム板がかみこんで折曲がっていないことを確認します。

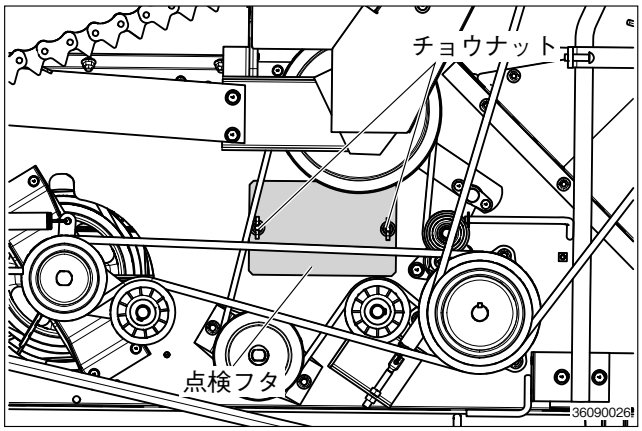


⑹ 揺動下部の１番，２番ラセンラバーが折曲がらずにラセン部に入っている事を確認します。



取扱いのポイント

●２番ラセンラバーは後方から確認します。１番ラセンラバーは点検フタを外して確認してください。



⑺ ⑵で固定したゴム板をクランプから外し揺動選別部の上にのせます。

⑻ 受網をセットします。

⑼ 「❹揺動選別部の取外し」の⑸→⑷→⑶→⑵→⑴の手順に作業すると，揺動選別部を取付ける事ができます。

⑽ 点検フタ，カッタ部，こぎ胴を元どおりに閉じ，サイドカバーを取付けます。

12．グレンタンク部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

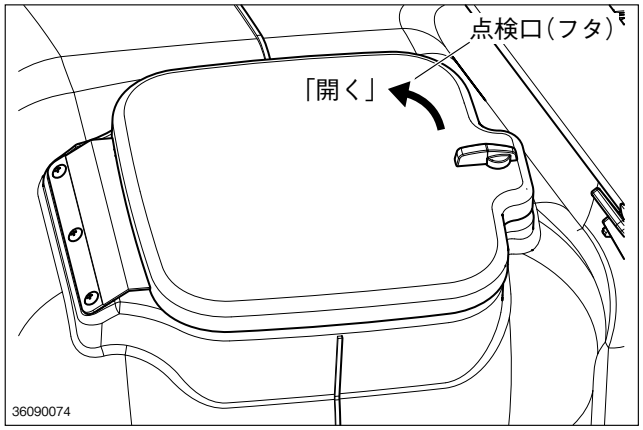
◆グレンタンクの掃除をするときは平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ各部の動きが止まってから行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

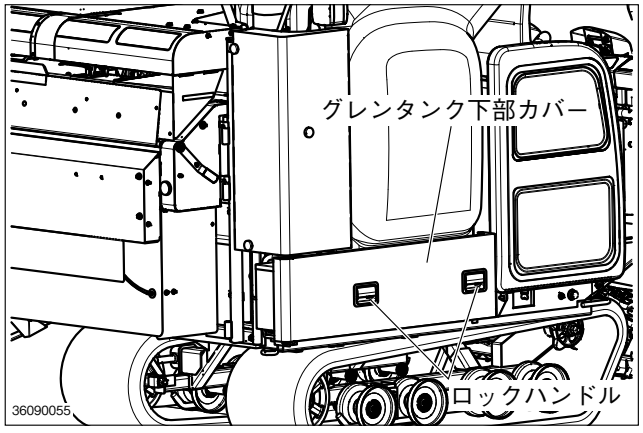
◆作業後カバーを取付けてください。

❶ グレンタンク内の掃除

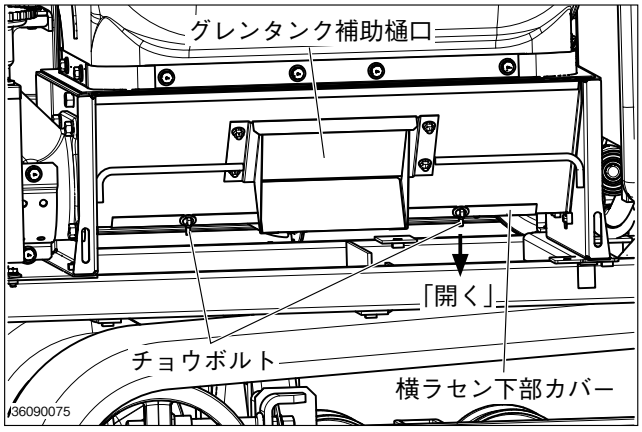
⑴ グレンタンク上部の点検口を開き内部を確認し，必要によりホウキなどでホコリを払います。



⑵ グレンタンク下部カバーロックハンドルのロックを外し，グレンタンク下部カバーを取外します。



(3) グレンタンク補助樋口下方２箇所のチョウボルトをゆるめて外し，横ラセン下部カバーを開き内部を掃除します。

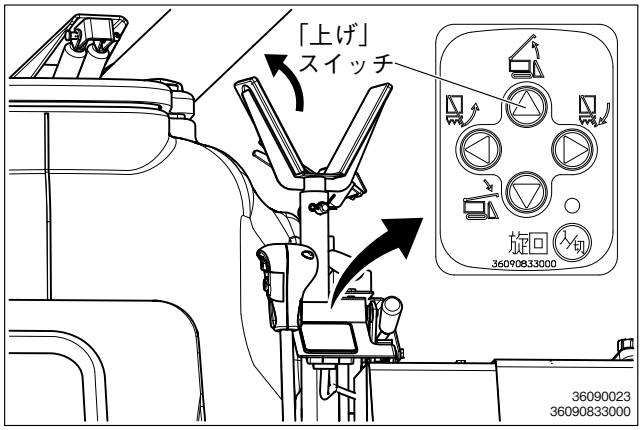


(4) 掃除後は逆の手順で元どおりに取付けます。

❷ 縦ラセン筒上部の掃除

(1) エンジンを始動します。

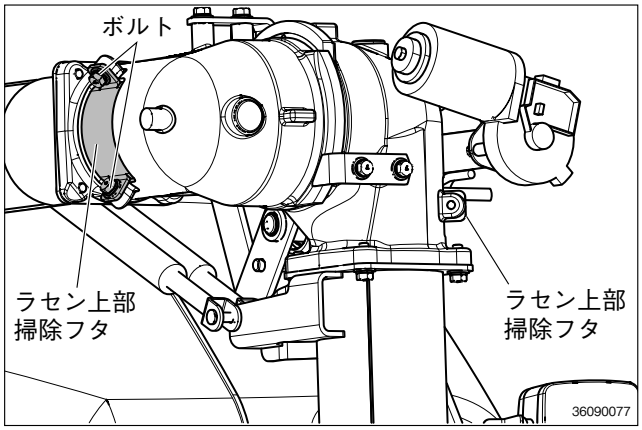
(2) 排出オーガ操作スイッチでオーガを上げます。



(3) エンジンを停止します。

(4) ラセン上部掃除フタ（２箇所）のボルトをゆるめてフタを開きます。

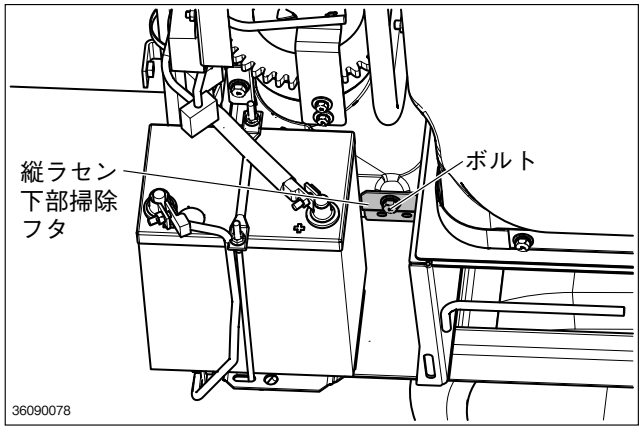
(5) 内部を掃除します。



(6) 掃除を終わったら，ラセン上部掃除フタを閉じてからエンジンを始動し，排出オーガ操作レバーでオーガを収納します。

❸ 縦ラセン筒下部の掃除

(1) ボルトをゆるめ縦ラセン下部の掃除フタを開いて，掃除します。



(2) 掃除後縦ラセン下部の掃除フタを取付けます。

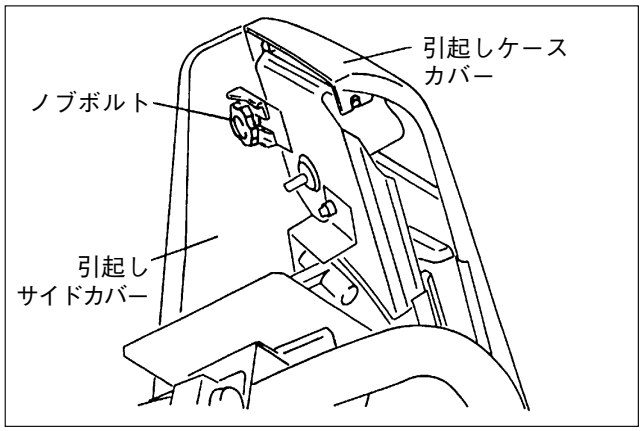
取扱いのポイント

●各掃除フタ（カバー）はモミかみなどによるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。

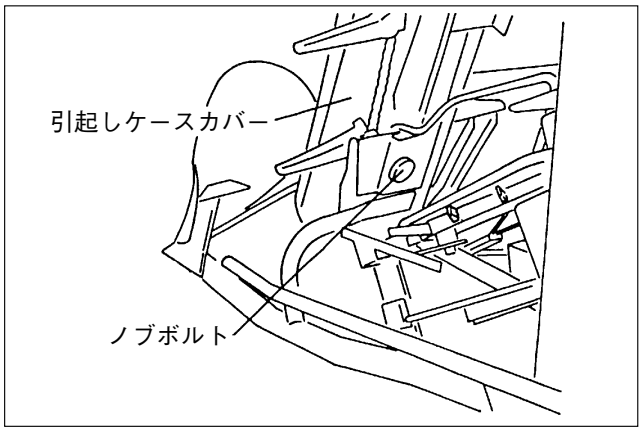
13. 引起しケースカバーの外しかた

[217型]

❶ 引起しケースの上方のノブボルトをゆるめて外し，引起しサイドカバーを上方に引き取外します。



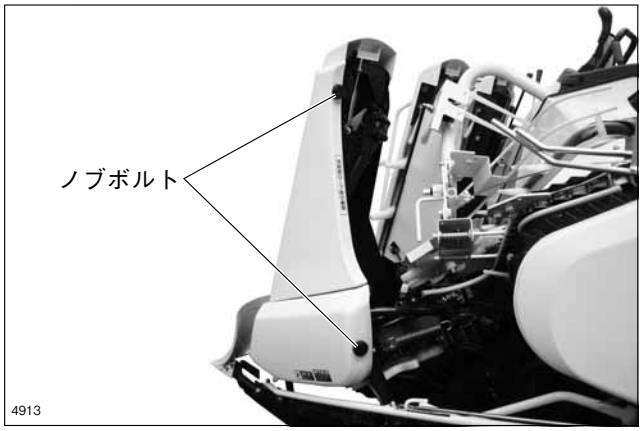
❷ 引起しケースの下方のノブボルトを外し，引起しケースカバーを上方に引き取外します。



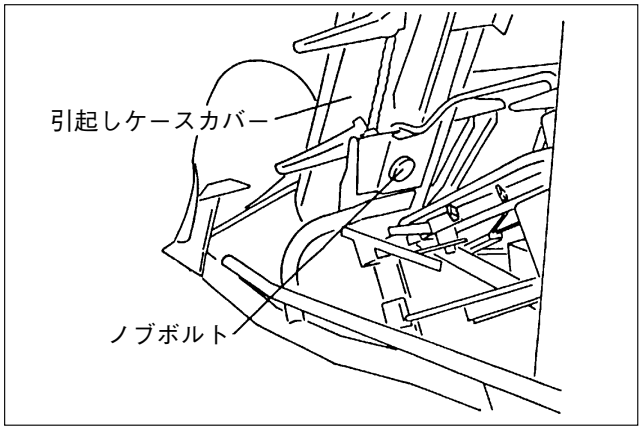
❸ 作業後カバーを取付けてください。

［319型］

❶ 引起しサイドカバーの上部および下部にあるノブボルト２本を取外し，引起しサイドカバーを前方へ移動させ下部にあるピンから取外します。

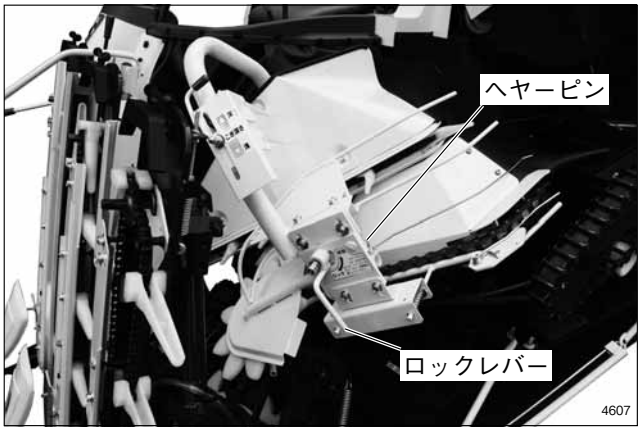


❷ 引起しケースの下方のノブボルトを外し，引起しケースカバーを上方に引き取外します。



14．スターホイル（左）の脱着のしかた

❶ ヘヤーピンを外し，ロックレバーを解除側へまわします。



❷ スターホイル（左）を取外します。



❸ 取付けるときは，逆の手順で行います。

15．カッタオープンのしかた

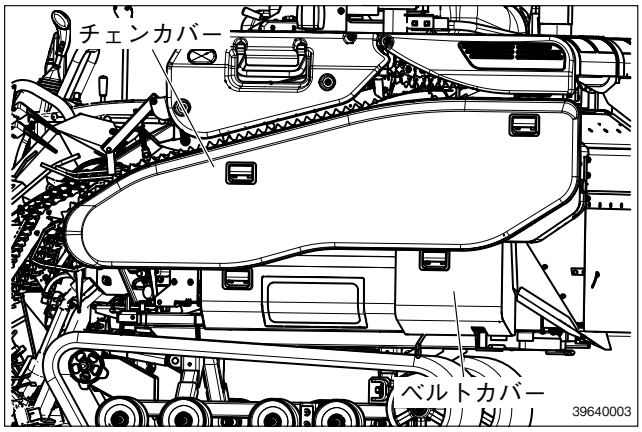
⚠注意 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。

◆カッタをオープンして点検作業などをするときは，ストッパにスナップピンを差込みロック状態にしてください。
ストッパをロック状態にしないとカッタが回動して傷害事故を起こすことがあります。

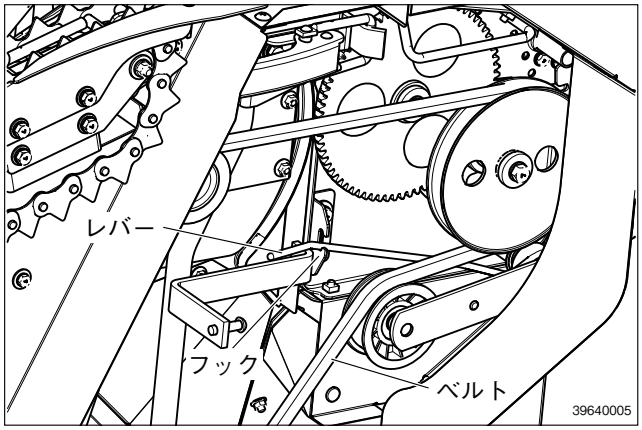
◆カッタをオープンしたときはカッタ刃に触れないようにしてください。

❶ チェンカバー，ベルトカバーを外します。

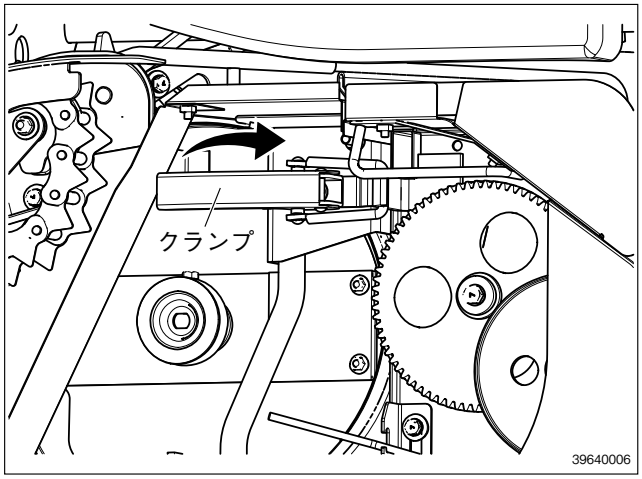


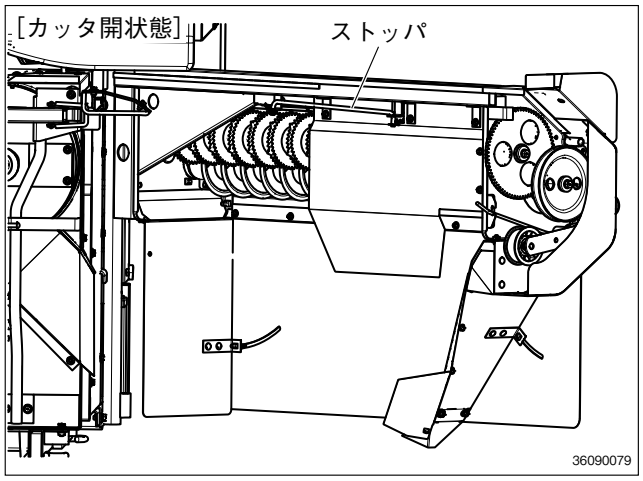
❷ レバーをフックより外してベルトの張りを解除します。

❸ ベルトを外し，レバーをフックに再び掛けます。

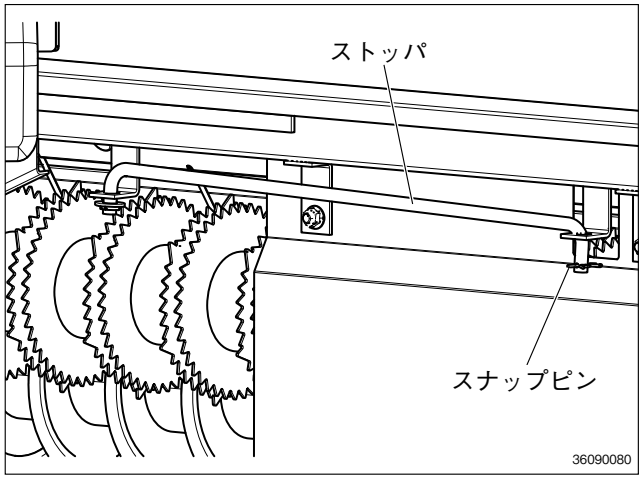


❹ クランプを解除し，カッタの左側を持ち上げる様にして，ゆっくり後方へカッタを回動します。

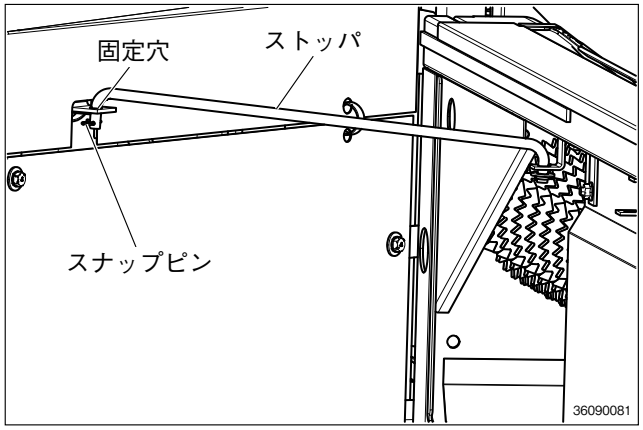




❺ ストッパ先端のスナップピンを抜き，ストッパを回動させ，コンバイン本体の固定穴に差し込みます。



❻ ストッパを固定穴に入れたら，スナップピンでロックします。



❼ カッタを閉じるときはカッタのオープンの逆の手順に行います。

・カッタを閉じたとき，駆動プーリよりベルトが外れていないか確認してください。

・作業後カバーを取付けてください。

4. 各部の点検と部品交換のしかた

1．カッタ刃組品の取外しと分解

⚠警告　傷害事故防止のために

◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し２人作業で合図をし合って行なってください。
◆ノコ刃を交換するときは，刃に「あて布」を被せてください。
◆ノコ刃軸，カキコミ軸のナットをゆるめるときはメガネレンチなどで確実に固定してください。

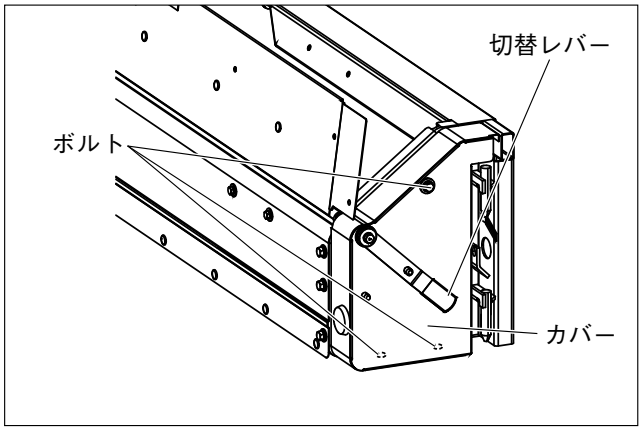
⚠注意　傷害事故防止のために

◆カッタをオープンしてカッタ刃組品の取外し，分解をするときはストッパにスナップピンを差込みロック状態にしてください。

❶　カッタ刃組品の取外し

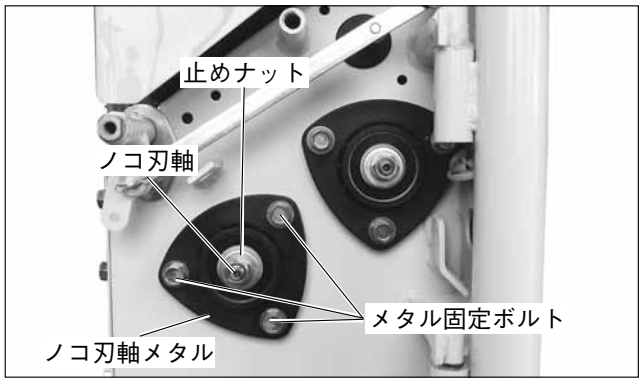
ノコ刃軸の交換のしかた

(1)　カッタ右側のカバーを外します。

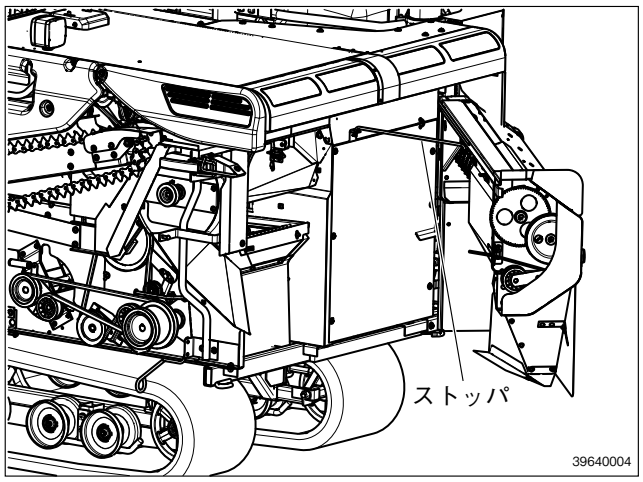


(2)　ノコ刃軸の止めナットを外します。このときスプリングワッシャ，ワッシャも外します。

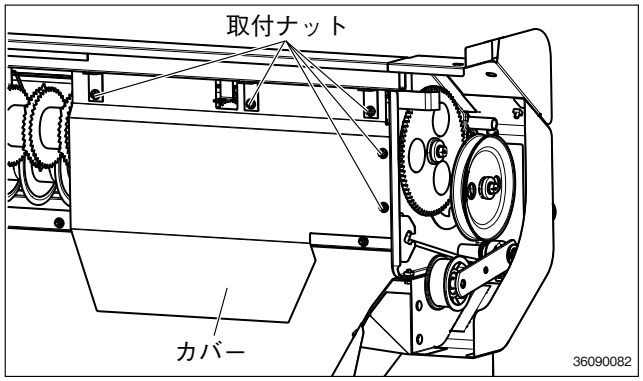
(3)　メタル固定ボルトを外して，メタルを外します。



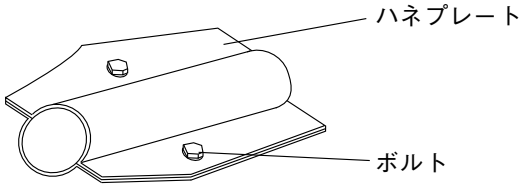
(4)　カッタを開いてストッパで固定します。



(5)　カバー取付ナット（５ヶ）を外しカバーを外します。

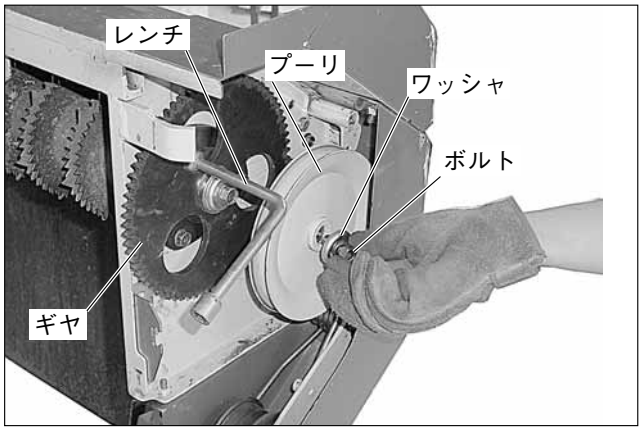


ここで，穂先側のハネプレートのボルト２本を外して取ります。

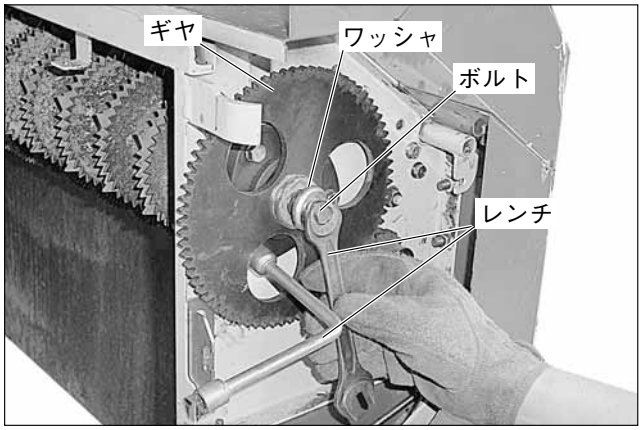


⑹ ギヤが回らないようにレンチなどの工具でギヤを固定します。

⑺ プーリの取付ボルト，ワッシャを外し，プーリを外します。

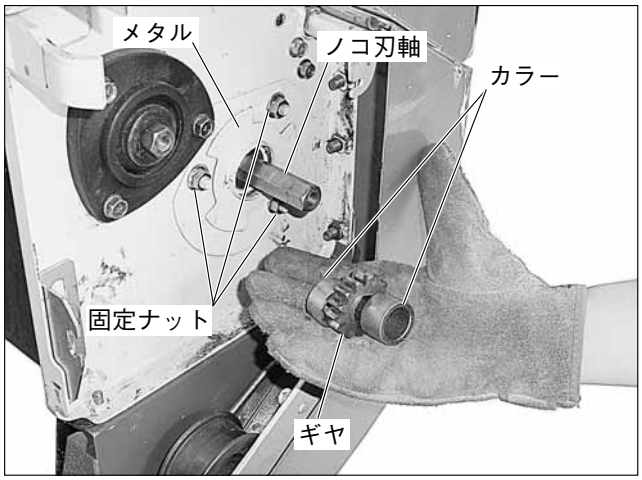


⑻ ギヤの固定ボルト，ワッシャを外してギヤを外します。

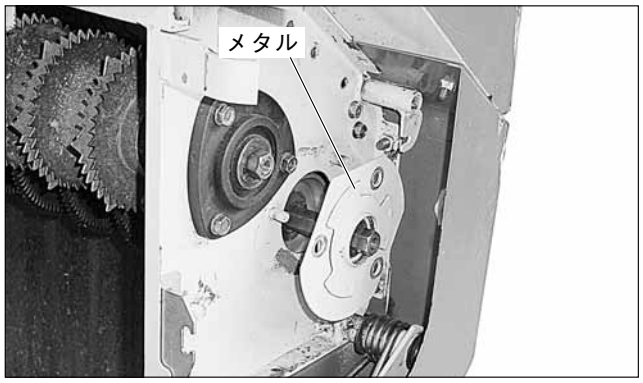


⑼ ノコ刃軸のカラー，ギヤを抜き取ります。

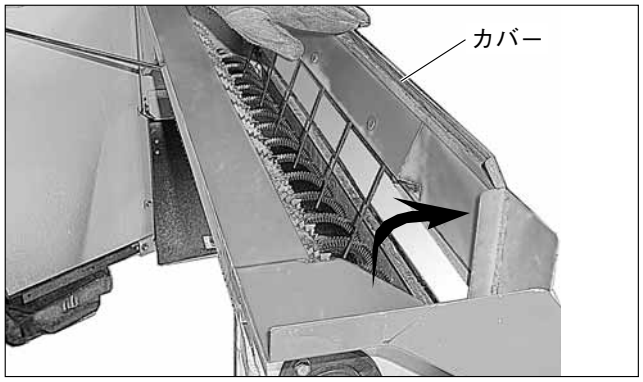
⑽ メタルの固定ナットを外します。



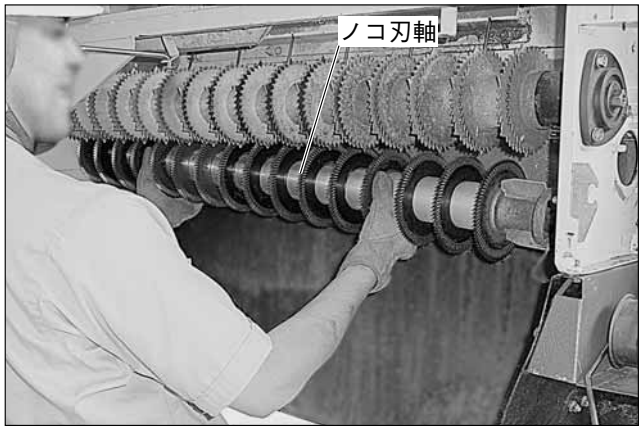
⑾ ノコ刃軸組品を持ち上げる様にして，メタルを抜き出します。

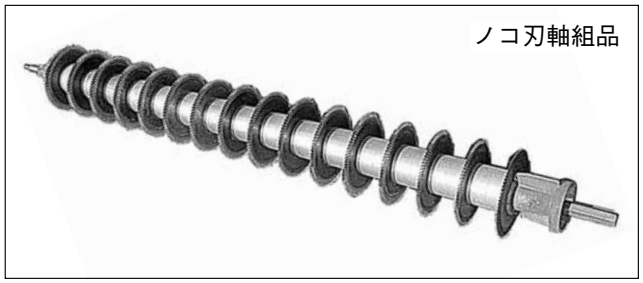


⑿ カッタ上部のカバーをオープンします。



⒀ ノコ刃軸を両手で支えながら，左にスライドさせると，ノコ刃軸右側がカッタ本体から外れます。



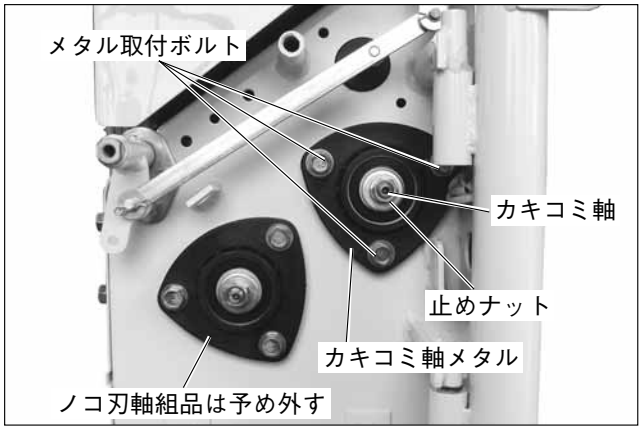


各メタル部には調整ライナが使用されている場合があります。組付時に必要ですので注意願います。

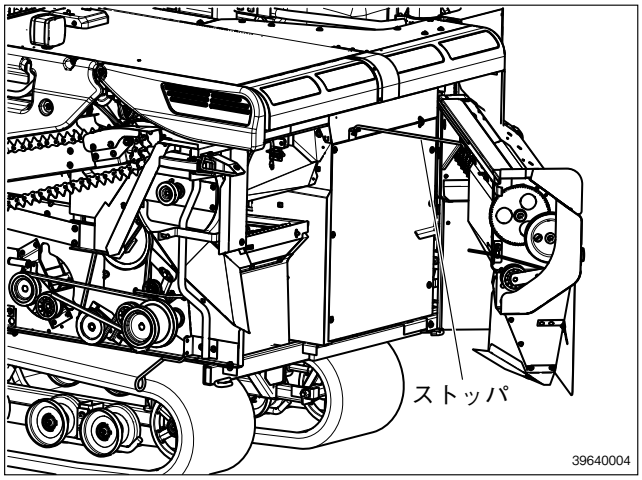
カキコミ軸の交換のしかた

(1) ノコ刃軸組品を外します。カッタを閉じた状態で，カッタ右側面のカキコミ軸固定ナット，ワッシャを外します。

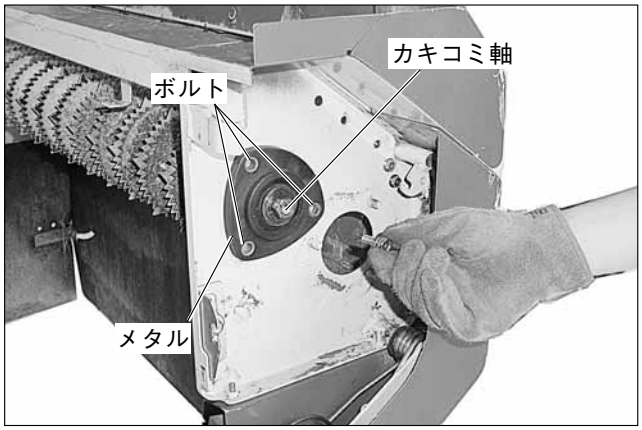
(2) メタルを取付けているボルトを外し，メタルを外します。

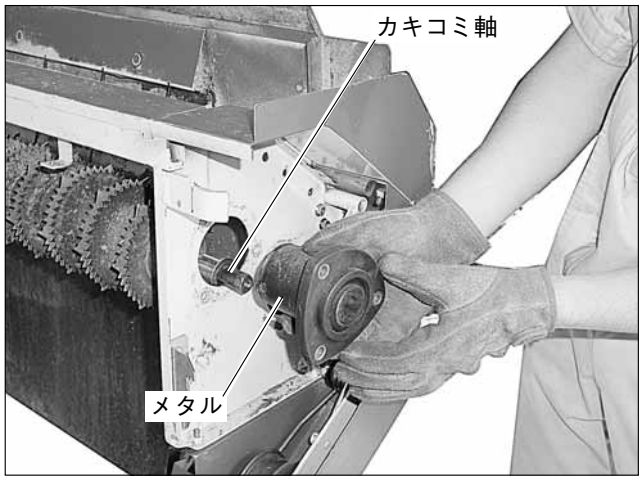


(3) カッタをオープンしてストッパで固定します。

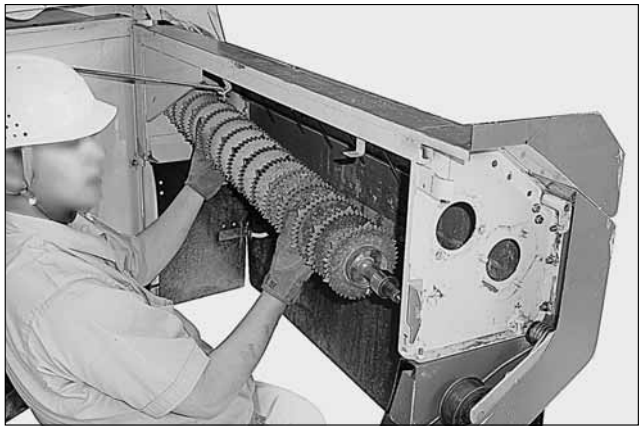


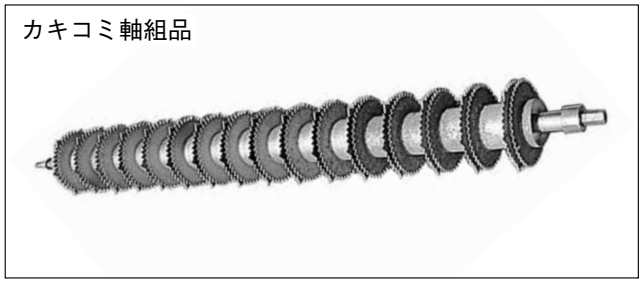
(4) メタルを取付けているボルトを外し，メタルを外します。





(5) カキコミ軸組品を両手で支えながら，左にスライドさせると，カキコミ軸右側がカッタ本体から外れます。





各メタル部には調整ライナが使用されている場合があります。組付時に必要ですので注意願います。

❷ 刃の交換のしかた

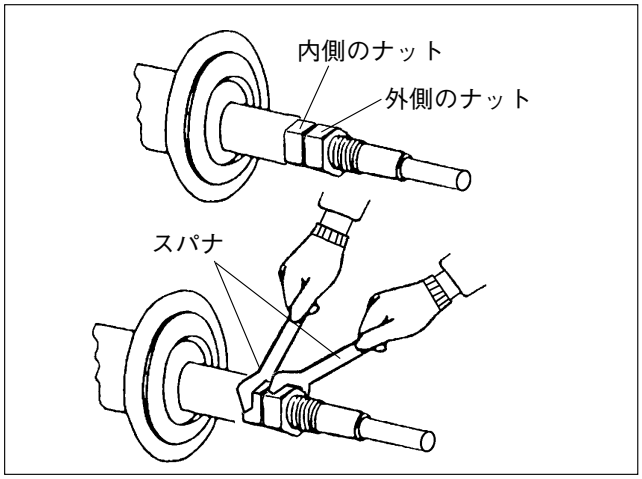
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刃の交換作業は２人作業で行なってください。

◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

⑴ 刃先を傷付けないよう板または布・ダンボールなどを下に敷いてください。

⑵ ノコ刃軸およびカキコミ軸を分解する場合は，スパナ２本を使用し，片方のスパナで内側のナットを固定し，もう一方のスパナで外側のナットをゆるめます。



⑶ 軸にそって部品を抜取ります。

⑷ ノコ刃，カキコミバンを新品に交換し，取付けてあった順に組付けます。(ノコ刃軸，カキコミ軸の組立て図参照)

取扱いのポイント

- **カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，カキコミバン・オサエバンとノコ刃の接触がないことを，確かめてください。刃がほぼ中央にあるのが最適です。**
- **ノコ刃，カキコミバンの取付けのときは刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。**

[組立時の注意](ノコ刃軸，カキコミ軸の組立て図参照)

⑴ (28) シャフトA，(29) リング，(30) ハネ，(31) ノコハ，(32) パイプA，(33) パイプC，(35) スペーサ，(38) ナットの組立時には (28) シャフトAを地面に対して垂直に立てて組立て (31) ノコハが (28) シャフトAに対して垂直になるようにします。

⑵ (39) シャフトB，(40) リング，(41) スリーブ，(42) カラー，(43) ワッシャ，(44) オサエバン，(45) カキコミバン，(46) オサエバン，(47) パイプB，(48) パイプD，(49) オサエバン，(50) ワッシャ，(51) カラー，(52) ライナ，(53) ワッシャ，(54) ナットの組立時には，(39) シャフトBを地面に対して垂直に立てて組み立て，(46) オサエバンが (39) シャフトBに対して垂直になるようにします。

⑶ (45) カキコミバンは (46) オサエバンと刃筋が揃うようにくみ (31) ノコハの向きに注意して組み付けてください。(A部拡大図を参照してください。)

⑷ (32) パイプA，(33) パイプC，(47) パイプB，(48) パイプDの識別に注意し，挿入方向は図の通り組み込んでください。
(識別線付きの物がノコ刃側です。)

⑸ (38)，(54) ナットの締め付けトルクは24．5～29．4N・m (250～300kgf・㎝) です。確実に締め付けてください。

⑹ (38)，(54) ナットを締め付けたとき，ノコ刃軸，カキコミ軸共に，図の (X)，(Y) 寸法が898.5～901.5㎜になるように (55) ライナで調整します。

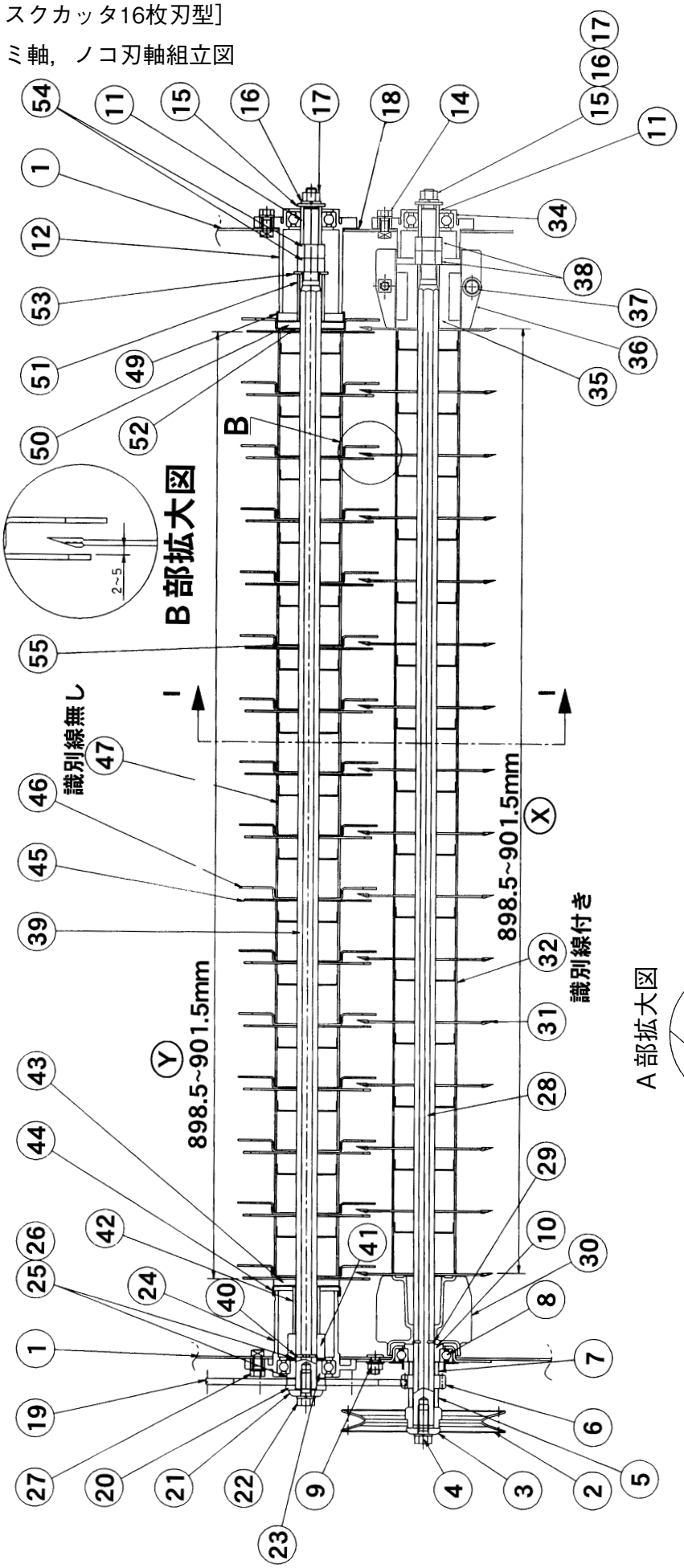
⑺ (6) ギヤ14と (19) ギヤ74の歯面には，リチウムグリスを塗布し，バックラッシュが0.1～0.25 (わずかに歯が動く程度) になるように (8) メタルA，(24) ホルダCを取付けます。

⑻ 左側のプーリ，ギヤなどを全て締め付けたとき，(31) ノコ刃と (45) カキコミバン，(46) オサエバンの隙間が2～5㎜ (ほぼ中央) となるよう (26) ライナを使用して調整してください。(B部拡大図を参照してください。) このとき，分解時のライナ使用位置にライナを使用してください。

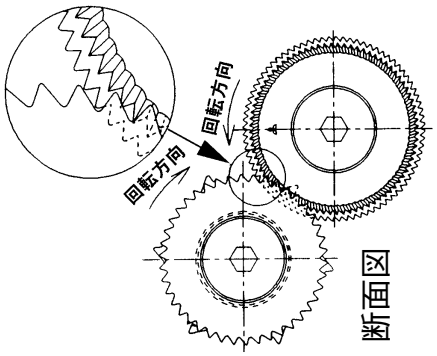
⑼ (4) ボルト，(17) ナット，(22) ボルトの締め付けトルクは，39～44N・m (400～450kgf・㎝) です。確実に締め付けてください。

● ［ディスクカッタ16枚刃型］

カキコミ軸，ノコ刃軸組立図



A部拡大図



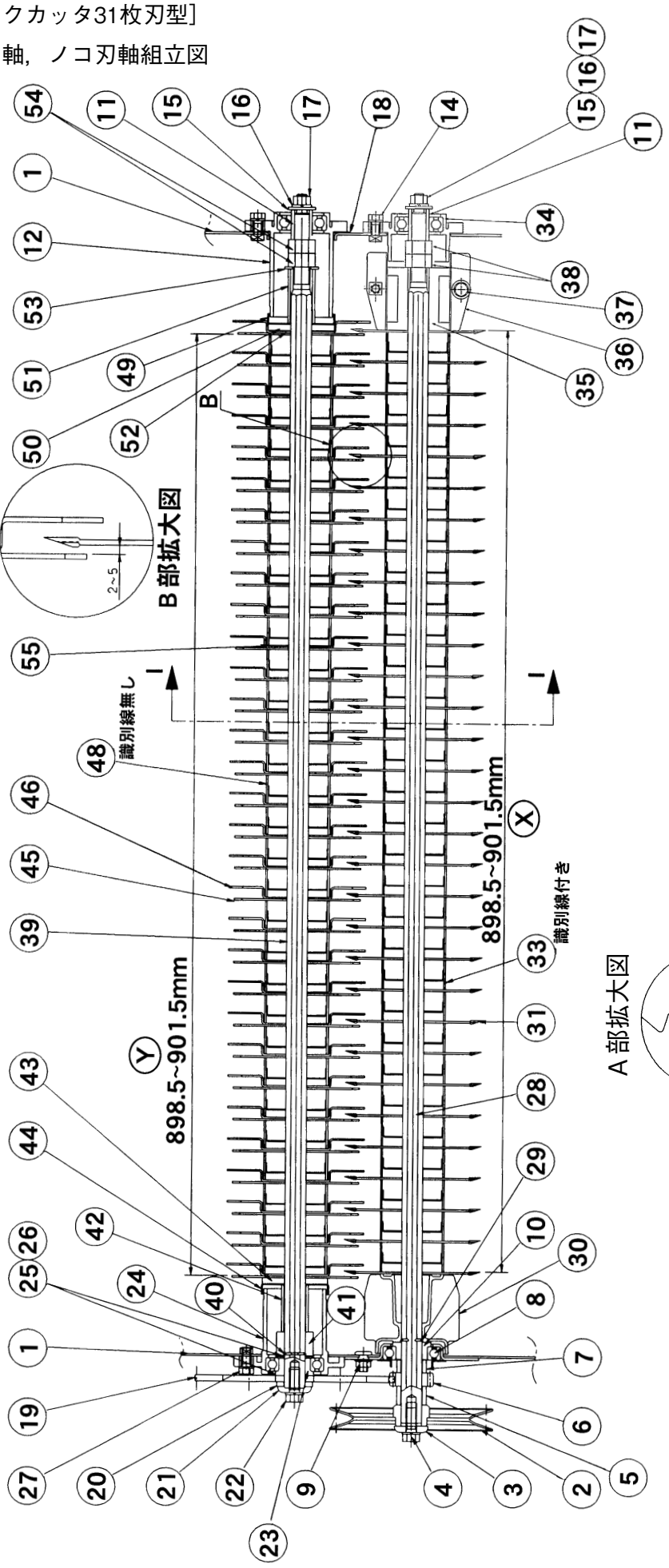
I～I断面図

取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。
  順序を違えるとカキコミバン，オサエバンとノコ刃が合わなくなります。

● ［ディスクカッタ31枚刃型］

カキコミ軸，ノコ刃軸組立図



取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。
  順序を違えるとカキコミバン，オサエバンとノコ刃が合わなくなります。

● ［カッタ部品一覧表］

組み立て図に記載されている部品番号と下表は
対応しています。

部品番号	部 品 名	個　数		部品番号	部 品 名	個　数	
		カッタ16	カッタ31			カッタ16	カッタ31
1	フレーム	1	1	30	ハネ	1	1
2	プーリ143	1	1	31	ノコハ	16	31
3	ワッシャ	1	1	32	パイプA	15	
4	ボルト	1	1	33	パイプC		30
5	カラー	1	1	34	ホルダD	1	1
6	ギヤ14	1	1	35	スペーサ	1	1
7	カラー	1	1	36	ハネプレート	2	2
8	メタルA	1	1	37	ボルト	2	2
9	Fナット	3	3	38	ナット	2	2
10	スリーブA	1	1	39	シャフトB	1	1
11	スリーブB	2	2	40	リング	1	1
12	ホルダB	1	1	41	スリーブ	1	1
13				42	カラー	1	1
14	ボルト	6	6	43	ワッシャ	1	1
15	ワッシャ	2	2	44	オサエバン	1	1
16	Sワッシャ	2	2	45	カキコミバン	16	31
17	ナット	2	2	46	オサエバン	16	31
18	ライナ	任意	任意	47	パイプB	15	
19	ギヤ74	1	1	48	パイプD		30
20	ワッシャ	1	1	49	オサエバン	1	1
21	ワッシャ	1	1	50	ワッシャ	1	1
22	ボルト	1	1	51	カラー	1	1
23	スリーブA	1	1	52	ライナ	1	1
24	ホルダC	1	1	53	ワッシャ	1	1
25	ライナ	2	2	54	ナット	2	2
26	ライナ	任意	任意	55	ライナ	任意	任意
27	ボルト	3	3				
28	シャフトA	1	1				
29	リング	1	1				

2．刈刃の交換のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈刃の着脱作業をするときは，手袋をして２人で刈刃の両端をもって行なってください。

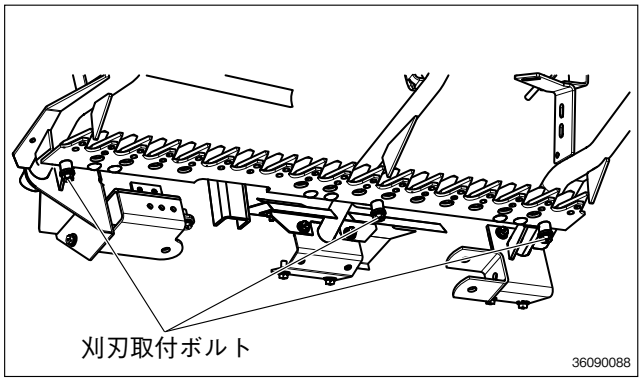
◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いてけがをすることがあります。

◆刈刃を取外すときは，刈取部を上げエンジンを停止し，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にしてください。さらに刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。

[217型]

❶ 刈刃の取外し

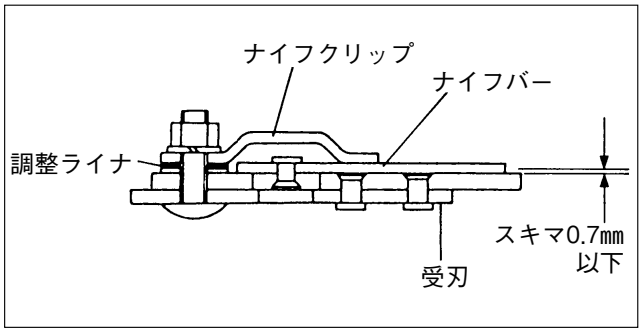
刈刃取付ボルト３箇所を外します。



❷ 刈刃の調整

⑴ 0.2㎜の調整ライナでスキマを0.7㎜以下に調整します。

⑵ 上刃，下刃共スムーズに作動することを確認します。



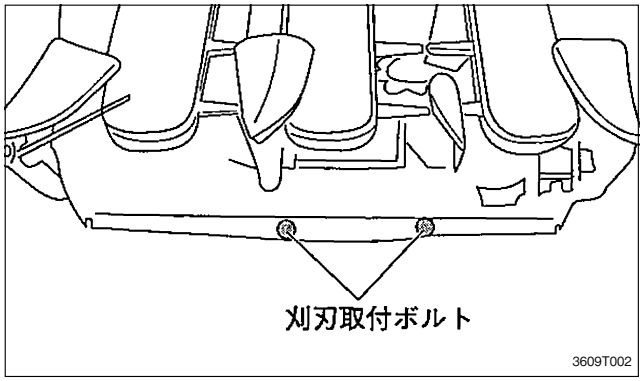
❸ 刈刃の取付け

刈刃取付ボルト３個にて取付けます。

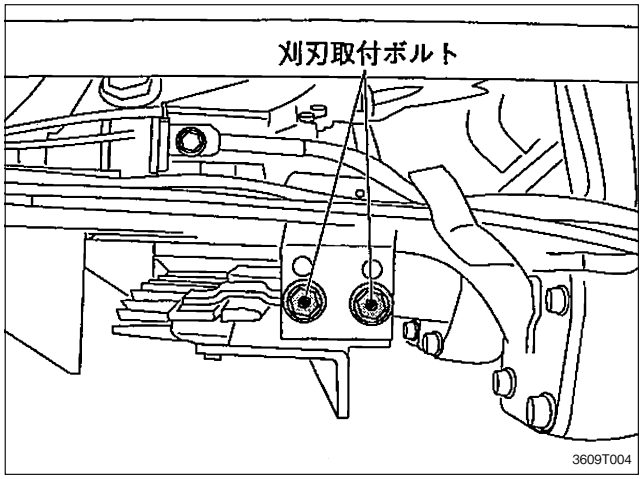
[319型]

❶ 刈刃の取外し

1） 刈取部を上げて，中左・中右の刈刃取付ボルトを外します。



2） 左右の刈刃取付ボルトを外し，刈刃を外します。



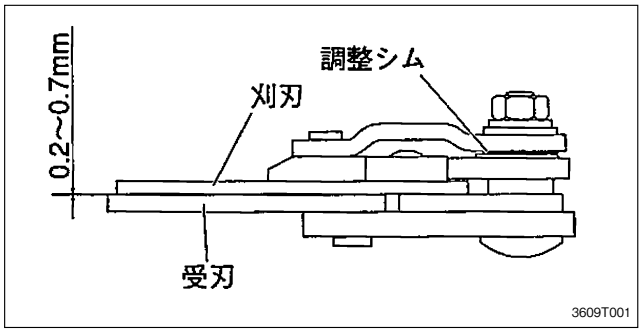
取扱いのポイント

●刈刃駆動ローラの左・右位置を変えないよう注意してください。

❷ 刈刃の調整

⑴ 刈刃と受刃のスキマが0.2～0.5㎜になっているか確認します。

⑵ 調整シム（４箇所）にて刈刃と受刃のスキマが0.2～0.7㎜になるよう調整します。

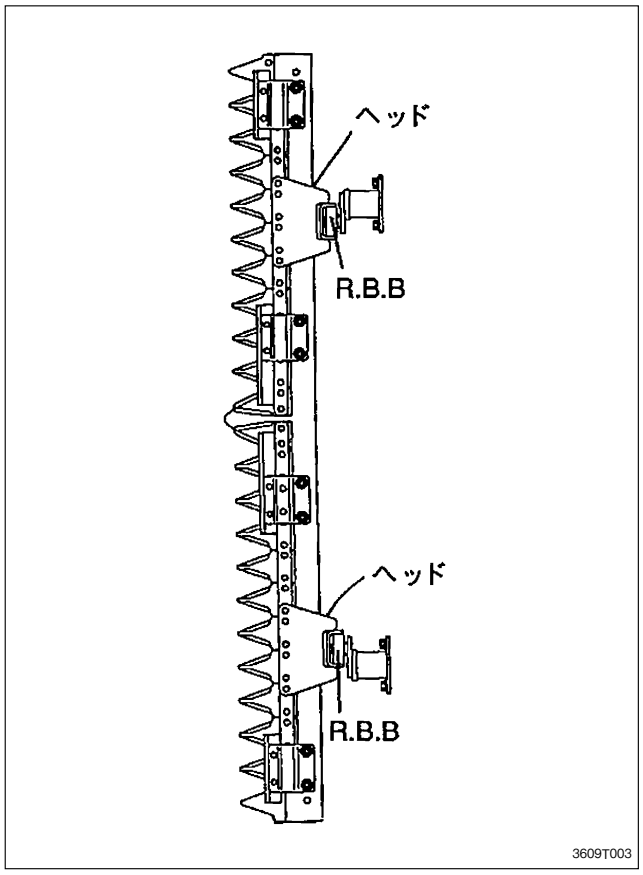


取扱いのポイント

●調整した後，刈刃を手で動かして作動が重くないことを確認してください。

❸ 刈刃の取付け

1） 左右のヘッドとR.B.Bの位置を合わせます。



2） 左右の刈刃取付ボルトを仮止めします。

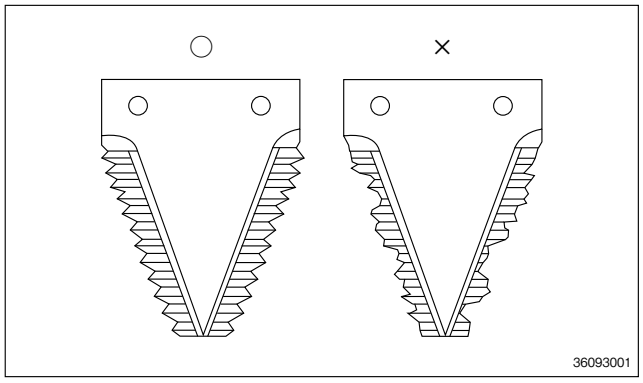
3） 中左，中右の刈刃取付ボルトを，回り止めナットを使用して締付けます。

4） 左右の刈刃取付ボルトを締付けます。

取扱いのポイント

● １日の作業終了後には刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。

●刈刃の欠けおよび摩耗などの異常がない状態で刈跡が揃わなくなった場合は上刃と下刃のスキマを調整し刈刃に注油をしてください。



3．ワラ切カマの交換

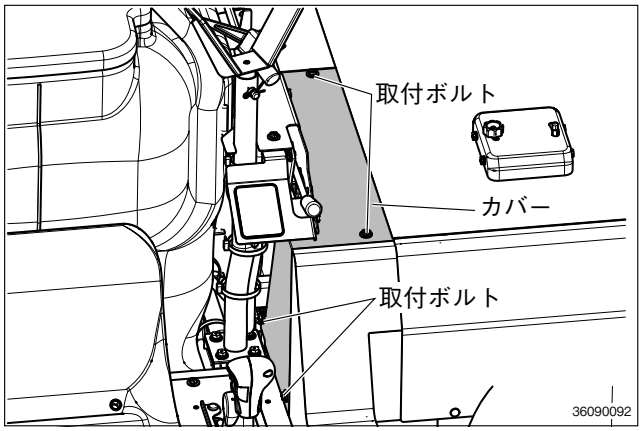
⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ室上カバーを開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。
◆刃部に手をかけないでください。
◆ワラ切カマをグラインダなどで研磨して，再使用しないでください。

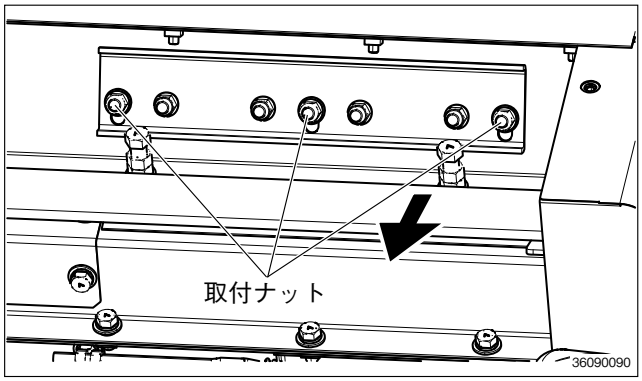
❶ ワラ切カマの取外し

⑴ ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを取外します。(88ページ参照)［**ホッパ仕様**］はホッパを取外します。(89ページ参照)

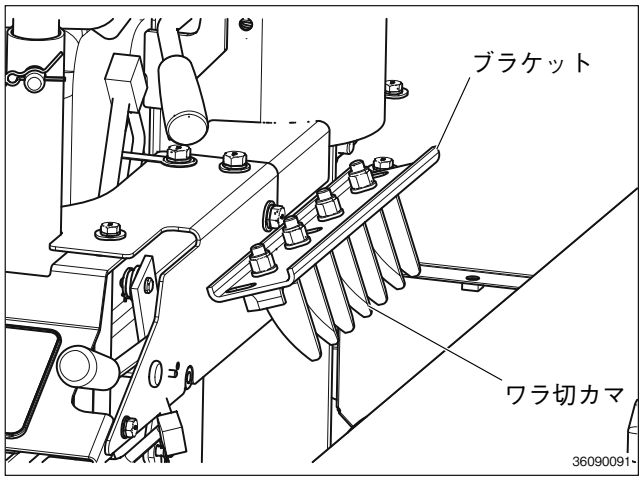
⑵ カバー取付ボルトを外しカバーを取外します。



⑶ ワラ切カマの取付ブラケットナット３箇所をゆるめて外し，ブラケットごとワラ切カマを手前に引き出します。

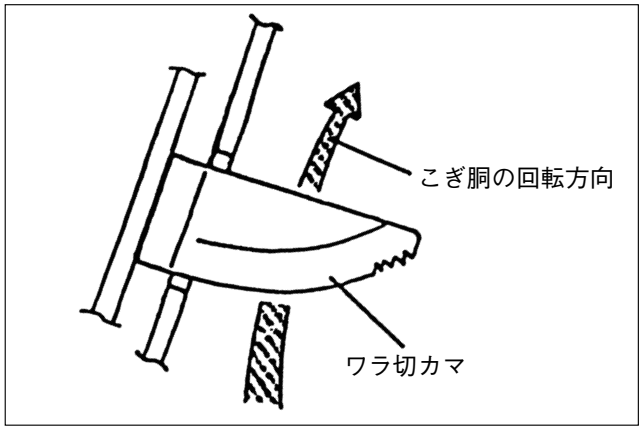


⑷ ブラケットからワラ切カマを外します。



❷ ワラ切カマの取付け

⑴ ワラ切カマの組付け方向に注意して真っ直ぐブラケットとガタがないように締付けます。



⑵ 取外しと逆の手順で取付け，こぎ室上カバーを閉じます。

取扱いのポイント

- **ワラ切カマの中央にこぎ歯がくるように取付けてください。**
- **ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下します。ワラ切カマを取外し，新品と交換してください。(「お買いあげ先」でおもとめください。)**

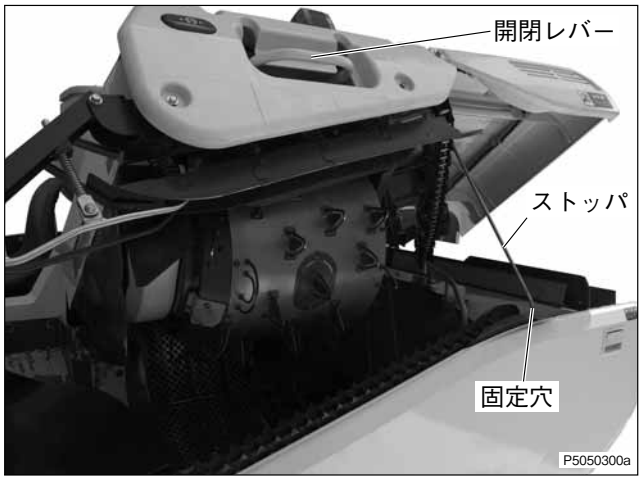
4. こぎ歯の点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆こぎ胴部を開いたときは，ストッパをかけてください。

❶ 開閉レバーを持上げてこぎ胴部を開き，ストッパを固定穴にかけます。

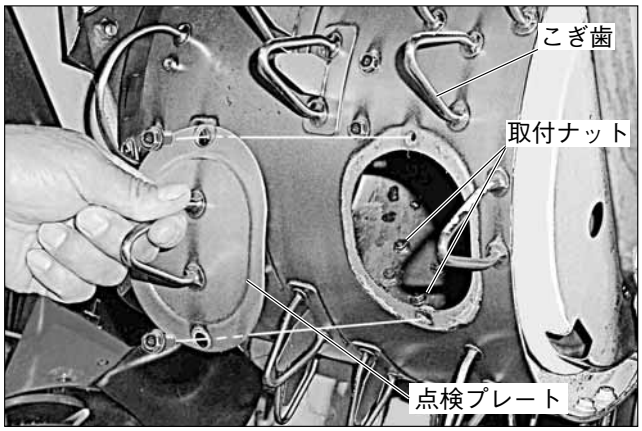


❷ こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいこぎ歯は交換します。

こぎ歯の締付けがゆるんでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検プレートを外して行います。



❸ 作業後点検プレートを取付け，こぎ胴部を閉めてください。

取扱いのポイント

●こぎ胴の点検プレートのボルトの頭が摩耗すると外せなくなるため，ボルトの頭が摩耗し始めたら交換してください。

5. ホース類の点検

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し，損傷したりもれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出し火傷をする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホースなどの燃料もれ，水もれがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部がゆるんでいないか点検をします。

取扱いのポイント

●シーズン前には，締付バンドのゆるみ，ホースの傷を点検してください。

●燃料ホース，油圧ホースは定期交換部品ですので，80時間または２年毎の早い方で「お買いあげ先」に交換を依頼してください。

●燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。（77ページ参照）

5. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

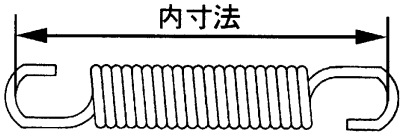
◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意

◆調整後カバーを取付けてください。

取扱いのポイント

● スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

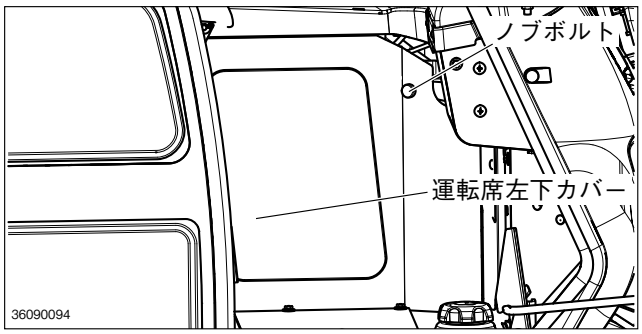


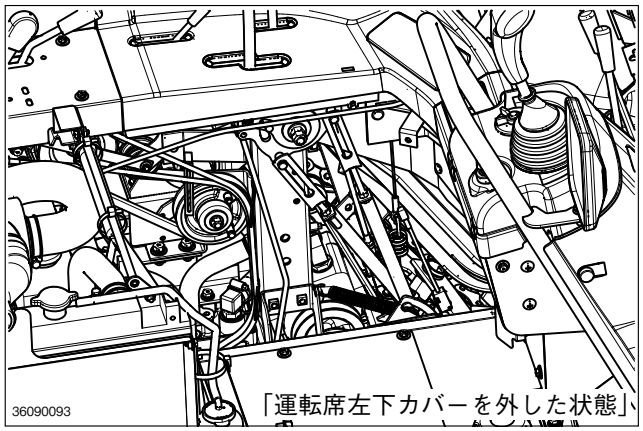
「各部の取外し」

1. 運転席左下カバーの取外しかた

・**駐車ブレーキレバー**および**走行駆動ベルト**の点検は**運転席左下カバー**を取外して行います。

・カバーを取付けているノブボルト１本を外し，カバーを取外します。



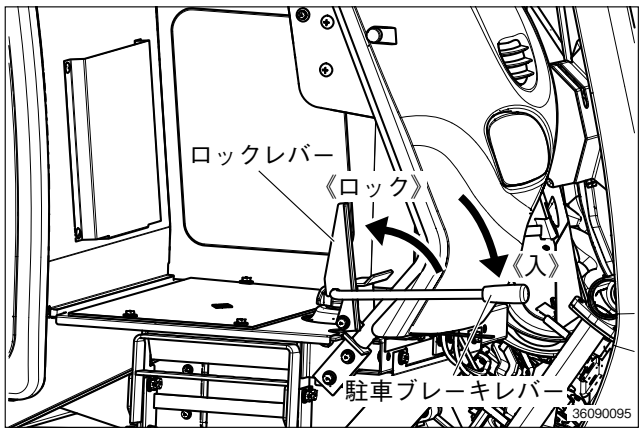


「運転席左下カバーを外した状態」

「レバーの点検，調整」

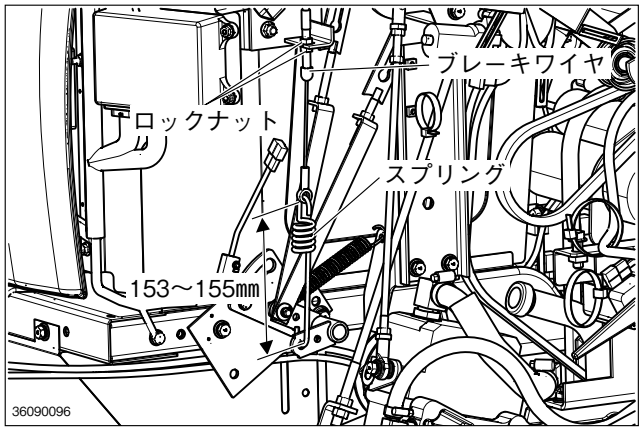
2. 駐車ブレーキレバー

・坂道で駐車ブレーキレバーを《**入**》位置にして《**ロック**》したとき，機械は停車しますか。



❶ **点検**……駐車ブレーキレバーを《**入**》にして《**ロック**》したときのスプリングの長さが 153～155㎜ になっていますか。

❷ **調整**……運転席パネル下の駐車ブレーキワイヤのロックナットをゆるめてアジャスタで調整します。



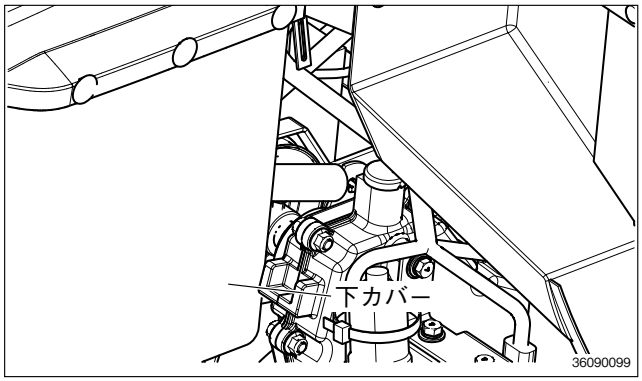
❸ 調整後カバーを取付けます。

3. 脱こく・刈取クラッチレバー

1．刈取部

❶ 点検

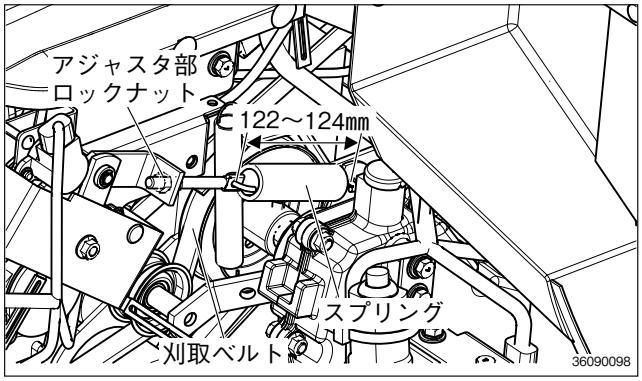
(1) 運転席左の下カバーをめくります。

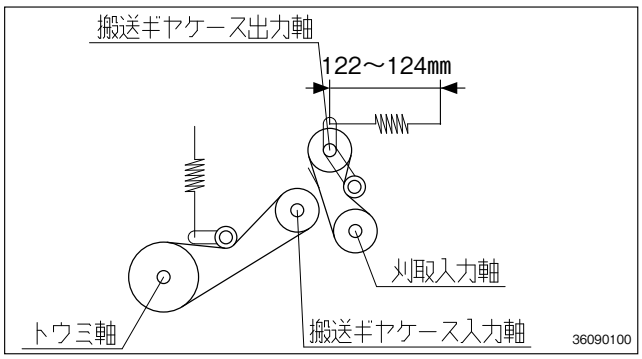


(2) キースイッチが《**入**》状態で，脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》にし，主変速レバーを前進方向に倒したとき，運転席左の搬送ギヤケース部にある，スプリングの長さが 122～124 ㎜ になっていますか。

❷ 調整

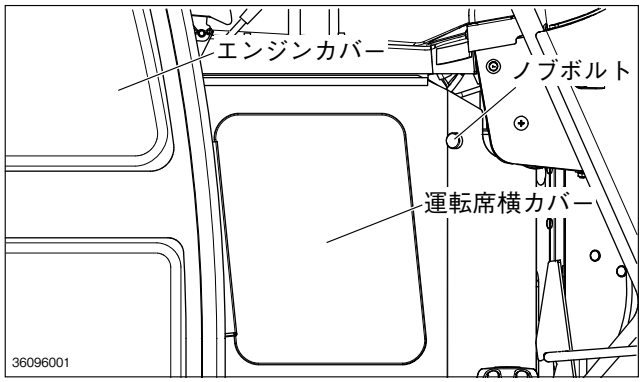
アジャスタ部のロックナットをゆるめて調整します。

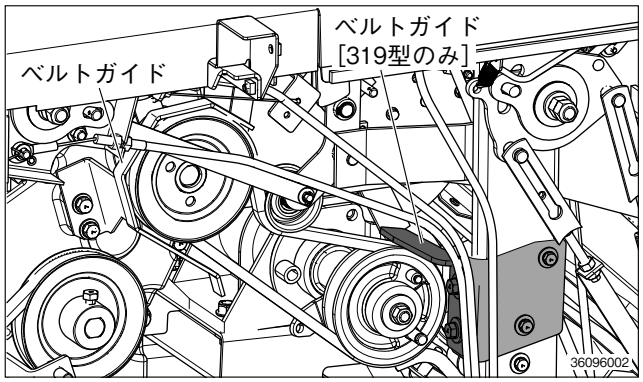




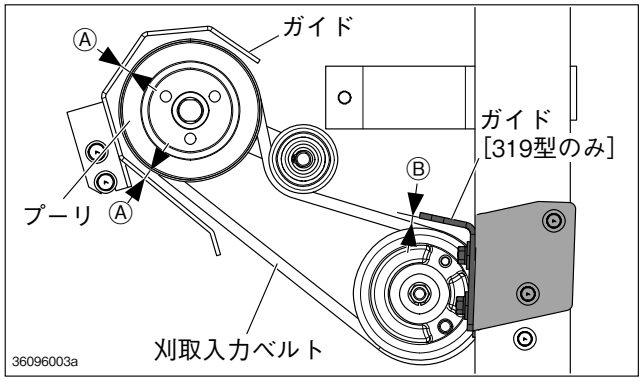
❸ ベルトガイドの調整

(1) エンジンカバーを開け，ノブボルトを外して運転席横のカバーを取外します。





(2) キースイッチが《**入**》状態で脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》の状態（刈取入力ベルトが張った状態）でガイドとプーリⒶ，ガイドとベルトⒷのスキマが 3～5㎜ となるようにガイド位置を調整します。



(3) 調整後，運転席横カバーをノブボルトで取付けて，エンジンカバーを閉じます。

2．脱こく部

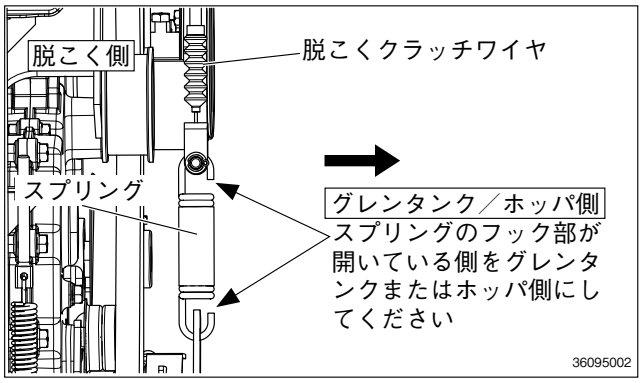
❶ 点検

(1) ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを外します。(88ページ参照)［**ホッパ仕様**］はホッパ，ベルトカバー，エンジンカバーを外します。(89ページ参照)

(2) エンジンカバーを開きます。

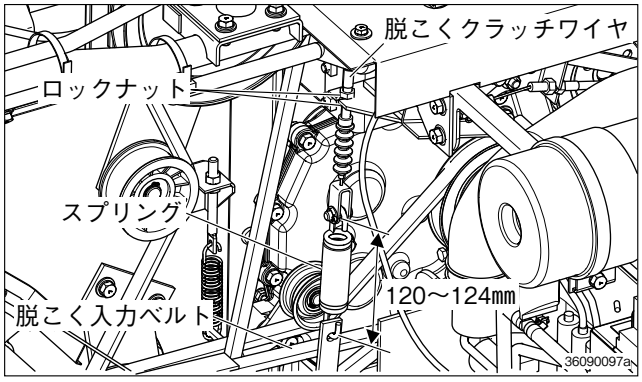
(3) キースイッチが《**入**》状態で脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》にし，主変速レバーを前

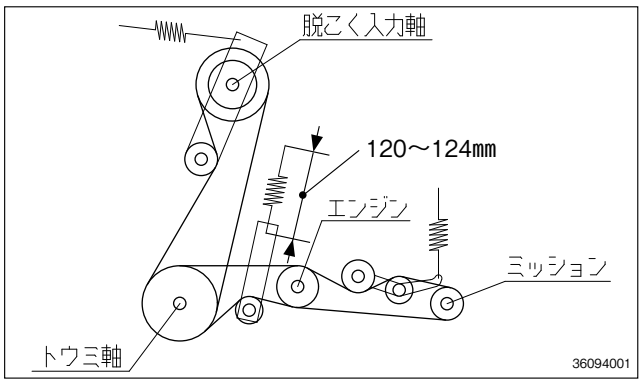
進方向に倒したとき，スプリングの長さが 120～124㎜ になっていますか。



❷ 調整

(1) 脱こくクラッチワイヤのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。



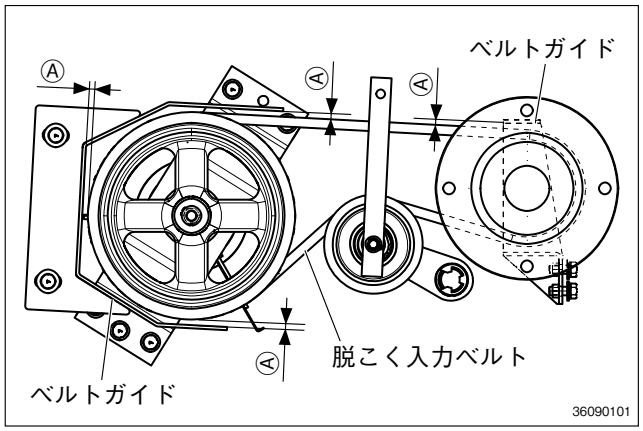


❸ ベルトガイドの調整

(1) ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを取外します。(88ページ参照)［**ホッパ仕様**］はホッパ，ベルトカバー，エンジンカバーを外します。(89ページ参照)

(2) エンジンカバーを開きます。

(3) キースイッチが《**入**》状態で脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》にしたとき（脱こく入力ベルトが張った状態で），脱こく入力ベルトとベルトガイドのスキマ Ⓐ＝4～6㎜ になるように調整します。



❹ 調整後エンジンカバーを閉じます。

❺ ［**グレンタンク仕様**］は，グレンタンクを取付けます。(88ページ参照)［**ホッパ仕様**］はホッパ，ベルトカバー，エンジンカバーを取付けます。(89ページ参照)

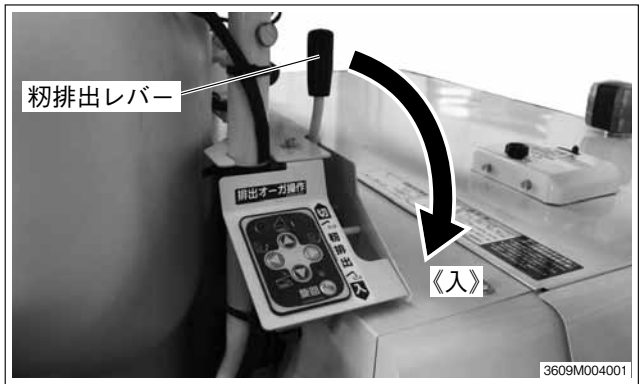
ベルトの交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

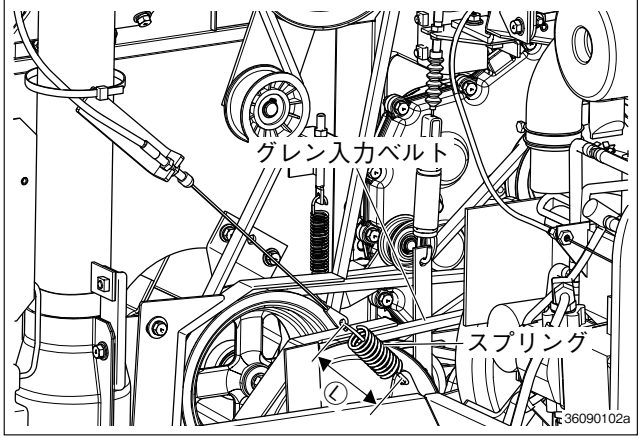
4. 籾排出レバー［グレンタンク仕様］

❶ 点検

グレンタンクを取外します。(88ページ参照)

籾排出レバー《**入**》のとき，スプリングの長さⓁが 101～103㎜ になっていますか。

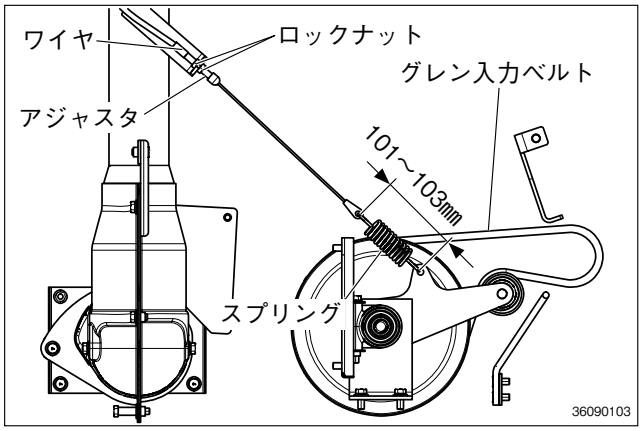




❷ **調整**

⑴ 籾排出レバーを《**入**》にし，スプリングの長さを計ります。

⑵ アジャスタのロックナットをゆるめてワイヤのアジャスタ部を調整します。



❸ グレンタンクを取付けます。(88ページ参照)
交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

「ベルトの点検・調整」

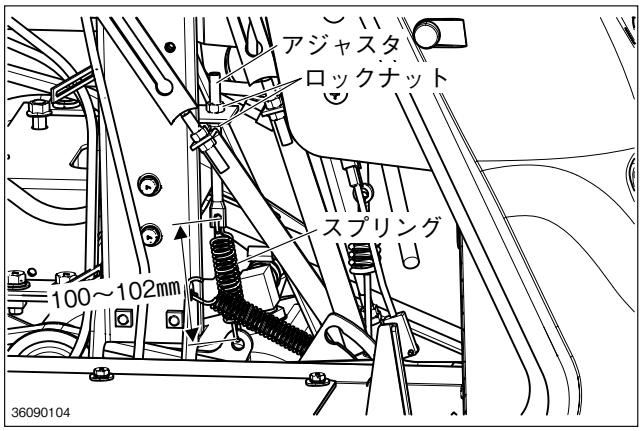
5．走行駆動ベルト

交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

・運転席左下のカバーを取外して行います。

❶ **点検**……タイトプーリ引張っているスプリングの長さが 100～102㎜ になっていますか。

❷ **調整**……アジャスタのロックナットをゆるめて調整します。



❸ カバーを取付けます。

6．エンジンファンベルト

⚠警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調節はエンジンが冷えてから行なってください。

交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

❶ **点検**

ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が 10～13㎜ となっていますか。

❷ **調整**

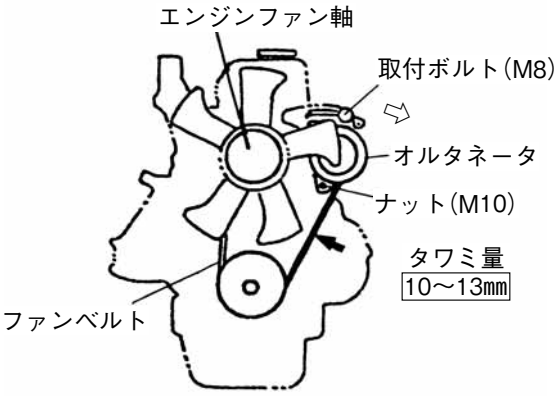
⑴ エンジンカバーを開きます。

⑵ オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめます。

・オルタネータを手前（⇨）に倒すとベルトが張れます。

⑶ 調整後，取付ボルトナットを締付けます。

⑷ エンジンカバーを閉めます。



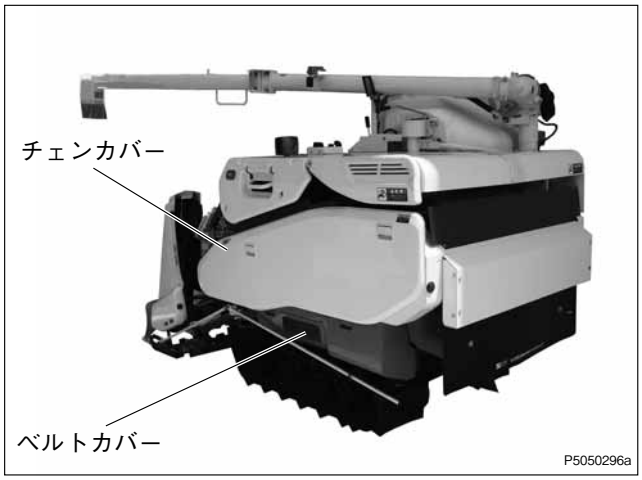
取扱いのポイント

●調整ができなくなったら新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法やベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

7．2番ラセン駆動ベルト

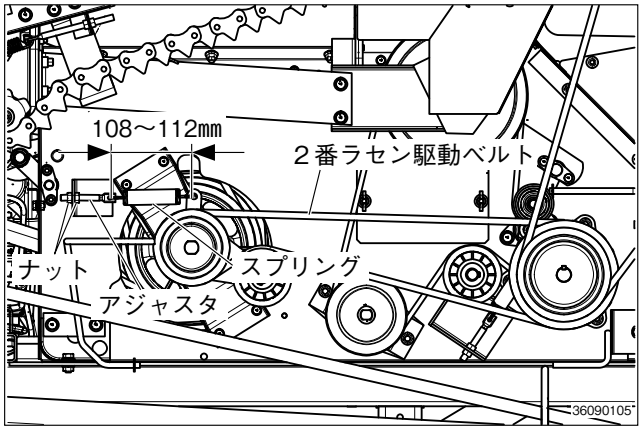
交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

脱こく部のチェンカバーとベルトカバーを外します。



❶ **点検**……テンションプーリを引張っているスプリングの長さが 108～112㎜ になっていますか。

❷ **調整**……スプリングのアジャスタのナットをゆるめて調整します。調整後はナットを締付けます。

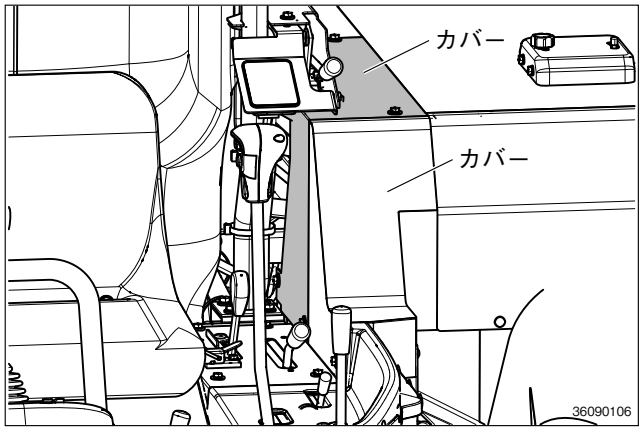


❸ 調整後，チェンカバーとベルトカバーを取付けます。

8．こぎ胴駆動ベルト

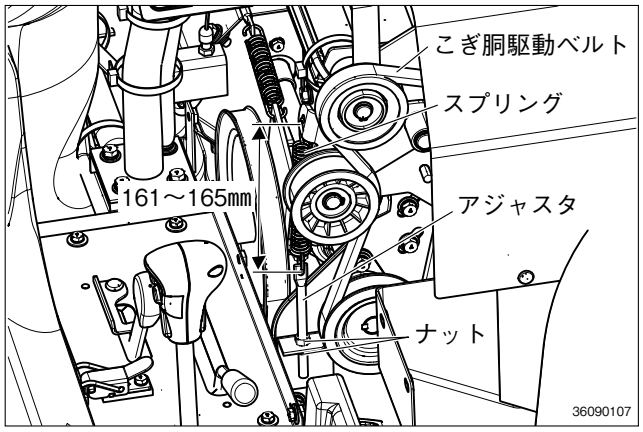
交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

・カバーを２箇所外します。



❶ **点検**……テンションプーリを引張っているスプリングの長さが 161～165㎜ になっていますか。

❷ **調整**……スプリングのアジャスタのナットをゆるめて調整します。調整後はナットを締付けます。

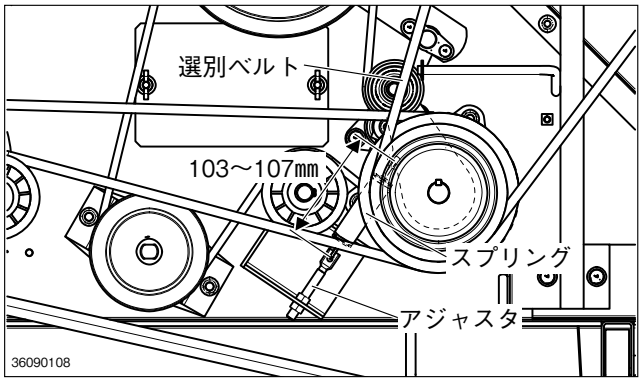


❸ カバーを２箇所取付けます。

9. 選別ベルト

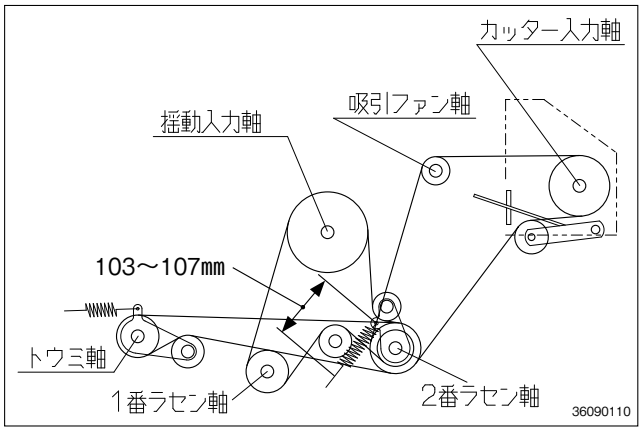
交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

・脱こく部チェンカバーとベルトカバーを外します。



❶ **点検**……ベルトを張っているテンションプーリのスプリングの長さが 103～107㎜ になっていますか。

❷ **調整**……スプリングのアジャスタのナットをゆるめて調整します。調整後はナットを締付けます。

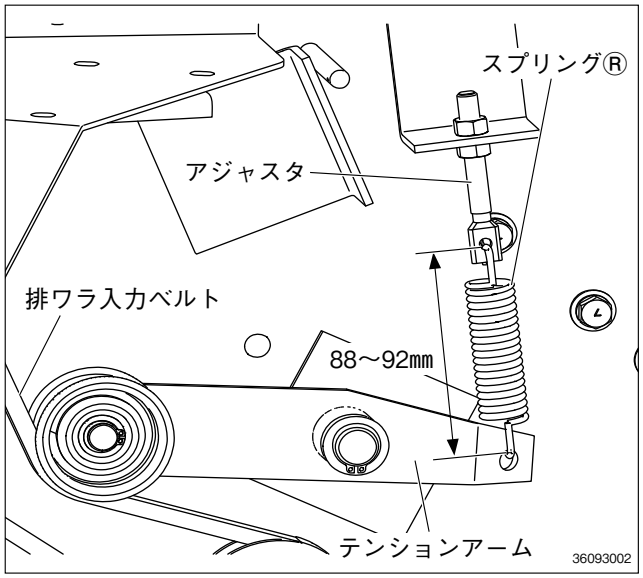


❸ チェンカバーとベルトカバーを取付けます。

10. 排ワラ入力ベルト

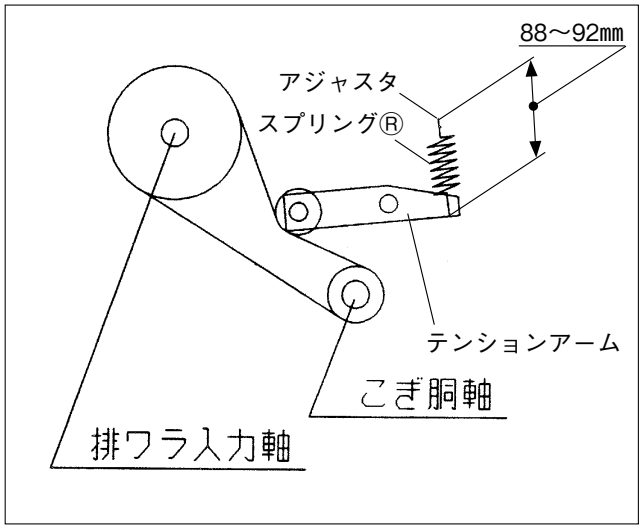
交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

・こぎ胴部を開きます。



❶ **点検**……ベルトを張っているテンションアームのスプリングⓇの長さが 88～92㎜ になっていますか。

❷ **調整**……スプリングⓇのアジャスタのナットをゆるめて調整します。調整後はナットを締付けます。

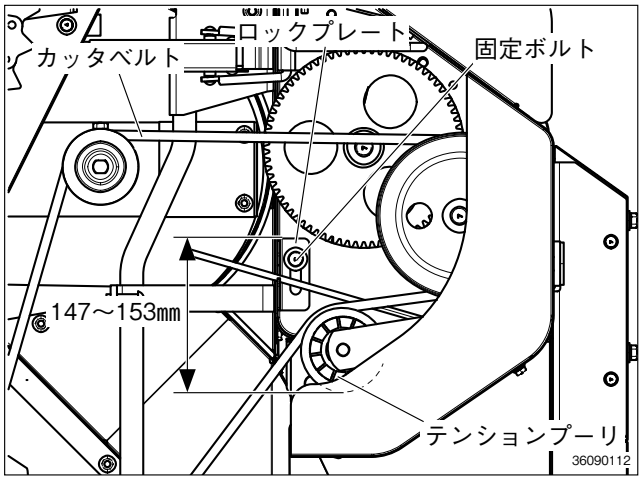


❸ こぎ胴部を閉じます。

11．カッタベルト

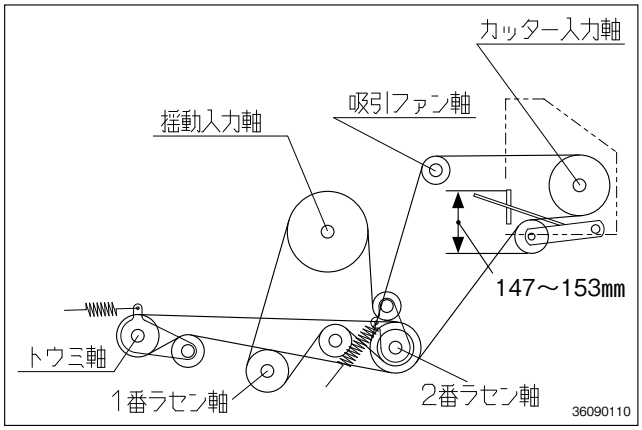
交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

・脱こく部チェンカバーとベルトカバーを外します。



❶ **点検**……ロックプレートの上端と，テンションプーリの下端の長さが，
147～153㎜ になっていますか。

❷ **調整**……ロックプレートの固定ボルトをゆるめてロックプレート位置を調整します。調整後はボルトを締付けます。



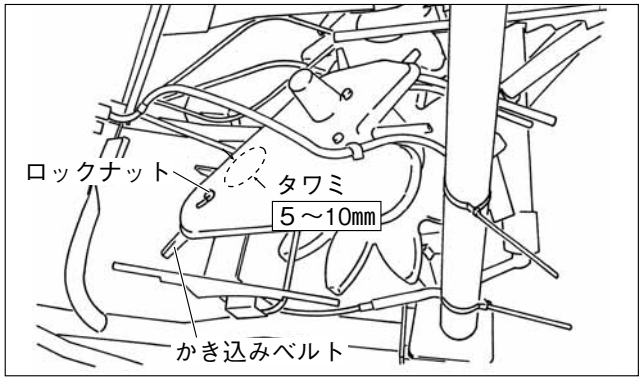
❸ チェンカバーとベルトカバーを取付けます。

12．かき込みベルト（刈取部）

交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

・引起しサイドカバー（右），（左）を外してかき込みベルトを点検します。

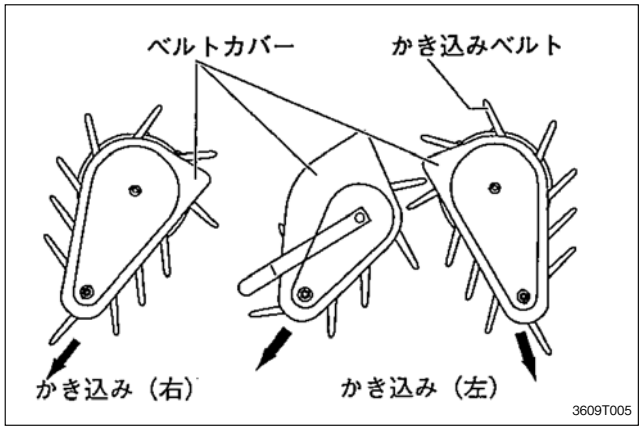
[217型]



❶ **点検**……ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5～10㎜ になっていますか。

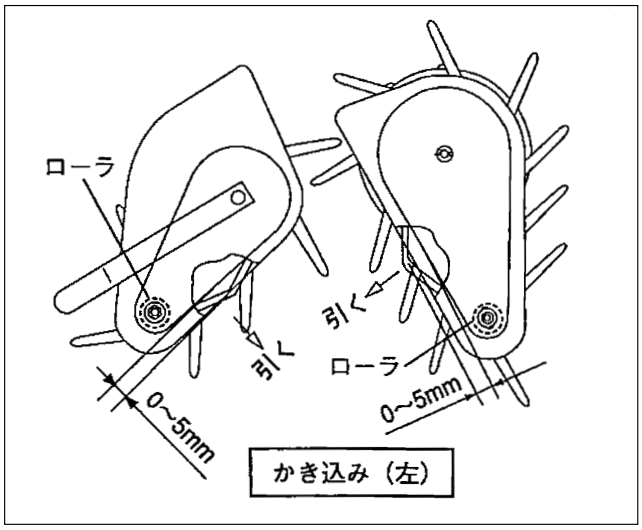
❷ **調整**……アイドラプーリのロックナットをゆるめ，アイドラプーリを引張って調整します。

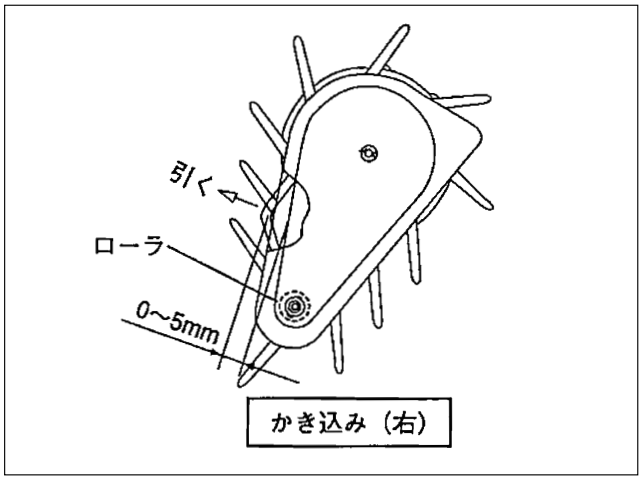
[319型]



❶ **点検**……ベルトの中央部を約5㎏の強さで引張ったときに，ベルトカバーとベルト内面のスキマが 0～5㎜ あるか確認してください。

❷ **調整**……先端のローラ取付ナットをゆるめます。ローラ中心位置を矢印方向にずらして，ベルトの中央部を引張り，ベルトカバーとベルト内面のスキマが 0～5㎜ になるよう，取付ナットを締付けます。





・引起しサイドカバー（右),(左）を取付けます。

13. 穂先排ワラベルト

交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

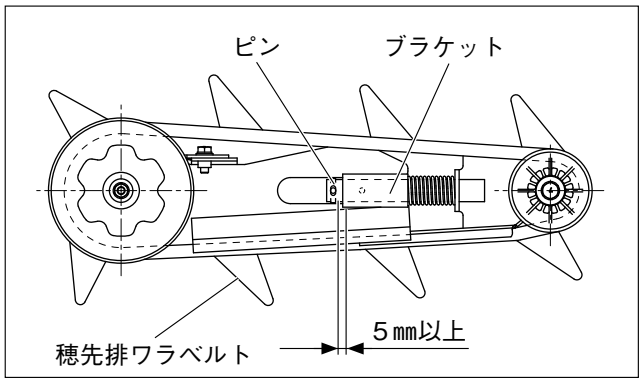
❶ 点検

ブラケットとピンのスキマが **5㎜以上** になっていますか。

❷ 調整

⑴ こぎ胴部を開きます。

⑵ 5㎜以下になっていたら穂先排ワラベルトを交換します。



❸ こぎ胴部を閉じます。

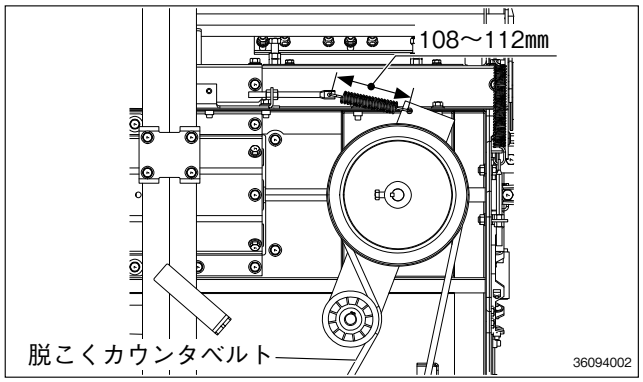
14. 脱こくカウンタベルト

交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

・［**グレンタンク仕様**］は，グレンタンクを取外し，(88ページ参照）［**ホッパ仕様**］はホッパ，ベルトカバー，エンジンカバーを外します。(89ページ参照)

❶ 点検・調整

・スプリング長さ **108~112㎜** に調整します。



❷ ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを取付けます。(88ページ参照)［**ホッパ仕様**］はホッパ，ベルトカバー，エンジンカバーを取付けます。(89ページ参照)

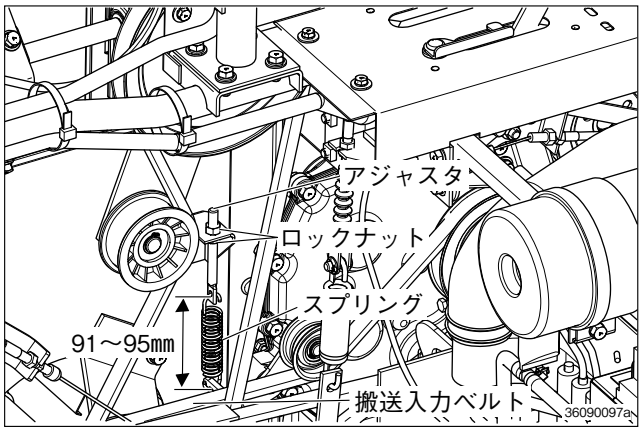
15. 搬送入力ベルト

交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

・［**グレンタンク仕様**］は，グレンタンクを取外し，(88ページ参照)［**ホッパ仕様**］はホッパ，ベルトカバー，エンジンカバーを外します。(89ページ参照)

❶ **点検・調整**

・スプリング長さを 91～95㎜ に調整します。



❷ ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを取付けます。(88ページ参照)［**ホッパ仕様**］はホッパ，ベルトカバー，エンジンカバーを取付けます。(89ページ参照)

「チェンの点検・調整」

16. 供給穂先（穂先搬送）チェン［2条型］

交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

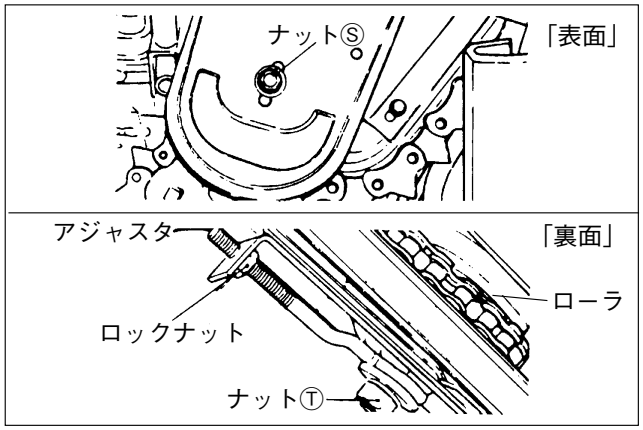
穂先チェンの張りを点検します。

❶ **点検**……搬送側でない側の中央部を軽く引きタワミ量が 5㎜ 位になっていますか。

❷ **調整**……連動側ローラを固定しているナットⓈ・Ⓣをゆるめ，アジャスタで張ります。

取扱いのポイント

●ローラの軸が倒れないように調整してください。



17. 脱こくフィードチェン

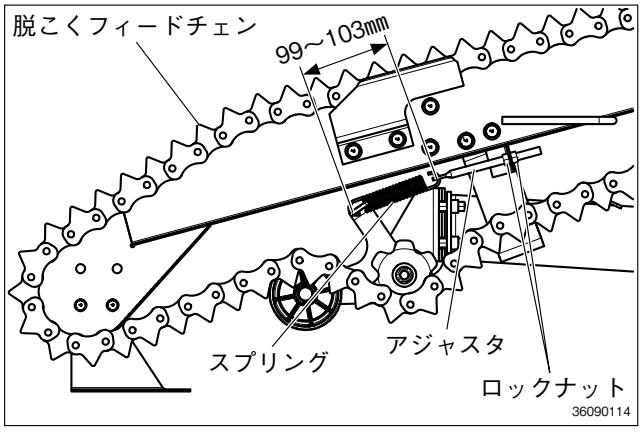
交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

・脱こく部チェンカバー，ベルトカバーを取外してフィードチェンの張りを点検します。

❶ **点検**……脱こくフィードチェンがゆるんでいませんか。

❷ **調整**……アジャスタのロックナットを緩め，スプリングの長さが 99～103㎜ になる様調整します。
アジャスタで調整できなくなった場合はチェンの「**半駒リンク**」を外します。

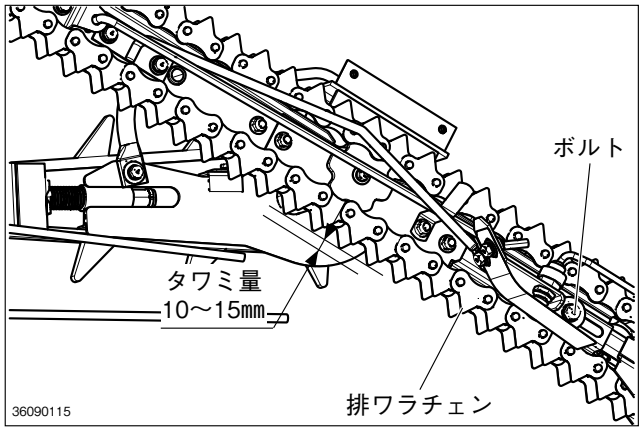
❸ 脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。



18. 排ワラチェン

交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

・こぎ胴部を開いて排ワラチェンの張りを点検します。



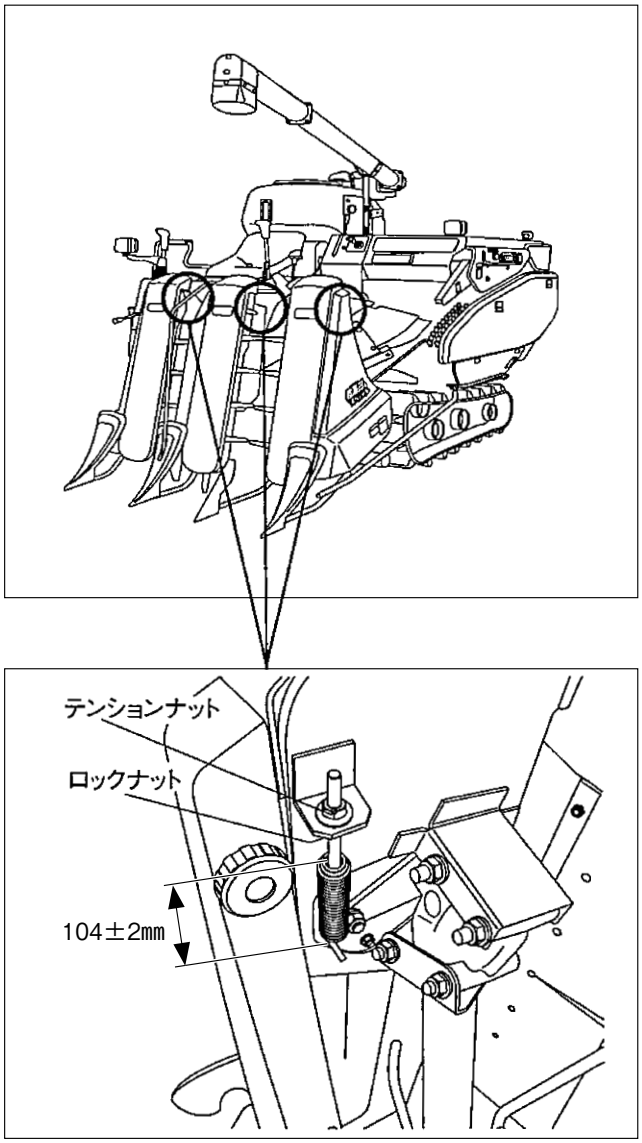
❶ **点検**……排ワラチェンの中央部を軽く引きタワミ量が 10～15㎜ になっていますか。

❷ **調整**……ボルト１本をゆるめると自動的に調整できます。調整後はボルトを締付けます。
なお調整ができなくなったときはチェンの「**半駒リンク**」を外します。

❸ こぎ胴部を閉じます。

19. 引起しチェン［3条型］

・テンションスプリングの長さが 104±2㎜ になるように調整します。



調整

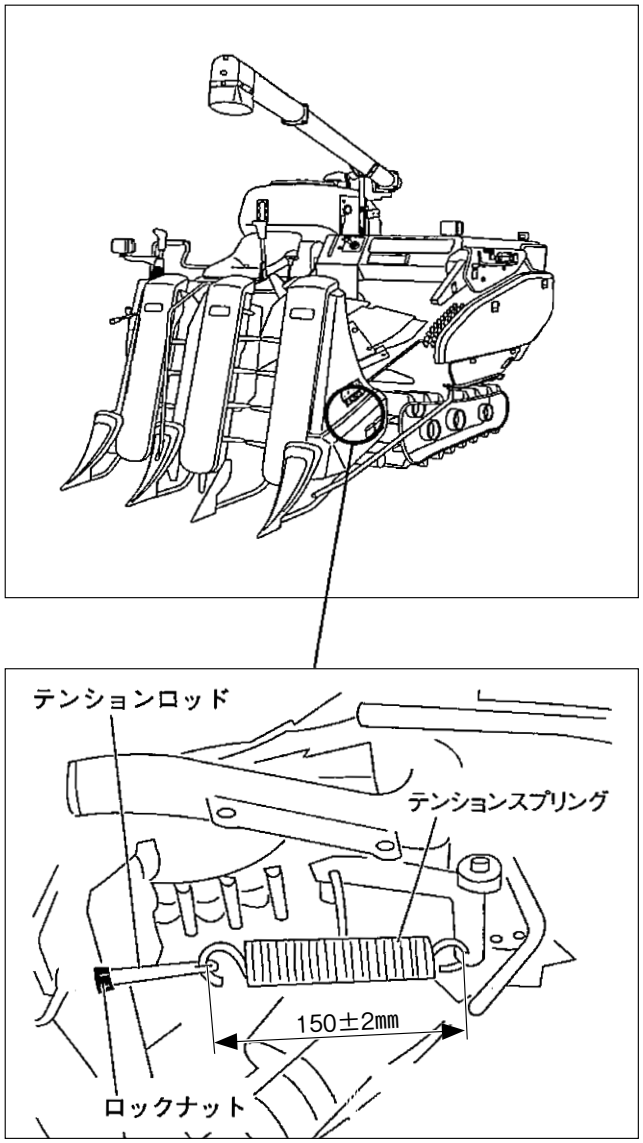
❶ テンションロッドのロックナットをゆるめます。

❷ テンションナットを回して，テンションスプリングの長さが 104±2㎜ になるように調整します。

❸ ロックナットを締付けます。

20. 根元（株元搬送）チェン（左)[3条型]

・テンションスプリングの長さが 150±2㎜ にになるように調整します。



調整

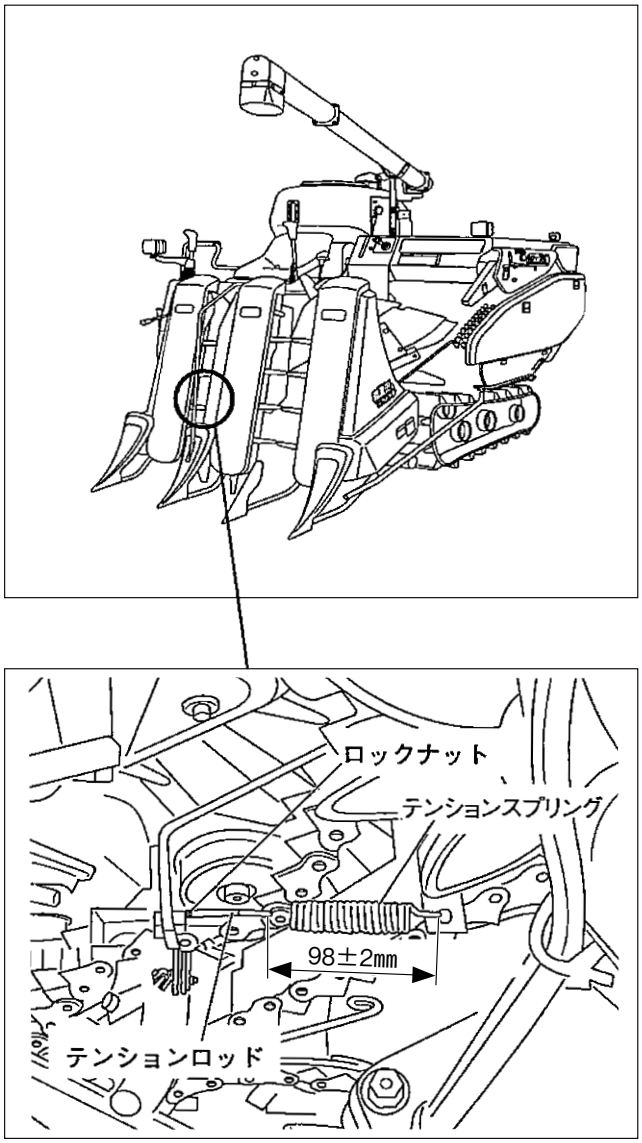
❶ テンションロッドのロックナットをゆるめます。

❷ テンションナットを回して，テンションスプリングの長さが 150±2㎜ になるように調整します。

❸ ロックナットを締付けます。

21．根元（株元搬送）チェン（右）[3条型]

・テンションスプリングの長さが 98±2mm になるように調整します。



調整

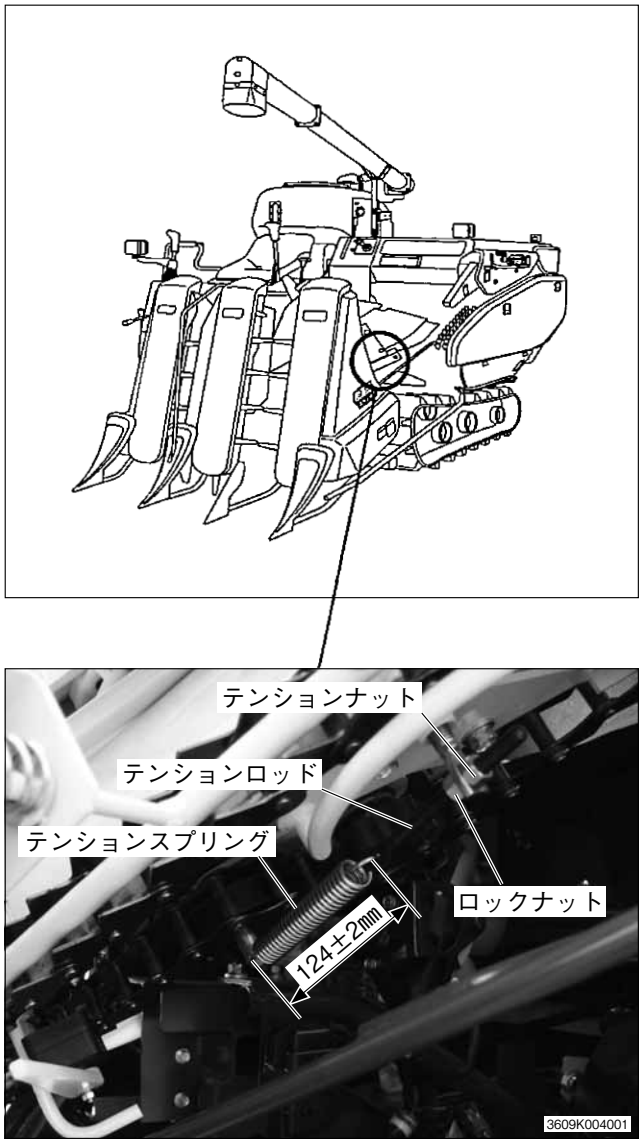
❶ テンションロッドのロックナットをゆるめます。

❷ テンションナットを回して，テンションスプリングの長さが 98±2mm になるように調整します。

❸ ロックナットを締付けます。

22．供給根元（こぎ深さ搬送）チェン [3条型]

・テンションスプリングの長さが 124±2mm になるように調整します。



調整

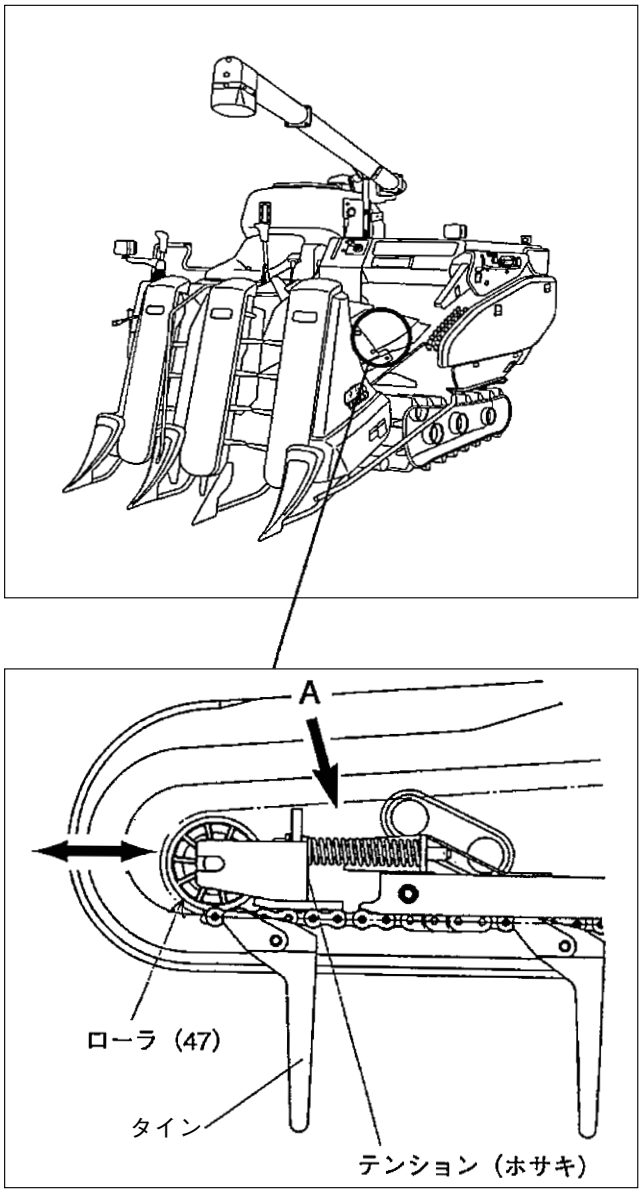
❶ テンションロッドのロックナットをゆるめます。

❷ テンションナットを回して，テンションスプリングの長さが 124±2mm になるように調整します。

❸ ロックナットを締付けます。

23. 供給穂先（穂先搬送）チェン［3条型］

・タインの出口部（A部）からチェンを指で軽く押し，チェンがゆるんで元に戻らない場合には調整します。

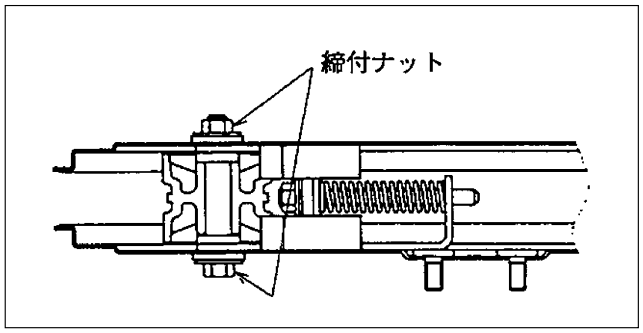


調整

❶ 先端ローラ部（47）の締付ナット（上下２個）をゆるめます。

❷ ローラ（47）を押したとき，テンション（ホサキ）がスムーズに摺動することを確認します。

❸ 締付ナット（上下２個）を締付けます。



「クローラの点検・調整」

⚠警告 傷害事故防止のために

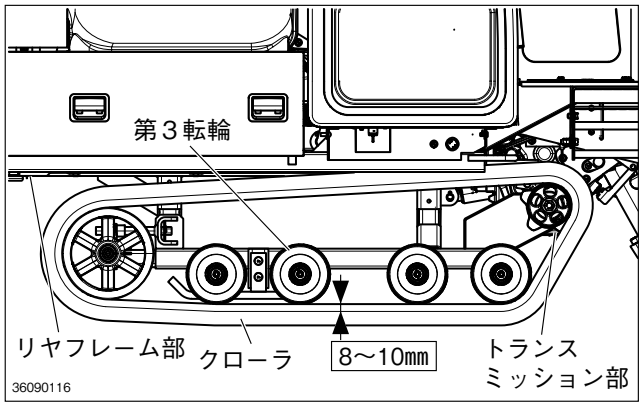
◆ガレージジャッキがめり込んだり移動したりしない平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚をかませて落下，転倒防止をしてください。

24. クローラ

❶ 点検

(1) トランスミッション部とリヤフレーム部の右または左側に木片を介し，ガレージジャッキでジャッキアップし，片方のクローラを浮かせます。

(2) クローラ下面を地面から浮かせた状態で第３転輪とクローラのスキマが 8～10㎜ になっていますか。



❷ **調整**……スナップピンと回り止めプレートを外し調整ボルトで調整します。
調整ボルトを締込むとクローラがゆるみ，ゆるめるとクローラが張ります。

取扱いのポイント

- **トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けるとケースが破損する恐れがありますので，木片をかませて行なってください。**
- **（後）側のガレージジャッキはフレームを持上げてください。**

「かき込みスターホイルの調整」

25．かき込みスターホイル［3条型］

交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

調整

❶ Ｍ８ボルト（長さ55㎜）３本を取外し，かき込みスターホイルとスペーサを取外します。

❷ M14ロックナットとM14締付ナットを外して，M14ワッシャとディスクを取外します。

❸ 根元（株元搬送）チェンとチェンレールを取外し，かき込みスプロケットを取外します。

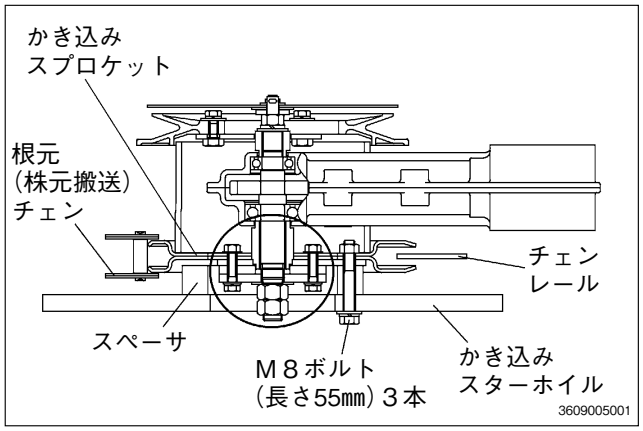
❹ かき込みスプロケットにディスク（スプラインなし・あり）をシャーボルト（長さ30㎜）２本とＭ６ナット（サラバネ付）２個で締付けます。

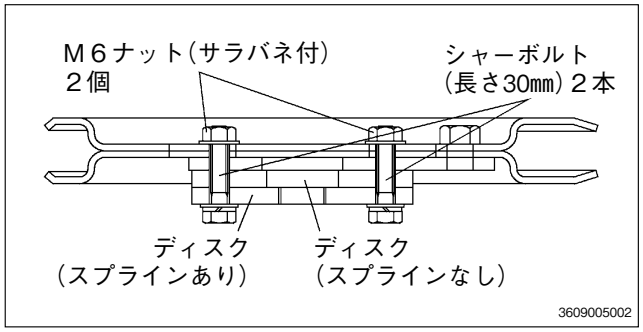
❺ かき込みスプロケットとM14ワッシャを，M14締付ナットで締付けます。このとき，ディスクのスプラインが確実にかみ合うように，ディスクと軸の底面が 27～28㎜ の位置に，M14締付ナットを，締付トルク1.0～1.5N・m {10～15kgf・㎝} で締付けます。（ガタがない程度に軽く締付けます。）

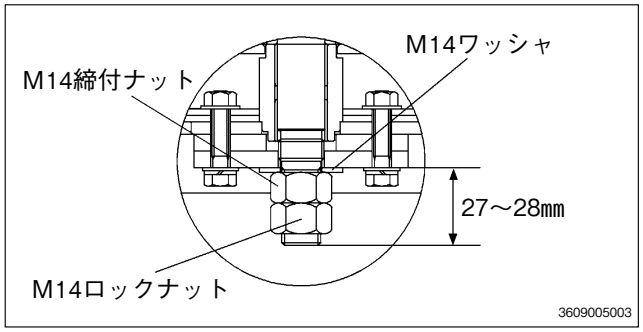
❻ M14ロックナットは，M14締付ナットを固定し，締付トルク57.1～61.2N・m {560～600kgf・㎝} で締付けます。

❼ チェンレールと根元（株元搬送）チェンを取付けます。（このときチェンレールと，かき込みスプロケットが接触しないようにします。）

❽ スペーサと，かき込みスターホイルをＭ８ボルト（長さ55㎜）３本で締付けます。







長期格納のしかた

・シーズンが終わったらつぎの作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの劣化や，傷による燃料漏れがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したり漏れている場合は交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

◆機械にシートカバーをかけるときはエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときにシートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷ 脱こく内部およびホッパのゴミ・残溜籾などを掃除口よりきれいに取除きます。
（75～95ページ参照）

2．錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリスを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸ 塗装が剥げた箇所は補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行うときは平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチレバーを《**切**》にしエンジンが冷えてから行います。

❶ アクセルレバーはいっぱいに戻しておきます。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満量にしておきます。

❸ 冬期気温が0℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（69～70ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に該当する項目について点検・整備します。

⚠注意 洗浄時の注意

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２m以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

１．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

２．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。

取扱いのポイント

- エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。誤って水がかかり濡れた場合は，ただちに水分を除去してください。
- 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

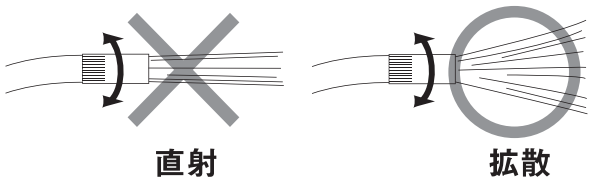
例）(1) シール・ラベルの剥がれ

(2) 電装部品，エンジン，ラジエータなどへの侵入による故障

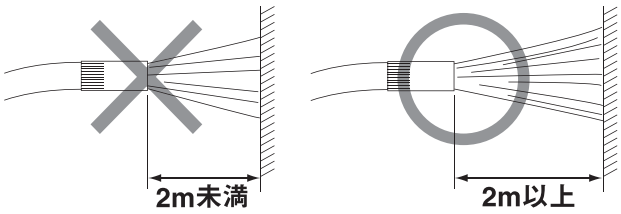
(3) クローラ，オイルシールなどのゴム類，樹脂類，ガラスなどの破損

(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



近距離洗車厳禁



5. 格　　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

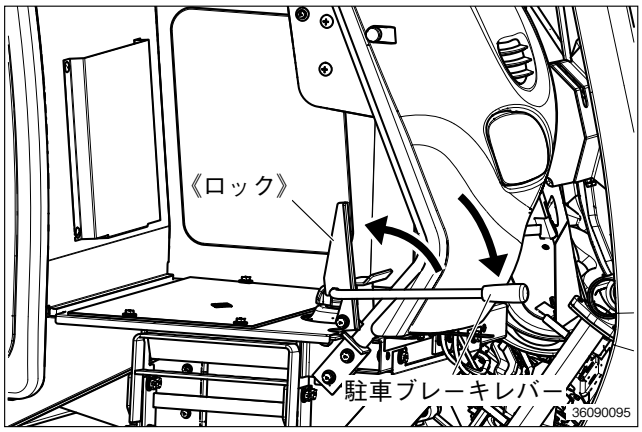
❶ 「**クローラ**」の下には板などを敷いておきます。

❷ 各レバーは《**切**》・《**N**》(**中立**) の位置にします。

❸ 「**ナローガイド（左）**」，「**排出オーガ**」(**グレンタンク仕様**)，「**補助籾受台**」(**ホッパ仕様**) を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

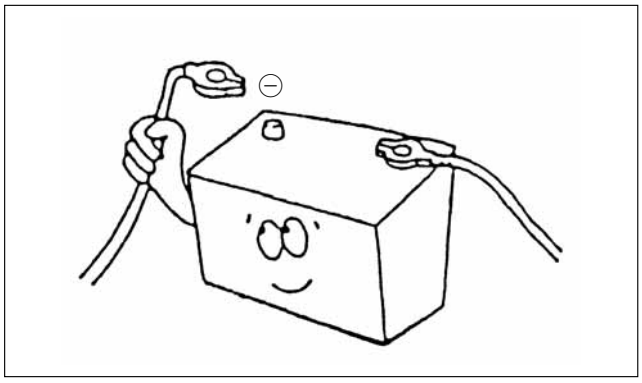
❹ 刈取部を下げて，キースイッチの「**キー**」を抜取ります。

❺ 駐車ブレーキレバー《**入**》位置にしてロックします。



❻ クローラに「**車止め**」をします。

❼ 「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか，㊀側のコードをはずしておきます。１ケ月に１回，バッテリ補充電のためエンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**
- **エンジンを始動する前に，バッテリターミナルなど保管するときに処置した項目を復元してください。**

6. 再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行った後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに処置した項目を正しく復元します。

❷ 「**運転まえの点検**」を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは「**型式名**」，「**機械番号（製造番号）**」，「**エンジン番号**」をあわせてお知らせください。

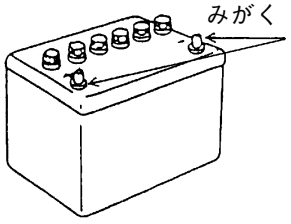
⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 脱こく・刈取クラッチレバーが《**入**》になっている。	●脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にする。	19
	❷ ブレーキペダルをいっぱい踏込んでいない。	●ブレーキペダルをいっぱい踏込みます。	15
	❸ 籾排出レバーが《**入**》になっている。	●籾排出レバーを《**切**》にします。	46
	❹ バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。	81
	❺ メインヒューズが切れている。	●配線の短絡箇所を点検し，修正後，メインヒューズを交換します。	78～80
	❻ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	81～87
	❼ ③，⑨，⑩ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	78～80

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶ 燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し，エア抜きをします。（燃料タンク容量……14L）	67，77
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアがたまっている。	●エア抜きをします。	77
	❸ ①ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（10A）を交換します。	78～80
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶ 燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	76，77
	❷ エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	75
	❸ エンジンカバー金網の目詰まり。	●エンジンカバー金網を掃除します。	75
	❹ エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルを補給または交換します。	68，69
	❺ 冷却水の不足。	●冷却水を補給します。	69，70
	❻ エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	114
	❼ ①ヒューズが切れているため燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（10A）を交換します。	78～80

2. 走行・運転操作部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	❶　トランスミッションケースのオイル不足。	●規定量までオイルを補給します。	71
マルチステアリングレバーを操作しても，刈取部が上昇・下降しない	❶　油圧固定レバーが**《油圧固定》**位置になっている。	●油圧固定レバーを**《解除》**にします。	18，19

3. 電気・自動制御部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
モニタランプが点灯しない	❶　①ヒューズが切れている。	●①ヒューズ（10A）を交換します。	78〜80
	❷　ランプの電球が切れている。	●電球を交換します。	138
前照灯・方向指示器が点灯または作動しない	❶　ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ①ヒューズ……10A ⑤ヒューズ……15A	78〜80
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶　②ヒューズか⑥ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	78〜80
	❷　刈取部のこぎ深センサにワラクズがたまっている。	●ワラクズを取除きます。	59
・ジャストディレクタが作動しない ・方向自動制御が作動しない［ディーラオプション］	❶　②ヒューズか④ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	78〜80
	❷　刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズなどがたまっている。	●草・泥・ワラクズなどを取除きます。	―
・ホーン・バックブザーが作動しない	❶　②ヒューズか⑤ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ②ヒューズ……10A ⑤ヒューズ……15A	78〜80

4. 刈　取　部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶　搬送通路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ①脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。 ②エンジンを停止します。 ③刈取搬送部の詰まり箇所を取除きます。 ④エンジンを始動します。 ⑤脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》にして確認します。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	ー
刈取部が動かない	❶　脱こく入力ベルト・刈取ベルトの調整不良。（ベルトがスリップしている）	●脱こく入力ベルト・刈取ベルトの調整をします。	112
	❷　②ヒューズまたは⑦ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ②ヒューズ……（10A） ⑦ヒューズ……（20A）	78～80
刈株の長さにムラがある	❶　刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油します。	74
	❷　刈刃の調整不良。（刈刃のスキマが広い）	●調整ライナでスキマを調整します。	108
	❸　刈刃の摩耗。	●刈刃を交換します。	107～108
	❹　マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条にそって運転するときは，急激な操作はさけます。	18
刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い	❶　搬送通路に雑草・ワラクズ・泥などが溜まっている。	●搬送通路の雑草・ワラクズ・泥などを取除きます。	ー
	❷　「**深こぎ**」または「**浅こぎ**」となっている。	●適正こぎ深さで作業をします。	58，59

5. 脱こく部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	❶ 排ワラチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ①脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。 ②排ワラ関係の詰まり箇所を取除きます。 ③排ワラチェンの張りを点検・調整します。 ④エンジンを始動します。 ⑤脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》にして確認します。	19 56 120
グレンタンク内に籾が出ない（脱こく部の詰まり）	❶ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取作物にあった回転計の値になっているか確認し回転計を見て，《**作業**》の範囲内になるようにして使用します。	37
	❷ ベルトがスリップしている。	●脱こくカウンタベルトを張ります。 ●脱こく入力ベルトを張ります。 ●こぎ胴駆動ベルトを張ります。 ●２番ラセン駆動ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。 ●カッタベルトを張ります。	112 115 116 117
	❸ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	39
	❹ 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ます。 ●受網の掃除。	91
	❺ 刈取時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取時期を待って刈取ます。 ●作業速度を下げ低能率で作業します。	33
	❻ 揺動シーブの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてシーブの調整をします。	20
	❼ １番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●掃除口を閉じます。	94

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶ 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	33，91
	❷ こぎ深さが**「深こぎ」**のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを**「穂先マーク」**位置に合わせます。	39
	❸ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取作物にあったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，**《作業》**の範囲内になるようにして使用します。	37
	❹ 刈取速度が速すぎる。	●主変速レバーで速度を作業速度の低速に下げます。	17 38
	❺ ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマを交換します。	109
	❻ 揺動シーブの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてシーブの調整をします。	20

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
三番飛散粒が多い	❶　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	39
	❷　能率のあげすぎにより，揺動選別部にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度下げて作業します。	38，44
	❸　作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	91
	❹　刈取時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取適期まで待って刈取ります。 ●作業速度内で，できるだけ低能率で作業をします。	33
	❺　揺動シーブの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてシーブの調整をします。	20
こぎ残しが多い	❶　こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	39
	❷　こぎ胴の回転が低い。	●エンジン回転を規定回転にあわせてマークの範囲内になるようにして作業をします。	37
	❸　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーをこきざみに操作する。（強く操作すると，「**ブレーキ**」がきき，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります。） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	―

6．ワラ処理部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
切れ味が悪く，馬力をとる	❶　カッタ刃の摩耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	100～105
	❷　排ワラの搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。 ●こぎ深さ位置を適正にします。	38 39
	❸　ワラがぬれているか，雑草が多いためカッタ軸に巻付が発生しています。	●エンジンを停止し，巻付ワラ草を除去します。	―
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶　排ワラチェン・ベルトの張り不良。	●チェン・ベルトを張ります。	116，120
	❷　こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	39
	❸　刈取速度が遅く搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。	38

7．グレンタンク部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
オーガ操作スイッチを操作しても，動かない	❶　②，⑫，⑬，⑭ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ②ヒューズ……10A ⑫ヒューズ……20A ⑬ヒューズ……30A	78～80
	❷　オーガ上下リミットスイッチのゴミかみ。	●スイッチ部のゴミを取のぞく。	―
	❸　サーキットブレーカが作動している。	●１分程度でブレーカが自動復帰するまでお待ちください。	―
籾排出レバーを操作しても籾が出ない	❶　ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	113
	❷　タンク内の籾が流れない。（シャッタ部で滞留している）	●籾排出レバーを繰返し操作します。	―

付　　表

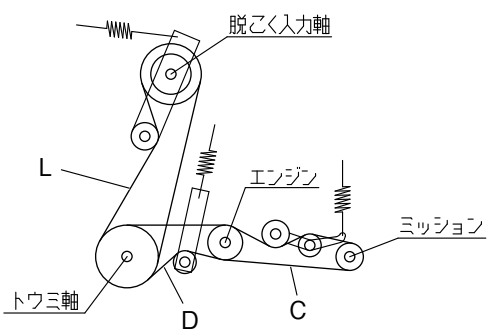
1．主要諸元

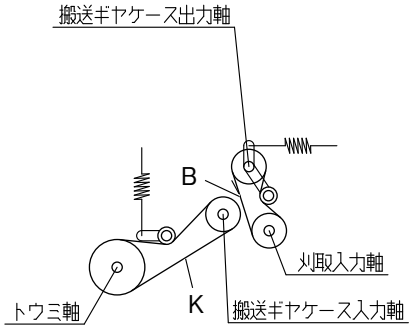
名称			三菱Ｖ217		三菱Ｖ319
型式名			三菱Ｖ217	三菱Ｖ217Ｇ	三菱Ｖ319Ｇ
区分					
機体寸法（格納時）	全長 (mm)		2,850		2,950
	全幅 (mm)		1,610		
	全高 (mm)		1,665	1,780	1,780
機体質量（重量）(kg)			930	1,035	1,120
エンジン	型式名		E3112		
	種類		水冷４サイクル３気筒ディーゼル		
	総排気量 (L{cc})		1.123 {1123}		
	出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)		12.5 {17.0} /2800		14.0 {19.0} /2600
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (L)		14		
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリ (V･Ah)		12・27		
走行部	クローラ 幅×接地長 (mm)		350×1000		
	クローラ 中心距離 (mm)		780		
	クローラ 平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})		13.0 {0.133}	14.5 {0.148}	15.7 {0.160}
	変速方式		油圧モータ式（HST）		
	変速段数 (段)		前進無段，後進無段(副変速　前進２段，後進２段)		
	走行速度 (m/s)	前進	作業 0～0.91　走行 0～1.49		作業 0～0.71　走行 0～1.40
		後進	作業 0～0.86　走行 0～1.42		作業 0～0.67　走行 0～1.16
刈取部	刈取条数 (条)		2		3
	デバイダ先端間隔 (mm)		900		1060～1160
	刈取装置形式		往復動刃式		
	刃幅 (mm)		850		1091
	刈高さ範囲 (mm)		40～150		
	こぎ深さ調節方式		電動式		
脱こく選別部	脱こく方式		複胴下こぎ軸流式		
	こぎ胴 径×幅 (mm)		410×400		
	こぎ胴 回転速度 (rpm)		600		
	処理胴 径×幅 (mm)		90×560		
	処理胴 回転速度 (rpm)		1,360		
	揺動板の幅×長さ (mm)		420×900		
籾処理	籾処理方式		ホッパ袋詰	グレンタンク	グレンタンク
	タンク（ホッパ）容量 (L)		100	400	400
	吐出口数 (口)		2	—	—
排わら処理装置			ディスク型カッタ(切断長60mm)		
諸装置	警報装置		水温，油圧，充電，籾満量，排ワラ詰まり，バックブザー，負荷警報モニタ		
	自動化装置		リフトシャット，こぎ深さ，選別，オーガ旋回・収納自動		
	安全装置		エンジン自動停止，トルクリミッタ，緊急エンジン停止スイッチ		
	その他の装置		集中給油,刈取ジャストフロート,グレンタンク着脱式(G仕様),ニューコンポアップ,揺動スライドオーブン,強制かき込み		
適応作物全長 (mm)			550～1,300		
倒伏適応性 (度)			追刈85° 向刈70° 以下		
作業能率（計算値）(分/10a)			30～91		30～71

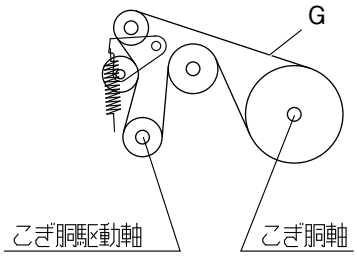
・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

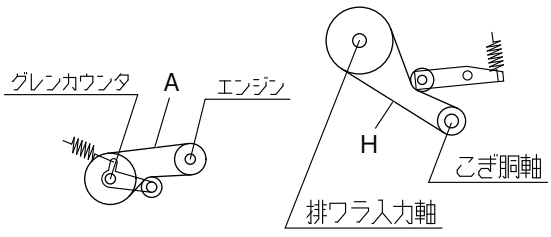
2. ベルト一覧表

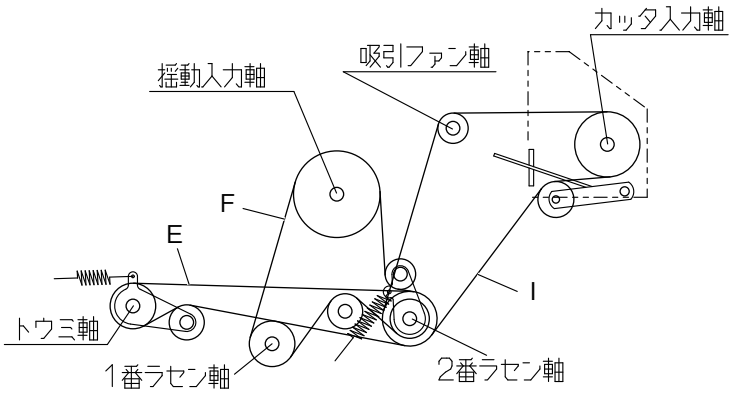
記号	伝　動　系　統	本数	部　品　番　号	ベルトサイズ	ベ ル ト 名 称
A	エ ン ジ ン ～ グレンカウンタ	1	0852 1500 041	SB41	グレン入力ベルト
B	搬送ギヤケース出力軸 ～ 刈 取 入 力 軸	1	0852 1500 034	SB34［２条型］	刈取ベルト
		1	0852 1200 032	LB32［３条型］	〃
C	エ ン ジ ン ～ ミ ッ シ ョ ン	1	3609 1755 000	SB51	走行駆動ベルト
D	エ ン ジ ン ～ ト ウ ミ 軸	1	3609 6518 000	SB44	脱こく入力ベルト
E	ト ウ ミ 軸 ～ ２番ラセン軸	1	0852 1200 056	LB56	２番ラセン駆動ベルト
F	２番ラセン軸 ～ 揺 動 入 力 軸	1	0851 1200 056	LA56	選別ベルト
G	こぎ胴駆動軸 ～ こ ぎ 胴 軸	1	3555 6107 000	SB71	こぎ胴駆動ベルト
H	こ ぎ 胴 軸 ～ 排ワラ入力軸	1	3609 7718 000	SA32	排ワラ入力ベルト
I	２番ラセン軸 ～ カッタ入力軸	1	0852 1500 070	SB70	カッタベルト
J	エンジンPTO軸 ～ エンジンファン軸	1	9911 0021 760	VHM34.5	エンジンファンベルト
K	ト ウ ミ 軸 ～ 搬送ギヤケース入力軸	1	3576 0054 000	LB50	搬送入力ベルト
L	ト ウ ミ 軸 ～ 脱こく入力軸	1	3583 9007 000	LB60	脱こくカウンタベルト

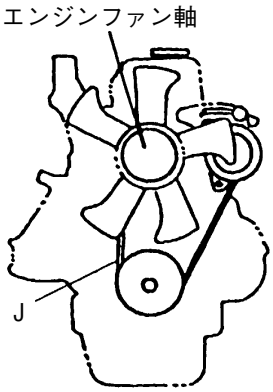










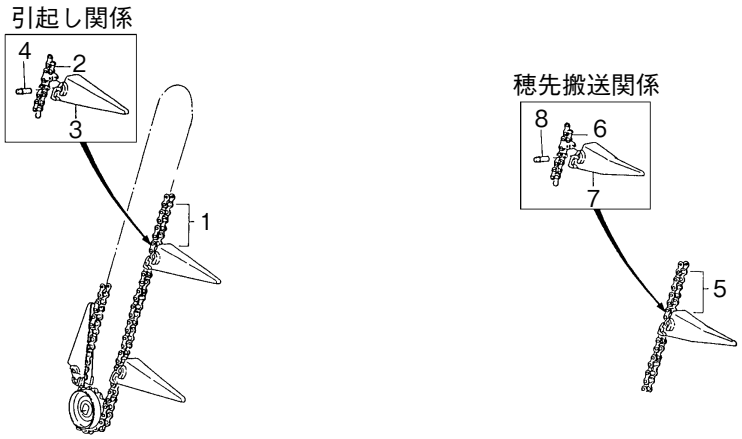


36090087

3. 主な消耗部品

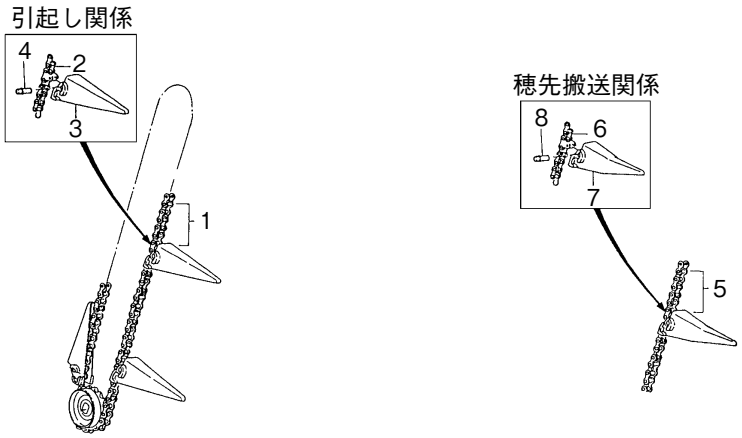
1. タイン関係

217型



No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェンアッセンブリ（1組）	3633 4437 000	引起し搬送（左）
	チェンアッセンブリ（1組）	3633 4441 000	引起し搬送（右）
2	チェン（1本）	3633 4438 000	引起し搬送（左）
	チェン（1本）	3633 4422 000	引起し搬送（右）
3	ツメ（25個）	3555 4428 002	
4	ツメトリツケピン（25個）	3523 4428 000	
5	チェンアッセンブリ（1個）	3609 5221 000	
6	チェン（1本）	3609 5222 000	
7	ツメ（10本）	3501 5247 000	
8	ツメトリツケピン（10本）	3523 4428 000	

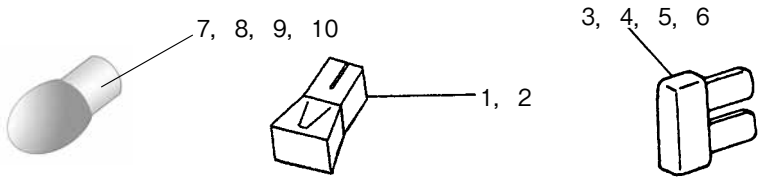
319型



No.	部品名称	部品番号	備考
1	ラグ（ヒキオコシ）ASSY（3組）	378E 4104 000	引起し搬送
2	チェン（ローラ/139）ASSY（3組）	378E 4104 100	引起し搬送
3	タイン（ヒキオコシ）（30個）	371E 4102 010	引起し搬送
4	ピン（ラグ/ヒキオコシ）（30個）	409E 4102 020	引起し搬送
5	ラグ（ヘッド）ASSY（1組）	378E 5216 000	穂先搬送
6	チェン（ローラ/114）ASSY（1組）	378E 5216 100	穂先搬送
7	タイン（11個）	375E 5055 010	穂先搬送
8	ピン（ラグ/ヒキオコシ）（11個）	409E 5012 020	穂先搬送

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

2. ヒューズ，ランプ

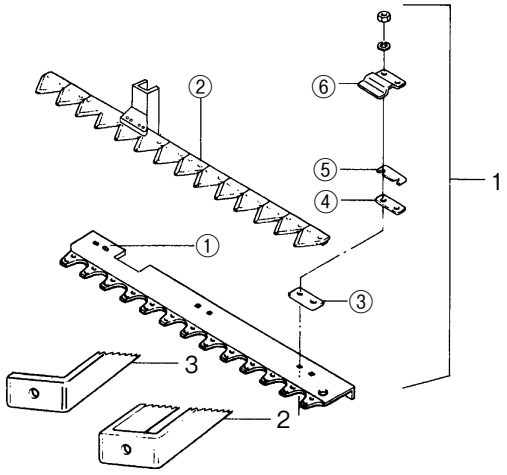


No.	部品名称	部品番号	備考
1	メインヒューズ	1037 5502 200	60A
2	ヒューズ（オーガ）	3559 0861 200	40A
3	ヒューズ（ミニ）	0980 1001 006	10A
4	ヒューズ（ミニ）	0980 1001 506	15A
5	ヒューズ（ミニ）	0980 1002 006	20A
6	ヒューズ（ミニ）	0980 1003 006	30A
7	前照灯バルブ	1039 2813 200	12V18W
8	方向指示バルブ	0980 8122 104	12V21W
9	モニタバルブ	3594 0823 500	12V1.7W
10	モニタバルブ	3594 0823 600	14V 3 W

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

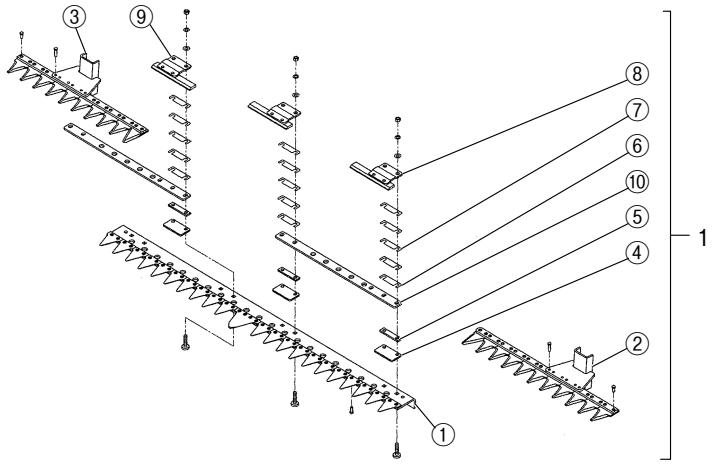
3. 刈刃・カマ関係

217型



No.	部品名称	部品番号	備考
1	カリハアッセンブリ	3608 4352 000	
①	ウケハアッセンブリ	3608 4353 000	
②	ナイフバーアッセンブリ	3608 4355 000	
③	マサツイタ（3個）	3690 4914 000	
④	ライナ（3個）	3518 4357 000	
⑤	シム	3690 4912 000	t＝0.2㎜
⑥	カリハオサエ（3個）	3690 4911 000	
2	ワラキリカマ（3個）	3704 7321 000	
3	ワラキリカマ（1個）	3544 7223 000	

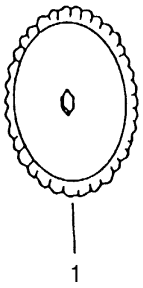
319型



No.	部品名称	部品番号	備考
1	ナイフ	387E 4308 100	
①	フレーム（ナイフ）COMP	387E 4308 500	
②	ナイフ（LH）COMP	387E 4308 200	
③	ナイフ（RH）COMP	387E 4308 600	
④	プレート（I/38×70）（4個）	387E 4300 820	
⑤	プレート（4個）	387E 4300 830	
⑥	プレート（I/20×70）（8個）	387E 4300 850	t＝0.8㎜
⑦	プレート（I/18×70）（12個）	387E 4300 860	t＝0.2㎜
⑧	クリップ（ナイフ/LH）COMP（2個）	387E 4308 400	
⑨	クリップ（ナイフ/RH）COMP（2個）	387E 4308 700	
⑩	プレート（I/30×470）（2個）	387E 4300 840	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. カッタ関係



No.	部品名称	個数		部品番号	備考
		16枚刃	31枚刃		
1	ノコハ	16	31	3587 8817 000	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. アタッチメント（別売り）

・次のアタッチメントを基本作業機または部品として準備しておりますのでご利用ください。

	型式（部品番号）	品名	備考
基本作業機・部品	KN－M319	ノッタ	株元・穂先結束両用
	S－M319D	ディスクカッタ用ドロッパ	
	SP－MS217	補助デバイダ	217用
	SP－HS319W	補助デバイダ	319用
	3875－810－200－0	バランスウェイト	319用　後方取付
	K－BG319	分草ガイド	319用
	3609 9750 000	パラソルスタンド	
	R－KSM217	スタンドノッタ	
	KVM13－BW	バランスウェイト	8.5kg ノッタ作業時のバランス調整用
	K－SSV319	オーガ先端操作キット	319用

5. 潤滑油について

オイルは，三菱農業機械純正油をお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL－4） スーパーマルチGDオイル（SAE・10W－30，SL/CF）
全農	JA－OIL　ディーゼル　CF　10W－30
JX日鉱日石エネルギー	HDS－3 ファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合は，APIサービス分類CD級オイルをお使いください。

2. 油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD／CD／GL－4）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイランド46

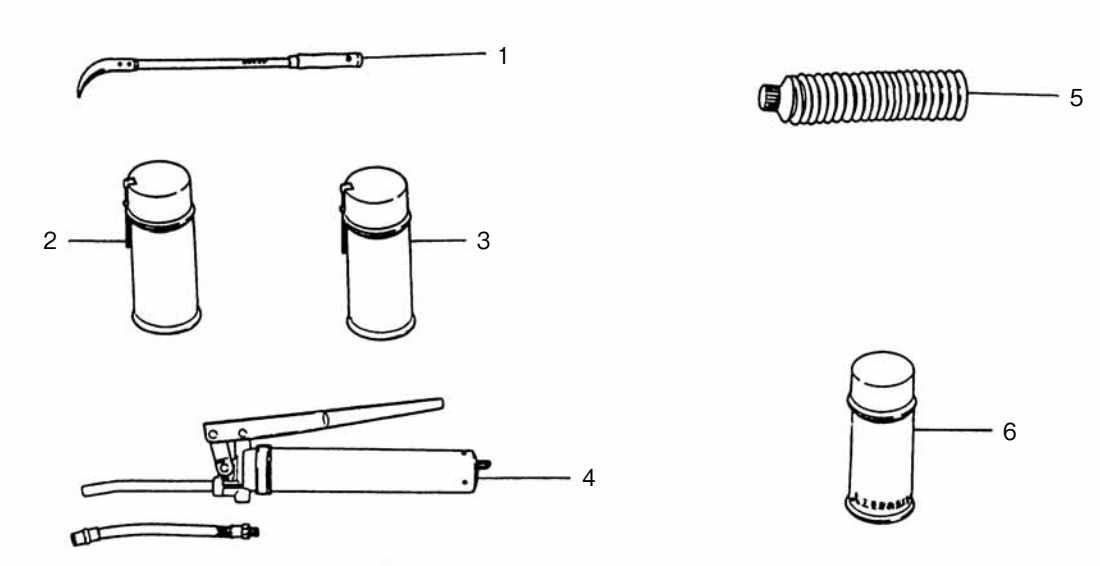
3. ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	マルチSHPギヤオイル（SAE90，GL－5）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイポイドギヤ（SAE90，GL－5，SAE140，GL－5）

6. コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商 品 番 号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	カラースプレー（白）	0975　0000　650	
	〃　（ダークグレー）	0975　0000　690	補修用塗料
	〃　（赤）	0975　0000　740	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

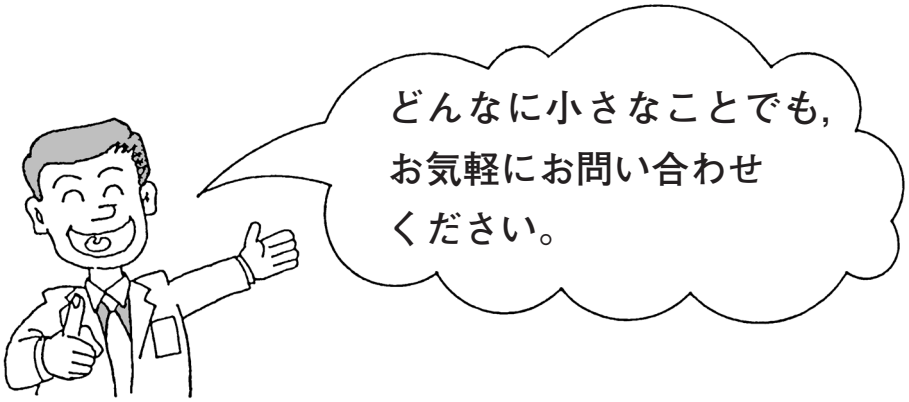
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）